

JILPT 資料シリーズ

No. 237 2021年3月

変化するフリーターの意識と実態

—新型コロナ感染症拡大の影響を視野に入れた インタビュー調査から—

変化するフリーターの意識と実態

—新型コロナ感染症拡大の影響を視野に入れたインタビュー調査から—

ま え が き

本資料シリーズは、プロジェクト研究「多様なニーズに対応した職業能力開発のあり方に関する研究」のサブテーマ「若者の職業への円滑な移行とキャリア形成に関する研究」にかかる「学校と労働市場との接続のあり方に関する研究」に位置づく。

当機構は前身である日本労働研究機構の時代から、フリーターに関する調査研究を積み重ねてきた。本資料シリーズで実施した調査は、その嚆矢となった1999年の99人のフリーターに対するインタビュー調査を参照しながら実施したものである。ただし調査設計の途中に新型コロナウイルス感染症が若者の雇用に思いがけず影響を及ぼし始め、急遽新型コロナウイルス感染症の影響も視野に入れてのインタビューとなった。本インタビューは来年度の発行を予定している「第5回 若者のワークスタイル調査」と一体となっており、来年度の報告書において包括的に検討することになっている。

本資料シリーズが、不安定な状況で働く若者に対する理解と支援に資することを期待する。

2021年3月

独立行政法人 労働政策研究・研修機構
理事長 樋口 美雄

執筆担当者（執筆順）

氏名	所属	執筆章
堀 有喜衣	労働政策研究・研修機構 副統括研究員	序章 第1章 第3章 ケース記録
小杉 礼子	労働政策研究・研修機構 研究顧問	第2章
柳 煌碩	労働政策研究・研修機構 研究助手	第4章 ケース記録
清原 悠	立教大学 兼任講師	ケース記録
山口 墨	法政大学 兼任教員	ケース記録

目 次

序章 問題意識と調査の概要	
第1節 問題意識	1
第2節 本インタビューの調査項目	3
第3節 調査の概要	3
第4節 本資料シリーズの主な知見	5
第5節 政策的示唆	5
第1章 新型コロナウイルス感染症がもたらしたフリーターの働き方に対する影響	
第1節 はじめに	7
第2節 緊急事態宣言と休業補償	7
第3節 観光業・留学やワーホリへの影響	9
第4節 この先3ヶ月の見通し	11
第5節 新しい働き方（フリーランス等）についてのイメージ	12
第6節 おわりに	14
第2章 キャリア形成・職業能力形成の視点から ：2020年のフリーターと1999年のフリーター	
第1節 はじめに	15
第2節 キャリアの方向性の明確化	15
第3節 アルバイトと職業能力形成	24
第4節 現実の就業機会との接点	25
第3章 フリーターの労働時間からみる働き方と意識の変容	
第1節 はじめに	27
第2節 フリーターの労働時間からみる働き方の変化	27
第3節 フリーターのメリット・デメリット・フリーター観	28
第4節 フリーター自認	32
第5節 おわりに—フリーターの変化	35
第4章 フリーターの将来展望と家族	
第1節 はじめに	38
第2節 調査対象者と家族関係の概観	38
第3節 家族によるフリーターへの支援と類型	41

第4節 おわりに	46
ケース記録	49

序章 問題意識と調査の概要

第1節 問題意識

本資料シリーズは、「第5回若者のワークスタイル調査」の実施に先立ち、インタビューを通じて、より実態に即したかたちで不安定な状況で働く若者のありようを捉えようとするものである。

周知のように近年の若年者雇用は回復基調にあった。15-24歳の若年失業率は2003年には10%に達したが2019年は3.8%に低下し、15-34歳のフリーター数も6年連続で138万人と減少していた（厚生労働省2020）。

しかしながらコロナ禍の下で、非正規雇用の受難が指摘されている。ここ数年、継続して人手不足であったが、特に非正規雇用の雇い止めが明らかになっている。労働政策研究・研修機構（2020）の調査においては、正社員の雇用よりも非正規社員の雇用状況が（先に）悪化していることが明らかにされている。

他方でこれらの調査は主に雇用の量的な変化に着目するものであり、若者の意識面に踏み込むものではない。どの世代の労働者にとっても働くことに関する意識は無視できるものではないが、特に若者の働き方における意識面の重要性はかねてから指摘されてきたとおりである。若者の働き方の実態を把握するためには、特に総合的・包括的なアプローチが必要とされる。

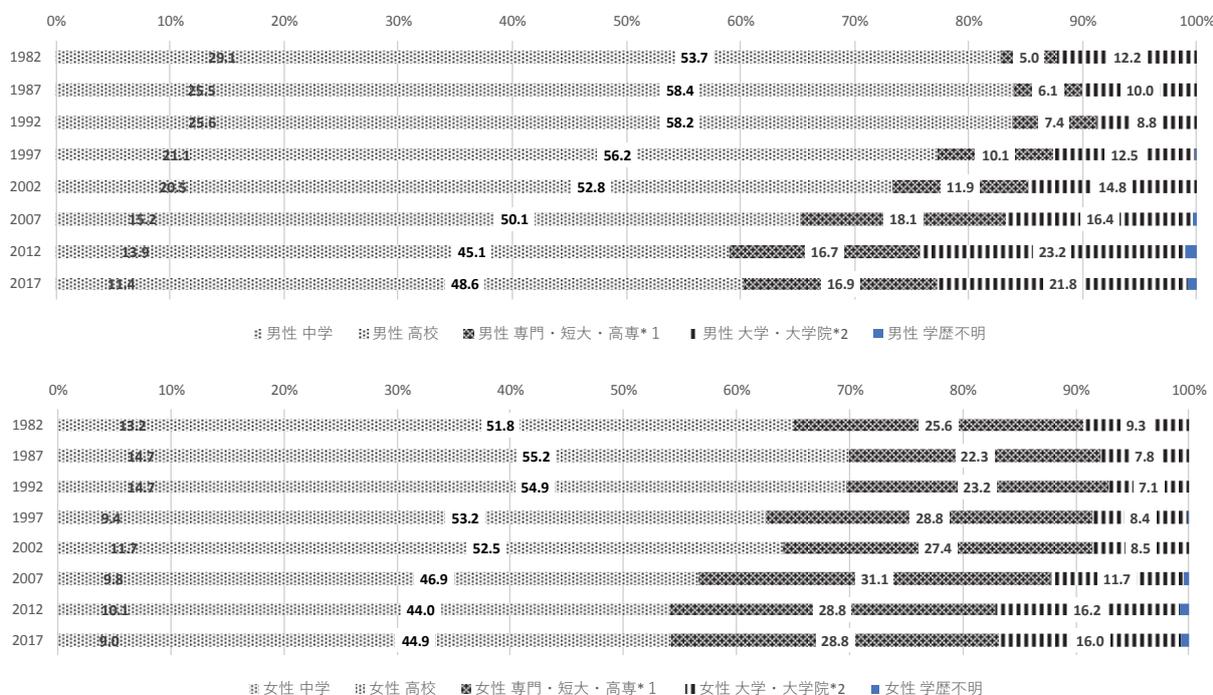
職業研究所が誕生した1969年より今日に至るまで、当機構は若年者雇用についての研究を多数蓄積してきたが、うち経年的な量的研究として、2001年から5年ごとに「若者のワークスタイル調査」を実施してきた。もともとフリーターに関する調査としてスタートした調査であったが、若者の状況が変化するに従い、フリーターに関する項目のボリュームが小さくなるとともに、調査時の最新の問題意識を盛り込みながら、継続性と新規性のバランスをとるように心がけてきた。しかし調査から20年が経過し、若者の意識や行動も大きく変化している。前回の2016年に実施した第4回若者のワークスタイル調査において明らかになった課題の一つとして、フリーターの高学歴化があった。

図表序-1は、総務省「就業構造基本調査」の二次分析から、フリーターの学歴別構成について示したものである。当初フリーターと言えば高卒者および中卒者であったが、近年になると男性においては大卒者がおよそ4分の1を占めるようになっている。女性については男性ほどではないが増加している。

こうした問題意識から当初は20代の大卒フリーターに絞って調査する予定であったが、調査計画の途上でコロナ禍に見舞われた。そこで本資料シリーズはインタビュー調査に依拠し、若者のワークスタイル調査の新規性を意識した、探索的な試みを行うことを念頭に置きながら、コロナの影響を鑑み、20代の全学歴のフリーターを対象とすることにした。もちろん本調査は若者全体を代表するものではなく、「第5回 若者のワークスタイル調査」に先立

ち、調査票の作成や解釈に役立つという位置づけであり、来年度発行予定の労働政策研究報告書にも活用の予定である。

図表序-1 フリーターの高学歴化



資料出所：労働政策研究・研修機構（2019）

当機構においても、日本労働研究機構（2000）、「若者のワークスタイル調査」とインタビューを同時に行った労働政策研究・研修機構（2012）など、いくつもの質的な調査を行ってきた。こうした先行研究を踏まえた上で「フリーターインタビュー調査」（以下、本調査）を実施することとした。またあわせて研究会を実施し、中間玲子氏（兵庫教育大学教授）より青年心理学についての先行研究について詳細なご紹介を頂いた。

ところで今回のコロナ禍のフリーターは、同じように不景気に見舞われた「就職氷河期世代」（1993～2004年に卒業を迎えた世代）や、「リーマンショック」直後に労働市場に出た世代とどのように違うのか。本資料シリーズが発行される2021年3月において今後を見通すのは困難だが、意識の面での違いが2点指摘される。

第一に、今回の対象者はバブル期やリーマンショック前よりもさらにより雇用状況の下で労働市場に出ていることは注目に値する。現在のところは過去に比べると数値上はそれほどの悪化をみていないが、数値以上に当事者にとってはより大きな悪化と感じられるだろう。

とはいえ第二に、雇用調整助成金等の活用により、全体としては雇用悪化がゆるやかに抑えられている。意識の上では実際の景気の悪化がすぐに感じ取られるわけではなく、タイムラグが相当に大きいことが予想される。

よって今回の対象者においては、好景気が継続したのち、コロナの影響により景気が悪化していく中に置かれる中で、脆弱な働き方である「フリーター」の意識や働き方は現在どのような状況にあるのかについて明らかにすることとしたい。

第2節 本インタビューの調査項目

主な調査項目は先行研究を参照し、以下の項目とした。

- ・プロフィール
- ・中学・高校時代と進路選択について
- ・(高卒者の場合)：学校を離れるときの就職活動について
- ・(大卒者の場合) 大学時代と進路選択について・学校を離れるときの就職活動について
- ・学校を離れた時から今までの経歴について
- ・現在のアルバイト生活について
- ・コロナの働き方に対する影響について
- ・家族について

第3節 調査の概要

本調査は、調査会社のモニターに調査協力を依頼し、オンラインインタビューを実施した。調査は2020年7月から9月にかけて実施した。依頼の際には20-29歳の未婚者で、高卒者を複数確保するように優先して依頼を行ったが、結果的に高等教育中退者が多く含まれた。よって事例調査ではあるが、図表序-1のフリーターの学歴構成に比べると、今回の事例はやや高学歴の者が多くなっていることに留意が必要である。またこうしたインタビュー調査は女性の方が多くなりがちであるが、今回は女性の応諾者が少なく、男性の応諾者が多くなった。学歴は高卒者2名・専門学校中退者1名・専門学校卒1名・大学中退3名・短大卒2名・大卒11名となった。地域については三大都市圏(8名)と地方(12名)とし、男性が12名、女性が8名となった。一人暮らしは5名であった¹。

図表序-2には、分析に基づき、フリーターのタイプを4つに分類した知見も併せて示している。

¹ 西(2017)の「労働力調査」の分析によれば、2016年に20代後半の親と同居の未婚者は、男性で45.8%、女性は47.2%であった。

図表序－2 調査対象者概要

ID	性別	都道府県	年齢	現職	学歴	類型	理由
A	男性	東京都	26	アルバイト	大卒	夢追求	漫才師
B	男性	神奈川県	29	アルバイト	高卒	やむを得ず	離職後正社員みつからない
C	女性	茨城県	25	アルバイト	大学中退	やむを得ず	双極性障害のため大学中退
D	男性	北海道	27	アルバイト	大卒	モラトリアム	離職後正社員に戻る気がしない
E	女性	神奈川県	22	アルバイト	大卒	夢追求	留学準備
F	男性	東京都	21	アルバイト	大学中退	ステップアップ	公認会計士試験短答式合格
G	男性	静岡県	25	アルバイト	大卒	ステップアップ	大学院
H	男性	京都府	23	アルバイト	専門中退	やむを得ず	発達障害
I	男性	東京都	27	契約社員	大卒	やむを得ず	障害者手帳
J	男性	京都府	23	アルバイト	大卒	モラトリアム	体験入社やめて模索中
K	女性	福岡県	28	派遣希望	高卒	モラトリアム	正社員いい仕事ない
L	女性	東京都	22	アルバイト	大学中退	夢追求	ワーホリ準備
M	男性	福岡県	28	アルバイト	大卒	やむを得ず	自閉症
N	男性	愛知県	27	アルバイト	大卒	ステップアップ	税理士になりたい
O	女性	新潟県	28	アルバイト	大卒	やむを得ず	精神障害
P	男性	北海道	27	アルバイト	専門	夢追求	音楽活動のため
Q	男性	石川県	29	アルバイト	短大	夢追求	漫画家になりたい(うつ)
R	女性	福岡県	24	アルバイト	大卒	やむを得ず	精神障害
S	女性	新潟県	27	職業訓練希望	大卒	やむを得ず	免税店を希望退職
T	女性	東京都	20	アルバイト	短大	夢追求	バレリーナを目指している

各章の分析に先立ち、日本労働研究機構（2000）と比較して見える、今回の事例の特徴を整理しておきたい。

第一に、日本労働研究機構（2000）においては、浪人しても大学進学に失敗するケースが少なくなかったため、浪人生活からアルバイトに移行するケースが一定数を占めていた。しかし少子化により望めば大学進学ができるようになり、浪人生がほとんどいなくなったため、今回の調査には浪人生活からフリーターに移行した者はいなかった。また日本労働研究機構（2000）には、進学直前に経済事情の悪化から費用が賄えなくなり、進学を断念してアルバイト生活に向かった若者もいたが、有利子ではあるものの奨学金制度の拡充により、経済的な理由で進学を断念した事例は今回は見当たらなかった。しかしコロナによる減収やメンタルでの辞職により奨学金を返すことが難しくなり、将来展望を持たない事例が散見されるようになった。

第二に、日本労働研究機構（2000）は東京都で実施した対面調査ということもあり、芸能関係を目指して上京した若者層が一定のボリュームを占めていた。芸能関係での成功を目指して上京するというフリーター像は一般のイメージとも重なっているだろう。しかし今回の調査においては芸能活動のために上京した者は1名にとどまり、音楽活動を目指す場合には地方に住みながら動画共有サイト等を活用しながら活動を続けることも可能になっていた。

本調査は経年的な変化を詳細に把握できるものではないものの、労働環境だけでなく教育政策の変化と情報社会インフラの充実によって、フリーターの働き方や意識は変化を遂げていることがうかがえた。

第4節 本資料シリーズの主な知見

本資料シリーズの主な知見を要約する。

第一に、緊急事態宣言は本調査の対象者にも強い影響があったが、休業補償がない場合には勤務先と交渉するのではなく、自ら別の職場での追加就業で補うか状況を甘受していた。20代のフリーターは働く場所や時間の制約が少なく、扶養する家族がいないため、休業補償がなくても深刻な課題としては捉えられていないようであった。また一時的な職場であるため、交渉して職場環境を良くしたいというモチベーションが低いこともあるだろう。

第二に、日本労働研究機構(2000)の過去の調査と比較した今回の調査対象者においては、1999年調査で散見された浪人生活からアルバイトという経路のフリーターは存在せず、他方で奨学金が将来の見通しに影を落としている事例がいくつか見られるという変化があった。また過去に多数見られた、芸能関係で成功するために東京に出てくる必要性は動画共有サイト等の普及によりかつてよりもかなり薄れており、労働環境の変化に加えて、教育政策の変化や社会インフラの充実がフリーターの働き方や将来展望にも影響を及ぼしていた。

第三に、フリーターの職業能力開発については、過去には希望する職場でアルバイトするという方法がしばしばとられていたが、今回の調査では高等教育機関において学ぶ内容がバレエや漫画など多様化し、また簿記の資格を取るために大卒後にさらに専門学校に行くなど、学校の活用が目立った。ただし自分の希望と実際の労働市場における仕事を結び付けるための相談機会やマッチングのための体制や情報整備はまだ十分ではないため必ずしもその努力が実を結ぶわけではなく、迷走する例もあった。

第四に、フリーターになったきっかけや契機に基づき、夢追求型(芸能関係を目指しながらアルバイト)、モラトリアム型(やりたいことを探したい、正社員になりたくない、何となく、自由でいたいからアルバイト)、やむを得ず型(正社員になりたいが、なれないためアルバイト)、ステップアップ型(社会的に評価が高い専門職を目指しながらアルバイト)をこれまで析出してきたが、フリーター類型の内実も変化しつつあった。「夢追求型」は高学歴者が増加し、「モラトリアム型」は様々な経験や自由な働き方を追求するというよりは、正社員経験者が正社員ではない働き方として選択する傾向が濃くなっていた。また「やむを得ず型」は雇用状況の好転により、正社員になれなかったのではなく、メンタルの課題を抱える若者が中心となっていた。また新たに追加した「ステップアップ型」は、恵まれた資本を元手に自由に人生を選択する若者層から構成されていた。フリーターの支援について多様なニーズがあるという点に変化はないものの、雇用状況の悪化という構造的な制約が改善される中で、それぞれのニーズや置かれた状況の相違がより明確化される方向にあった。

第5節 政策的示唆

以上の調査研究に基づき、3点の示唆を得た。

第一に、フリーターの職業能力開発について、専門的・技術的職業の増加により、従来以

上に学校や職業訓練機関等の役割は重要になっている。ただし若者の希望を労働社会の中で生かすためにどのような手段があるのかについては当事者には分かりづらいため、職業経験が十分でない若者に対するキャリア形成に関する相談、支援が重要である。

第二に、高学歴化については、高卒者とは異なり、大卒者は方向付けがより明確なので、うまくいかなかった場合の気持ちの切り替えが難しい。このことはキャリアコンサルティングの重要性を示すとともに、学歴上昇に伴う職種の多様化に応じた公共職業訓練のメニューの拡充も考えられる。

第三に、好景気が続いたことから正社員になれずにフリーターになるという層は減少した。その結果として、フリーターの置かれた状況や意識、目標などはより複雑化し、支援がより困難度を増しつつあるように推測される。困難に対応した包括的な支援のため、労働関係の支援機関だけではなく福祉関係の支援機関との連携がさらに必要だと考えられる。

参考文献

厚生労働省，2020，『今後の若年者雇用の在り方に関する研究会報告』。

日本労働研究機構，2000，『フリーターの意識と実態 -97人へのヒアリング結果より-』
調査研究報告書 No. 136.

労働政策研究・研修機構，2012，『大都市の若者の就業行動と意識の展開―「第3回若者のワークスタイル調査」から―』労働政策研究報告書No.148.

労働政策研究・研修機構，2017，『大都市の若者の就業行動と意識の分化―「第4回若者のワークスタイル調査」から―』労働政策研究報告書No.199.

労働政策研究・研修機構，2019，『若年者の就業状況・キャリア・職業能力開発の現状③―平成29年版「就業構造基本調査」より』JILPT資料シリーズNo.217.

労働政策研究・研修機構，2020，「新型コロナウイルス感染拡大の仕事や生活への影響に関する調査」（一次集計）結果（記者発表資料）。

ジェームズ・コテ（＝松下佳代・溝上慎一訳），2014，「アイデンティティ資本モデル―後期近代への機能的適応」溝上慎一・松下佳代『高校・大学から仕事へのトランジション』ナカニシヤ出版。

西文彦，2017，「親と同居の未婚者の最近の状況（2016年）」総務省統計研修所。

第1章 新型コロナウイルス感染症がもたらしたフリーターの働き方に対する影響

第1節 はじめに

本章では、新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）がフリーターの働き方や意識に及ぼした影響について、働き方と意識の面から論じたい。

これまで明らかにされているように、今回のコロナは非正規労働者に対して強い影響を及ぼしている。とはいえ以下で見ると、非正規労働者においても影響が大きかった者もいれば、あまりなかった者もいる。そこで本章では、緊急事態宣言と休業補償、観光業や海外への移動（留学・ワーキングホリデー、以下ワーホリ）、また今後の見通しについて語りを整理する。さらにコロナ禍で注目を集めているフリーランスの働き方についてのフリーターの語りを参照する。なお、以下での緊急事態宣言は2020年4月7日発出のものであり、2021年1月8日からの緊急事態宣言ではないことに留意が必要である。

第2節 緊急事態宣言と休業補償

今回の対象者の働き方にもっとも影響を及ぼしたのは緊急事態宣言である。とはいってもすべての対象者の働き方が変わったわけではなかった。図表1-1によれば、変化がなかったのは、テレワークが可能なIT系職種（Iさん）やオンライン授業が可能な塾講師（Gさん）と、飲食・販売・ポスティングである（Pさん、Qさん、Tさん）。

他方、休業になった者が9名おり、突然派遣切りにあった者1名（Dさん）、希望退職に応じた者が1名（Sさん）、仕事が見つからなかった者2名（Jさん・Kさん）、仕事探しを遅らせた者1名（Nさん）であり、1名は病気のため休養中（Oさん）であった。なお休業者9名のうち、休業補償があったのは5名である。

図表1-1 緊急事態宣言時から調査時（7月末から8月）の就業状況

ID	性別	都道府県	年齢	現職	学歴	休業	具体例（緊急事態宣言時→調査時）
A	男性	東京都	26	アルバイト	大卒	○	休業（補償あり）→通常だが追加の仕事探している
B	男性	神奈川県	29	アルバイト	高卒	●	シフト減（補償なし）→減少したまま
C	女性	茨城県	25	アルバイト	大学中退	●	休業（補償なし）→シフト減→通常
D	男性	北海道	27	アルバイト	大卒	●	派遣切り→バイトとして再雇用（時給減）
E	女性	神奈川県	22	アルバイト	大卒	○	休業（補償あり）→通常
F	男性	東京都	21	アルバイト	大学中退	○	休業（補償あり）→通常
G	男性	静岡県	25	アルバイト	大卒	○	（塾）オンライン授業に切り替え→通常
H	男性	京都府	23	アルバイト	専門中退	●	シフト減（3月～6月はシフト無し、補償なし）追加就業→減少したまま
I	男性	東京都	27	契約社員	大卒	○	通常通り（テレワーク）
J	男性	京都府	23	アルバイト	大卒	○	採用の見送り（6月まで）→採用後通常勤務
K	女性	福岡県	28	派遣希望	高卒	○	就職難→派遣採用
L	女性	東京都	22	アルバイト	大学中退	○	シフト減（補償あり）→他のバイト開始
M	男性	福岡県	28	アルバイト	大卒	○	シフト減（補償あり：有給休暇）→通常
N	男性	愛知県	27	アルバイト	大卒	○	求職活動停止→6月にバイト採用
O	女性	新潟県	28	アルバイト	大卒	○	病気により休養中→6月よりバイト
P	男性	北海道	27	アルバイト	専門卒	○	通常通り
Q	男性	石川県	29	アルバイト	短大卒	○	通常通り
R	女性	福岡県	24	アルバイト	大卒	●	バイト1：休業（補償なし）→通常、バイト2：通常通り→退職
S	女性	新潟県	27	職業訓練	大卒	●	希望退職（退職金あり）→ハローワーク職業訓練
T	女性	東京都	20	アルバイト	短大卒	○	通常通り

注：●は補償なし、○は補償あり

以下では休業補償がなかった4名について語りを引用する。いずれも休業補償がなかったことについて疑問を持っていないわけではないが、さりとて休業補償を得るための具体的な行動はしていない。

Bさんは親と同居しており、コロナ前は倉庫の仕分けの仕事をしており、1週間に37時間働いていた。しかしコロナで受注が減ったことに伴って働く時間がばらつき、減少しているが、特に職場から説明は受けていない。

Bさん・男性・29歳・高卒

今、働いてるところが食品倉庫……。私とその仕分をしてるんですけど、取引先が大きい、会社、法人とか、あと学校法人なんで、コロナで休みになったり、あと自粛があったせいで、何ていうんでしょう、受注が大幅に減って、それで、私、アルバイトですんで、働く時間がかなり短くなってしまって、支給額が結構、コロナの前よりも、そうだな、3割とか。約3割ぐらいは一番ひどいときで減ってきてて、今は徐々に、緊急事態宣言が解除されたりとかで徐々に仕事量は増えてきてるんですけど、それでもまだ去年のコロナの起こる前とかには全然戻ってない感じで。

(労働時間は1週間に)37時間かな。月曜から金曜で、火曜、木曜が午後の2時から夜の11時で、月水金が4時から夜の11時とかって感じですね。夕方から深夜にかけてみたいな仕事で。時間は今、短くなって、今、10時終わりとか9時半終わりとか10時半とか、結構ばらつきが出てて、前はぴったりフルで、4時から11時に、午後の2時から夜の11時とかぴったりだったんですけど、夜11時までだったんですけど、今、最近はもうばらつきが。コロナのせいで受注とか、いろいろ何か変動が激しくて、はい。(減ったこととの)いや、説明、特にはないですね。ただ単に、このご時世なんで、ちょっと、何ていうか、仕事量減ってるからよろしくみたいな感じしかない。(じゃあ、減ったことに対しての何か手当みたいなものはない)全然ないですね、はい。

Cさんは塾講師のアルバイトをしており、当初は休業、途中からオンライン授業に切り替わったが、オンライン授業が始まる前までに休業になったことに対する補償は特にない。

Cさん・女性・25歳・大学中退

(アルバイト先の塾の休業が)大体今月いっぱい、今月っていうのは5月のときなので、5月いっぱいになるかもっていうようなことで最初言われていて、結果そのとおりにはなあって、あと、(オンライン授業の)説明は結構細かに出ました。このアプリを使って、こういうふうに授業をしてもらって、基本的に宿題の解説メインでやってもらってとかっていうような感じで、詳しくは説明を受けていたので、そこまでは戸惑いはなく。(補償のよう

な) ものはないですね (現在は通常通りに戻る)。

Hさんは祖父母と同居しながら警備の仕事をしていましたが、建設現場もイベントの仕事もなくなってしまった。そのあともイベントがなくなるなど不安定で、途中でポスティングの仕事を追加している。なおHさんは奨学金の返済があるが、現在は収入が十分ではないので猶予してもらっている。

Hさん・男性・23歳・専門学校中退

それも何かやっぱり、説明っていうほどの説明でもなかったんですけど、最近やっぱ、僕らって正直やっぱ下請みたいな感じなんで、建設会社から請け負ってるんで、建設がやっぱストップしたりとか、公共事業が減ってるわとか、イベントがやっぱり、イベントがなくなってきてるから、ごめんなって言われたりとかして、それぐらいの説明しかなくて (その後も仕事があつたりなかったりの状態)。

Rさんは一人暮らしだが、2つのアルバイトのうち1つが休業になってしまったが補償は受けられず、もう1つのコールセンターのアルバイトを増やして何とかしのいだ。

Rさん・女性・24歳・大卒

コロナで一時期ちょっと、事務所自体を閉鎖したりとか、〇〇自体が無観客になってしまったというときもあったので、若干4月か5月あたりで、一回ちょっとできない、働けない時期あったんですけど。

(データ会社からの休業手当等の補助は) 特にはなかったですね。もう「お休みになります」という通知だけ来て。・・・「また再開のめどが立ったらご連絡します」というところで (その後部分的に再開)。

第3節 観光業・留学やワーホリへの影響

緊急事態宣言は観光業への影響を大きかったことが知られている。対象者の中でも直接影響を受けたのが外国人観光客向けのイングリッシュパブで働いていた者、地方空港の免税店で働いていた者、および留学やワーホリに行けなくなった対象者がいた。また観光客が減ってホテルでの清掃の仕事がなくなり別の仕事に変わったが、派遣切りにあった者もいた。

Lさんは一人暮らしをしながらワーホリに行く費用をためるため、また英語の勉強を兼ねて外国人向けのイングリッシュパブでフルタイムで働いていたが、お客さんがいなくなってしまったためシフトに入れなくなってしまった。休業補償は出たものの今後を考え、スーパーのアルバイトを追加して生活費を稼いでいるが、実家に戻って正社員の仕事を探すことを

検討している。

Lさん・女性・22歳・大卒

(フルタイムパートみたいな感じ) そんな感じで、はい。今も一応籍は置いてるんですけど、でも、2月ぐらいから本当に、まず、お客さんが来なさ過ぎて、外国の方も今いないし。そこがもうがつつりシフトが削られちゃって、そうなんですよ、週5日とか、シフト、6日とか出しても、週1で勤務できるかできないかとかの感じになって。それで、何か結局今月で社会保険も抜けなきゃいけないことになっちゃって。大打撃受けちゃって、はい。先月からスーパーのアルバイト始めて……。やっぱりコロナの影響がないところにしようと思って、近くのよく行くスーパーでアルバイト募集ってチラシがしてあったから。週3、4ぐらいで入れてもらってます。

Sさんは国際線の免税店で働いていたが飛行機が飛ばなくなってしまい、会社から希望退職の募集があったため応じて退職、現在は職業訓練を受ける準備をしている。

Sさん・女性・27歳・大卒

免税店の接客とかです。国際線の、はい。(4月で辞めたのは)飛行機が全然飛んでいなくて。会社から、本社のほうから、会社全体で辞める人いますかみたいな募集をかけていて、それで応募しました。(やめるときには)二、三ヶ月ぐらいの一部のお金(がプラスされた)。

また留学に行けなくなり、キャリアに迷っている者もいた。Eさんは親と同居しており、留学費用を貯めるためにアルバイトをしていたが、コロナで予定通りの渡航が難しくなった。留学中にやりたいことを探したいと思っていたため、宙ぶらりんの状態に悩んでいる。

Eさん・女性・22歳・大卒

今の状況は何かでも、全力でいって言えるかっていわれると、ちょっと悩んじゃうかなって感じはしますね。何かこれで留学に行けるのが大前提で、9月にもう行きますって状況だったら別に悪くないかなって気はするんですけど、やっぱり何かこの状況でこのままでいいのかなって気持ちがあるので、それは何かいって言えるのかってやっぱりこう親に頼り切りの生活っていうのもあるので、それもすごく悩んだところもありますし。

働き方の理想としては、コロナじゃなければいいかなって感じかもしれないです。コロナって考えると、でも、やっぱりそういうのがあると、今新たに就職っていうのもちょっと難しくなってきたりするじゃないですか。それが何かどうしたらいいんだろうって

うの思いますね。就職してもやりたいことじゃないことを無理に就職するのも自分の思っ
てる形とはやっぱり違うので、もともとはやっぱ何かやりたいことを見つけるために留学
するっていうのも一つの目的だったので、何かすごいそれはでもすごく悩んでることの一
つかもしれない、はい。

Dさんは一人暮らしで派遣社員としてホテルの清掃をしていたが、2月の末にコロナの影響を受けて別の場所に職場が移った後に派遣切りにあった。しかし交渉したところ派遣会社から自社の直接雇用にしてもらうことができ、現在はアルバイトとして同じ場所で同じ仕事をしている。

Dさん・男性・27歳・大卒

ホテルのバイトだったんですけど、ホテルにお客さんが来ないってなっちゃって。だから、仕事がないってなって、ホテルの派遣元の会社、派遣先の会社がホテルできないからちょっと違うところで仕事やんないって言って、給料とかは派遣先からもらえるんですけど、働く場所が変わって、ホテルじゃなくなって、〇〇の清掃を紹介されて、今年の2月の末かな、末ぐらいからそっちに行っただすよね。

で、働いてたんですけど、2月の末から行って3月、今年の3月の末に急に派遣で雇えないみたいな、もう派遣全員切るみたいな話をされて、急に。3月の28とか多分、4月入る直前ぐらいに言われて、4月から派遣切るみたいなこといきなり言われて、いや、困る、困るんだよなってなったんですけど、慌てて違う全然関係ない派遣会社、あっ違う、最初にまず派遣会社に聞いたんです、派遣切られるって話も受けてないし、派遣会社から。

で、何かそれ聞いたら、結局は仕事もないからもう紹介できないみたいな、雇ってもらった派遣会社から言われて、(中略)、頑張りを認められたのちちょっと分かんないんですけど、派遣先だった企業が、派遣としては雇えないけど、うちで直接パートとして働くんだったら雇うよみたいな。ことを言われて、そんな何か、急に派遣切るとかっていうような会社だからちょっと迷ったんですけど、でももう生活かかっているし迷ってらんないと思って、働かせてもらえるんだったら働くしかないと思って、今、4月からは今のところずっと働いてるんですけど。

第4節 この先3ヶ月の見通し

この先3ヶ月の見通しも、同じ非正規労働者でも大きく異なる。打撃が大きいのは前節のようなインバウンドやイベントの影響をそのまま受ける産業であり、見通しも暗い。

Lさんはコロナ前はフルタイムで社会保険にも入っていたが、現在は解雇を予想している。

Lさん・女性・22歳・大卒

(イングリッシュパブは) 一番売れてたというか、ちゃんと経営してたときの半分にくいかいかないかとかな気がします。(今後の働き方について) 何かもう契約自体、更新してもらえるか、すごい危うくって、何か結構、私が働いてたのが大きな店だったんですけど、何か従業員の総契約時間が10分の1になっちゃったらしくって。だから、何か今30人ぐらい働いているバイトがいるんですけど、その中で何か3人くらいしかもう残れないみたいな感じで言われちゃって、それで、何かそこに自分が入る、何かフリーターの人、結構多いんで、そこに自分が入るかなみたいな。ましてや掛け持ち始めたし、何かまだ一本で続けてる人とかもいて、だから、もうそれは辞めて、親とかも何か、親とかも友達も、そこにもう何か未練をずっと持っててもしょうがないみたいな感じで言われてしまったんで、多分、近々辞めることになると思います。

Hさんはイベントの警備がどんどんなくなっていることから不安を覚えており、クラウドソーシングの仕事をしたいと希望している。

Hさん・男性・23歳・専門中退

(3ヶ月後は) 警備のほうでゼロなんじゃないかなって言うのありますね。だんだんやっぱイベントなんか減ってきたりとか、中止になってるのは見てるので、自分自身。地元でもクラスター出るぐらいなのでやばいなって、またそれこそ緊急事態宣言あったりとかして、仕事どころじゃなくなるんじゃないかなみたいな。クラウドワークスとか考えなあかんのかなと思ったり。

他方でディスカウントストアに働いている場合には変わらないだろうという見通しもある。Nさんはコロナ前に正社員を離職して現在はアルバイトだが、職場の経営状態はとてもよく、今後3ヶ月先も同じ状況だと予想している。

Nさん・男性・27歳・大卒

3ヶ月後ですよ。…多分変わってないと思います。(一定の影響は受けてるんですよ。そうでもない。) 影響受けてるのかな。それって、あれですよ、前年比に対してどれくらいのことですよ。…多分受けてないんじゃないですかね。一応食品があるので。そのところ考えると、もう何か毎日のようにレジ並んじやってるんで、夕方とか……。

第5節 新しい働き方(フリーランス等)についてのイメージ

コロナ禍で注目された働き方としてフリーランスがある。インタビューの中ではフリーランスのような働き方についてのイメージも尋ねているが、多くがCさんのように自分にはで

きないと捉えていた。

Cさんは大学中退で正社員として働いた経験はないが、正社員のデメリットを感じつつも、安定や収入は羨ましいという気持ちを率直に表現している。フリーランスのような働き方についてはすごいと思うが、自分にはその自信がないという。

Cさん・女性・25歳・大学中退

正社員の働き方ですか。そうですね、単純なイメージでいうと、やっぱり拘束時間が全然違うなというのは、それだけの責任っていうのが存在するわけなんですけれども。そうですね、一方で、安定した雇用っていうのはすごく羨ましいところではあります。と、それに伴う、やっぱりそのまま責任とか拘束時間に伴うだけの給料が保障されているっていうのは、やっぱり羨ましいですね。

(正社員ではない) 働き方については、ほかの人がそれをしている場合に対しては、何かこういう、何ですか、それをできるだけ能力を持っているっていうのはすごいことだなと思いますね。特にフリーランスで働いてらっしゃる方っていうのは、それができるだけ能力をやっぱりお持ちっていうことだと思うので、それで食っていけるっていうのは本当に尊敬することだなと思います。それに対して自分ができることっていうのがやっぱりないので、自分がじゃあフリーランスでやっていけるかって言われたときに、その自信はないですね。ないので、困っています。

周囲にフリーランスのモデルが多く存在する業界ではどうだろうか。Jさんがアルバイトをしているマスコミ業界にはフリーランスがたくさん存在するが、Jさん自身にはあこがれはなく、とりあえず正社員の仕事に就きたいという。

Jさん・男性・23歳・大卒

(業界にはフリーランスの人もいますが、それへの憧れはありますか) 特に何も思っていないです。

今回対象になった20代のフリーターはフリーランスのような働き方について自分と関連付けてとらえていなかったが、唯一新しい働き方について率直なあこがれを述べたのはHさんである。コロナでアルバイトが減少したことから、パソコン関係の仕事にあこがれている。フードデリバリーサービスにも憧れているが、住まいの地域は対応していない。

Hさん・男性・23歳・専門学校中退

働き方は、外仕事なんで、ダメージ受けやすいと思うんです。イベント関係がないような感じで。それこそ在宅ワークができるようなフリーランスとか、何かそういうような知

識をつけたいなと思ったりとか、パソコンのスキルでもいいし、そういう知識をつけて、そういう系、一人でできる仕事に取り組みたいなと思いました。そういうフリーランスになりたいな。何の資格でもいいってわけじゃないんですけど、何かそういう、パソコン関係の。

本当はそういう〇〇（フードデリバリーサービス）とかも憧れあるんですけど、自分のところは対応してないんで、町が。憧れはあるんですけど、なかなか。

第6節 おわりに

本章ではフリーターの働き方に対するコロナの影響を見てきた。

非正規労働者においても、産業によって明暗が分かれていたが、緊急事態宣言時に休業補償を受けられない場合でも特に大きな不満を持ったり、職場に働きかけをしているわけではなく、再び声がかかるとそのまま仕事に戻っていた。あるいは自分から減少した収入を補おうと別のアルバイトを探して働き始めた者もいた。親と同居している者が多いためすぐに住む場所や食べ物に困るというわけではないものの、特に休業補償について職場と交渉した者はいなかった。

雇用の状況が産業によってまだら状態にあるため、若いフリーターは時間や場所の融通が利きやすいことから、それまで従事していた仕事のニーズがなくなっても、別のニーズのある産業において雇用されることでしのいでいることが、現状の失業率の抑制に寄与している側面もあると推測される。

また今回の対象者においてはフリーランス等の新しい働き方は浸透しているとは言えない状況にある。今回のフリーターは仕事がなくなると新たな雇用先を見つけることで対応していたが、今後これまでフリーターをしていたような若者層において、プラットフォーム型労働のような働き方が広がってくるのかどうか注視する必要があるだろう。

第2章 キャリア形成・職業能力形成の視点から：2020年のフリーターと1999年のフリーター

第1節 はじめに

1999年、日本労働研究機構の「若者の就業行動研究会」は、当時増加が指摘されていたフリーターの実態を探るために、当事者97名に対してインタビュー調査を行った。その結果を「なぜフリーターになったか」という観点から分析し、「夢追求型」「モラトリアム型」「やむを得ず型」の3つの類型を抽出した。

当時の報告書ではこの3類型をベースに、いくつかの角度からフリーターの実態と課題を検討しているが、この節では、うち「キャリア形成と職業能力形成」という視点からの分析と比較する形で、今回のインタビュー結果を分析する。ただ、1999年当時のフリーターの多くが高卒者であったのに対して、近年のフリーターは大卒者が多く（労働政策研究・研修機構 2016）、学歴差に由来すると思われる差異も少なくないことが考えられる。この点にも留意しながら、当時の報告書でとりあげた3点、フリーター期間にキャリアの方向性の明確化が進んでいるのか、アルバイト労働の中で職業能力が蓄積されているのか、本人が獲得しようとしている職業能力は労働市場の現実に沿ったものなのか、について検討する。

第2節 キャリアの方向性の明確化

フリーターになった当初から方向性があるのが「夢追求型」である¹。何らかの職業的希望をもってフリーターになるタイプだが、1999年調査では、バンドや演劇など芸能系の仕事を目指す若者が多かった。今回は難易度の高い資格職業など、前回調査ではほとんど挙げられなかった仕事が見られた。こうした仕事を志すきっかけについて語られた内容を見ると、最初に示すNさんの場合は、正社員として就職した先での業務の経験であり、後の2つのケース（Gさん、Fさん）は、大学での学習経験である。それぞれが経験を通じて自分の興味関心や得意なことを確認し、それを仕事につなげようと、いったんはフリーターになる経路を選んでいる。

Nさん・男性・27歳・大卒

法学部卒で、新卒で大手百貨店に就職。4年勤務したが、「自分のやりたいことはこれじゃなかった。」「自分は何が好きなんだろう。・・・振り返ってみると数字が好きだったんです。百貨店に勤めていた時も数字を見ることが好きで、数字から予測できることを組み立てていくのが好きだった。」そこからコンサルティングを仕事にしたいと思い、税理士試験を目指すことにし、退職する。さらに先々には、親戚に政治家がいたこともあり、政治家

¹ ここでは、1999年調査時の類型の考え方に沿って、ケースを分類しているため、「ステップアップ型」は分離しない。

に転身することを考えている。現在は百貨店での経験を生かしたアルバイトに従事。近々、税理士試験対策の学校にも通う予定である。来年には3科目合格を果たし、税理士事務所で補助業務に就くことを目指している。母親と二人暮らし。親の退職までには試験に合格したい。

Gさん・男性・25歳・大卒

大学は経済系の学部に進学、特に統計学やデータ分析に興味を持ち、早くからそれを学べるゼミに所属する。就職時は「データリサーチ会社とかコンサルティング会社とか、いままでやってきたことを生かせるところ」と「この社会が全部理にかなって動いているか」というとそうじゃない…非論理的な世界というか…そういうことが必要な世界をみてみるっていうのもありなんじゃないか」とマスコミも並行して応募した。迷った末、放送局に就職した。3年で離職。「働いていく中で、…統計とかっていう部分をなかなかビジネスの応用できない自分が結構悔しくて、…やっぱりそういうのをやりたい、もう少し実力をつけたいという思いがあって」、大学院に進学することを決める。入学までの半年間の限定で、学生時代にしていた塾講師のアルバイトに就いている。大学院修了後はデータサイエンティストとして就職したいと考えている。現在は実家暮らし。大学院進学後は奨学金を借りたいと思っている。

Fさん・男性・21歳・大学中退

大学進学時は医療職に魅力を感じて薬学部に進学した。1年次からインターンを希望して大学から紹介を受けたが、配属先は製薬会社の中でも管理会計部門だった。「(インターン先の)管理会計のほうって、経理と違って意外と自分的には楽しくて、それで公認会計士っていう存在を知って、目指そうかなと思った」。本人は中学や高校のころから株取引に興味があり、何かに役立てばと以前から簿記の勉強はしていた。2年次に簿記2級に受かったことから、本気で公認会計士試験を目指して予備校にも通い始める。3年次には短答式試験に合格し、これを機に大学は中退した。論文式試験の準備をしながら、アパレルで販売のアルバイトをしている。将来は会計士事務所での勤務を希望。「監査っていうところに一番あこがれているので、そうすると独立するより最初に入ったところで働いたほうがいい」。予備校の費用はアルバイトで工面している。実家で両親と暮らす。

これらのケースでは、少なくともフリーター期間は親元で同居しており生活上の支援を受けている。また学生時代に奨学金を受けておらず、今は負債を負っていない。難易度の高い資格試験や大学院での学習はキャリアの再構築に大きな役割を果たすと思われるが、それを支えるだけの経済的バックグラウンドがあることがこれらのケースに共通している。

次の2ケースも高等教育機関での学びが目指す職業に結びついているといえるが、むしろ、幼少期からの「夢」に沿う高等教育があったので、それを經由したといえるだろう。Tさんは奨学金を受けたが、Qさんは受けていない。

Tさん・女性・20歳・短大卒

幼少期からクラシックバレエを習っており、高校卒業時に普通の大学に行くか、バレエを専攻するか迷ったが、短大のバレエ専攻のコースに入学。「親とか、地元で通っていたバレエ教室の先生ができるところまでやってみればという感じで背中を押してくれた」。学費が高いため、4大より短大を選んで上京。短大卒業前にバレエ団の研修生になるオーディションを受けたが、不合格。次のオーディションを受けるべく、ファストフードなどのアルバイトを掛け持ちしながらオープンスタジオでレッスンを受け練習を続けている。「あと2、3年はこっちに残っているいろいろ勉強してから地元に戻ろうかな」「地元に戻るとしたら、今まで通っていた教室で先生をさせてもらおうと思っていた」。一人暮らし、生活は切り詰めている。ヨガのインストラクター資格を取る勉強も始めた。

Qさん・男性・29歳・短大卒

中学のころから漫画家になりたかった。普通高校在学中に美術の教師から漫画系のコースのある地元の短大の存在を教えられ、その短大のみ受験して合格した。短大卒業時には就職活動はせず、アルバイトをしながら作品を作る道を選択した。軽作業のアルバイトをフルタイムで1年、その会社が倒産したので、次に酒の梱包、次いでポスティングと、いずれもフルタイムでのアルバイトを続けている。大学卒業後、医師からうつ病の診断を受けたことがある。ずっと作品を書き続けており、応募している。今後も今の道を行きたい。両親、兄と同居。家にお金は入れず、アルバイト代は貯金している。

1999年調査時の「夢追求型」に比べると、希望する職業が違うことにも依っているが、今回のほうが、高等教育機関での学びと職業希望と結びついているケースが多い。高等教育進学者の増加とともに教育内容の多様化が進み、教育と職業の関係が変化していることが背景にあるのではないかと思われる。また、こうした学校を活用するには経済的な支えが必要であり、それを奨学金に頼ってしまうと、卒業後にアルバイトをしながら希望を追い続けることは難しくなるだろう。Tさんは、両親から「バイトして足りないなら」生活費を補助するという申し出を受け、親元に帰らずバレエへの挑戦を続けている。奨学金は夢を追う若者には両刃の刃となる。

「モラトリアム型」にあたるのは、職業や将来の見通しのないままフリーターになったケースである。1999年調査の分析においては、この類型についてはフリーター期間に職業的方

向付けが見えてきているかに注目した。ここでも同様にその点に注目してみる。

次のケース I、ケース J とともに、学生時代も含め様々な現実と向き合う体験の中から、自分の職業的な方向を探っている。学校卒業後の就業経験や職業訓練を経験して、それぞれのキャリアを 1 歩、2 歩進めているように見える。

I さん・男性・27 歳・大卒

高卒程度認定試験を受けて、大学進学。ゼミでの地域調査、卒業論文は積極的に取り組んだ。大学 3 年次に発達障害の診断を受け、「何かぜんぜんしようという気持ちが入らなくて」就職活動はしなかった。卒業後 2 ヶ月のアルバイトを経て、障害者向けの職業訓練施設でソーシャルスキルを含む事務系の訓練を受講し、「正社員であればいいぐらい」の基準で選んで、障害者雇用枠で事務系職種に就く。「定型作業を淡々とこなす感じが得意でなかった」「仕事が細分化されて、だれがどの仕事をしているかわからない」「困っていても上司の方が教えていたいただけのわけではない」などの理由から 2 年で離職。離職前から、親から情報を得て商工会議所の IT・パソコンのスクールに通い始めていた。テレワークができるような会社、私服で働け、柔軟性のある会社、毎日いろいろな変化のある会社で働きたいと思い、ベンチャー企業を志望する。障害者雇用の求人サイトから応募し、WEB 広告代理店での編集アシスタントに契約社員として採用される。現状に不満はないが、今後、働き方に求める基準を明確にし、(転職を) 自己決断したいと考えている。「(自営やフリーランスといった働き方も) やってみようかなって目論見があったんですけど、実際働いて見ると、会社で働くのもすごく楽しい」。できれば正社員。「それなりの裁量のあるところでしっかり働きたい」「自分の苦手を分析して取り組んでいければ、あまり(障害があることを) 気に病むことはない」。両親と暮らす。

J さん・男性・23 歳・大卒

メディア系の学部で、フランス語、ロシア語を学び、2 年生の夏にロシアでサマースクール、3 年生の終わりから 1 年間休学してフランスに語学留学した。インターンシップに積極的な大学で、これも複数経験している。フランスから帰国後、すぐ就職活動の時期を迎える。業界をよく知る教員に相談しながら志望先を絞った。「ジャーナリズムはないな、デザインも違うな。省けたのはよかった」。エントリーシートは数多く提出した。卒業間近、内定を得た 1 社に体験入社した。「あっ、違うな」と思い辞退した。メインの業務が合わない。「これをあと 40 年以上続けていくのかと考えたときに、ちょっと違うなっていうのが強くなって」。今、すごく悩んでいるという。「(大学で) いっぱい経験できたのはいいんですが、自分は何者なんだろうというのを、実はぐらぐらだったことに気づいたんです」「メディアってとってもたくさんあるけど、いったい何を人生の一部としてやっていくんだろう」。1 ヶ月途方に暮れる。その後アルバイトでメディア系の事務職に就き、フルタイムで

働いている。「技術職とプランナーの方がいらっしゃるので、そのお話を聞いて自分がどう感じるかとか、自分の思い描くものと近いかどうかをちょっと今、そこを吟味してます。」

「来年までには何か、何でもいいんで、進路先を決めたい。」今は腕を磨いていきたいと、帰宅後に、就職活動にも役立つだろうと作品制作に励んでいる。「基礎が大事、積み上げていける時期だから積み上げていこうと思っています」。一人暮らし。親は内定辞退にも、「一年頑張れ」と言ってくれている。

一方、正社員としての就職希望はあると言いつつも、積極的な就職活動はせず、現状にとどまっているように見えるケースは、1999年調査では少なからずおり「そのうちみつかったらいい」「気持ち的にフリーターのほうが楽」などと語っていた。今回の次の2つのケースも滞留状況といえるが、かつてのケースよりは深い葛藤を抱えているように思われる。

Dさん・男性・27歳・大卒

祖母の病気をきっかけに臨床工学技士に興味を持ち、同資格の取れる大学に進学した。学費免除のある成績優秀者になろうと勉強に取り組んだが、グループワークでやる気のないメンバーに足を引っ張られ、成績優秀者には入れなかった。そうした経験から、「真剣にやっても意味ないっていうか、あんまり人生に対して、何ていうんだろう、すごい頑張っていこうみたいな気持ちがどんどん大学のときから薄れて」、他の学生が国家試験対策で協力し合うなか、一人で勉強した。就職は実習に行った病院で求人が出たので、応募して採用された。国家資格も無事取得した。しかし、職場はぎすぎすしていた。「休憩中も誰かいない人の悪口が聞こえてくるとか、それが嫌だったんですよね、…この仕事が嫌になったわけではなかったんですよね。何か多分、本当鬱になりかけたみたいな状態になって」、3年で離職した。1～2ヶ月休息の後、ハローワークや求人サイトで臨床工学技士の求人を探す。「自分の行きたいような業務（心臓手術にかかわる業務）をやっている病院が全然なくて、求人出ない出ないってなって、半年ぐらいたった頃にもう何か就活する気すらなくなって」。その後も、また病院に就職しようと就職活動を思い立つものの「見るときに限って求人がない」。「基本ずっとニートだった」が、「アルバイトだとちょっと何か辞めづらいかなど思って、派遣のバイト」を始める。ホテルの清掃。「臨床工学技士の仕事も結構立ち仕事で夜勤もあつたりするんで、ずっと座ってるわけじゃないんで、就職するに当たってデスクワークに慣れてたら就職したときにきついなと思って、だから体動かして、かつ朝からできる仕事」だから清掃を選んだ。その後コロナの影響で、派遣会社の直雇になり官公庁の清掃をしている。「病院のホームページで、求人情報のところは毎日見ているけれど出ないんです」「就職活動自体におっくうになっている…履歴書とか面接とか」「一生このままでいくのは嫌だというのは毎日思っている」「臨床工学技師の仕事を人間関係の煩わしさとかそのを感じずに働けるんだったら一番理想ではある。…やりたいことを仲間と

高い志を持って。」戻りたい気持ちは強まっているという。一人暮らし。休養中は親から金銭的援助を受けていた。

Hさん・男性・23歳・専門学校中退

中学校のころから声の仕事をするのが夢だった。高校卒業時、当初は就職を考えていたが、「先生に、やっぱ自分は声の仕事をしたいですって先生に伝えたら、夢に向かって進んだらええんちゃうかって。進路指導の先生とか、担任の先生が奨学金の紙を持ってきてくれたりとか」。体験入学を経て、ナレーター養成の専門学校に進学。「進んだ専門学校は楽しくて、金も安かったんですよ」。高校時代にメンタルクリニックで対人恐怖症の診断（のちに発達障害）を受けていた。片道2時間の遠距離通学とバイトの掛け持ちで、心身の不調がひどくなる。一時休学したが、復学後また悪化して結局退学する。中退後はアルバイト、「長くても3ヶ月とかでころころ替えてた」。「収入もあるんですけど、自分に何が向いてるのかなっていうのを漠然と分かんなくて、どういう系の仕事に向いてるんだろうとか、何がやりたいんだろうってそれを探してましたね。」翌年には、「バイトの人間関係がしんどくなって」体調を壊す。さらに、「もともと家族といるのが結構つらく」、知り合いになった宗教関係の人の世話で地元を離れて宗教施設に移り住むも、それも心苦しく、結局地元に戻り精神的な不調から入院する。「入院をして、自分の症状が分かったって感じで、そこからは大分ましになりました、気持ち的にも。自分の特性が分かったりとかして、付き合い方分かった」。今は警備のバイトに副業でポスティングなど。「自分の中で納得して、自分がしんどいときは無理しなくていいやって。週5回のうち2回休む…今日はズドンとしてるなと思ったら無理せず休んで」。「今のポスティングのほうは自分のことを必要としてくださるっていうか、自分のことを評価してくださるので、働き甲斐がありますし、すごく何かやる気につながりますね」「フリーランスになりたいな。何の資格でもいいってわけじゃないんですけど、何かそういう、パソコン関係の資格あるじゃないですか、そういう簿記とか、あとはマイクロソフトオフィスの資格とか」。午前は農業で午後はネットの仕事というのが理想だ。奨学金の返済あり。父を早くに亡くし祖父母と暮らす。

このHさんは、先に紹介したIさんと同じように、発達障害を受容し、その特性に合った働き方を工夫していた。そうして点は共通するものの、キャリア形成という点からみると、今後についての希望の現実性に違いがみられた。Hさんは職業資格の取得を語るもその資格の内容を吟味しているわけではなく、取得のために何をすればいいか、その取得でどのような就業機会が開けるかなどの情報を得ているわけではない。まだ次の1歩は踏み出していないと思われる。

「やむを得ず型」にはキャリア形成をやむを得ず中断されてフリーターになった人たちが

分類される。1999年調査では、不況を背景に正社員に応募したが不採用で、就職活動を続けながらアルバイトをしていた人が大半であった。中には挫折感が大きく、モラトリアム状態に陥ってしまった人もいた。今回は、コロナ禍前までは好況が続き、統計分析からも、かつてに比べれば非正規職から正社員にかわりやすい環境が続いていたことが指摘されている（労働政策研究・研修機構 2019）。そうした背景から、今回見られた正社員になろうとしているがなれないでいる人には、障害やメンタル不調を抱える人が多かった。

〇さん・女性・28歳・大卒

高校卒業後の進路について、親からは「手に職をつけろと言われたんですけど、何か例えば資格とかも何を自分がやりたいか分からなくて…学校の先生には分からないんだったら、まず大学に行って、また、いろいろ勉強しながら考えるもありだというふうに言われて、学校の先生に勧められる大学にそのまま入った感じです」。進学先は国立大学の数学科。奨学金を借りアルバイトをして一人暮らし。「数学オタクみたいな人がすごいたくさんいて、何かちょっと場違いだったなというのに気づいて。」頑張って卒業して就職をしようと、就職活動には早くから取り組む。就職活動をしながら就きたい職種や会社を考え、「事務系のデスクワークが中心で、何か自分の強みが活かせるような働き方というふうに探して行って、その中で、できれば自分の何か価値観と合った福祉系」と絞っていき、内定は数社もらったが、最終的には「一番価値観が合う会社」に就職した。「職場環境もよくて、上司とかもすごくいい方で…全体的にはすごくいい会社だった」。しかし、勤続5年目に鬱病を発症した。「人生の全部がいろいろ関わって、何か積み重なって、多分発症した感じで、先生、医者からもこういう病気は原因があるわけじゃないんだって言われて」。勤務先は手厚くフォローしてくれた。「ずっと働きたい会社だったんですが、生きることのほうが難しいくらいにところまで来てしまって」、離職する。実家に戻り、1年ほど療養した。現在はハローワークと障害者支援施設のスタッフに働き方を相談している。前職と同様な事務系の仕事で、自分の病気に対して理解があり働き続けられる会社を希望している。近くのスーパーで試しに少し働き始めたところ。失業保険、障害年金受給中。親とそりが合わないで、できれば一人暮らしがしたい。奨学金の返済あり。

Mさん・男性・28歳・大卒

小学校4年生までは自閉症のために特別支援学級に通ったが、以降は普通学級で就学した。障害のある人のボーイスカウト活動を通して大学生に接する機会があったことから、大学進学を志望するようになった。当初は大都市の大学を志望していたが、リーマンショックの影響を受け地元の大学に変えた。数学が得意だったので情報系の専攻にしたが、「就職にはちょっと向かない」と思った。就職に備えて運転免許を取ろうと思ったものの自分の障害を考えて諦めた。車通勤の必要のない大都市での就職を希望し1社内定を得たが、

就業環境に疑問を持ち、親からもブラック企業ではないかと言われて、辞退する。卒業後は専門学校に通い簿記3級とパソコン資格を取得した。通学しながら、実家の自営業の手伝いを始める。資格取得後は親の会社でフルタイムで事務に従事。「働く訓練がてら」に税務署で確定申告のアルバイトも経験する。その後求職活動を再開し、大阪で経理の正社員を目指し就職活動。25社に応募し、内定見込みまでいった会社があったものの採用には至らなかった。相談相手はハローワークの職員と母親であった。大阪での就職はあきらめ、次は登録していた派遣会社から「工場のほうにちょっと行くことになったんですけども、工場が合わなくて、結構、もう地獄だったですね。」パワハラにあって鬱状態になった。2ヶ月で退社。今は、アルバイト情報誌で探した販売系の短期バイトについており、契約延長の打診もあった。「周りが皆さん、やっぱり温かい人が多かったりとかして、続けることができました。」契約が切れるまではここで働きたいという。今は、障害者手帳は持っていない。「親とよく話し合ってから、またそういう方向に行くかもしれないですし、まだちょっと何とも言えないです。」

Cさん・女性・25歳・大学中退

高校は進学校で、成績はトップクラス。母の勧めもあり難関国立大学の文系学部に進学した。しかし、進学後、体調を崩すことが多くなり3年次の初めに休学届を出し、実家に戻って療養する。双極性障害と診断された。精神的症状だけでなく身体的な症状を伴うもので、大学生活は厳しかった。その後いったんは復学するが、翌年には再び休学しそのまま中途退学となった。休学中であったころからアルバイトを探した。実家から通いやすいことを条件に塾講師のアルバイトに就き、現在まで継続している。週3日、一日1コマか2コマ受け持っている。「1コマ単位で選べるので、それがすごくありがたいですね。どうしても数時間ってなると、体調が悪いときにはすごくきつくなってくるので」。この仕事をしばらくは続けることになると思っている。将来については、「一寸先が闇ですね。…いかんせんよくならないので、体が。そうですね、よくなったら働きたいなと思いつつ、よくならないなっていうのが現実で」。「将来働けるようになった場合により強みにできたら」と、最近、IT関連の自営業を営んでいる父の勧めで、データベース管理ソフトを勉強している。「それがすごく楽しいっていうのもあって。あと、IT関連だと、それができるようになると、…在宅での働き方っていうのも、より幅というか、そこにも融通が利くようになってくるかなっていうので、今、勉強している」。実家で父母と暮らす。奨学金の返済があるが、今は障害年金などでまかなえている。

思うように正社員の道が開けない「やむを得ず型」には、思っていた正社員としてのキャリアに躓き、挫折感からモラトリアムに近い状態になっているBさんのようなケースもあった。こうしたケースは1999年調査にも見られ、「1回何かレールから外れると、修正

が利きづらい」というこのケースが示した社会への認識は、当時語られた言葉と大きく違わないように思える。

Bさん・男性・29歳・高卒

都市部の工業高校電気科卒、学校紹介で大手部品メーカーに就職する。配属先が資材調達部門で、希望していた設計や生産管理のものづくりの現場の仕事には希望を出しても通らなかった。工場のある地方の暮らしにもなじみずに4年目に退社した。地元に戻って、半導体の溶接の作業員として正社員で就職するが、上司の好き嫌いに左右される中小企業体質が嫌で1年足らずで離職。次は車の部品の設計の仕事に正社員で採用される。「本当に設計をやりたいかだったので楽しかったんですけど、3ヶ月ぐらいで」辞める。経営者の補助金の不正申請が発覚し、いられないと思った。設計の仕事を探したが、「設計は中途採用はもうやっぱ熟練の人しか中途採用やってくれない」。志望を生産技術に切り替えて、1年の契約社員で大手の系列会社に採用される。契約期間終了後、正社員での職探しをしつつ、現在は食品会社で仕分けのアルバイトをしている。副業で株取引もはじめた。「設計とかやりたかったけど、結局、3ヶ月しか経験もないし、その程度の経験じゃあどこにも行けないしみたいな感じで、そういう何か、結局、何もかも中途半端な状態なんで、私の職歴だと、どこにも行きづらい」「やりたいこととかそういうのもなくて、ただ今の日々が過ぎてただけみたいな感じで、何か、あと、そうですね、夢とかもなくて」「大きな会社に入れば、それで一生安泰だろうと思って、それで学校卒業して、大きな会社に入ったけど、でも、それが全然違ってたっていうので、それで何かショック受けてっていうか、それよりも何か自由に生きられたらみたいな。とか、やりたいことをやりたいみたいなふうに思って」「1回何かルールから外れると、修正が利きづらいのがこの日本の世の中」だと思っている。実家で両親と弟が同居。

一方、今回のコロナ禍の直撃で、キャリアに大きな打撃を受けたケースもあった。このケースでは、やっとならんだ自らの強みを生かせる仕事を失ってしまった。ハローワークに相談に行き、職業訓練の機会を得ようとしている。現在は、無職で正社員を希望しているので、フリーターの定義には当てはまらないが、不安定な状況である点は変わらないため、今回の調査の対象者に入っている。

Sさん・女性・27歳・大卒

高校卒業後中国の大学に留学する。「ふつうに就職しよう」と思っていたが、就職したい仕事も特になく、「就職か進学か、学校だったら語学かなって、何か日本で学ぶより直接海外がいいんじゃないかって」。身近に中国語を話す人がいた。「学力的にそんなにいい学校には入れないのではないかと、日本の大学は高いから、日本式の中国語を習うよりも、本場

でそういう課程もあるので申し込んで合格した」。身近な人から中国語を習う。留学先の大学は、親や親せきに助けられながら、自分でインターネットで調べ手続きをした。入学試験も中国語で受けて通った。中国での生活は、上海にいる親戚がサポートしてくれた。専攻はビジネス漢語学科。卒業したら日本企業に就職して、中国に派遣されて働きたいと思っていた。現地での会社説明会に行ったが進展せず、あとは卒論に集中して、帰国後に就職先は探すことにした。6月に帰国、就職サイトやハローワークに登録し地元での会社説明会に行った。就職が決まったのは翌年7月。国際線空港の免税店での販売職。契約社員だったが、中国語は生きた。3年務めたところで、コロナの影響で希望退職が募られ、それに応諾した。正社員ではなかったし、子持ちの社員が定時で帰る中、自分ばかり残業を引き受けているこれまでの環境への不満もあった。現在は、求職活動中。ハローワークの職業訓練でPC関連の資格を取りたいと思っている。ワードやエクセルは一応できるけれど資格がない。「正社員で安定して、実家に近いところがいい」。職種はできるものなら何でもいいと思っている。実家で暮らす。

第3節 アルバイトと職業能力形成

アルバイトでの就業がのちのキャリアにつながる職業能力形成になっているのか、1999年調査では、アルバイトで就ける職種は限られているとしながらも、美容師になりたい人が美容室の受付のバイトをしたり、調理関係の仕事をしたくない人がその補助業務についたり、つきたい仕事を学ぶために、その仕事の周辺のアバイトを選んで就いている例は少なくなかった。

今回はそうした例は少ない。この先の仕事に直接関係しそうな職場を選んでいるのはJさん（既出）で、メディア系の職場での事務職のアバイトに就いている。また、詳細は省くが、Lさん（大学中退女性、22）は英語を自分の強みにしたいとワーキングホリデーで渡豪しようとし、その資金を得る目的で「イングリッシュパブみたいな、すごい外国の方がお客さんでみたいなところを選んで」アバイトをしていた。（ただし、コロナ禍で同店はほぼ休業。Lさんは帰郷して正社員就職を目指す気持ちになっている。）先々の仕事につながる職場として本人が意識して選んでいるのではないかもしれないが、Iさん（既出）のWEB広告代理店での編集アシスタントも次につながる可能性は感じられる。

1999年調査では、特定の職業についての能力というより、基礎的なソーシャルスキルのレベルの能力を獲得したという語りも多かった。今回調査でそれに近いのは、発達障害や鬱などを抱え、生きづらさ・働きづらさを感じていた人が少なくなかったことから、アルバイトでの就労を通して、それぞれの特性を生かし、つらさを回避する働き方を知る機会になっていると思われる例は複数あった。

職業能力開発という意味では、今回調査ではアルバイトでの体験より学校や職業訓練機関を活用するケースが多くみられた。変化の背景には、対象者に高学歴者が多かったこともあ

るが、この 20 年間に専門・技術職が増加し、こうした職業では体系的な学びの必要性の高いことから学びの形がかわっていたこともあるだろう。

第 4 節 現実の就業機会との接点

そうした体系的な知識、技術の獲得を証明するものの一つが資格職業である。1999 年調査でも資格取得について言及したケースは多かった。今回挙げられた資格は、公認会計士（N さん）や税理士（F さん）という難関の業務独占資格のほか、簿記（M さん、N さん）や IT 関連の資格（C さん、S さん、M さん、I さん、H さん）を挙げる人が複数いた。職業資格ではないが、語学を自分の強みにしようと留学やワーキングホリデーでの渡航を予定していた人もいた（L さん、E さん）。職業能力を獲得しそれを強みに、キャリアを拓こうとする姿勢をほとんどの人が持っていた。

それらの知識、技術は、正社員としての就職やキャリア形成の強みになったのか。1999 年調査の際は、あやふやな情報に基づき職業として確立しているとはいいがたい分野に夢をさせているような事例も見られ、危惧するところもあった。今回調査で語られていた資格は、社会的にも認知され、キャリア形成上の強みになる可能性が高いものであると思われる。

それでも、例えば M さんは、大学卒業後、別の学校に通って簿記 3 級の資格とパソコン関係の資格を取って、経理職を目指して積極的な就職活動を行ったものの、採用には至らなかった。自閉症の障害があったことが足を引っ張った可能性は大きい。その後、派遣で工場労働をし、パワハラに遭うという嫌な思いをしている。一方、I さんは、大学 3 年次に発達障害の診断を受けて就職活動をせずに卒業し、その後障害者向けの職業訓練施設でソーシャルスキルを含む事務系の職業訓練を受けた。その直後の就職先は合わなかったが、そこでの経験から「自分の苦手を分析して取り組んでいければ、あまり（障害があることを）気に病むことはない」と、次のステップへと進んでいるように見受けられた。

個人個人の性格や障害の特性の違いなどから、一概には言えないが、職業訓練や資格の取得は重要ではあるが、それ単独での意味は小さく、それを個々のキャリアの中に位置づけ、社会関係の中で、労働市場での実際の需要を意識しながら行っていくことで大きな力になるのではないだろうか。I さんの通った職業訓練施設は、おそらく相談機能もあり、障害を受容し苦手を分析する手助けをした可能性が高いと思われる。こうした相談支援が重要なのは、障害を抱えた人だけではない。自己啓発の問題点として 10 歳代、20 歳代の若者が多く挙げるのは、「どのようなコースが自分の目指すキャリアに適切なかわからない」「自分の目指すべきキャリアがわからない」という「わからないさ」である（厚生労働省人材開発統括官「能力開発基本調査」）。職業能力を高めキャリアを拓く力にしたいという思いを現実の就業機会に結びつけていくには、若い世代は「わからない」ことが多すぎる。

さらに、今の時代は変化が大きい。今回の調査でも、語学を強みにしたかったケースでは、コロナ禍の影響を受けて、留学やワーキングホリデーを中止や延期をせざるを得なくなって

いた。こうした社会状況の変化はこれからも少なからずあるだろう。キャリアの見直しが迫られる事態は、今後とも、多くの人に起こりうる。

近年、「キャリア自律」の重要性が指摘されるが、自律するためには社会インフラが必要だ。職業能力開発施設や学校ばかりでなく、正しく適切な職業情報が得やすい環境、進路を選び取る助けになるような相談支援、そうした環境なしに若者にキャリア自律は迫れないだろう。

参考文献

- 日本労働研究機構，2000，「フリーターの意識と実態—97人へのヒアリング結果より—」調査研究報告書 No. 136.
- 労働政策研究・研修機構，2017，「大都市の若者の就業行動と意識の分化—「第4回 若者のワークスタイル調査」から—」労働政策研究報告書 No. 199.
- 労働政策研究・研修機構，2019，「若年者の就業状況・キャリア・職業能力開発の現状③—平成29年版「就業構造基本調査」より—」資料シリーズ No. 217.
- 厚生労働省人材開発統括官，2020，「能力開発基本調査」。

第3章 フリーターの労働時間からみる働き方と意識の変容

第1節 はじめに

本章ではフリーターの働き方と意識の変化について、日本労働研究機構（2000）と比較しながら検討する。

日本労働研究機構（2000）においては、フリーターと言っても「残業のない正社員」なみに働く若者が多く、またフリーターの働き方にはデメリットはあるものの、「やりたいこと探し」や様々な経験ができるというメリットが評価されており、当事者にとってはフリーターであることはそれなりに前向きに捉えられていた。こうした働き方や意識については現在はどうのような状況にあるのか。第2節では労働時間から見える働き方の変化について、第3節ではフリーター観について、第4節ではフリーター自認について、第5節では今回見出された知見と日本労働研究機構（2000）との比較を行う。

第2節 フリーターの労働時間からみる働き方の変化

日本労働研究機構（2000）におけるフリーターは比較的労働時間が長い者が多く、週に4日から6日働いて15万円弱の収入を得るとというのが平均像であり、「残業のない正社員」なみに働くフリーターが少なからず存在した。総務省「就業構造基本調査」によれば、男性フリーターは2007年には38.3時間働いていたが、2017年には34.9時間に減少している。女性フリーターはもともと男性フリーターよりも少なく30.8時間だったが、29.5時間にわずかだが減少した（図表3-1）。

図表3-1 15-34歳のフリーターの1週間の労働時間（平均 単位：時間）

	2007	2012	2017
合計	32.6	32.1	30.9
男性	38.3	36.2	34.9
女性	30.8	30.6	29.5

注：「だいたい規則的に」または「年間200日以上」働いている場合

資料出所：労働政策研究・研修機構（2014）および労働政策研究・研修機構（2019）より作成

今回は35時間以上働いている、または当事者がフルタイムと回答したフリーターは20名のうち9名であった。労働時間は図表3-2に示したフリーター類型と関連しており、やむを得ず型やモラトリアム型は精神的な課題を抱える以外の者のほとんどがフルタイムで働いていた。他方で夢追求型のフルタイム労働者は半数程度であり、ステップアップ型には存在しなかった。なおステップアップ型は主に高学歴男性から構成されているが、日本労働研究機構（2000）においても求職活動や勉強と並行してアルバイトをしている高学歴男性の存在

は指摘されていたものの、当時は少数派であった。

モラトリアム型や、精神的な課題を抱えていないやむを得ず型は、もともと労働時間が長いフリーターだったわけだが、この割合が減少したことが、フリーター全体の労働時間の減少に結びついたものと考えられる。フリーターの意識と働き方には当然のことながら強い関連がある。

図表3-2 フリーター類型と労働時間

ID	性別	都道府県	年齢	現職	学歴	類型	35時間以上
A	男性	東京都	26	アルバイト	大卒	夢追求	
B	男性	神奈川県	29	アルバイト	高卒	やむを得ず	○
C	女性	茨城県	25	アルバイト	大学中退	やむを得ず	
D	男性	北海道	27	アルバイト	大卒	モラトリアム	
E	女性	神奈川県	22	アルバイト	大卒	夢追求	
F	男性	東京都	21	アルバイト	大学中退	ステップアップ	
G	男性	静岡県	25	アルバイト	大卒	ステップアップ	
H	男性	京都府	23	アルバイト	専門中退	やむを得ず	
I	男性	東京都	27	契約社員	大卒	やむを得ず	○
J	男性	京都府	23	アルバイト	大卒	モラトリアム	○
K	女性	福岡県	28	派遣希望	高卒	モラトリアム	○
L	女性	東京都	22	アルバイト	大学中退	夢追求	○
M	男性	福岡県	28	アルバイト	大卒	やむを得ず	○
N	男性	愛知県	27	アルバイト	大卒	ステップアップ	
O	女性	新潟県	28	アルバイト	大卒	やむを得ず	
P	男性	北海道	27	アルバイト	専門卒	夢追求	○
Q	男性	石川県	29	アルバイト	短大卒	夢追求	○
R	女性	福岡県	24	アルバイト	大卒	やむを得ず	
S	女性	新潟県	27	職業訓練	大卒	やむを得ず	○
T	女性	東京都	20	アルバイト	短大卒	夢追求	

第3節 フリーターのメリット・デメリット・フリーター観

フリーターのメリットとデメリットは表裏一体であり、メリットは自由、デメリットは収入が低いということはよく指摘される。他方で今回のインタビューにおいては、日本労働研究機構（2000）でよく見られた、フリーターとして働くことで「やりたいことを探せる」「いろいろな職業を経験したい」などの表現はほとんどなされなかった。正社員経験者とフリーターのみ経験者ではややニュアンスが異なっているので、以下では分けて語りを引用する。

<正社員経験者>

正社員経験者として、Bさん、Dさん、Nさん、Rさんの語りを参照する。

Bさんは正社員経験があり、現在も正社員を希望しているので、フリーターのメリットよりもデメリットの方を強く感じている。

Bさん・男性・29歳・高卒

(フリーターのメリットは) 時間の融通が利く、ぐらいですかね。本当にそれだけですかね。

(デメリットは) やっぱり時給制なんで、そういう今回のコロナとかがあると、給与とかの変動が激しいことと、あと、ボーナスもないことですか。正社員とは違って。(正社員は) 責任が結構重い。のと、いろいろな制約が。

Dさんにも正社員経験があるため、Bさんと似たようなポイントを挙げている。ただしDさんは正社員になりたいという気持ちは弱いため、Bさんとは異なり、価値判断のない単純な働き方の比較である。

Dさん・男性・27歳・大卒

フリーターは不安定、正社員はこき使われるが守られているというイメージ。(フリーターにどういうイメージを持っていますか) 何か安定しないなっていうふうには思います。

(Dさんご自身は自分のことをフリーターと思ったことありますか。) フリーターだと思います。(フリーターにどういうイメージを持っていますか) 何か安定しないなっていうふうには思います。

(逆に正社員のイメージってどんな感じですか) 正社員は、まあ定額で結構こき使われる感じはあるけど、何ていうんだらう、会社が潰れない限りは、保険とかも込みで割と守られているというか、っていうイメージです。

Nさんは税理士試験のために正社員を離職してフリーターをしているが、そのことに対する思いは特にない。正社員だと仕事にのめりこみがちな自分の性格を考えると、今の仕事はちょうどいいと思っている。

Nさん・男性・27歳・大卒

(自分のことをフリーターだと思いますか) 思います。もう直訳ですよ、自由な人みたいな感じですね。(よいイメージですか) 半々ですね。

Rさんは病気がきっかけで正社員を離職した後、フリーターをしながら何とか一人暮らしを続けている。フリーターと正社員の違いは、働くにあたって求めるものの違いに対応しているにすぎないと捉えている。

Rさん・女性・24歳・大卒

(Rさんがもつフリーターのイメージについて) 人それぞれ働くにあたって求めるもの

がやっぱり違うから、フリーターを選ぶ人は、やっぱり何かやりたいことがあってそのためにお金を貯める人だとか、あとは私みたいに、ちょっと病気があって、なかなかうまく働いていけない人っていう人がフリーターを選んでいるのかなっていう印象で。正社員は、逆に、健康でばりばり働ける人だったり、お金をたくさんもらって、ぜいたくを、自分のご褒美のためにたくさん使いたいとか、あと、将来のために貯金をしたいとか、そういう、あと安定とかが欲しいっていう人が正社員を選ぶのかなっていう印象ですね。

<フリーターのみ経験者>

フリーターのみを経験しているAさん、Lさん、Tさん、Fさんについて語りを参照する。

漫才師を目指すAさんは、正社員は労働時間が長そうで大変そうだというものの、Aさん自身も週に20時間働きながら漫才のための活動をしているので、おそらく残業のない正社員と同じ程度には活動していると推測される。よって正社員とそれほど変わらないような時間の使い方のように思われるが、Aさんにとって正社員は好きではないことを長時間労働するものというイメージがかなり強いようである。

Aさん・男性・26歳・大卒

アルバイトやフリーターの場合だと、本当、ちょっと嫌であれば、もう長年勤めたことで給料変わるといっても正直ほとんどないので、もう何かこんな雰囲気だったら辞めますよっていうのがすぐ動けるのは、メリットではあるかと思いますね。デメリットは、もう何といっても給料が低いっていうのが。

(正社員に対するイメージは) そうですね、すごい大変そうだなというのは思いますね。

何といっても8時間労働で週5日は働いてるといのがすごいなとは思いますが、見ていて、よっぽど好きな仕事じゃないと、通勤も時間かかって、休憩時間も入れると、もう10時間、11時間の拘束を毎日やってるっていうのは、もうよくできてるなというふうに感心するといいますか、ですね、思います。

(今のアルバイトでどのくらい働いてらっしゃるんですか。) 1日7時間15分を週3回という感じですね。(じゃあ、結構長く働いてらっしゃるんですね。) そうですね。でも、まだ中でも塾なんで、まだ好きな仕事といえば好きな仕事なんで、ある程度長くても自分はこらえられるかなと。

Lさんは世間体を気にする方ではないため、フリーターであることを前向きにとらえていたという。しかしコロナのためにシフトが削られたことをきっかけに、フリーター生活が脆いものであったと感じるようになった。Lさんはワーキング・ホリデーの資金稼ぎのためにフリーターをしていたが、職場のフリーターはやりたいことの途中としてフリーターをしているため、自分とは違うと認識している。

Lさん・女性・22歳・大学中退

(自分のことフリーターだと思いますか。) 思います。(フリーターのイメージは) とりあえず正社員じゃなくって、アルバイトだけで生活してる人みたいな。不安定だし、何か余裕がないみたいな。でも、その分、何か自由ではあるかなとかちょっと思っちゃうけど。私、何か世間体とかあんまり気にしないんで、その分の心的には、何か責任もないし、心的には自由だけど、やっぱり生活見ちゃうとすごい不安定だし、コロナのあれで、こんなにもシフトが削られるとか、何か去年は全然予想してなくって。こんなにすぐ壊れちゃうんだな、今の生活がとはちょっと思います。

(イングリッシュパブで) その人たちは結構何かフリーターとか、20代半ばぐらいのフリーターの人が多くって、何かそこに1年間いたから、何か危機感がどんどんなくなっていった。何か今までの人生だったら、考えられない生き方してる人たちがいっぱいいるんだなって、何か思っちゃって、でも、何かその人たちは結局、自分がやりたいことがあって、その途中だからそこで働いているという人も多から、何か自分とは違うというか、ちゃんと夢がある人が多いから、そこは自分とは違うなとは思ってるけど。何かやっぱり何々の職業に就きたいという夢がないと、何か結局ぼんやり暮らしてるだけみたいな感じになっちゃうのかな。

Tさんはバレリーナを目指してアルバイトをしながらオーディションを受けているが、周囲には夢追求型のフリーターが多数おり、お互いに励ましあいながら続けている。フリーターという言葉だけ聞くとマイナスのイメージがあるが、夢追求型のフリーターは引け目をもっているわけではないという。

Tさん・女性・20歳・短大卒

(職場であるファーストフード店) とかでは同級生とかがダンスのほうで同じようなことしてる子とか、あとは何か女優とか、そっちを目指す子とかもいて、そういう子たちは本当にもうバイトいっぱいして、その後レッスンに行くって同じような生活してて。(ファーストフードの仕事って、そういうオーディションがある人たちにとっては都合がいい働き方なの。) …そうですね。何か休職とかもできるし、働きたいときにはいっぱいシフト出せて、でもちょっと今週は無理ですっていうときは週に全くシフト出さない週があってもいいみたいな感じで、本当にその仕事の入れ方が自由なので、その融通が利くのが一番いいところですね。

何かフリーターとだけ聞くと、やっぱりちょっと生活安定してないとか、ちゃんとした職に就けてないみたいな、ちょっとどちらかというとマイナスなイメージがあって、自分もそれで何か自信が持てないみたいな感じはちょっとありますね。…世間的に見るとって
いう感じ。

(Tさんの周りには、Tさんみたいな夢を追ってる感じのフリーターの人たちが多いわけですね。)はい。(その人たち、別に引け目を感じてるっていう感じでもない。)あつ、全然ないですね。

上記の3人とは異なり、Fさんはフリーター経験を働き方のひとつの類型と捉えている点で、正社員経験者にやや近い認識を持っている。Fさんの職場はグローバルなアパレル企業であり、アルバイトをしていたということが社会で評価される職場として知られている。同じフリーターと言っても職場や働き方の違いが意識に影響を及ぼしているものと推測される。

Fさん・男性・21歳・大学中退

(現在のアルバイト先で働くフリーターについて) 夢を持ったっていうより、国籍が結構ばらばらで。いろんな国の人があるので、その辺も楽しかったりしますし。あと社員の割合が多分3割ぐらいなんですよ。ほとんどアルバイトで回ってるような状態なので、中にはいろんな人がいるなっていう感じはしますね。・・・会社も何かそういうふう、そういうことを応援してるっていうか、そういうことを推奨はしてるので、長く勤めるキャリアではなくて、途中の通過点としてのキャリアを積むところに結構重視してる会社ではあるので。

(大学生の頃から現在のアルバイトを続けている理由について) 働きやすいところだからですね。

以上のように、正社員経験者にとっては、正社員とフリーターのメリット・デメリットは単なる働き方の比較になっておりフリーターであることに意味付けをしない傾向にあるが、フリーターのみ経験者はより前向きにフリーターを捉える傾向がみられた。

第4節 フリーター自認

自分をフリーターとして認識する(以下、フリーター自認)点については、派遣・契約社員においては薄かった。他のアルバイト就業者については、おおむね自認されていたが、自分の状態をフリーターではなくニートと自認する者が2名存在した。

自分をフリーターだと思わないのは、インタビュー時に派遣社員と契約社員で働いていた2名である。

<自分をフリーターだと思わない>

Kさん(派遣社員)・女性・28歳・高卒

フリーターについて:(あなたのような状態を一般にはフリーターとかいうふうに言ったりするんですが、フリーターと呼ばれることに対して何か抵抗とかありますか)フリー

ターって言われたことですか。多分ないと思います。(自分のことをフリーターと言われたら違うと思いますか。) ええ、違うと思います。(フリーターのイメージは) フリーターは、何かバイトしてる人。

I さん (契約社員)・男性・27 歳・大卒

(自分のことはフリーターだというふうには) あまり思わないですね。むしろ今の会社さんでしっかりお世話になっているんで。(フリーターについては) 悪印象ないです。その選んだ方の自由だと思いますよ。ただ、フリーターは、そういう状況、立場ですと、実際自分も今、こういう状況になって分かることなんですけれど、立場は果てしなく弱いんです。ある意味で生きるハードルは、一般的な正社員よりははるかに高いかなと。変な話言ってしまうと、世間的なまなざしなんか物すごく厳しくなりますし。あなた何、フリーターなのって言われたりとか、正社員なのというふうに言われてしまうことも普通にありますし、言ってしまうと、生きるハードルはなかなか自覚を持ちづらいところではあるんですけど、はるかに高いと思います。

他方で、働き方としてはフリーターだが、自分をニートだと思っている者が2名いた。いずれも労働時間が短いことが共通している。

<自分をニートだと思う(思っていた)>

Hさんは病気をきっかけに専門学校中退後、思うように定期的に働くことができない状態が続いている。フリーターはきちんと働いている人というイメージがあるので、きちんと働けない自分はニートだという自己認識がある。

Hさん・男性・23 歳・専門学校中退

自分はニートかなと。(フリーターは) 例えば、言わば週5回決めたらきっちり週5回働いてるってイメージがあって、自分の場合、5回決めても大体2回とか体調で休んじゃうとかってしたりとか、そういうのもあるし、あとやっぱり家族に養われてる身なんで、ほぼニートじゃないのかなって思ったりとか。(フリーターは) 自分のことをやっぱりできるような人って感じ。フリーターというよりはニートに近いかなって感じですね。

(フリーターのイメージは) 何か自分探しの途中なんかなって感じはしますね、自分からしたら。それこそやっぱり、今、さっきも言った、結構専門学校のときだと思うんですけど、自分がやりたいこと何やろなとか、向いてること何やろなとか、自分に一番何が合ってるんやなとか、そういうのを探してる方がやっぱフリーターじゃないのかなって。だから、いろんなことチャレンジしたりとか、うん。そういう中で合わなかったら仕事変えたりとか、そういう人がフリーターじゃないのかな。だから、自分はそういうふうに感じますね。

Gさんは大学院を目指すため、正社員を離職した。塾の短時間のアルバイトをしながら勉強し、無事に大学院の試験に合格したが、友達に説明する時にはフリーターではなくふざけてニートと自分を説明しているという。自分をフリーターではなくニートと表現した理由の一つには、フリーターについての考え方を尋ねた回答から推察するに、自分がフリーターである状況を認識すると不安になるため、わざとニートと表現しているものと思われる。

Gさん・男性・25歳・大卒

(今、何してるの、D君って言われたとき、何て言うんですか。)何かもうふざけて、ニートとかって言ってますけど。いや、もうニートだよみたいな、で、毎日もう遊んでるからみたいな、自虐で言ってます。別にその後、大学院に行こうと思ってるんだ、受かってるし、今は気楽ですけど、やっぱり受かってないときって、何もステータスがない状況なので、やっぱりちょっと、いや、外で会うと、ふざけますけど、何か毎日だらだらしてるよとか言いますが、内心ちょっと不安な気持ちありましたよ、やっぱり、落ちたらどうしようみたいな、はあったんで、今はそうじゃないですけど。

何か例えば目標があつてとか、例えば、じゃあ、今、お金をためて世界一周したいよとかっていうのがあるじゃないですか。そういう何か目標を持っている状態でのそういうのっていうのは別に何も、何でしょう、ネガティブなイメージは持たないけど、例えば正社員よりフリーターのほうが楽だからといって、そういう選択をしてる方に対して思うのは、別にネガティブな気持ちは抱かないですけど、自分がそうだとしたら、ちょっと怖いなっていう、ボーナスとかもないですし、要は雇用のパワーとして弱いわけですよ。何かあれば、今回みたいなそういう非常事態があれば、ちょっとクビを切られてしまうみたいな可能性もありますし、何でしょう、少し僕の感覚からすると、別にその人の人生なんで、何か何してんだよとは思わないですけど、僕だったら、その状況は不安になるなって思っちゃいますね。

自分をフリーターと表象することが困難なGさんと同じように、自分をフリーターと認識することに戸惑いがある者もいる。Eさんはコロナのために留学ができなくなり、現在の状態は思いがけないものになっている。そのため自分をフリーターと名乗ることはためらいがある。

<フリーターと自認することに戸惑い>

Eさん・女性・22歳・大卒

(自分がフリーターだと言われることについて)自分が学生時代にフリーターになると思ってなかったので、何かちょっと複雑な気持ちっていうか、一応今自分の中で今後やりたいことがあつての上でのフリーターなので、すごい嫌とかっていうわけではないんです

けど、何か大学入る前とかに思い描いていた自分の将来像とは違ったので、そういう意味では何か複雑な気持ちっていうか、部分もあります。・・・あんまり（アンケートなどの）何かこう職業選択のときに、そういうチェックしなきゃいけないときとかは全然何も迷わずできるんですけど、自分からは（フリーターとは）確かに言わないかもしれない。

Hさんのようにフリーターをやりたいことを探す働き方と積極的に定義する場合を除き、フリーターとして働くことは積極的に肯定されてはいないが、かといって不安や戸惑いはあっても特に否定的な語りも見当たらなかった。過去には、やりたいことがあるフリーターはよいフリーターで、ないフリーターは悪いフリーターという二分法的な語りが浸透していたが、今回はHさんの語りを除いて、ほぼ語られることはなかった。第3節でみたように、正社員経験者と非経験者ではニュアンスの違いは見られるものの、フリーターという働き方をしていることが若者の中で特段の意味づけを必要とせず、働き方の単なる一つの表現になりつつあることをうかがわせた。

第5節 おわりにーフリーターの変化ー

この20年間、フリーターの働き方や意識は変化した。

第一に、残業のない正社員なみに働くフリーターは減少している。この理由としては、フリーターになる理由として、モラトリアム型ややむを得ず型が減少したことが関連していると推測される。ただし今後景気が悪化していくと正社員になれないやむを得ず型が増加すると見込まれるため、残業のない正社員なみに働くフリーターの割合が増加する可能性がある。

第二に、フリーターの意識について、日本労働研究機構（2000）の分析と比較して浮き上がったのが図表3-3である。

フリーターのメリットとして、自由・時間の融通がきくという点に変化はなかった。しかし様々な経験ができるというメリットは指摘されなくなっている。2016年の若者のワークスタイル調査によれば、「いろいろな職業を体験したい」率はかつてと比べると低下しているので、様々な経験をすることへのニーズが若者の間で低くなったのだろう。インターネットにより情報が得やすくなったことから実際に自ら試行錯誤しなくてもよくなったのか、あるいは高学歴化したために大学生のうちに様々なアルバイトをしているためかもしれない。フリーターのデメリットにはあまり変化はなかった。

正社員観はそれほど変わらないようであったが、フリーター観はかつて見られたフリーターの二分法である「やりたいこと」があるフリーターは良いフリーター、ないフリーターは悪いフリーターという、「やりたいこと」志向の語りの多くは失効していた。「やりたいこと」を探すという語りは、留学とワーホリを希望する者、発達障害のために仕事を転々とする者に見られたものの、留学とワーホリは当面においては留学やワーホリなどの「やりたいこと」は具体化されている。フリーターにおける「自分探し」の語りは意外なほどに喪失しつつあ

るが、若い時期がアイデンティティ形成の時期であることは今も昔も変わらないことを鑑みると、不況期にフリーターという働き方によって「自分探し」をしなくてはならなかった「就職氷河期世代」とは異なり、好況期が続いていた近年は正社員のハードルが下がったため正社員として「自分探し」が可能になったということであるかもしれない。実際に労働政策研究・研修機構（2016）によれば、近年の若者の正社員としての転職は、当事者のモチベーションに前向きな結果をもたらしている。フリーターの「自分探し」は終焉しつつあるのか、不況期に再び蘇るのかどうかについては今後の調査を待たねばならない。

世間のフリーター観については、当時のフリーターは自己責任であったので世間の目も厳しかったが、今でも男性が批判されることはあるものの、世間は許容的になっているとフリーターには感じられていた。

なお次章で家族について検討するが、家族はこどもがフリーターであることについて許容的になっている。日本労働研究機構（2000）においては、家族にも世間にも認められていないという語りが散見されたが、今回の調査では、子どもの立場からは家族には容認されていると捉えられており、世間にも比較的許容されるようになっていると捉えられていた。

図表 3-3 フリーター意識の変化

1999年	2020年	変化
フリーターのメリット		
自由・時間の融通がきく	自由・時間の融通がきく	変化なし
様々な経験ができる	語りなし	様々な経験というメリットはなくなった ※WS調査（いろいろな職業を体験したい率低下）
フリーターのデメリット		
収入が少ない	収入が少ない	あまり変化はない
社会に認められていない	社会に認められていない	
不安・不安定	不安・不安定	
世間のフリーター観		
約8割が「世間の厳しい視線」を指摘	男性は批判されることもあるが、おおむね許容されている。	世間は許容的になっている
しかし、申し訳なく思ったり反発するのではなく、「気にしない」「反発は感じない」	後ろめたいこともあるが、特段の感情はない。	許容されているので、特にない
正社員観		
収入が良い	収入が良い	あまり変化はない
安定しているが、拘束される	安定しているが、拘束される	
フリーター観		
フリーターには「良いフリーター」と「悪いフリーター」があり、違いは「やりたいことが」あるか否か	特に語られない	「やりたいこと」志向の語りが消失

資料出所：日本労働研究機構（2000）85頁を一部省略し、加筆修正

参考文献

日本労働研究機構，2000，『フリーターの意識と実態—97人のヒアリング結果より』労働研究報告書No.136.

労働政策研究・研修機構，2017，『大都市の若者の就業行動と意識の分化—「第4回若者のワークスタイル調査」から—』労働政策研究報告書No.199.

第4章 フリーターの将来展望と家族

第1節 はじめに

本章では、2020年フリーター調査の中からフリーターの現状と将来への展望や今後の計画を家族関係・親子関係から読み解く。

若者の進路決定やキャリアと家族の関係については、例えば宮本（2020）が指摘しているように、成人期への移行が次第に遅くなっている現代の若者は、家族に寄生する成人としての「パラサイト・シングル（山田 1994）」の立場ではなく、むしろその経済的自立それ自体が支援の対象となる社会的弱者としての立場に近く（宮本 2002）、そのための家族のサポート（あるいは依存）の様式には、家庭が持つ経済的、文化的資源によって、大きな格差が存在する。また昨今は、そもそも「依存できない家族」の増加（谷口 2020）なども報告されるなど、若者の自立や成人期への移行は次第に時間のかかる「課題」となってきた。

若者の自立が困難になるにつれ、顕著化する傾向の一つとしては親子の同居が挙げられる。北欧を除いたヨーロッパ諸国では、若者が親元を離れた後、経済的な不安定性のゆえに再び戻ってくる様相を何度も伸び縮みを繰り返すアコーディオンにたとえ、「アコーディオン・ファミリー」と呼ばれている（Newman 2012）。アジアに目を向けると、例えば韓国では、大学を卒業したにも関わらず就職ができず親元で暮らす若者をカンガルーにたとえ「カンガルー族」と呼ばれ、韓国労働研究院（KLI）の調査（2017）では20-34歳人口の約56%が当てはまるとされている。

家族との関連からも現れるような、現代における若者の「非標準的移行」の様相は、安定した就業とも密接に関連している（小杉 編 2005）。特に経済的に不安定性をはらむ非正規労働に従事する若者と家庭環境や親子関係とも切り離せない問題である。

当機構が1999年に行ったフリーター調査（日本労働研究機構 2000a）では、フリーターと家族の関係、とりわけ「親子の経済関係」および「親の教育方針・意見とフリーター」に着目した。その結果、若者のフリーターという選択と「親の教育方針・意見」の類型は四つ（「親の期待・過保護への反発、過保護による意思決定の困難、早期の経済的自立の促進、親の理解、親のアドバイス」）に分けられた。さらに、2000年に当機構が行った「進路決定を巡る高校生の意識と行動」に関する調査（日本労働研究機構 2000b）では、高卒者を対象にした調査ではあるものの、三つに類型化された家族・親の態度（「押し付け型、相談型、非関与型」）とフリーターを含めた高卒者の進路決定との関連性も示唆された。

以上を踏まえ、本章では、2020年調査に用いた家族との関係や影響に関する質問と口述を基に、フリーターの日常を巡る現状や将来展望を巡る家族からの支援や影響に着目する。

第2節 調査対象者と家族関係の概観

図表4-1は、2020年調査において得られた各事例からフリーターの現状（親の職業・親と

の同居／別居・経済的自立・奨学金の有無)を整理したものである。

図表 4-1 2020 年度調査におけるフリーターの現状

	親職業	同居／別居	経済的自立	奨学金の有無
A	父:会社員(定年後再雇用) 母:介護	別居	生活全般自立	なし
B	父:公務員 母:専業主婦	同居	生活全般依存	なし(高卒)
C	父:自営業(IT・PC) 母:自営業(IT・PC)	同居	生活全般依存	有り(両親・自己)
D	父:会社員 母:会社員	別居	生活全般自立	なし
E	父:自営業(飲食) 母:自営業(飲食)	同居	部分的負担	なし
F	父:会社員 母:会社員	同居	生活全般依存	なし
G	父:会社員 母:パート(英語教師)	同居	生活全般依存	有り(留学費用、 両親)
H	父:他界 母:飲食店	同居(祖父母)	生活全般依存	有り(自己)
I	父:回答なし 母:回答なし	同居	生活全般自立	
J	父:会社員 母:公務員	別居	生活全般自立	なし
K	父:会社員 母:臨時職員	同居	部分的負担	なし(高卒)
L	父:会社員(海外在住) 母:パート	同居	生活費全般自立	なし(高卒)
M	父:自営業(小売業) 母:派遣社員	同居	生活全般依存	なし
N	父:回答なし 母:会社員	同居(母のみ)	生活全般依存	なし
O	父:運送業 母:パート	同居(弟、祖父母、 両親)	部分的負担	有り(自己)
P	父:教員 母:専業主婦	同居(母親のみ)	部分的負担	なし
Q	父:会社員 母:会社員	同居	生活全般依存	なし
R	父:自営業(小売業) 母:放送局(正規・非正規不 明)	別居	生活全般自立 (パートナーの補助あ り)	有り(両親返済、 高校分は自己)
S	父:自営業 母:専業主婦	同居	部分的負担	有り(自己返済)
T	父:教員 母:卸売業	別居	生活全般自立	有り

まず、親との同居と経済的関係についてである。1999年調査においては、親と同居するフリーターのうち約半分(51.6%)が何らかの形で経済的な負担を負っているとされた。2020年度調査においては同居者のうち7ケースが全面的依存、6ケースが完全に自立している、同居者のうち食費代を入れる、一定のお金を入れるなど、経済的負担を負っている。ケースの数の少なさの故、直接的な比較は困難なものの、類似した比率が見られる。

他方、本調査では1999年調査において具体的に上げられることのなかったものの、2000年代初頭より利用者が急増している奨学金(大内2015)についての質問を行い、計7ケースにおいて奨学金の利用実績が見られた。また、そのうち5ケースが本人による部分的または全面的な返済を行っていると答えている。

次に図表4-2では、調査協力者と親との関係(親の態度と親子関係の類型)と調査で見られた親子関係の具体的な特徴をまとめている。

図表 4-2 2020 年度調査におけるフリーターと親との関係の特徴

	親の態度	親子関係	親子関係(サポート)の特徴
A	非関与	理解	・大学の学費を支援してもらう以外、理解してもらっている。 ・「家族を持ちなさい」、「孫を見たい」という意見あり。
B	非関与	理解	・フリーターであることを理解してもらい、生活費を負担してくれている。
C	相談	アドバイス	・病気についての理解と応援してもらっている。 ・大学選択、フリーター以降の進路についてアドバイス有り。
D	相談	理解	・ちょっとした相談はあるが、その他は特でない。
E	相談	理解	・両親が運営するお店で手伝いをさせてもらい、バイト代として英会話の月謝を出してもらっている。
F	相談	アドバイス	・実家での生活費を出してもらっている。 ・小さい頃に教えてもらった株取引が今後のキャリアプランに生かされている。
G	非関与	理解	・仕事を辞め大学院に進む進路を理解してくれている。
H	非関与		・祖父母に生活費を賄ってもらっている。
I	相談	アドバイス	・障害のことについて支援してもらっている。 ・商工会議所の講座を紹介してもらい受講。
J	相談	経済的自立促進	・留学の費用を負担してもらい、内定の辞退やフリーターであることを理解してもらっている。
K	押し付け	期待への反発	・父に「実家に帰りなさい」と繰り返し言われている。
L	押し付け	過保護による混乱	・経済的な面で東京生活を心配し、コロナの影響で地元に戻ることを勧められている。
M	相談	アドバイス	・内定先に「ブラックだから辞めなさい」と助言され、葛藤。 ・自閉症のことを理解し、サポートしてもらっている。 ・父のお店で仕事させてもらい、経験を積んでいる。
N	相談	アドバイス	・母親に生活費を賄ってもらっている。 ・議員を排出している家系の影響で将来政治家を目指している。
O	押し付け	期待への反発	・大学進学に否定的な意見を言われ、就職を勧められた。 ・病気で退職してから実家で療養できているが、いずれは実家を出たいと思っている。
P	非関与	理解	・進路選択について理解してもらっている。 ・同居中の母親にお金を渡している。
Q	非関与		・将来への希望やフリーターであることを理解してもらっている。 ・生活費を負担してもらっている。
R	非関与	理解	・大学進学までの進路は影響と支援を受けている。 ・その後の経済的支援はなく、母親と仲が良い方ではない。
S	相談	アドバイス	・留学の手続き、生活をサポートしてもらった。 ・親と同居中であるが、一定程度のお金を親に渡している。
T	相談	理解	・幼年期からパレエをさせてもらっている。 ・東京生活について理解してもらい、金銭的支援の意向も見せてくれている。

まず、親の態度についてである。2000 年の高卒者調査において用いられた家族（親）の態度を見ると、半数が「相談型」となっているが、「非関与型」も 7 ケースにおいて見られ、「押し付け型」は 3 ケース見られた。しかし、2020 年調査における対象が既に高校を卒業した 20 代であることを踏まえると、これらの類型、特に「押し付け」の少なさやその内容（地元に戻ってきてほしい：K さん、L さん／進学しないで就職してほしい：O さん）は大学進学を控える高卒者を対象とした 2000 年調査とは区分される必要があると考えられる。

また、進路選択を巡る親子関係については、1999 年調査報告書における「親の教育方針・意見とフリーターになったことが関係する」ケースは見られない。「反発」と分類した K さん（実家復帰を巡る）や O さん（進学・就職を巡る）は、親の意見の衝突が見られるものの、その衝突がフリーターになる直接的な契機とはなっていない。その意味で、1999 年調査における親の期待や過干渉への反発によってフリーターになったケースは 2020 年調査では見られていないといえることができる。

一方、本調査では「アドバイス」に区分されるケースが多い。1999 年調査報告書では、進路決定を巡る現実的なアドバイスが見られた No. 21 のケースが象徴的事例として取り上げら

れており、フリーターというキャリアに対する親の反応や親子の関係も否定的なケースが多かった。しかし、2020年調査では、高卒後の20代という年齢の特徴の故か進路選択を巡る現実的なアドバイスより、より間接的なアドバイスや紹介を行うケースなど、より肯定的で協力的な親子関係が見られ、より複雑な形での支援の様子が見受けられた。1999年調査においては、親の協力や支援が「アドバイス」に分類されていたものの、2020年調査で見受けられた多様かつ複雑な支援のあり方を踏まえると、フリーターという現状と将来に対する展望や計画と親（家族）との関係をより具体的に捉える必要があると言える。この点を踏まえ、次節では特に家族による支援に着目し、その様相を類型化した上で具体的な内容と特徴を整理する。

第3節 家族によるフリーターへの支援と類型

ここではまず、2020年調査で見られたフリーターに対する家族による支援（サポート）の類型について整理する。家族による支援の類型は、大きく1）同居や仕送りなどの物理的・金銭的サポート、2）キャリアや心身状態に対する理解と応援などの情緒的サポート、そして3）将来展望や具体的なキャリアプランについて明示的・暗示的アドバイスを与える文化的サポートに分けられる。

（1）物理的・金銭的サポート

第一に、親との同居や親による生活費・奨学金返済の負担が見られるケースにおける物理的・金銭的サポートである。特に収入の少なさや新型コロナウイルスの感染拡大による解雇やシフト減少、手当を伴わない休業を余儀なくされたケースなどにおいて、これらの物理的・金銭的サポートは大きな拠り所となっている。

Bさん・男性・29歳・高卒

初職であった大手自動車部品メーカーを退職し「一旦ちょっと実家のほうに戻って、それから探して」次の職業に就き、4度目の就職先に就くまで親と同居している。親は「別に何かゆっくり、そこは寛容で、ゆっくり探せば」と寛容的な態度であり、生活費の全般は親が負担している。自分のお小遣いは「自分で働いたお金で」賄っている。

Hさん・男性・23歳・専門学校中退

祖父母と同居中。父親は幼年期に他界し、母親とは別居している。新型コロナウイルスの感染拡大によって「コロナがひどくなってからは本当に、2月ぐらいまではあったんですけど、勤務の日が、もう3月入ってから6月まではゼロ」になった現在、「もうほとんど生活費とかも祖父母が賄ったりとかして」いる。

他方、新型コロナウイルスの感染拡大による解雇やシフト減少、手当を伴わない休業にもかかわらず、同居や仕送りなどの物理的・金銭的サポートを得られなかったケースも見られる。これらのケースでは、退職前の貯金を切り崩す、パートナーからの経済的支援を受ける、他の仕事を探し収入を補充するといった形で対応していた。

Dさん・男性・27歳・大卒

職場での人間関係と心理的理由で初職を退職し、しばらく気持ちを整理する時間を設けたが「もう気持ちがなくなってきた、就活に対する気持ちがなくなってきた、そこからただら過ごして、…2018年にもうお金がなくなってきた、次。何かしなきゃってなったんですけど、でも、臨床工学技士をやりたいわけじゃなかったんで、働くんだったらせっかく資格も取ったし。また病院に就職しようって思って、ちょっとまた就職に対するモチベーションみたいなちょっと上がったんだけど、見るときに限ってやっぱりないんですよ、自分にちょうどいい。でも、お金はないから待ってられないしってなって、ニートだった期間もちょうくちよく何かボランティアバイトみたいな。」

Jさん・男性・23歳・大卒

内定を辞退して大学を卒業した後、「1ヶ月途方に暮れましたね。しかもコロナウイルスだったんで、バイト先もあんまりなくなってたんで」「(アルバイトが決まって働き始めたのは)6月ですね。(4月、5月というのは収入なしですか。)はい、そうです。だんだん切り詰めていく感じがつらかったです、はい。」

Rさん・女性・24歳・大卒

パートナーからの経済的支援を受けながらスポーツ系のデータ会社でアルバイトをしていたが「コロナで一時期ちょっと、事務所自体を閉鎖したりとか、担当するスポーツ自体が無観客になってしまったというときもあったので、若干4月か5月あたりで、一回ちょっとできない、働けない時期あったんですけど。(データ会社からの休業手当等の補助は)特にはなかった」。データ会社で働くことができなかったため、一度辞めた「コールセンターのほうの日数をちょっとう、プラスとかできる、融通が利くようなコールセンターだったので、ちょっと日数を増やしてくださいというふうに言って、何とかスポーツの分析のほうに入っていた日数、日にちをコールセンターに変えてというところで、生活していました」。

(2) 情緒的サポート

第二に、フリーターであることに対する理解や応援といった情緒的サポートである。2020年調査において見られる鬱病や双極性障害などの精神障害を抱える場合、家族による理解や

応援、または許容的態度は物理的・金銭的サポートと同様非常に重要な支援となっていると考えられる。

Cさん・女性・25歳・大学中退

双極性障害により大学を休学し「そのときからまた〇〇に戻ってきて」「療養しながら、まあちょっとアルバイト」をこなしている。親には「すごく応援してくれてますね、それは本当にありがたいこと」という気持ちを抱いている。

現在の通勤も「体調悪いときは、親の送迎に頼ってしまう」時があるものの、「前々から口出しが全然なかった」親は将来について圧力をかけることもなく、現状への理解と将来への応援をしてもらっている。

Iさん・男性・27歳・大卒

大学3年の時に発達障害を抱えていることが判明した。「実は親も知っていたんですよ。こういうのがあったよというのを、小さい頃からあった」と伝えられ、受診を勧められた。就職活動をせず大学を卒業したことについても親は特に何も言うことはなかった。

Mさん・男性・27歳・大卒

自閉症の障害を抱えているが、親は「病気のこともやっぱり分かっていますし」相談の相手となってくれている。現在の状態についても「やっぱり自分が知的障害というのを分かっている人と分かってない人いるもんですから、正社員でと言う人もいますし、親はもう差し支えなく」接してくれている。

他方で、精神的障害を抱えているにもかかわらず、親からの情緒的なサポートが得られない、または親との不仲などによって心理的ストレスを受けるなどのケースも見られる。

Hさん・男性・23歳・専門学校中退

「専門学校に進む中で、自分、もともと心の、精神的なもの持ってまして、鬱的なもの」があり、21歳の頃に発達障害と診断された（障害者手帳所持）。進学した専門学校には「もともと、本当は、入る前は寮見学とか行ってたんですけれども、寮とか、学校が提携してるマンションとか見学行ったんですけど、やっぱり親に金がかかるから、通学にしときって言われ」片道約2時間の通学をしていた。「バイトもしながら、学校の勉強もしてって、自分、マルチタスクが苦手なのに、やっぱり結局、どっちもうまくできなくなって。体壊したんですけれど、学校はちょっと休んで、バイトちょっと専念しようと思ってバイトのほう行ったんですけど、そっちのほうで、今度はお客さんといろいろあって、心をまた壊しちゃって入院して、休学届出して、どうにか、それが1年の末やったんですけれども、

課題やったらどうにか進級できるよと言われて進級して、やっぱり2年なったはいいですけど、なかなか治らなくて、ちょっとは行ってたんですけど、また体調壊しちゃって、結局退学」することになった。

〇さん・女性・28歳・大卒

うつ病の発症により退職し、実家に戻るが「どっちかという、うち、実家が大人数なんですけど、そこで暮らさなきゃいけないほうがストレスに」になってしまう。現在は障害者年金と失業手当などで暮らしており、ハローワークの職員やハローワークと連携する障害者支援施設のスタッフと将来のキャリアについて相談している。「やっぱり私みたいな人が本当に今のこの時代って、すごくこの病気が多くて、私みたいに、どうしてもこの病気のせいで働けなくなって、もともと働けてた人が働けなくなって辞めてしまったという、何かパターンがすごい多いらしくて、そういう人をすごくたくさん扱っている人たちが私の相談に乗ってくれてるので、その人たちが一番話しやすいというか、これからのことを一緒に考えやすいし。どちらかという親は逆に自分と全然違う人生を歩んできているし、こういうことにもなってないから、あんまり何か相談相手にはならなくて。」

(3) 文化的サポート

第三に、前節で「アドバイス型」に分類した「文化的サポート」である。この文化的サポートは、直接仕事を紹介する、あるいは特定の進路展望の形成に大きな影響を与えるなどの形態と、日頃の家族生活の中で興味や特技・適性が育まれ、それが職業選択や展望に繋がる形態¹が挙げられる。

まず前者の場合である。例えばIさんは、初職の退職直前に商工会議所のIT講座に通い、ウェブ広告会社に再就職する。Iさんが商工会議所を知ったのは両親のリサーチによる紹介の故である。

Iさん・男性・27歳・大卒

「親に教えてもらえたんですよ、こういうの（商工会議所のIT講座）あるよって。昨年8月ですね。仕事をしながら、並行して始めました。半年ぐらい行きました。ほとんど毎日行きました、その会社の帰りだったりとか。1時間だけ受れたり。ITのマイナンバー導入だったりというので、日本でもIT化を進めていくということで、今どういう知識が逆に今あるのかなというのをその中で学ぶことができて、一方でエクセルとかワードに関してそういう使い方に関してすごく学べたりできたので、それも同時に覚えてい

¹ Sさん後述では「周りにいた中国出身の人」について具体的な言及が得られなかったが、もしそれが親である場合、Sさんも日常的な家族生活の中で外国語の習得し、その語学録画留学と現在の免税店での仕事にもつながっていることになる。

って。資格を取って、当時は就職しようと思ったんですよ。そのもくろみは、もうこのコロナによってちょっと大幅に瓦解してしましまして、だったらもう資格云々より、まず働こうというふうになっちゃって。だから、3月あたりまでは通っていましたよ。逆に運がよかったなって、テレワークできるところでまさか採用されてもらって、自分の手にあるお仕事で働けるといのは、今に至っては本当に幸せだなって。」

また発達障害を持っていたMさんの場合、内定を辞退したまま大学を卒業した後に専門学校で勉強した簿記を、父親が経営する店で活かし経験を積んだ。その経験が元となり、簿記や会計系の職業を主な進路とした。

Mさん・男性・27歳・大卒

「簿記の勉強しながら、資格を生かせるようなところにちょっと行こうかなというふうには思っていたんですけど、勉強してる頃にちょうど親の会社のほうは、父親がうちで仕事やっていたもんですから。そっちのほうにちょっと見習いも兼ねて、ちょうど、3年ぐらいですかね。東京とか大阪の就活もしながら。」「親の会社に入って、1年半経ってから、ちょっとよそで働く訓練を試みようかなという思いがやっぱり湧いてきて、それで、税務署のアルバイトに行って、その経験して、また結局、今度は就活を大阪中心に受けながら、親の会社に、また入って、ほぼ1年なんですけども。」

Nさんは、直接的なアドバイスや働きかけは無いものの、家系の職業（政治家）を継承するという方向性を意識した進学・就職経路を辿ってきており、調査時点でも税理士を目指し試験勉強とアルバイトを並行する日々を送っていた。

Nさん・男性・27歳・大卒

「家が議員の家系なんですね。」「何かずっとさっきからも言ってますけど、税理士になった後のことを考えたときに、結局自分のやりたいことが、それはもう大学時代から変わってないんですけど、やりたいことが一番トップであって、そのトップに対してどういうアプローチをできるかなというものが大手百貨店では無理だなというのを感じたので、でも、入ったときから、僕、でも、もう3年ぐらいかなというのは考えてたんで。」

他方、後者の場合は上述の前者と比べより間接的な影響を受けている。例えばCさんは、双極性障害により有名国立大学を中退し地元に戻る。休養とアルバイトを並行するCさんに、父親はデータ管理ソフトの利用とその方法を教える。それをきっかけとし、在宅勤務が比較的容易なIT業界の特性も相まって、Cさんは関連資格の取得を目指している。

Cさん・女性・25歳・大卒中退

「実は、父が自営業をしております、それが関係なんですけど、コンピューター、そうですね、IT関係なんで、それでファイルメーカーを使っている、それをやってみないかって言われたのと、それがすごく楽しいっていうのもあって。あと、IT関連だと、それができるようになると、何ですかね、よりさっき言った在宅での働き方っていうのも、より幅というか、そこにも融通が利くようになってくるかなっていうので、今、勉強しているような形ですね。」「父が昔からITの自営業をしているので、その関係で昔から、小さい頃からパソコンが身近にあって、それを操作するのは好きだったので。」「もし将来働けるようになった場合により強みにできたらっていうようなことはしています。ただ、それがいつになるんだろうっていうのは大きいです。」

Fさんは、薬剤師を目指し大学に進むものの、より適性にあう公認会計士を目指し大学を中退する。Fさんが抱いた公認会計士への関心は、株に興味のあった両親との経験（ジュニアNISAを教えてもらうなど）に触発されたものであると語られている。

Fさん・男性・21歳・大学中退

「もともと株とかそういうのに興味があったんです、中学とか高校の頃から。それで何かそういうので役立ったらいいなってことで簿記とかを始めてたら、勉強し始めたら、思ったより楽しかったりして、そしたら上位職を目指そうと」「両親が結構株とか、そういう金融関係の興味があって、それで結構一緒にジュニアNISAとかやらせてもらってたんですよ。それで興味が出たっていう感じですね。」

第4節 おわりに

以上、2020年に行った本調査では、1999年と2000年の調査で見られたような否定的な親の態度や非協力的な親子関係ではなく、許容的な態度や協力的な親子関係が多く見られた。家族に対する若者の「依存の長期化（宮本，2020）」が指摘される中、フリーターとなった子どもに対する親の支援の様相も多様化・複雑化している様相が見られた。

2020年調査では、不安定な雇用環境の中で新型コロナウイルスの感染拡大による影響が重なっている中、親から物理的または金銭的にサポートを受ける者（「親と同居する成人未婚者」）と、そうでない者の間には、基礎的生活の維持を巡る大きな差も見られた。とりわけ、若者が家族からの物理的・金銭的サポートが得られない状況にいる場合、退職や解雇、または仕事の停止による金銭的問題への対処が本人に委ねられ、不安定な労働状況にいる若者の経済的・社会的・そして精神的な孤立が懸念される。

特に2020年調査では、精神的問題が若者のキャリアパスと関わるケースが多く見られ、本章で類型化した3つの支援類型は、共に精神的問題を抱える若者の心身、そして将来的展望

にまで深く関わっていると考えられる。家族による支援は、精神的疾患についての理解と協力・応援といった情緒的サポートや同居による金銭的・身体的サポートもさることながら、うつ病や発達障害などを発見し受診を勧めるといったより物理的なサポートも含まれ、これら家族の支援が精神的状態と経済的状态の改善や維持に役立っている。

しかし、中には精神的疾患を抱えながらも、家族によるサポートが得られないケースがあり、精神的疾患を発見・理解できず、むしろ悪化させてしまう事例も見られる。そんな中、ハローワークやその他支援施設のスタッフが親の代わりに精神的問題や将来のキャリアについて相談相手となっているケース（Oさん）が見られたが、これは家族からの情緒的サポートが得られない状況にいる若者の就労と自立支援の観点から示唆的であると言える。

他方、2020年調査で見受けられた文化的サポートについてである。特に日頃の家族生活の中で育まれた興味や特技・適性が、フリーター以降の職業選択や展望に繋がるといった、「文化資本²」によるキャリア形成の側面が特徴的である。ただ、これらの文化的サポートまたは「文化資本」は、家庭の経済的・社会的属性に大きく委ねられるものであり、家族による文化的サポートによってフリーター以降の興味や特技・適性の新たな発見や形成が見られるのは限定的であると言わざるを得ない。その意味で、親が商工会議所のIT講座を紹介し、その受講を通じて新たなキャリア展望が開いたIさんのケースは、若者（フリーター）本人のみならず、その家族をも対象に含めた就労・自立支援という観点から示唆的であると言える。

以上、本章ではフリーターの現状や将来展望を巡る家族からの支援や影響について検討した。2000年代初頭以降、若者支援政策が「本格化（児美川，2010）」する以前である1999年と2000年調査と比べると、2020年調査では公的サポートが家族による私的なサポートの機能を補う事例（上述のOさんやIさん）が見られた。しかしながら、不安定な雇用の中にいる若者の経済的・精神的サポートや安定的職業への移行に向けた展望と具体的な取り組みは、依然として家族に大きく委ねられている事実も改めて確認できた。今後は、親や親族、またはパートナーなど、不安定な雇用または精神的問題を抱える若者の周囲にいる者が認知し利用できる公的サポートのさらなる推進と広報が求められる。

参考文献

宮本みち子，2020，「“失われた20年”で中期親子関係はどのように変わったのか」家族研究年報 第45巻，pp. 7-25.

山田昌弘，1999，『パラサイト・シングルの時代』ちくま新書。

谷口由希子，2020，「家族にまつわる不利と不平等」杉田真衣・谷口由希子編『大人になる・社会をつくる—若者の貧困と学校・労働・家族』明石書店。

Newman, S. K., 2012, The Accordion Family; Boomerang Kids, Anxious, Parents, and the

² フランスの社会学者ピエール・ブルデューの概念。貨幣資本とは異なり、知識や言語、態度、価値観によって構成される資本であり、親から子どもに伝達され、社会全体の階層再生産に寄与するとされる。

- Private Toll of Global Competition, Washington, D.C.: Bacon Press. (=荻原久美子・桑島薫訳, 2013, 『親元暮らしという戦略—アコーディオン・ファミリーの時代』岩波書店).
- 小杉礼子編, 2005, 『フリーターとニート』勁草書房。
- 日本労働研究機構, 2000a, 「フリーターの意識と実態—97人へのヒアリング結果より」調査研究報告書 No. 136.
- 日本労働研究機構, 2000b, 「高卒『フリーター』増加の実態と背景」調査研究報告書 No. 138.
- オホヨン, 2017, 「カンガルー族の実態分析と課題」韓国労働研究院パネルワーキングペーパー 2017年第7号(No. 7) (韓国語).
- 大内裕和, 2015, 「日本の奨学金問題」教育社会学研究 第96集, pp. 69-86.
- 児美川孝一郎, 2010, 「『若者自立・挑戦プラン』以降の若者支援策の動向と課題—キャリア教育政策を中心に」日本労働研究雑誌 2010年9月号 (No. 602), pp. 17-26.

ケース記録

Aさん

東京在住・26歳・男性・大卒

インタビュー実施日：2020年7月25日

インタビュー担当：堀

ノート担当：柳

東京に在住のAさんは現在26歳。地元広島から沖縄の国立大学に進学し、2017年卒業。卒業後お笑い芸人を目指して上京し、現在は学習塾事務のアルバイトと漫才活動を並行する生活をしている。緊急事態宣言と共に学習塾は休業となり、一定程度の補償と説明を受けるも、収入は半減。また現在のアルバイトでの人間関係にも悩まされ別のアルバイトを探すものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響によりアルバイト探しは難航している。

1. 学校時代と進路選択について

中学と高校では継続して野球部に所属していた。高校は地元の公立進学校に進学したが、野球部の活動を中心とした高校生活は成績に悪影響をもたらし、2年時から退部。そこから学業に取り組んだ。野球の傍ら、Aさんはお笑い芸人と先生になる夢を持ち、沖縄の国立大に進学した。

・中学生活と高校生活の序盤は、野球が中心だった。

(ああ、そうですか。結構本格的にやられたんですね。) そうですね、はい、ずっと。

(もう部活漬けみたいな感じだったんですか。) 部活で、はい。もうひたすら部活で。

(野球部ってすごく長い時間練習したりするじゃないですか。) はい、そうですね、もうずっと野球のこと以外をやってなかったですね、ほとんど、そうですね。(じゃあ、ずっと本当に野球にささげた青春みたいな。) そうですね。

・進学した高校は、地元でも学力上位の公立進学校であった。

(なるほど。中学校から高校に進学するときって、例えばどんな高校に行きたいとか、何かありましたか。) そうですね、地元が広島で、田舎のほうだったら、やっぱり公立高校のほうが学力が高いみたいな状態になります。…なので、もうとにかく公立、中でも学力が普通よりは上のほうの高校をというようなところででしたね、はい。

(じゃあ、高校は進学校っていう感じの学校に行かれた。) そうですね、ちょっと進学校といっても、どうなんですかね、偏差値でいったら60から65ぐらいの。まあそれぐらいの、地方国立大学をみんな目指すみたいな高校ですね。(大半が大学に進学される学校っていうことですね。) そうですね。

・高校入学後も部活動に専念するが、成績が悪化し2年時から退部。その後学業に励んだ。

(何か高校時代の成績ってどれぐらいだったかとか。)成績って、勉強のですね。…勉強の、そうですね、勉強はもう全然でしたね。(部活ばかりで。)もうそうですね、勉強が、野球でもう疲れ切って、家帰って寝るみたいなことやってると、数学が特に苦手だったもんですから、もうだから、高校の1年生の秋ぐらい以降は、もう定期試験、全部ほとんど毎回30点以下みたいな感じでしたね。

その後、結局、野球部引退してからもう物すごい勉強して、何とか琉球大学に行けたというような感じですね。

(野球部やって現役で合格するって、大変ですね。)そうですね、学校の成績はもう全然でしたね、とにかくもう。(そこでもう挽回して頑張った。)そうですね。

・幼年期からお笑い芸人と教師に憧れを持っていたAさんは、沖縄にある国立大学に進学した。沖縄も幼い頃から憧れが合った。

(何か沖縄に対する憧れがあって琉球大学に行かれたんですか。)そうですね、割と行きたいなっていう気持ちがあって行きましたね、そうですね。もうテレビとかで、動物とかが好きだったので、動物とか昆虫とかが子供の頃からずっと好きだったんで、それとかでテレビとかでよく沖縄にはこんな珍しいのがっていう話とかをテレビとかで見ていく中で、ああ、行ってみたいなっていうのは何となくあってはいましたね、はい。

(Aさんは、大学に行かれた時点から、最初から将来先生になりたいなっていうふうに思われて行かれたんですか。)そうですね、なりたいとは思ってはいましたね。お笑い芸人と先生、どちらもやりたいという気持ちがあってという感じですね。

(お笑い芸人を目指した理由っていうものは、どんな感じなんですか。)そうですね、もうやっぱり子供の頃からお笑い番組とか見て、なりたいっていうのもありましたし、あとは、そうですね、大学が〇〇学部っていうので、学校の先生になりたい気持ちもどこかにあったんですけど、中学校のときとかもお笑い芸人になりたいって話をいろいろなとこでしてて。…すると、学校の先生の中にも、いや、やりたかったみたいな、僕もやりたかったんだみたいな先生もいて。でも、その先生は結局そこに挑戦せずに学校の先生になって、そこで今、無責任といえますか、この子供たちがお笑い芸人になりたいんだったら挑戦しろみたいな、そんな軽く言ってるなという感じがしたので。ただ、自分だったら、一回お笑い、夢を追いかけて、失敗しても、その後先生になれば、あの先生よりもいい先生といえますか、責任を持って発言できるかなという部分でも後押しになったというところですね。

(大学時代から、そのお笑い芸人の活動って言っているのか分かんないんですけど、みたいな、オーディション受けたとか、そういうことをされてたんですか。)大学ではもうほとんどしてなかったんですけど、沖縄でもアマチュアのお笑い大会とかありました、そこには出たりとかはありましたね。(なるほど。アマチュアのお笑い大会に漫才、そのときは漫才で。)

そのときは、1人で漫談という形で。

- ・大学でのサークル活動について

割と、どうですかね、ちょっといろいろ入ったり辞めたりみたいな繰り返してはいたんですね、サークルとかだと。最初はジャズ研究会に興味を持って、ちょっと一時期入ってはいたんですけど、ちょっともう全くの素人に入って、誰も特に指導とかできる人もいない状態だったんで、ちょっとうまくいなくて、すぐ1年生の間に辞めちゃったような感じで、その後は友達づてで、何ですかね、捨て犬捨て猫とかの里親を探すサークルみたいなのにいった時期もありましたね。

- ・大学生活は、お酒と授業が中心であったが、学習塾での講師のアルバイトもしていた。

(何か大学時代はどんな生活だったんですか。) そうですね、アパートに一人暮らしをして、初めて一人暮らしして、生活としてはもう本当どうなんですかね、特に沖縄ってあるので、もう本当にお酒と大学との繰り返しみたいな感じでしたね。(アルバイトはされていた。) そうですね、アルバイトがその塾で、こっちは講師で働いてましたね。(ああ、本当。それは、相手は中学生。) 小・中学生向けの個別指導塾でしたね。(なるほど。これずっとされてたんですか。) そうですね、結局、卒業するまでずっといましたね。

2. 初職の就職活動

在学していた学部では多くが教員を目指す中、Aさんはお笑い芸人を目指すようになり、就職活動は一切しなかった。

- ・周りが就職活動を始める3年時に、Aさんはお笑い芸人を目指すことを決めた。

(就職活動は) 本当に一切してなかったですね。もうお笑いやるっていう、何となくお笑いもうやりたいというか、もうって感じですね。の中で、就職活動っていうのは全然やってなかったですね。

(大学何年生のときに、もうちょっとお笑いでやろうかなって思われた感じなんですか。) でも、どうなんですかね。タイミング的には、やっぱり周りが就活し始めるのが3年生ぐらいなので、それぐらいには、ちょっと自分は違うかなっていう感覚はありましたね。

(なるほど、3年生の後半ぐらいとか。) そうですね、みんながどこに行きたいとかいう話をし始めるときに、ちょっと全然自分の中で就職したい会社とか、業種みたいなのも特に思い浮かばなかったんで、これはもうお笑いしかないかなというふうに考えてですね、はい。

- ・幼い頃からお笑い芸人に憧れるAさんを見ていた両親も、特に反対はしなかった。

(ご両親は何かおっしゃったことってありましたか。)そうですね、両親は、どうなんですか。でも、お笑い芸人になりたいってこと自体は、小学生ぐらいから言ってはいたことではあるので。どこか諦めてるような雰囲気はありますね。

(ああ、やっぱりみたいな感じで。)ただ、やるにしても、もう何か親が言うのは物すごく、家族を持ってっていうのをすごい強く言う親なので、何か「このままだったら孫もできないぞ」みたいな、そういうことではちょっとちくりとは来ますね、仕事に関しては言わないけどもってというような。(家庭生活については希望をおっしゃるってことなんですね。)そうですね。

3. 学校を離れた時から今までの経歴について

大学卒業後、Aさんは一時的に地元に戻り、その後本格的にお笑い芸人を目指し上京。東京でアルバイトと漫才活動を送る生活を始める。

・同期と比べ半年遅れた2017年の9月に大学を卒業した後は、一時的に地元広島に戻り、一人旅にも出た。

(本格的に。先ほどのお話だと、4年生の9月に卒業をして、一回広島に戻られたっていう話でした。これは戻られて、そのときの……。ああ、そうか、いきなり東京じゃなくて、広島に戻られた理由って何かあるんですか。)そうですね、9月卒業っていうタイミングもまた微妙な、日本だと、9月卒業だと、もうやるのが全くないようなところですので、その中で、そうですね、一旦、本当に自由な時間なんで、沖縄からちょっと旅行を当分の間やりたいなっていう気持ちがありまして、結局、沖縄時代に買った原付バイクで、フェリーに乗って沖縄から九州行きますして、九州一周を1、2ヶ月ぐらいかけて回って、広島帰って、その後もまたちょっと四国遍路で2ヶ月ぐらい歩きますして、そういう、言わば旅行するための拠点として実家に帰ったようなところもありますね。

(それで、その原付で行って、何か行った先で泊まる場所を探す。)そうですね、これがもうやっぱりお金がないので、もう結局、全部旅するときは、台風が来たとき以外は、全部野宿をして生活してましたね。

(野宿って、野宿。まあ若者だから。じゃあ、すごいたくましくなりましたね。)そうですね。なので、もう今、お金がなくてぼろアパート住んでますけど、全然そのときの苦しみと比べたら、すごく恵まれてるなっていう感覚もありますね。

(2018年5月から6月に出でこられるに当たって、何かつてみたいなものがあった、そのまま出てきたんですか。)そうですね、つてみたいなのはほとんどなかったですけど、高校時代の野球部の同級生で、ちょっと浪人して大学入った人で東京の大学行った人がいたんで、その方のアパートにちょっと泊めてもらいながら部屋探しをしてっていうような。それ以外は特に人間関係でこっちに何かあるとか、そういうのは全然ないですね。(やっぱりお笑い芸人やるんだったら東京みたいな感じで。)そうですね。

・上京後、大学時代のアルバイト経験から慣れている学習塾でのアルバイトを始めた。

(アパートを探して、これと並行して塾のアルバイトを始められたんですか、今の。) はいそうですね。(じゃあ、アルバイトはずっと同じアルバイト。) そうですね、東京出てからは同じですね、ずっと。

(これは割と簡単に見つかったといったらあれなんですけど、スムーズに見つかっていったんですか。) でも、割と悩む期間は長かったですね、どこをやるかっていうところで。受けたのは、結局その塾だけしか受けてはなかったんですけど、でも、どういうのがシフトの融通が利きやすいかなとか。そうですね、最初そうだ、日雇いの、何ですかね、ありますよね、日雇いの派遣みたいな……。に、一応行ってはみたんですけど、ちょっとこれがもう、説明会会場からちょっともうブラック企業だなんていう感じがすごかったので、ちょっともう逃げるような形で戻ってきて、そうですね、あったので。(じゃあ、なれてる塾を受けていくかみたいな感じで。) はい。

・大学時代の友人とコンビを組み、アルバイトと並行して漫才活動(オーディション、ライブ)を続け、漫才協会に所属。しかし、お笑い芸人になるための道筋は不確実性が多く含まれる。

(お笑い芸人って、よく養成所に行ったりとかって聞くんですけども、Aさんは何か特にされたりとか。) ではなくて、私はもうぱっと来て、いろんなオーディションを受けてっていうような状態ですね。…今は大分減ってはいますけども、一部の事務所でやってる、所属のためのオーディションをやっているとこもありますんで、そこを受けてというような感じですね。(このお笑い芸人になるのに当たって、どういうふうになればいいかっていうことが事前に分かってたんですか。) これはもう誰も分からないですね、本当に。誰もが分からないまま東京に来てって感じですね。…何となくもう流れ流れて漫才協会に入ったみたいな感じになってますね。

(何かお笑い芸人になるに当たって、こうすればなれるっていうことってもちろんないと思うんですけど、何かこういうパターンが多いみたいなのって、何か素人からすると吉本に入るとか、そういうイメージがあるんですけど、やっぱり漫才だからちょっと違うの。) まあそういうわけでもなく、どの芸人も、やっぱり漫才だろうと何だろうと、今はもうやっぱりスクール入って、そこから芸能事務所に入る人がもう王道なので、そうですね。

(ライブは) 三、四個あって、ちょっとまた変なのが、私、漫才協会というのに所属しておりますして……。これが浅草の東洋館での寄席をやっているんで、これも入れると月10回ぐらいのライブ、ネタを披露する場所はあるという感じですね。

(結構ですね。その漫才協会っていうのは、この漫才協会に入ると寄席に出られるんですか。) そうですね。

(なるほど。その協会に入るにもオーディションみたいなものがある。) これに関してはちょっ

とまたややこしいんですけど、このオーディションを受けている段階で、そのオーディションの方が、ちょっと君たちはまだ一旦漫才協会ですら練習してきなさいというような感じで言われまして、じゃあ行きますというような形で。オーディションとかはなくても入れはすると、人間関係で入れはするみたいな感じですね。

(なるほど、なるほど。どうやってその人間関係ってつくっていったんですか。)そうですね。もうやっぱりオーディションで、同じオーディションを毎月受けてるので、そのときにもう何回も会って、その漫才のネタについて、その方と毎回お話しする時間があって、その中で関係性できていって、ちょっと一旦漫才協会行かないかというような話まで徐々に関係性ができていったということですね。

(漫才協会っていうのは、そのスクールみたいな感じなんですか、言ってみると。)これはもう、何なんですかね、広く芸人を集めてるっていうような団体といますか。やる気があれば。そうですね、何か漫才を普及というか、ずっと残していこうっていうような団体なので、正直、面白かろうが面白くなかろうが、入ろうと思えば入れるみたいなどころはあるような感じですね、漫才協会。

4. 現在のアルバイト生活について

上京後、現在まで学習塾での事務のアルバイトを続けている。

・学習塾でのアルバイトは、週3日。一日7時間程度である。

(具体的にはどんなお仕事なんですか。)そうですね、中学校受験の中でも個別指導をする塾なので、その。個別指導なんで、もう生徒さんが取りたい時間と取りたい教科を、もうほぼその都度連絡するような形なので、この時間空いてますかって電話が来て、ああ、空いてますで登録したりとかですね、また、新しく入塾したいっていう方の対応をしたり、また、教材が届いて、それを先生が使えるように準備しておくみたいなことですね。

(なるほど、日程調整したりとか、塾の準備の補助をしたりとか。)はい、そうですね。

・塾の講師ではなく事務を仕事としているのは、漫才活動を念頭においての選択である。

(Aさんは教えられるんですね、教員免許はお持ちなんですかね。)やろうと思えばできるんですけど、そこはやっぱり、もうお笑いやる上で、突然休みになったりするんで、それだとあんまり講師として働いても子供たちに申し訳ないかなっていう、毎回先生が替わるってのもよくないのかなっていうとこでね。

(じゃあ、今、働いていらっしゃるお仕事は、7時間15分を3日っていうのは、ある程度そのAさんの希望で曜日とか日とかが変えられるっていう感じ。)変えるのはちょっと難しいかもですね。休むことはまだできるけども、その分をどこかの別の曜日でっていうのはちょっと難しいですね。基本は固定と曜日の時間、固定のシフトなので。

(そうすると、オーディションって突然入るんですか。) そうです、これが、今受けているようなものだ、1ヶ月、どうですかね、1年単位で予定が出ているものを受けてるので、そこに関しては、早めの段階で言うておけば休めるということなんですね。あとはもう急遽で、お笑いのライブとかもありますんで、ライブは本当に急遽、あしたとか来週みたいな感じで入りますんで、そのときはちょっと急遽ですね。

(お休みしても大丈夫な感じ。) その教室がたまたまいい教室長でというところもありますね。(すごくフレキシブルに対応してくださって。) そうですね。

5. フリーターのイメージ

フリーターの利点として「すぐに辞められる」ことであり、正社員に対しては通勤や時間的拘束などを理由に「大変そうだ、よくできるな」と考えている。

・フリーターのメリットとデメリットについて

そうですね、フリーター。でも、やっぱり、すぐ辞めようと思えば辞めれるっていう状態が、そうですね、割とアルバイトだと、よくどの職場でも人間関係に悩むみたいなことを聞くんですけど、アルバイトやフリーターの場合だと、本当、ちょっと嫌であれば、もう長年勤めたことで給料変わるといっても正直ほとんどないので、もう何かこんな雰囲気だったら辞めますよっていうのがすぐ動けるのは、メリットではあるかと思いますね、はい。

(では逆に、デメリットみたいなものっていうのは。) そうですね、デメリットは、もう何といても給料が低いっていうのが。…アルバイトだと、東京だと1,013円が最低賃金で、これだと、仮に1,013円だと、フルタイムで働いたとしても、かなり切り詰めないといけないような、その中で自分みたいなお笑いもやりながらってなっちゃうと、もう本当ぎりぎりというか、もうほぼ赤字で生活するような感じになるので、そこはもうデメリットですね。

(正社員に対するイメージは) そうですね、すごい大変そうだなというのは思いますね。

(どの辺りが大変そうに感じますか。) 何といても8時間労働で週5日は働いてるといのがすごいなとは思いますが、見ていて。よっぽど好きな仕事じゃないと、通勤も時間かかって、休憩時間も入れると、もう10時間、11時間の拘束を毎日やってるっていうのは、もうよくできてるなというふうに感心するといいますか、ですね、思います。

(なるほど。ちなみに、Aさんは今のアルバイトでどのぐらい働いてらっしゃるんですか。) そうですね、1日7時間15分を週3回という感じですね。(じゃあ、結構長く働いてらっしゃるんですね。) まだ、そうですね。でも、まだ中でも塾なんで、まだ好きな仕事といえば好きな仕事なんで、ある程度長くても自分はこらえられるかなと。

6. 新型コロナウイルスの働き方に対する影響について

緊急事態宣言と同時に学習塾は一時休業。緊急事態宣言を受けアルバイト勤務の扱いに関する説明と補償は出たものの、収入は半減した。また、学習塾とは別のアルバイトも探しているものの、アルバイト探しにも悪影響が生じている。

- ・緊急事態宣言と共に塾は休業となったが、補償はあった。

(今のアルバイトは) 塾の中でも講師ではなくて、事務作業員として働いてまして。で、ちょっとコロナで塾ももう一旦閉めるということになりまして、緊急事態宣言ですね。それでちょっともう収入が、会社から補償は出るけども、もう半分よりもっと少ないぐらいの額になりまして、ちょっとそういう影響は出てるというような感じですね。

(塾からの説明は) 塾長というよりは、会社全体でアルバイトの扱い、こうしますっていう文章が出て……。 (なるほど、会社全体。そうしたら大きな塾なんですね。) そうですね、割と大きめの。

(現在は、じゃあ休業手当、今も休業手当が出ている最中なんですか。) 今はもう通常営業というか、そうですね、休業補償は一旦なくなってっていう状態ですね、今は。普通に、今は何とか、ある程度ちょっとシフトに入れてっていう感じですね。

(コロナによる変化は) そうですね、そんな大きく変わってはないですかね。…でも、そうですね、在宅でできることは何かないかなっていうふうなことは調べたりはしましたが、そうですね。

- ・別のアルバイトを探すも、なかなか見つからない。

今ちょっとそのコロナでシフト減って、特にちょっと、その緊急事態宣言出る前ぐらいにちょっと、ほかの教室、いつもふだん行ってる教室と別の教室のところでもちょっと働いてたんですけど、そこの人間関係ちょっと悪くなって、シフトを減らしてたんですね。そこから緊急事態宣言になって、もうちょっとここを辞めます、減らしますって言ったところから緊急事態宣言入っちゃって、新しくバイトを今、探そうとしてる段階ではあるんですけど。難しいですね。

(今はじゃあ、今、塾でアルバイト。あれ、今、塾でアルバイトしてるんですよね。) まだやっています、はいはい。で、ちょっと、これが週3の7.25…これを、ほぼ今までっていう感じですかね、何ていうんですかね、4月まではそれでやってたっていう感じですね。そのうちの1日、3分の1日は別の教室でやってたんですけど。…そこでちょっと人間関係悪くなりまして、ちょっとこの教室は行けませんってなって、収入は自分からも減らす段階にもうやってたようなところもあって、そこから緊急事態宣言に入って、バイトを今、その1日分を補うようなのをちょっと探してる段階なんんですけども。

…今、2件今まで応募しまして、この緊急事態宣言以後、2件応募して、ちょっと2件とも

落ちまして、その1個がスーパーのアルバイトを一回応募しまして、これはちょっと落ちまして。普通なんですかね、やりたかった理由としては、そのシフトの融通が利くというところで、そうですね、受けまして。もう一件は、バッティングセンターのアルバイトを受けまして、これはもう野球好きだったので受けたんですけど。…ちょっともう面接の段階で、もう今すごいっぱい、枠が少ない中にいっぱい応募者が殺到してるから、ちょっと難しいねみたいな感じになって、落ちたというようなですね。

7. 家族について

Aさんの家族は姉が二人いる三人兄弟。父親は大手通信会社に務め、定年退職後再雇用の形で働いており、母親は介護関係の仕事をしている。今後、Aさん自身の家族計画については今の所具体的な考えは持っていない。

(何か先ほどご両親から結婚はしたほうがいいっていうこと、みたいなことでしたけど、Aさんは、今後どうしたいとかいうことってあるんですか。)でも、そこまで結婚したいとか子供が欲しいって感覚は、今のところはないですね。…特にお笑いやってると、そういう普通の人の幸せはちょっと捨てて、夢を追うようなところもあると思うんで。

Bさん

神奈川県在住・29歳・男性・高卒

インタビュー実施日：2020年7月25日

インタビュー担当：堀

ノート担当：柳

神奈川県に在住のBさんは、高卒で北関東にある大手自動車メーカーの部品会社に就職。しかし、地元から離れた地域になじめず入社4年目に退職。以降、実家に戻り3度の転職（半導体関連：正社員、設計関連：正社員、自動車関連：契約社員）を経て、現在はアルバイトとして食品倉庫で勤務している。勤務先は新型コロナウイルスの感染拡大を受け、一時期大幅なシフト削減などが行われた。今は回復傾向にあるものの、通常通りとは言えない。

1. 学校時代と進路選択について

小学生の頃からものづくりが好きだったBさんは、地元の県立工業高校（電気科）に進学し、卒業と同時に大手自動車メーカーの部品会社に就職した。大学進学への意欲は当初よりなく、高校でのキャリア教育は特に受けていない。

・高校時代から大学進学を想定することはなく、高卒就職を考えていた。

下手に、学校のレベルが高くなかったんで、レベルの低い大学って言い方したらあれですけど、そのレベルの低い大学からだ就職ってすごい難しい。いわゆる学歴フィルターとかそういうのが世の中あるじゃないですか、今。それで、だから、工業高校から直接のほうが大手とか入りやすいっていうので、それで私はそっちを選択して、あと、ちょっと大学に行きたいと思わなかった、特に。

2. 初職の就職活動

Bさんの高卒就職は、リーマンショック以前ということも相まってスムーズであった。

・就職先は「選び放題」であり、Bさんは大手への就職を希望した。

（電気科なんですね。電気科だとたくさん求人が来るんじゃないかと思うんです。）ああ、そうですね、はい。

（Bさんはどうやって選ばれたんですか。）学校に求人票が来るんで、それで、私はその中で大手が……。…大手に行きたくて、それで自動車とかバイクが好きだったんで、その方面の会社を選んで、それで、大手自動車メーカー系の部品メーカーに入った感じですね。

（なるほど。そのときって、応募する前に企業見学みたいな行かれましたか。）ああ、あり

ましたね、はい。(そうなんですね。それ、そこの1社。) ああ、1社だけですね、はい。

(なるほど。今、9月16日が第1回目の試験だったんですけれども、Bさんは9月16日ぐらいに試験を受けられたんでしょうか。) ああ、ちょっとその、何だろう、日程とかはちょっと覚えてない。

(同じ学科の友達もそこから一緒に行かれたりとかしましたか。) 違う機械科の……。会社入った後に知ったんですけど、何か機械科のやつで、同じ会社に入ったっていうのは1人いました。全然知らなくて、私1人だと思ってたら、何か1人、機械科からいて、はい。

(ちなみに、工業高校で人気がある仕事だと希望が重なったりすることとかってあったりするって聞くんですけど、Bさんは特に希望、誰かと重なることなく、そのまま応募された感じ。) ああ、そうですね。時期がちょうどリーマン・ショックが起こる前で。よかった頃だったんで、すごい選び放題だったんですよ。それが幸いしたせいで、特にかぶったりとかなかった。(じゃあ、第1希望の企業に入社されたってことですね。) はい。

3. 学校を離れた時から今までの経歴について

高校卒業から現在のアルバイトに至るまで、Bさんは合計4度の就職を経験した。大手自動車メーカーの部品会社では、部品調達の仕事を任されたが、4年で退職した。

・最初についた業務は設計や開発等に関わるものではなかった。

(入って、どんなお仕事に、具体的にどんなお仕事されたんですか。) 何か本当は設計とか開発とか生産技術とかがよかったんですけど、何か結局、全然違う調達の部の資材調達に配属されて、それで3年間はエンジン系の部品の調達の部署で、最後の1年が企画系のところで、ほかの会社さん、ほかの自動車部品メーカーの部品とかをばらして、自社の製品と比較したりとか。新しい、何ていうんでしょう、調達部門なんで、基本的に自社の製品は安く仕上げるっていうのが基本なんで、その新しい部品とか素材とか探したりとか、それ、取引先を見つけたら、取引先を呼んでみて、商談してみたりとか、それを最後の1年間が企画の部署ではやりました。

・入社4年目に退職した理由は、地元を離れた地方での生活と社風であった。

(何かすごくやりがいのあるようなお仕事にお見受けするんですけれども、4年で辞めた原因って何かあったんですか。) 何ていうんでしょう、私にとっていろいろ何か、別に人間関係とか特に、いじめなんか、そういうのはなくて、やっぱり何か設計とか生産技術とかものづくりの現場に多分行きたかったってあって、でも、何か異動の願いを出しても通らなくて、それで、あと会社の何か体質とかカラーも合わないなと思って、それで、あと、やっぱり都会出身なんで何か地方……。住むと、何か結構、精神的にもいよいよ参ったりとかあれしていく。とりあえず、もう何か働いてるメリットはないなっていうような感じが個人的には、

働いてるメリット。

個人的に、私にとってはメリットがあんまないように感じたんで、まあ、いいやと思って、それで、特別何か年収が高いだとか、そういうわけでもなく、自分のやりたい仕事でもないし。会社のことが全然好きになれなかったし、あと、結構、会社の何か体質とかがちょっとおかしいなっていうのとかもいろいろ感じたり、そういうのが積み重なって、4年で。

・二度目の就職について（空白：7ヶ月）

（離職されて、すぐに別の仕事に就かれたんですか。）すぐにではないですけど、一旦ちょっと実家のほうに戻って、それから探して、次は中小ですけど、半導体の装置を。…ボディーとか溶接でつくる、本当の溶接の作業員になって、それはそれでやりがいがありましたね。

（そのお仕事は正社員。）あ、正社員です。

（正社員、なるほど。これはハローワークかどちらか。）ハローワークでした。

（そこでは何年ぐらいお勤めされたんですか。）11ヶ月です。（11ヶ月、ああ。何か思うような職場ではなかった感じ。）ううん、何ていうんでしょう、仕事はやりがいあったんですけど、ちょっと、何ていうんでしょう、何だろう、初めての中小だったんで、全然やっぱり大手と違うなっていう、そういう。

（それは、何か人間関係とかですか。）関係っていうか、何か、中小企業っていうのは結局、何か上の人の好き嫌いで全部……。のような感じで、それが嫌だなっていうふうに思って、それで、11ヶ月で。

・三度目の就職について（空白：2ヶ月）

（その後は、次のお仕事は何だったんですか。）次は設計。…設計会社に入ったんですけど、それは、入って、車のボディー関係の、何ていう、治具とかそういうのの部品とかの設計に就いたんですけど、それは本当に設計をやりたかったんで楽しかったんですけど、3ヶ月ぐらいでちょっと辞めざるを得なくなって、補助金を、何ていうんでしょう、国に文書偽造で申請して、それを着用してるのが発覚して、それで、私直属の上司の方が、そうだな、3名以上辞めたのか。それ、やばいじゃないですか。…それで、ちょっといられないなと思って、こういう。…設計は本当に楽しかったんで、ずっとやりたいと思ってたのに、そんな感じになっちゃって、結局3ヶ月で。

・4度目の就職について（空白：1年）

次は、（別の大手自動車メーカー）〇〇の系列の会社で、契約社員だったんですけど、それは、1年契約で、車の〇〇の工場でボディー関係の金型とかボディーとかの生産技術の仕事に就いた。1年ですね。1年、契約社員でちょっと働いて。

（設計と〇〇のお仕事の間は何か月間ですか。）それは、結構、それ、時間が空いちゃって、

最初、設計で、そのまた次も設計やりたいなと思って、何か設計は中途採用はもうやっぱ熟練の人しか中途採用やってくれないんで、ああ、駄目だなと思って、それで、2番目にやりたかった生産技術のほうに切り替えて、そしたら、たまたま設計でやってた仕事が車のボディ関係だったんで、そういう共通点があったっていうので、この〇〇の系列の会社のほうで拾ってもらって、それでもうそこで。3ヶ月間でしたけど、その経験が何か……。

(活きたんですね。) 認められて、拾ってもらって、契約社員でしたけど、1年間。

(じゃあ、やっぱり設計の会社から〇〇に入るまでは、その中ではいろいろな気持ちがあって、すぐに次の仕事ってわけにはいかない感じだった。)

ううん、何か、設計で探したけど。…全然なくて、それで設計の仕事はもう諦めて、それで違うのに行ったんです。

(そうですね、〇〇の仕事は楽しかったんですか。) ああ、まあ、普通、ああ、あれですね、〇〇自動車の敷地内にその会社があったんで、いろいろと生の〇〇自動車の社員の人、本当の社員の人はずいぶん優秀で、どなたも優秀で、英語とかもぺらぺらな人がいっぱいいて、わっ、すごいなって思って。

4. 現在のアルバイト生活について

現在Bさんは食品倉庫でアルバイトをしている。またその傍ら、株の取引にも副業として取り組んでいる。

・株取引は2018年から始めた。きっかけは北関東時代の友人からの勧めであった。

もともと、でも、株でもうけようと思って口座とかつくったんじゃないんで、ネットの口座をつくって、それが欲しくて、それでやったら、おまけで株の口座もつくれますっていうので、それで、じゃあ、おまけでついてくるならいいやっていって、それで、そこからスタートして、それで全然もうける気はなかったんですけど、何か、それで今に至って、今だったらもうかたりもしてるみたい。それで、今は、繰り返しになっちゃうんですけど、平日の午前午後の証券市場がやっているとそれを取引したりして、それで、その後に出社してみたいな感じなのが今ですね、すみません。

…知人に経営コンサルタントの方がいて、その人から人生経験としてやっといたほうがいいみたいアドバイスを受けて、ああ、そうなんだと思って、それもあって始めて、それで、ああ、面白いなっていうので、何でしょう、自分の推測とか分析とかが当たったりとか、あと運がいいときは何か突然もうかたりとかって、そういうようなラッキーなこともたまにあったり、それで、何ていうんでしょう、副業としていいなっていうふうに、あと、そうですね、今のアルバイトをしつつ、家でも、自宅で稼げてっていう、パソコンの前において稼げてっていうので、非常に、何ていうんでしょう、時間が無駄になんないっていうか、何ていうんでしょう、プラスになるんで、とにかく、それで、そんな感じですか。

・食品倉庫でのアルバイトは2019年の7月から始めた。通常、月曜日から金曜日まで週37時間程度（午後2時または4時から午後11時まで）の勤務。時給は神奈川県での最低賃金である1,011円。月収13万円程度である。このアルバイトは「タウンワーク」を利用して見つけた。

5. フリーターのイメージ

Bさんは、フリーターという自覚を持っている。フリーターのメリットは時間的制約の無さのみであると言うBさんだが、正社員に対しては責任が重く様々な制約が伴うというイメージを持つ。

・フリーターの自覚を持っており、正社員についても責任と制約が多いというイメージを持っている。

（Bさんは、今、アルバイトをしてるっていう、では、一般的にフリーターと呼ばれるのもあると思うんですけど、自分のことフリーターって思うことってありますか。）

ああ、ありますね。

（じゃあ、今、フリーターをしてていいことも悪いこともあると思うんですけど、いいことって何でしょうかね。）時間の融通が利く。ぐらいですかね。本当にそれだけですかね。

（悪いことって何ですか。）やっぱり時給制なんで、そういう今回のコロナとかがあると、給与とかの変動が激しいことと、あと、ボーナスもないことですか。正社員とは違って。

（うんうん、そうですね。Bさんは正社員の経験もおありになるんで、お感じになると思うんですけども、実際、ご自身が正社員として働いてた経験もあるわけですけど、正社員に対して、今はどういうイメージをお持ちですか。）責任が結構重い。のと、いろいろな制約が。

・今後の展望について

（なるほど。今はフリーターっていう形の働き方になってるんですけども、Bさんは何年後にこうしたいとかああしたいとか何かそういったご予定とかご希望ってあるんですか。）

いや、考えてはいるんですけど、全然何か特に、何かもう、何だろう、やりたいこととかそういうのもなくて、ただ今の日々が過ぎてるだけみたいな感じで、何か、あと、そうですね、夢とかもなくて、もう何か。そもそも大きな会社に入れば、それで一生安泰だろうと思って、それで学校卒業して、大きな会社に入ったけど、でも、それが全然違ってたっていうので、それで何かショック受けてっていうか、それよりも何か自由に生きられたらみたいな。とか、やりたいことをやりたいみたいなふうに思って、それで、はい。

（Bさんがやりたかったこと、設計っていうわけじゃないんですか。）設計とかやりたかったけど、結局、3ヶ月しか経験もないし、その程度の経験じゃあどこにも行けないみたいな

感じで、そういう何か、結局、何もかも中途半端な状態なんで、私の職歴だと、どこにも行きづらいなっていう、行けないんじゃないかって……。

(まだ若いので、十分、いろいろやり直す期間というのがあるようには思ったんですけど。

1回何かレールから外れると、修正が利きづらいのがこの日本の世の中、何か、はい。(何か生きづらい感じがしてるっていう感じなんですか。)はい。(Bさんは今、フリーターをしているわけです、フリーターみたいな形の働き方になってるわけですけど、それに対して周りの方が何か言ってこられることってありますか。)いや、特に。ないですかね。でも、自分としては、やっぱりいつまでもこんな状況じゃいけないなって思いつつです。思っちはいますけど、それをやっぱりどうにもできない、どうにもできづらい感じになっちゃって。

6. 新型コロナウイルスの働き方に対する影響について

新型コロナウイルスの感染拡大による影響を受け、食品倉庫のシフトが不規則になり、勤務時間も減少した。

・シフト変更、勤務時間の減少に伴い収入も3割程度減少した。

私とその仕分をしてるんですけど、取引先が大きい、会社、法人とか、あと学校法人なんで、コロナで休みになったり、あと自粛があったせいで、何ていうんでしょう、受注が大幅に減って、それで、私、アルバイトですんで、働く時間がかなり短くなってしまって、支給額が結構、コロナの前よりも、そうだな、3割とか。

約3割ぐらいは一番ひどいときで減ってきてて、今は徐々に、緊急事態宣言が解除されたりとかで徐々に仕事量は増えてきてるんですけど、それでもまだ去年のコロナの起こる前とかには全然戻ってない感じで。

・会社側の説明は最小限度にとどまり、手当はなかった。

(時間が減るときに会社のほうから何かご説明があったんですか。)いや、ただ、いや、説明、特にはないですね。ただ単に、このご時世なんで、ちょっと、何ていうか、「仕事量減ってるからよろしく」みたいな感じしかない。

(ああ、なるほど。じゃあ、減ったことに対しての何か手当みたいなものはない。)全然ないですね、はい。

・今後3ヶ月の見通しや考え方の変化について

ううん、分かんないですね。また第二波、第三波とか、それが読めないから世の中の的にやっぱり何か、ううん、何ていうんでしょうね、先が読めないんで、本当、何とも言えないですよ。(なるほど。ちょっとその辺り、不安を覚えられたりとか。)はい。

(今回、このコロナウイルスでいろんな影響を受けて、Bさんの仕事に対する考え方って、

何か変わったことってありましたか。) 仕事に対する考え方、ああ、何でしょうね。ううん、仕事に対する考えか。コロナに関して、ううん、今まで経験したことがないんで、ううん、やっぱり、何だろう、考え方、仕事に対する考え方、ううん、ああ、やっぱりあれですよ、会社は何か自分の健康管理をやっぱりプライベートで、会社終わって、帰って、休日とか、帰った後とかで感染しちゃって、それで会社を休んだりとか、それで感染した状態で会社に行っちゃって、周りに移したりとかいうことが起きたりとかしたらやばいなっていうふうに考えたりとかはします。

7. 家族について

家族は両親と弟（7歳下、大学院生）との4人家族で今も共に暮らしている。父親は公務員、母親は専業主婦である。現在の生活については、親は概ね受け入れている状況である。将来の結婚については全く考えていない。

(将来、結婚したいとか結婚の予定があるとか何かそういうことは。) いや、全然ちょっとそういうのは考えていないですね。自分のことで今、精いっぱいですし。…あと、異性にあんまり興味ないんで、何か。(そうなんですか。) かといって、同性愛者でもないですし。(ああ、いやいや、あんまりお付き合いするっていう感じじゃないっていう。) 全然興味なくて。(ああ、なるほど。じゃあ、今のところは考えてらっしゃらない。) はい。

Cさん

茨城県在住・25歳・女性・大学中退

インタビュー実施日：2020年7月25日

インタビュー担当：岩脇

ノート担当：柳

現在茨城県在住のCさんは、中学から成績が優秀であり、地元の進学校から難関国立大学の文系学部に進学した。充実した大学生活を送っていた中、体調を壊す日々が続き、入学2年目の2015年に休学することになった。一年後、復学を果たしたCさんだが、再び体調を壊し、約3年間に及ぶ二度目の休学（茨城で生活）の末に2020年3月、大学を退学した。退学後は、実家で通えるアルバイトを探し、2018年の12月から学習塾でのアルバイトをしている。学習塾は新型コロナウイルスの影響により、一時期休業となるも、現在は通常営業に戻った。Cさんは現在のアルバイトを続けながら、今後データベース作成や管理に関する資格の取得を目指している。

1. 学校時代と進路選択について

中学時代のCさんは、吹奏楽部に所属するも、「普通ではない、周りとは馴染みの悪い子ども」だった。この時期のCさんは、将来に対する夢は特に持っていなかったが「なんとなく大学は行くのかな」「なんとなく就職をして、何となく行くんだろうな」と考えていた。

・進学した高校と在学中に力を入れたこと、成績や部活、アルバイト、友人関係などについて

茨城の県立高（進学校）に進学したCさんは、「勉強が楽しかった」「特に何の苦労もなく勉強は分かってしまうほう」だった。高校の部活動は、茶道部に所属していたが、なにより専念したのは学業であり、「模擬試験とか受けると、上から何番目みたいなのが分かるので、それを上げるのが楽しかった」という。学校から自宅が遠かったため、学校の外で友人と遊ぶことはそれほどなく、アルバイトは学校で禁止されていた。

・進路選択やキャリア教育、インターンシップについて

進学校だったCさんの高校では、特別な職業体験やインターンシップはなく、大学進学に関する進路相談がある程度であった。

・卒業後の将来展望について

高校の友人と「(進学する)大学はどの辺だろうか」と話していたというCさんは、高校1

年時は、地元の国立大学への進学を考えていた。しかし、「もっと上を目指せるんだから、上を目指したほうがいいんじゃない」という母親の言葉（これが唯一の関与だった）を受け、難関国立大学を目指し、2013年現役で文系学部に合格した。

- ・大学時代の学校生活、サークルについて

Cさんの大学生活は、「サークル活動（民族舞踊）が楽しかったのと勉強」の2つの軸だった。特に1年と2年次の一般教養科目に興味を感じていた。

- ・大学時代に力を入れたことについて

大学生活の最中、Cさんは体調を崩すことが頻繁になり、入学から一年が経った2015年の4月に休学願を出すことになった。双極性障害とされたCさんの病気は、精神的症状だけでなく身体的な症状を伴い、大学生活は厳しかった。2016年、一年間の休学を経て復学するものの、その翌年である2017年の4月に再び休学し、茨城の実家に戻ったCさんは、最終的に学校に戻ることなく2020年の3月をもって大学を中退した。

- ・進路選択やキャリア教育、インターンシップについて

大学2年目から休学を繰り返していたCさんは大学の就職活動やキャリア教育とは「縁がなかった」という。

2. 初職の就職活動について

地元での休養生活により体調が回復したCさんは、2018年の夏からアルバイトを探すものの、「休学」という状態の故、アルバイト探しに苦戦した。結果的に退学と共に現在の学習塾でのアルバイト（講師）をすることになった。

- ・就職の経路について

（幾つぐらい検討されたんですか。最初に決めたところにもう応募して、採用されちゃった感じですか。）そうですね、最初に応募したところに、その前に、前段階として、夏ぐらいから取りあえず単発で働いてみようかなと思って応募したりもしていたんですが、基本東京になってしまうんですね、どうしても。まず、その休学していたわけなんですけれども、休学中は、今の雇用関係の法律だと、休学中の人は単発のアルバイトできないんですよ、実は、単発のアルバイトっていうか、派遣に登録できないんですね。なので、それで、11月に幾つか塾を検討、塾の講師がいいかなと思って検討して、今のところが一番通いやすかったんで、そこに応募して、受かって、今、働いているっていう形ですね。

- ・就職活動で重視した業種や職種、またその理由について

求職に関しては、体調の問題の故、フレキシブルな働き方が可能であること、また実家からの「通いやすさ」が最も大事な条件だった。それに教えることに興味を持っていたことも合わさって学習塾での講師を選んだ理由となった。「教えること」への興味は高校時代の経験が影響している。

やっぱり教育に興味があるっていうのは大きい。やっぱり教えること、高校のときに結構友達に教えることも多くて、そういうのがちょっと生かせたらいいなっていうふうに思ったのが大きいですね。

・奨学金について

Cさんは、大学在学中に日本学生支援機構の第一種および第二種の奨学金を貸与しており、現在も返済中である。第二種の奨学金は両親から返済してもらっており、第一種は月当たり約6万5千円の障害年金で、毎月2万7千円程度を返済している。

3. 現在のアルバイト生活について

Cさんは、学習塾で主に小学校5年生の児童の国語と算数を担当している。中には中学受験を目指す児童もいるものの、塾自体受験対策に特化したものではない。Cさんは、週3日程度(一コマ80分前後、週に4コマ)のペースを基本としている。給料は一コマ当たり1,640円であり、交通費は別途支給される。

・アルバイト生活をしている理由について

今の働き方、今の現状のアルバイトの状況でいうと、1コマ単位で選べるので、それがすごくありがたいですね。どうしても数時間ってなると、体調が悪いときにはすごくきつくなってくるので、1コマで1コマ、1コマぐらいだったらまだ働きやすくいられるので、それは本当に助かってます。

デメリットは、そうですね、その関係もあって、それと裏表なんですけれども、どうしても勤務時間を考えると、そこまで稼げるわけではないので、それはちょっとっていうふうには思います。ただ、そうですね、今、生活費を稼ぐためっていうよりは、将来もし働けるようになったときのためのスキルアップであるとか、そうですね、そういう意味合いが強いので、時給は高いにこしたことはないんですが、若干二の次っていうようなところはあるかなと思います。

・将来への見通しについて

(じゃあ、今後の将来のイメージとしては、こういうふうやっていけたらいいなみたいなのは何かありますか。) そうですね、一寸先が闇ですね。…いかんせんよくならないので、体が。そうですね、よくなったら働きたいなと思いつつ、よくならないなっていうのが現実

で、最近はというか、資格の勉強を、資格の、そうですね、勉強をちょっとしてみたりはしています。もし将来働けるようになった場合により強みにできたらっていうようなことはしています。ただ、それがいつになるんだろうっていうのは大きいです。

・ I T 関連の仕事についての将来展望

実は、父が自営業をしております、それが関係なんですけど、コンピューター、そうですね、I T 関係なんで、それでファイルメーカーを使っている、それをやってみないかって言われたのと、それがすごく楽しいっていうのもあって。あと、I T 関連だと、それができるようになると、何ですかね、よりさっき言った在宅での働き方っていうのも、より幅というか、そこにも融通が利くようになってくるかなっていうので、今、勉強しているような形ですね。

・ 現在の生活に対して周囲（友人・親・その他）の反応について

（そういったご両親の考え方に対して、Cさんはどんなお気持ちでいらっしゃるんでしょう。）
そうですね、それは本当にありがたいですね。どうしても自分にプレッシャーかけてしまうので、何で、みんな、そうですね、もう大学の同期の子とかはもうみんな、博士課程行った1人以外は、もう今はみんな働いてるので、もう後輩とかも含めて、ああ、何か自分、何してるんだろうみたいな気持ちにはなったりするんですが、そういう圧力がないので、本当に気持ち的に助かっています。

（中略）割と見た目、元気そうに見えると思うので、働きに行っていないみたいなものに対してどう思われてるんだろうっていうようなことであるとか、そうですね、私の病気自体が双極性障害、躁鬱病、もういわゆるメンタルの病気っていうふうにみなされるので、それをあんまり言いづらいみたいなのところはありますね。

…双極性障害っていうとメンタルの病気っていうふうにみんな思うというか、実際そうなんですけれども、でも、私の調子、すごい体に来てるので、体に来てるっていうことはあまり理解されないのに働いてないみたいな感じに思われてるんじゃないかっていうふうな気持ちはあります。

…ので、私もあんまり双極性障害っていう言葉は使いたくないなっていうふうに思います。もう自律神経失調症っていうのも、割とみんなそうじゃないみたいな感じもあるのかなと思っていて、自分のつらさっていうのが、体のつらさがうまく伝えられないもどかしさはあります。

・ 理想的な働き方について

もっと働きやすいっていうような形で言うのであれば、シフトが存在しないと、私は働きやすいですね。やっぱり体調は一定ではないので、ある程度フレキシブルな、例えば、1週間

単位で見て、あるいは1つのプロジェクト単位で見て、いつまでに、何時間であるとか、このタスクが終わってればいいよみたいな感じであると、やっぱりいいなって思います。

(なるほど、その時間の使い方とか仕事の進め方を自分に裁量権があれば、体調のいいときに頑張ってるっていうののメリハリが付けられるっていうことですかね。) そうですね。ちょっと現状どうしてもコンスタントというか、レギュラーというか、絶対にこの時間これだけ絶対に進むっていうことが前提じゃないと、どうしても仕事っていうのはうまく回らないと思うので、自分の不安定な体調だと働きづらいところが大きいので、それでもうまく働けるような環境ができてくると助かるなっていうふうに思います。

4. フリーターへのイメージについて

「自分をフリーターだと持っているか」について具体的な言及は見られないものの、Cさんは「雇われない働き方」については肯定的な認識を持っている。

・フリーターとしての働き方について

(正社員ではない) 働き方については、ほかの人がそれをしている場合に対しては、何かこういう、何ですか、それをできるだけ能力を持っているっていうのはすごいことだなと思いますね。特にフリーランスで働いてらっしゃる方っていうのは、それができるだけ能力をやっぱりお持ちっていうことだと思うので、それで食っていけるっていうのは本当に尊敬することだなと思います。それに対して自分ができることっていうのがやっぱりないので、自分がじゃあフリーランスでやっつけられるかって言われたときに、その自信はないですね。ないので、困っています。

・「正社員」としての働き方について

正社員の働き方ですか。そうですね、単純なイメージでいうと、やっぱり拘束時間が全然違うなというのは、それだけの責任っていうのが存在するわけなんですけれども。そうですね、一方で、安定した雇用っていうのはすごく羨ましいところではあります。と、それに伴う、やっぱりそのまま責任とか拘束時間に伴うだけの給料が保障されているっていうのは、やっぱり羨ましいですね。

(そういう何かおうちが自営業であることが、ご自身の働くことへの考え方に影響を与えたことって、何か感じられますか。) そうですね、そういうわけで、周りにいわゆるサラリーマンみたいな人がいなかったのも、そういうこともあって、あんまり正社員っていうものに対してぴんときないっていうのはあったかなと思います。

6. 新型コロナウイルスによる働き方への影響について

Cさんが務める学習塾は、2020年6月からは通常通りの対面授業を実施しているものの、

4月末からの約一ヶ月間は対面授業を取りやめ、オンライン授業を実施となり、講師であるCさんはオンライン授業に関するレクチャーを受講した。他方、オンライン授業の実施は、授業時間の短縮（80分から40分へ）となり、Cさん自身も体調を崩したため、給与は半減することになった。オンライン授業への以降について、塾側からはアプリの使用や授業方針について細かな説明があったものの、報酬の減少については特別な保証や支援はなかった。Cさんは、新型コロナウイルスによる今後（3ヶ月）について具体的な見通しは立っていないが、テレワークの普及については、自身の状況を照らし合わせると肯定的に考えることもできる側面があるが、その傍ら「人と接したい」という気持ちもあるという。

病気していて、主にすごい体調が悪くて動けないっていうようななんですけれども、それ、もしこのままテレワークの普及が広がるのであれば、家でも仕事ができるようになったら、もう少し働く糸口というか、働き方がもうちょっと広がってきて、自分が受けるチャンスが出てきたらいいなっていうふうには思いました。

通勤はやっぱきついですね、ないにこしたことはないなっていうふうには思います。でも、それは個人的な感じではあるんですけど、人とは接していきたい、オンラインではなくて、やっぱり人と一緒に、同じ場で活動はしたいっていうような気持ちはあるので、そこはちょっとアンビバレンツだなっていうふうには思います。

7. 家族について

Cさんには兄と姉がおり、二人とも既に独立しているため、現在Cさんは実家で両親と三人暮らしの状態である。IT関係の自営業を両親ともに営んでおり、Cさんの進路や現状について口出しは全然ない。

今後の結婚などについてCさんは、現在パートナーがいないこと、外部と関わりがない現在の生活、そして自身の体調を理由に特別な見通しや願望は持っていない。

Dさん

北海道在住・27歳・男性・大卒

インタビュー実施日：2020年7月29日

インタビュー担当：堀

ノート担当：柳

北海道に在住のDさんは現在27歳。大学で臨床工学技士の資格を取得し、北海道の総合病院に就職するも、と職場での人間関係に悩まされ退職。退職後しばらく休養し、派遣社員として清掃業の仕事を続けてきた。緊急事態宣言の時に派遣切りにあうも、派遣会社の直接雇用のアルバイトとなったが時給は減った。将来については臨床工学技士に戻りたいという気持ちはあるものの、模索中である。

1. 学校時代と進路選択について

友人と共に受験した高校に進学できず、道内の公立高校に進学。高校時代に祖母の手術をきっかけに臨床工学技士になることを目指し、道内の私立大学の医療系学部に進学した。大学での人間関係にはやや苦勞したものの、進路は当初よりはっきりしており、就職もスムーズにできた。

・高校受験に失敗し公立高校に進学した。

中学校のときは部活一生懸命やってたんですけど、高校に進学するってなったときに学力がちょっと足りなくて、行きたいというか、行きたい高校っていうのは、一緒に、仲よかったやつらと同じ高校に行けなかったんで。なので、そういう何か、勉強をやらなかったことによって自分の進路に限られるのは嫌だなと思って、高校からは行きたいところに行けるように勉強はしてました。

・高校を卒業した後、臨床工学技士になることを目指した。

部活動で体力とかは自信があったので、救急救命士っていう職業に最初就きたいと思って、いろいろ勉強したり、専門学校の見学行ったりとかやってたんですけど、祖母がちょっと心臓が悪くてペースメーカーというのを埋め込むことになって、ふとそのときに、医療関係でそういう何ていうんだろう、機械とかを扱う職業って何なんだろうと調べたときに、臨床工学技士っていう仕事があるんですけど、その仕事を知って、自分がもともと理系科目が得意だったっていうのがあったので、それも生かせるかなと思って、結局救急救命士にはならず、臨床工学技士っていう。

(高校での進路指導は)特に、臨床工学技士のためのっていうのは特にはないですね。ただ、

普通の大学に進学するための指導とかっていうのはもちろんありましたけど、そういうその、何ていうんだろう、専門的な、何のためにこういう勉強したほうがいいとかいう、そういうのは一切学校からは指示されてないです。

・臨床工学技士を目指し、道内の大学に進学した。

北海道の中で行ける、その資格を取るための学校ってなると、大学か専門学校になったんですけど、大学だと当時、今は何個かあるかも分かんないんですけど、ほとんどなかったんですけど、北海道の中に。その資格を取るための大学が道内にほとんどなくて。だから、もう何か必然的に、大学に行きたいってなったら。

(ちなみに北海道から出たくないっていう何か理由があるんですか。) 特にはないですけど、単純に、何だろうな、北海道にいたいだけですかね。帰りたいときに家に帰れるっていう感じですかね。本州とか行っちゃうと気軽に多分帰れないんで、月1とかで帰ろうと思っても帰れなかったりするとは思って、そういうのですかね。

・大学では当初スキーサークルにも参加したが、学業を優先するようになった。

スキーは、父親がスキーの昔講師とかやってて、家族で昔からスキーに、冬だけなんですけど、スキーに家族で行くこととかはあって、でスキーかバドミントン部か迷ったんですけど、バドミントン部ちょっとやる気なさ過ぎて、何か部活動紹介とかも特になく、何かやりたいときにやってますぐらいのあれだったんで、これだったらあんまり一生懸命やられなさそうだなと思って。で、スキー部は全国で有名なぐらい強いスキー部で。…1年生は一生懸命やったんですけど、1年生でやめて、お金もかかるんで、アルバイトしてなかったんで、親への負担とかもあれだと思ってスキー部はやめたんですけど、そっからはもう勉強で、大学生のときはそうですね。

・大学の授業スケジュールで忙しく、アルバイトなどはできなかった。

基本そうですね。大体、何か文系とかの大学だとだんだん学年が増すごとに授業が少なくなっていくって、何ていうんだろう、もうあと、卒論やるだけでいいからあんまり学校行かなくてもいいみたいになっていくんですけど、医療系学部は全然逆で、学年増すごとに何かもう授業がいっぱいになっていくって。

(アルバイトは) アルバイトも考えたんですけど、部活をやめてアルバイトも考えたんですけど、結局何か、部活やってて、本当勉強する時間ないなっていうのは思って、バイトも大事だとは思ったんですけど、何かバイトも結局始めたら始めたで勉強がちょっとおろそかになるなと思って、だったら、何か学年3番に入れば学費がちょっと免除されるみたいな制度が学校にあったんですけど、それに入れば実質アルバイトしなくても学費の負担は減らせると思って、勉強に専念してそれを目指しました、勉強に。

・大学でのグループワークで人と協力することの難しさを経験した。

ちょっと、いろいろあったんですけど、勉強の、筆記だけでできればいいわけじゃなくて全然、何か結構医療関係だからなのか分かんないんですけど、グループワークみたいなもの。だんだん学年が増すごとに増えていって、運が悪かったのか、学年、グループワークになる、自分で好きな人と組めるわけじゃなくて、もう勝手に学籍番号とかでグループ決められてたんですけど、周りの人たちが何か、何ていうんだろう、言い方悪いかもしれないですけどやる気ないっていうか、何となく入って大学に、何となく入って何となく卒業しようみたいな人たちが結構いて、グループ学習とかやるときも、実験やるときとかも、何ていうんだろう、事前に学習してこないとか、そういうので何かちょっといろいろ、僕自身が嫌になって、嫌になったっていうかもうやってられなくなったっていうか、真面目にやってんのにそういうところで足引っ張られるみたいなになって。

2. 初職の就職活動

大学時代から実習と職場体験をしていた。大学卒業前に国家資格を取得し、3年生の時に実習に行った病院から求人を受け、卒業と同時に就職した。

・大学1年の時からの実習がカリキュラムに組み込まれていた。

全学年、1年生からあったと思います、いろんな実習は。病院に直接行く実習とかは3年生からなんですけど、職場体験みたいなのは、実習は3年からだけど、何ていうんだろう、夏休みとか、そういう何か解剖をするとか、そういう実習みたいなのは1年からありました。

・就職活動は学校の進路相談室に来る求人を活用した。

専門学校は3年生のときに実習行って、国家試験そのまま受けて、受かったら就職って感じだと思います。…僕の場合は学校に、何ていうか、進路相談室みたいなのがあって、そこに求人の情報があったりとか。

(国家資格と就職については) おかしい話なんですけど、就職活動先にしてから国家試験受けるんですよ。なんで、だから国家試験落ちたら、結局就職受かってても落ちることになるんですけど。だから、そうだな、4年生ですね、就職活動したの。何月かちょっと覚えてないんですけど、4年生のときにしました。

・求職の基準は規模の大きい病院であること、また道内であることだった。

大きい病院がいいっていうのはあって、小さい病院だとやれる業務に限られる、結構臨床工学技士っていろんな、病院によるんですけど、幅広く結構業務に携わってて、病院によっては。なんで、大きい病院に行けばいろんなことできると思って、総合病院を探して、そのときもでもやっぱりあれですね、北海道から出たくないとは思ってたかもしれないです。でき

れば札幌、まず札幌に住んでるから、できれば札幌で、札幌駅目なら地元の。

・就職した職場は、大学での実習を行った病院だった。

北海道じゃなくても。結局、札幌で。(札幌でまず探したらあった。) 探して、札幌の、実習を行った病院が求人出してたんですよ。そこを受けたら受かったんで。だから、1回、一発で、一発しかやってないです。何社も受けたとかはやってないんですよ。

3. 学校を離れた時から今までの経歴について

入社から3年経った2018年、人間関係に苦しみ仕事を辞める。退職直後、貯金はあるものの精神的余裕は残っていない状況であったため、当分は気持ちを立て直すことに励んだ。その後、2019年の春から派遣社員として清掃の仕事を始めた。

・退職の理由はぎすぎすしている人間関係にあった。

(話せる範囲でいいんですが、離職した理由みたいなものって教えてもらえますか。 ああ、もう人間関係ですね。(人間関係。どんな感じの人間関係…。) ぎすぎすしてるパターンです。何か別に僕がはじめを受けたとかパワハラを受けたとか、そういう感じではなくて。…別にこの、医療職だからとか関係なく、どこの、何してても多分そう思ったとは思いますが、何か結構本当もう悪口が聞こえて、休憩中も誰かいない人の悪口が聞こえてくるとか、それが嫌だったんですよ、別に。何か仕事が忙しいから仕事が嫌いになったんじゃないで、それが嫌だったんで、別にこの仕事、何でこの仕事やってるか分かんなくなっただけ、この仕事が嫌になったわけではなかったんですよ。

(当時の状況は)何か多分、本当鬱になりかけたみたいな状態になって。だから、何だろう、あんま覚えてないですけど、辞めたいっていう気持ちは大きかったかもしれないです。何のためにこの職業になったのか分かんなくなっただけ。

・職場で感じた人間関係の問題は、大学時代の経験も関わっていた。

高校卒業のときは、勉強して行きたい学校に行けるってなって、夢もあって、何か一番モチベーションが高いというか、将来に対する感じでしたけど、結局さっき言ったとおり、大学入って何かもう真面目にやるのがばかばかしくなるし、何ていうかな、周りに足引っ張られるっていう意味で、一生懸命やっても何か、ちゃんとやってないやつらが結局何とかなるし、何ていえばいいんですかね、伝わるかな、真面目にやってる人が必ずしも成功するわけでもないし、100%頑張った分が返ってくるわけでもないし、でも真面目にやってないやつでも、何ていうんだろうな、真面目にやってないのに、ちょっと難しいですね、何が言いたいかわからなくて説明できないんですけど、とにかく何か頑張ることが無駄ってなっちゃったら、それから多分、もう無意識にすげえ真剣にやっても意味ないっていうか、あんまり

人生に対して、何ていうんだろう、すごい頑張っていこうみたいな気持ちがどんどん大学のと
きから薄れて、結局就職したときもすごいモチベーションがあったかと言われると、多
分国家試験も僕、受かんないと思ってたんですよね、そんな。それなりに自分で勉強したけ
ど、何かほかの人は結構グループでやろう、みんな勉強し合ったりしてやってる中、1人
でこつこつやってたんで、駄目かもしれないとは思ってたけど何か受かっちゃったんで、
まあ頑張るかって気持ちでやってたけど、就職してからも頑張っはいましたけど、自分な
りに、もう何ちゅうか、自分が弱いとは思うんですけど、何だろうな、生きることに対して
何か、仕事することに対してすごい一生懸命になろうって多分本心から、心から思ってな
いっていうか、だんだん自分で意識してないうちに何か当たり障りなく生きればいいみたい
な、常に 100%でいる必要ないみたいな感じになってると思うので、今言われたとおり、
大学とか大学卒業とか就職のときの、就職した後の働いてる間の影響っていうのは今もろに
出てるのかも分からないです。

…そういうところで何か、人とやるのが煩わしいっていうか、そんなつもりなかったのに。
自分と同じやる気の集まる集団では多分問題なくできるんですけど、そこにやる気が出てし
まった、やる気の差が出てしまうと、何か僕の協調性も欠けるというか、一緒にやりましょ
うって思えなくなってくるというか。仕事もやっぱりそうなんですけど、今やってて思うの
は、別に文句とか言うことはないんですけど、時給で決まってるから、100 の仕事をしよう
が 50 の仕事をしようが給料自体は同じ、時間が同じであれば変わらないわけじゃないです
か。それも、一生懸命やったところで、何ていうんだろう、一生懸命やって早く終わらせる
のよりも、すげえだらだらやって時間稼いだほうがお金もらえるって分かっちゃうと、真面
目に一生懸命こつこつやるのがばかばかしくなるっていうか、世の中そうなのは仕方
がないとは思うんですけど、そういうのがあるから、何ですかね、大学生の頃から、そうい
うのを何か思い知らされたのが大学生って感じかもしれないです。

・退職後はしばらく気持ちの整理のために休むことにした。

ちよっともう、本当それどころじゃなかったんで、次探そうとかじゃなかったんで、もう気
持ちが、いや、とにかく辞めようと思って。お金は一応、遊んだりは全然しなかったんで、
それも原因だとは思うんですけど、全然遊ばなかったんでお金はあったんで、今辞めてもあ
したからの生活に困ることはないと思って。

・休養生活が長くなると、就職への気持ちも薄れていった。

最初の1ヶ月、2ヶ月ぐらいはもう何か、遊ぼうっていうか、何も考えずにもうただただ日々
を過ごした感じで、そこからもう一回就活しなきゃなってなって、就活の求人サイトとかハ
ローワーク行ったりとか探してたんですけど、職种的な求人はいっぱい出てるんですけど、
何ていうんだろう、自分の行きたいような業務をやってる病院が全然なくて、求人出ない出

ないってなって、半年ぐらいたった頃にもう何か就活する気すらなくなってきて。

・その間、ボランティアバイトなどを経験し、派遣社員の仕事に就いた。

もう気持ちがなくなってきて、就活に対する気持ちがなくなってきて、そこからただただ過ごして、…2018年にもうお金がなくなってきて、次。何かしなきゃってなったんですけど、でも、臨床工学技士をやりたくないわけじゃなかったんで、働くんだったらせっかく資格も取ったし。また病院に就職しようって思って、ちょっとまた就職に対するモチベーションみたいなちょっと上がったんだけど、見るときに限ってやっぱりないんですよね、自分にちょうどいい。でも、お金はないから待ってられないしってなって、ニートだった期間もちょうちよく何かボランティアバイトみたいな。

よさこいとかの何かボランティアバイトみたいなのをやってたんですけど、それ基本ずっとニートで、就職活動もう一回やろうってなって、求人なくて、バイトしようと思って、普通のアルバイトとか派遣のバイトとかいろいろ調べて、アルバイトだとちょっと何か辞めづらかなと思って、派遣のバイトだったら多分期間が決まって、それで更新するかしないかだったんで、取りあえず派遣でバイトしようと思って、派遣でホテルの清掃のアルバイト、バイト、仕事をしてました。

4. 現在のアルバイト生活について

現在は、清掃業を続けているが、再び臨床工学技士として働くことには就職活動に向けた気持ち整理ができていない。

・現在は派遣先だった会社でアルバイトとして雇われている。時給は900円、週5日、月120時間程度の勤務である。今後、臨床工学技士の資格を活かした就職には気持ちの準備ができてない。今後のビジョンは描いていないが、ずっと今の状況が続けるのは良くないと考えている。

何なんですかね。やっぱりおっくうにはなってると思うんですけど。働くことっていうよりは就職活動自体におっくうになってる気はするんですけど。働きたくないからとかっていうわけにはいなくて。(ええ、そうですね、今後何か。)何か履歴書がとか面接がとかのほうで、そこがおっくうになってるのかもしれないです。

(この先、どうしたいみたいな感じの見通して何か持ってらっしゃいますか、何歳まで…)ないですね。とにかく就職はしたいとは思いますが、何歳までに結婚してとか、そういうもう未来のビジョンはないです。今が一生懸命みたいな感じです。…何か何がよくて何が嫌だとかそういうのはないですけど、でも、一生このままいくのは嫌だなんていうのは毎日思ってるかもしれないです。

・理想的な働き方としては、自分の資格を活かし、かつ志の合う人同士で働ける環境。

まあ、別にそれじゃなくても、臨床工学技士の仕事を、人間関係の煩わしさとかそういうのを感じずに働けるんだったら一番理想ではあるとは。やりたいことを仲間と高い志を持って。…もう何か仕事というよりは職場の環境なのかなって感じはするんですけど、自分で今。志高い人たちの中で働けば多分その悩みは消えると思うんですよ、違う別の問題が出てくるとは思うんですけど。志が高いゆえにちょっと意見の衝突があつたりとかっていうことはまた出てくるとは思うんですけど。

・今の清掃業にも、将来に向けた意味を込めている。

体動かさないなと思って。体動かす仕事したいってなったときに、かつ朝から、臨床工学技士の仕事も結構立ち仕事で夜勤もあつたりするんで、ずっと座ってるわけじゃないんで、就職するに当たってデスクワークに慣れてたら就職したときにきついなと思って、だから体動かして、かつ朝からできる仕事、夜とか夕方じゃなくてってなったら、どんぴしゃだったのがホテルの清掃だったんですよ。

(あっ、なるほど。正直なところ臨床工学技士と清掃って何の関係があるのって思ってたんですけど、あっ、何かつながってたんですよ。) そうですね、それでホテルの清掃になりました。

5. フリーターのイメージ

自分をフリーターだと認識しているが、不安定なイメージである。

・フリーターと正社員のイメージについて

(D さんご自身は自分のことフリーターと思ったことありますか。) フリーターだと思います。(フリーターにどういうイメージを持っていますか) 何か安定しないなっていうふうには思います。

(逆に正社員のイメージってどんな感じですか) 正社員は、まあ定額で結構こき使われる感じはあるけど、何ていうんだらう、会社が潰れない限りは、保険とかも込みで割と守られているというか、っていうイメージです。

6. 新型コロナウイルスの働き方に対する影響について

派遣契約の打ち切り、バイトとしての再雇用によって給料が減っている。今後3ヶ月の間にまた雇い止めになってもおかしくないと考えている。また、コロナの影響で臨床工学技士としての再就職を強く意識するようになっている。

(派遣社員を) 1年やってコロナだつって、ホテルのバイトだったんですけど、ホテルに

お客さんが来ないってなっちゃって。(そうですね、はい。) だから、仕事がないってなって、何か派遣でずっと雇ってもらってたんですけど、ホテルの派遣元の会社、派遣先の会社がホテルできないからちょっと違うところで仕事やんないって言って、給料とかは派遣先からもらえるんですけど、働く場所が変わって、ホテルじゃなくなって、何ていえばいいんだ、公的機関の庁舎の清掃を紹介されて、今年の2月の末かな、末ぐらいからそっちに行ったんですよね、ホテルじゃなくて。で、働いてたんですけど、2月の末から行って3月、今年の3月の末に急に派遣で雇えないみたいな、もう派遣全員切るみたいな話をされて、急に。3月の28とか多分、4月入る直前ぐらいに言われて、4月から派遣切るみたいなこといきなり言われて、いや、困る、困るんだよなってなったんですけど、慌てて違う全然関係ない派遣会社、あっ違う、最初にまず派遣会社に聞いたんです、派遣切られるって話も受けてないし、派遣会社から。で、何かそれ聞いたら、結局は仕事もないからもう紹介できないみたいな、雇ってもらってた派遣会社から言われて、慌てて違う派遣会社、全然関係ない職種の派遣会社とか登録したんですけど、仕事なくて、どうしようかなってなって、そこでまた、派遣でバイトしてた頃は何か、何だろう、お金もあったから、また就活の意識が薄れていってたんですよね、病院に就職する。今、派遣切るって言われて、まじでやばいってなって、また、そこからはいまだに結構毎日求人見るようになったんですけど、病院の。見るようになったんですけど、バイトもないし、就職先も、病院もないってなって困ってたら、頑張りを認められたのかちょっと分かんないんですけど、派遣先だった企業が、派遣としては雇えないけど、うちで直接パートとして働くんだったら雇うよみたいな。

・派遣契約の打ち切りについて派遣先からの説明はなく、手当などはなかった。紹介されたアルバイトもまた解雇されてもおかしくないと感じている。

(何か休業手当みたいなのか、何か何かしら説明みたいなものとか。) 一切ないです。ただただ「仕事がなくなった」だけです。

・今後3ヶ月についての見通しは不安定であり、「フリーターである自分が悪い」という考えも持っている。

いつまた、もう来月から仕事ないって言われても仕方ないっていうか、今はありますけど、結局今、清掃入ってるところが、何ていうんだろう、公的な場所だから、急に仕事なくなるっていうことはないと思うんですよ、誰もそこで仕事しなくなるっていうのは。そういう意味では割と安定してるのかもしれないですけど、結局困ってる人がいっぱいいるので、だから、もういっぱい、多分今、必要以上に雇ってはいると思うんですよ、会社が、今のパートしてる会社が。だから、いつ、何ていうの、人数減らすからあなたクビってなってもおかしくはないっていうか、びっくりはしない。で、別に何か1ヶ月先とか3ヶ月先大丈夫っていう確信はどこにもないし、でも、それも結局フリーターである自分が悪いんで、何ていうんだ

ろう、何か世の中に対して何でこういう世の中なんだとかっていう怒りもないです。

・コロナの影響で正規職の就職は大事だと強く思うようになっている。

(このコロナで。それでDさんの仕事とか将来に関する考え方って何か変化ありましたか。) コロナの影響ですか。やっぱり就職大事だになっていうのを思いました。

(今は病院の求人はあんまり探してらっしゃらない。) いや、見てます見てます。見てるんですけど、何か結構、本当1ヶ月半ぐらい前からもうぱたっと求人出なくなっちゃって、何でか分かんないんですけども。

(じゃあ、またもしかして元の仕事に転職を、技士に戻るかもしれないなっていうモードに今あるっていう。) 戻りたいっていう気持ちではあります。(戻りたいって気持ち。それがかつてなく強まってる感じ。) 強まってる感じです。

7. 家族について

Dさんの家族は弟(正社員、札幌居住)と両親の4人家族。大学に進学してからは一人暮らしである。両親は共に正社員として働いており、休養生活を送っていた時期に金銭的援助を受けていた。将来の家族形成については、願望はあるものの今の自分に精一杯である。

・将来の家族形成についての見通しはなく、今の自分で精一杯である。

(将来結婚したいとか、何かこう、何かそういうご予定なり、そういうお考えなりは。) ないです。(あまり、何か将来結婚したくないわけじゃないけど。) いや、そうですね。結婚したくないわけじゃないですけど、何だろう、結局だから今、自分にいっぱいいっぱいなんで、何ていうんだろう、恋人とかつくったとしても申し訳ないっていうんですかね。何かその人のことを大切にできないと思うんで、別に今恋人も欲しいと思ってないですし、結婚以前に。でも、何かやっぱり親孝行のために結婚はしたいなどは思います。自分の気持ちっていうよりは、何かそうですね。

Eさん

神奈川県在住・22歳・女性・大卒
インタビュー実施日：2020年7月30日
インタビュー担当：小杉
ノート担当：山口

Eさんは神奈川県在住で、現在22歳。音楽系の大学に進学し、当初は音楽療法士になりたいと考えていたが、ドイツへの短期留学をきっかけに、卒業後にドイツへ再留学することを決めた。コロナ禍の影響で、9月に予定していた渡独を延長し、現在は大学生の頃から続けている結婚式場でのアルバイトや、両親の仕事の手伝いをおこなっている。新型コロナの感染拡大について不安定な状況が続くなか、留学の時期を決められず、留学資金の工面にも不安を感じている。また、就職したほうがいいのかと考えることもあるが、留学中にやりたい仕事をみつけるつもりだったこともあり、どうすればいいのかわからず悩んでいる。

1. 学校時代と進路選択について

Eさんは幼い頃からピアノを続けており、音楽系の学部に進学した。大学入学時は音楽療法士になりたいと考えていたが、ドイツへの短期留学をきっかけに、卒業後にドイツへ再留学することを決めた。

・Eさんは幼い頃からピアノを続けており、将来は音楽関係に携わる仕事をしたいと考えていた。

（中学生の頃うちこんだことや将来の夢について）もうすごい小学校入る前からピアノを習ってたんですけど。その関係で中学校のときは吹奏楽部に入ってまして。なので、将来的には何かそういう音楽関係のお仕事に就きたいなっていうふうに考えていて。でも、そのときは何かまだ何かしたいっていう具体的な何かがあるわけではなくて、音楽関係に携わるお仕事をしたいと思っていました。

・中学卒業後は近くの高校に進学し、サッカー部のマネージャーを務めた。

（将来の夢と高校の選択との関係について）特に関係なかったですね。近いところを選んだっていう形です。・・・普通高校で通える範囲でっていうのが多分結構一番の決め手と、あと自分の学歴に合ってるところ、本当に無難な何か考えだっただんですけど、でも、高校通って結局結果的によかったの、判断としてはよかったかなとは思ってます。

（サッカー部のマネージャーを務めた理由について）ちょっと高校の吹奏楽部がそんなに強

豪校っていうわけではなくて。そんなに何か活発的に活動しているところじゃなかったの、ピアノのほうはもうずっと個人的に習い事として続けていたので、離れることはなかったんですけど、高校は何を思ったのか何か違うことをしてましたね。

(サッカー部のマネージャーの仕事について) 何か思ってたどおりなのか思ってたよりってうのか、意外に何かお休みもあんまりなくて、結構なんかそうですね、忙しかった。でも、それも何かすごい強豪校ってわけではないんですけど、でも、何か私が入学する年に先生、顧問の先生が変わったので、そっからちょっとすごい、今まではちょっと緩めな部活だったみたいですけど、何か結構強く、頑張ってたっていう感じ。

・高校は進学校で、Eさんの成績は全体の中ぐら이었다。友人は部活関係に偏ることなくいた。

部活に入っている子は学校全体の比率でいうと部活に入っている子のほうが多いんですけど、入ってない子もいて、何か友達の割合としてはそれなりに同じぐらいの比率っていう感じで、6：4とかそれぐらいの比率でしたね。

・高校3年生の12月から飲食店でアルバイトを始めたが、今考えるとあまりよい思い出ではない。

高校時代はほとんど部活動をしていたのでちょっと忙しく、部活のほうの方が忙しくてあんまりアルバイトはしてなかったんですけど、部活を引退してから12月ぐらいからちょっとアルバイトはするようになりました。

アルバイトは特には何か、それこそ初めてのアルバイトだったんですけど、何かあれも、ちょっと結構自分の性格がマイペースな部分がありまして、何か飲食店ってやっぱり波があるじゃないですか。ただ、何か波があって忙しいときの、すごい、ちょっとそのときは全然気づけなかったんですけど、すごい多分何か忙しいのがちょっと無意識なうちにストレスになったのか、何かその後は飲食店のアルバイトをすることはなかったですね。

・大学は、一般大学の音楽を学べる学部で、秋入試で進学した。進学した大学は、両親が経営するパン屋の従業員から紹介してもらって知った。

(高校卒業後の進路選択について) ずっとやっぱりそのとき高校のときも音楽の道に進みたいっていうのはあって、音楽大学に行こうと思ったんですけど、ちょっと実力的に何か無理かなって思って、何かやっぱり一般大学とか、あとお菓子を作るとかも好きだったので、何かそれでお菓子の専門学校とかもいろいろ考えたんですけど、知り合いで通ってた大学がいいよっていうふうに教えていただいて、何か一般大学なんですけど、音楽の音楽学部っていうのも入っている大学が近くにあったので、そちらにそれで何かそれが多分結構一番の決め手だったかもしれないですね。

(大学を紹介してくれた知人について)両親がやってるパン屋さんで働いてた従業員の方が、その方が音楽大学の方だったんですけど、その方に教えていただきました。

(進学した学部で学べることについて)楽器を何か特に専攻するとかっていうよりは座学がメインで、例えば音楽理論とか歴史とか、あと何かそういうコンピューター音楽とかすごい幅広いことを勉強できる学部。

・大学入学後は、ドイツ語の勉強に力を入れた。

(学生生活で力を入れたことについて)最初入ったときに語学は取らなきゃいけないっていうことで、でも、すごい英語が苦手だったんですけど、なんですけど、なので、すごい逃げたっていうか、英語から逃げたくて違う言語を学ぼうと思ってドイツ語、音楽にも関係しているのもあってドイツ語を選択して、せっかくやるなら頑張ろうっていうことで、コースがあるんですけど、何か週6でやるコースと週2回しかないっていうコースがあって、その週6のコースで頑張っていました、それかな。

・大学2年生の夏に参加したドイツへの短期留学をきっかけに、もう一度ドイツへ留学したいと考えるようになった。

大学2年生の夏休みのときに1ヶ月だけ短期留学研修みたいなのがあって、自由参加なんですけど、それに参加してみたいと思って参加したのをきっかけにドイツ、将来的、将来的にっていうか、いつかドイツ語の勉強でドイツに行きたいなって思って、何かそれもあるって、でも、いつ留学しようかっていうのもすごい悩んで、でも、やっぱり休学してとかっていうのも考えたんですけど、やっぱり卒業してからにしようと思って今に至るっていう感じなんですけど。

・大学入学時は音楽療法士になりたかったが、ドイツ語の勉強を優先させたため、音楽療法について、十分な勉強はできていない。

何か考えとしてはだんだん本当に大学2年生のときに留学してから徐々に変わっていったって感じで、もともとは大学に入ったときは音楽療法士になりたくって、〇〇大学(※Eさんの出身大学)も音楽療法の授業があるっていうことでちょっと勉強しようと思ってたんですけど。

(大学では、音楽療法士の)資格を取るまではやらないみたい。音楽療法とは何かみたいな、何か深くまでは授業ではやらないって言われて、入学のときに言われたんですけど。・・・ドイツ語を週6で取ろうって決めたときはまだ(音楽療法士の勉強を)やろうと思ってて、はい。けど、何かこう大学3年生のときに取ろうと思ってたんですけど、何か授業、ドイツ、もうそのときには3年のときにはドイツにすごい興味があったので、ドイツ語のほうを優先して取ってた関係でその授業が取れにくくなっちゃったっていう感じですね。

・大学3年生の5～6月に自分で留学エージェントを訪れ、ドイツへの留学について調べたうえで両親を説得した。その後、母親は適切な留学エージェントを探してくるなど、卒業後のドイツ留学に向けた準備に協力的だった。

(留学エージェントへの接触について) 就職活動する前からいろいろ見学に行っ、まずは親を説得しなきゃと思っ、何も言わずにいろいろ見学して、いろいろお話を聞いて、こうこうだから、こういうふう安全もあるからっていうふう教えてもらっ。

(両親にドイツ留学の意思をどう伝えたかについて) 何か親に対して何か照れくさいじゃないですけど、真正面から真面目な話をするのがちょっと照れくさくって、私がアルバイトへ行く日の朝に、朝か親が寝た後かなにかに手紙じゃないですけど、留学をまずしたい。それで留学するために必要なこととかそういういろいろ何かもう伝えたいことを紙に書いてリビングに置いておいて伝えて、朝、アルバイト行く途中の道中でお母さんに電話して、何か見てくれたみたいな感じで、あっ、見たよみたいな、ああ、いいじゃんみたいな。でも、その後から、それを話してからはいろいろちゃんと直接話すようにはできたんですけど、そうですね、何か伝え方が特殊なのかよく分からないんですけど。(自分のキャリアにかんする思いを) 初めて伝えたのはその手紙というか、紙で伝えたのが初めてです。・・・大学進学ときは何か特に自分の中の意思がそんなに強くなかったんで、何か進学できればいいやぐらいの気持ちだったんですね、そのときは。

それ(留学エージェントで聞いてきたこと)をもうそのまま話したら(両親は)納得してくれたので、そこからは、他にもいいエージェントがないかとかっていうのを探して、結局ドイツ留学を専門にしているエージェントがあったので、そちらでお話をさせていただいて。

(ドイツへの留学について、留学エージェントから)深く聞いたのは、それを見つけたのは実は私じゃなくて母がそれを見つけてくれたんですけど、それを見つけたのが結構後だったので、それが去年の4年生の春、夏入る前ぐらいに説明会みたいなのがあって。

・大学1年生から結婚式場のインフォメーションのアルバイトに従事していたが、卒業後の留学を決めてからは、アルバイト代を留学資金として貯めるようになった。

大学入って1年生の夏休みからもともとやってた飲食店をやめて、新しく結婚式場のアルバイトを始めて。・・・平日もお仕事としてはあるんですけど、何かちょっとやっぱ学校の時間とそのままかぶっているような時間帯だったので、行っても本当に1、2時間しかできないってくらいだったので、もう土日だけメインに入るって感じでした。

(アルバイト代の使い道について) 途中からなんですけど、決めてからはちょっとずつ月何万って決めて、もうこつこつ貯金をして、でも、やっぱ就職、やっぱ卒業したら就職っていうのがまだ一般的な流れがあるじゃないですか。母親的にも何かやっぱ卒業したら就職、そしたらやっぱおうちにお金入れたりするじゃないですか。それが無いのにこっちから払うのはどうなのみたいな感じで言われて、留学資金はいいけど、自分でちゃんと頑張っ貯

めてねっていうふうに言われて、もうほとんどそっちに充ててました。

(留学に必要な資金について) 何か一般的にどれぐらいかっていうのが見てたら何となく分かるんですけど、何か細かくやっぱ計算してたりとかすると、何か私が思ったのは半年が取りあえず語学留学としては半年で行きたいって思ってたので、最低でかかるお金が120万ぐらい、でもそこにプラスちょっと遊んだお金とかプラスアルファはあると思うんですけど、細かく計算していくと、あっ、それぐらいで行けるんだっていうふうには思いました。

2. 初職の就職活動

卒業後にドイツへ留学するため、就職活動はしなかった。大学はキャリアについて考える場を豊富に設けてくれており、また大学での授業のなかで進路を決めることができたので、大学選びには満足している。

・同級生は音楽関係だけでなく、幅広い分野で就職している。大学入学時は入試案内のパンフレットで卒業生の情報をみるぐらいで、進路について詳しく調べではなかった。

(同級生の卒業後の進路について) 結構やっぱり一般大学なので幅が広くって、何か音楽の先生になる方もいれば、あとホール関係、コンサート会場とか。そういう系の方もいれば全然違う銀行員とか、あと航空会社とか、そういうふうに何かもう本当に全然今は音楽と離れてますっていう方とかも結構幅広くいらっしゃいました。

(入学時に卒業後の進路をどうやって調べていたかについて) あっ、何かパンフレット、入試案内のパンフレットでちょっと見るぐらいだったんですけど。でも、すごい詳しくは調べなかったんですけど、でも、そのパンフレットでちょっと見るぐらいしてました。

・同級生が就職活動を始めても気にはならず、身内の反対に対しても、きちんと意思を伝えるようにしていた。

(周囲が就職活動を始めたことについて) ああ、でも何か留学したいっていう意思が多分思いのほか強かったのか、何か惑わされることはなかったですね。でも、やっぱり身内のほうが結構何かすごい言ってきて、何か祖母とか、いいのそれでとか、また行くのみたいになっていうふうにすごい言われて、でも、やっぱり何か自分の中で結構強く意思を持っていたので、行くんだよっていうふうに伝えて、結構大丈夫でしたね。

・大学はキャリアについて考える場を豊富に設けてくれていた。インターンシップでは海外に行くことも考えたが、実現しなかった。大学での授業のなかで進路を決めることができたこともあり、総じて大学選びには満足している。

(大学のキャリア教育について) 結構何か設けてくれて、学校側がそういうイベントっていうか卒業生と交流できる場も設けてもらいましたし、あと何かそういうエントリーシートの

書き方の講師の方を招いて講義をしてくれたりとか、そういうこともあって、結構何かそういうのは多かったほうだと思います。

インターンシップは行かなかったですね、何かあったんですけど、何か結構、私、結構ドイツに行ってから海外に興味を持ち始めて、海外のインターンシップに行きたいなっていうときもあったんですけど、ちょっと予定が合わなくて。・・・何か考えとしてはだんだん本当に大学2年生のときに留学してから徐々に変わっていったって感じで・・・留学をきっかけに結構国際もいいなって本当に徐々に思っていたって感じですかね。

(大学が用意する教育機会が進路選択に大きな影響を与えたことについて) そうですね、結構すごい入ってよかったなって思いました、〇〇大学を選んですごいよかったなっていうふうにはすごく思ってます。

・今後、音楽療法士など音楽関係の仕事に就くことは考えていない。

(今後、音楽療法士など音楽関係の仕事に就くことについて) もうないですね。今はそうですね、今は何かもう音楽の仕事は大学に入る前に比べてはすごいもう全然なくなっちゃって、もう何か趣味で聴いたりして楽しみたいなっていう。

3. 現在のアルバイト生活について

コロナ禍の影響で、9月に予定していた渡独を延長し、現在も目処がたっていない。現在は大学1年生の頃に始めた結婚式場でのアルバイトを続けており、加えて両親が経営するパン屋での手伝いも始めた。ドイツでは半年間の語学の勉強と、1年間のワーキングホリデーを予定している。その後やりたい仕事はたくさんあり、まずはドイツに行ってからじっくり考える予定である。

・コロナ禍の影響で、9月に予定していた渡独を延長し、現在も目処がたっていない。留学のための何か準備とかってというのが、行くって決めた半年前からの準備ってことなので、本当に9月に(渡独)しようと思っていたので、3月ぐらいから(留学エージェントに)行けばいいやと思ってたら、コロナが始まってしまったので。なかなか準備としては特に何かしてるっていうのは、今はないです。

(9月の渡独について) いや、もうそのつもりはなくて、延期するんですけど、何か一応1月になって思ってたんですけど、またちょっと増えてきて、あと半年しかないじゃないですか、今年も。なので、1月も無理かなとか思って、本当にもう毎日毎日変わっていったる気がするので、全然読めなくて。

・結婚式場でのアルバイトの時給は1,170円で、土曜と日曜の週2日、1日8～9時間働いている。仕事内容や人間関係には満足している。

土日の日は結構長いんですね。朝、極端なんですけど、全部本当に1日1人とかじゃなくて、1日だけで見ると朝7時半から長い日で10時半まであるんですけど、その中でシフトが組まれて、何かちょっと人がいないときとかは10時間、11時間とかなっちゃうんですけど、8時間、9時間とか休憩入れて8時間とか。

(結婚式場でのアルバイトは)結構多分自分に合ってるのかなと思ってできてますね、ここまで何か続くとは思ってなかったの。・・・結構皆さんいい人で、楽しくやらせてもらってます。

・朝は両親が経営するパン屋で手伝いをして、その後は家事をしたり、近くに住む祖母を訪れたりしている。

(パン屋での手伝いを始めた時期について)何か大学の頃はちょっと行ってなかったんですけど、高校のときは夜、お店が閉まってから片づけとかそういうお手伝いとかはしてました。

(現在のパン屋での手伝いについて)朝は5時にスタートで4時ぐらいに起きて、起きて行くって感じですかね。・・・そのお手伝いを朝は行って、帰ってきて何か母親が家にいる時間が少ないので、家事を代わりにやったりとか、あとはそれ以外はちょっとやっぱ暇になってしまうので、近くに祖母がいるので、そこで一人暮らしをしているので、行ったりとかということですね。何か個人的には何か中身の無い生活をしているなってすごい思うんですけど。

(パン屋での手伝いは)お小遣い制にしてもらってます。時給っていう形は取ってないんですけど、何か卒業して4月から行くまでの間、ドイツ語とは別に英会話を習おうと思ってたんです。それのお手伝いの代わりに学費っていうか月謝を出してって言うふうに言ってたんですけど、何かそれもちょうとやっぱコロナの影響でこの時期にわざわざ行かなくてもって思って、普通に何か一応お小遣いとして頂いてるって感じですね。

・ドイツ語の勉強は、動画配信サイトを利用するなどしておこなっている。

(ドイツ語の練習について)でもするようにしてます。ちょっとずつなんですけど、何か結構学生の頃から徹夜型の人間だったので、直前、何か迫ってないと何かやろうという気になれなかったんですけど、最近このままでいいのかなって思い始めて、結構お勉強はするようになっています。

(ドイツ語の練習方法について)今、私がやってるのは、普通にこういうドイツ語の検定のお勉強もそうなんですけど、あとユーチューブを見て。・・・ドイツ語のユーチューブアニメがあるんですけど、それを見てリスニングの練習をそれでしたりしています。

・ドイツでは語学学校に半年間通い、その後ワーキングホリデーを1年利用する予定である。留学とワーキングホリデーを終えた後にやりたい仕事はたくさんあり、まずはドイツに行っ

てからじっくり考える予定である。

長い目で見ると半年語学留学してプラス1年ワーキングホリデーで行こうというふうに考えています。なので、ビザが語学ビザとワーキングホリデービザと2つ使う形で考えてました。・・・何か語学、言語の知識の幅を広げたいというのが一番の目的であったので、まだ向こうで何かを勉強したいというのは、今のところは（決めていません）。

（留学とワーキングホリデーを終えた後のキャリアについて）もうすごい悩んでいるんですけど、ドイツでそのまま何かお仕事を探るか日本に帰ってきてお仕事を探さかかっていうところでまずすごい考えてるんですけど、日本でやるならっていう、日本で仕事を探さならっていうのも、その中でもやっぱりいろんなやりたいことがあって、何かドイツ専門のエージェントっていうのがやっぱり少ないので、そういう留学、自分がやっぱこれからなんですけど、するにあたってやっぱ一般的なエージェントだとドイツに特化したっていう情報が少なかったんですね。なので、何かそれがすごい気になって、何かそういう関係のお仕事をしたいなって思う部分もあったり、何か旅行、ドイツ留学をきっかけに旅行にもたくさん行くようになって、空港を利用する機会が増えて、そこで何かグランドスタッフに憧れるところもあったりとか、あと純粋にカメラが好きで、何かそういうお仕事をしたいなとかもすごい何か夢としてはいろいろあるんですけど、なので、本当に行ってみて考えようかなっていう感じで考えてます。

4. フリーターのイメージ

Eさん自身はやりたいことがあるため、フリーターと言われることに対して強い嫌悪感を抱いているわけではない。だが学生時代に思い描いていた将来像と現状とあいだにはズレが生じており、複雑な気持ちではある。

（自分がフリーターだと言われることについて）自分が学生時代にフリーターになると思ってなかったの、何かちょっと複雑な気持ちっていうか、一応今自分の中で今後やりたいことがあっての上でのフリーターなので、すごい嫌とかっていうわけではないんですけど、何か大学入る前とかに思い描いてた自分の将来像とは違ったので、そういう意味では何か複雑な気持ちっていうか、部分もあります。・・・あんまり（アンケートなどの）何かこう職業選択のときに、そういうチェックしなきゃいけないときとかは全然何も迷わずできるんですけど、自分からは（フリーターとは）確かに言わないかもしれない。

5. 新型コロナウイルスの働き方に対する影響について

緊急事態宣言中は結婚式場でのアルバイトの仕事がなくなり、アルバイト先から休業手当を受け取っていた。現在も見通しをたてづらい状況が続いており、留学資金を工面できるかにも不安を感じている。コロナ禍のなか、就職したほうがいいのかと考えることも

あるが、留学中にやりたい仕事をみつけるつもりだったこともあり、どうすればよいのかわからず悩んでいる。

・緊急事態宣言中は結婚式場でのアルバイトがなく、アルバイト先から休業手当を受け取っていた。当初はアルバイトの日数を増やし、渡独までに扶養の範囲ぎりぎりまで稼いで留学資金に充てるつもりだったが、現在は見通しをたてづらいつながりが続いており、不安を感じている。

(当初のアルバイトの予定について) コロナがもしなかった場合は、9月に留学に行く予定だったので、9月までだと何かちょっと微妙だなと思って、扶養内で働こうと思ってたんですよ。なので、当初の予定でもともと週2で、プラス入れるときに平日ちょっと入って扶養内で納まったらいいなっていうふうに考えてました。

(コロナ禍での結婚式場でのアルバイトについて) 一応、緊急事態宣言中はお休みっていう形だったんですね。3ヶ月ぐらい、6月末まではずっとお休みで・・・7月からちょっとずつ入ってほしいって言っていただいて入ってるんですけど、お休みの期間も休業手当を頂いてたので。なのですごく困ったっていうのはないんですけど、何か扶養の上限が103万じゃないですか。個人的にはやっぱりぎりぎりまでは貯めたいな、稼ぎたいなっていう気持ちはあって、貯金とかもしたいので、そのちょっとだけやっぱり休業手当が出るのは8月までで、でもやっぱり、ちゃんと働きに行けばそっちのほうがやっぱりお給料としてはもらえるんですけど、何か今の計算上だとこのままいくとちょっと足りないかもと思って、それはちょっと不安だったりします。

(コロナ禍の影響で) なかなか結婚式がないと人員は要らないっていう感じになっちゃうので、何か今増えつつあるので、その影響で結婚式が延期とか中止とかってなってしまうと、またお仕事が少なくなっちゃって、勤務時間も短くなればその分、時給なので給料も減っちゃうので、ちょっと何か不安はありますね、結構そういう意味で。

(他の仕事を探すつもりはない) ですね、いや、でも、留学を来年の9月にした場合は、ちょっと考えなくはないかなっていうのはあります。けど、今年いっぱいはこのままでやろうかなっていうふうに思ってます。

・留学の予定がたたなくなり、就職したほうがいいのかと考えることもある。留学を経験するなかでやりたい仕事をみつけるつもりだったので、コロナ禍のなかで、どうすればよいのかわからず悩んでいる。

(今もっとも不安を感じていることについて) 何か不安っていうのか分かんないんですけど、やっぱり私と同じ学年、周りの友達とかはみんな就職してお仕事してっていうことをしていて、コロナの状況でこうなってしまったっていうのもあるんですけど、何かこのままでいいのかなっていう気持ちはありますね。それでこんな状況なのでいつやっぱり行けるか分から

ないし、多分もうちょっとして落ち着いてきたら、旅行は駄目でもそういう何かビジネスじゃないですけど、お勉強として行くとかだったらいいってなったら行けるのかもしれないですけど、何かそれもいつになるか分からなくなって、何か就職したほうがいいのかっていうふうに考えることもあります。

(理想の働き方について) 今の状況は何かでも、全力でいって言えるかっていわれると、ちょっと悩んじゃうかなっていう感じはしますね。何かこれで留学に行けるのが大前提で、9月にもう行きますっていう状況だったら別に悪くないかなっていう気はするんですけど、やっぱり何かこの状況でこのままでいいのかなっていう気持ちがあるので、それは何かいいって言えるのかってやっぱりこう親に頼り切りの生活っていうのもあるので、それもすごく悩んだところもありますし。甘えられるうちに甘えといてもいいかなって気持ちもあるんですけど、何か全てを頼り過ぎてしまうのもやっぱどうなのかなっていう気持ちもあって、それもあって家事とかは結構よくお手伝いする。できるところだけはお手伝いするようにしてはいるんですけど、何かそうですね、働き方の理想としては、コロナじゃなければいいかなっていう感じかもしれないです。コロナって考えると、でも、やっぱりそういうのがあると、今新たに就職っていうのもちょっと難しくなってきたりするじゃないですか。それが何かどうしたらいいんだろうっていうの思いますね。就職してもやりたいことじゃないことを無理に就職するのも自分の思ってる形とはやっぱり違うので、もともとはやっぱ何かやりたいことを見つけるために留学するっていうのも一つの目的だったので、何かすごいそれはでもすごく悩んでることの一つかもしれない。

・就職していない友人もおり、自分で選んだ道なので、今は極端に不安にはならない。だが金銭感覚の違いが気になるなど、就職した友人との人間関係に少し変化を感じるようになっている。

(友人の卒業後の進路について) 仲いい人はもうみんな就職している子ばかりで、ちょっとだけ大学院に行ったりとかっていう友達はあるんですけど、やっぱりそれも一応学生っていう職業があるじゃないですか。すごい今はすごい密に連絡取ってるわけじゃないんですけど、大学のときにの友達とかでも就職、ちゃんとした就職という形を取っていないっていう人もたまにちらほらいるので、自分だけじゃないって思えばそんなにすごく何か嫌な気持ちっていうか不安なことはないし、自分でこの道を選んだので、後悔とかはないんですけど、何かこのまま続くようであれば、やっぱちょっと不安かなっていうのはあります。

(友人がEさんの現状についてどうみているのかについて) いいなって思われているとは思わないですかね。何かそこまで友達が多いわけではないんですけど、仲よくしてくれてる友達とかは、みんな私がやりたいこととかそういう気持ちとかは理解してくれてると勝手に思っているんですけど、何かでも、友達とご飯、ちょっと落ち着いたときに1回行ったんですけど、何か就職してやっぱお給料もらえる額がやっぱりアルバイトのときとは違ってくるじ

やないですか。それで私の中での不安は、私は貯金もしたいしバイトだからやっぱ収入もみんなと比べたら少ないしってところで、ご飯に行く先、行った場所が、何か私は極力安く済ませたいっていう気持ちがすごくあるんですけど、やっぱほかの人たちは絶対そうじゃないっていうか、別にすごく気にするわけではなくなったと思うんです、分かんないんですけど。何かある友達、1人の友達とご飯行ったときに、ちょっと悩みというか、そう思ってるってことを話したら、別に私はこのままでいいし社会人になったからって急に行きたい場所が変わるっていうわけではないから大丈夫だと思うよっていうふうに言ってくれて、何かそれはちょっと救いだっただっていうか、そういうふうに言ってくれたのはすごくうれしくて、何かやっぱ、そういう何か金銭感覚の差っていうか、多分私自身がすごいお金のことを気にしているからそう思ってるだけなのかもしれないんですけど、何かそこはちょっと気になっちゃうっていうか、何かこれはちょっと高いから嫌だなんていうのも申し訳ないっていうか、ちょっと学生の頃より言いづらくなってきたっていうのはあります。

6. 家族について

Eさんは大学生の弟を含む4人家族で、パン屋を経営する両親と暮らしている。パートナーはドイツでの短期留学で同級生だった香港出身者で、現在は哲学の勉強をしている。遠距離恋愛のなか、リモート等で話すときは、日本語を使ってコミュニケーションをとっている。結婚を含む将来について話すこともあるが、仕事の拠点とする国等は、Eさんの意思を尊重してくれている。

(パートナーとは) 日本語で話してるんですよ。何か向こうがすごい頭いいっていうか、何かすごいできる人というか、何か言語をお勉強、結構、何か国語もしゃべれる方で。・・・日本語はもともとすごいできるほうじゃなくて、私と知り合ってから何ていうんですか、話せるようになっていうか、最初はお互い何か英語で話してて、向こうはもともと英語できるんですけど、何か私が頑張って翻訳とか使って文面では英語で話すときは何か単語をつなぎ合わせながら頑張って話してたんですけど、何かすごい何か日本語みるみる上達していったので、私も何かこっちができるようになりたかったのに、すごいできちゃってるから困らないで生活できるようになっちゃって、何か上達の機会を逃したっていう。なので、日本語で今は問題なくしゃべってるっていう感じです。

(パートナーとは) 全く結婚とかの話をしなないわけではなくって、何かするときとかも別に日本で仕事したいならそれでいいんじゃないみたいな感じなので。

Fさん

東京都在住・21歳・男性・高卒

インタビュー実施日：2020年7月30日

インタビュー担当：小杉

ノート担当：山口

東京都在住のFさんは現在21歳。大学付属の中高一貫校を卒業後、薬剤師になるために他大学の薬学部に進学。だが株への興味から勉強していた簿記が楽しかったことと、大学1年時のインターンで公認会計士の存在を知ったことをきっかけに、公認会計士になりたいと考えるようになった。その後、大学3年時に公認会計士の短答式試験に合格したため、大学を中退。現在は大学1年時に始めた大手アパレル販売店でのアルバイトを続けながら、論文式試験に向けた準備をすすめている。新型コロナウイルスの働き方に対する影響について、アルバイト先では約2週間の休業期間があったのだが、休業補償にかんする会社の方針がなかなか決まらず、不安になった。

1. 学校時代と進路選択について

大学付属の中高一貫校を卒業後、医療系の仕事に就くことを志し、薬剤師になるために他大学の薬学部に進学した。だが株への興味から勉強していた簿記が楽しかったことと、大学1年の夏に製薬会社の管理会計部門でインターンを経験し、公認会計士の存在を知ったことをきっかけに、公認会計士になりたいと考えるようになった。その後、大学3年時に公認会計士の短答式試験に合格したため、大学4年に進級する前に大学を中退した。

・中学受験で大学付属の中高一貫校に進学。中学と高校ではバドミントン部に所属し、学園祭の実行委員を務めた。友人は部活関係が多く、現在も一緒にフットサルをするなど、関係は続いている。アルバイトは原則禁止されていたため、していない。

（中学受験をしたきっかけについて）周りから（の影響）が大きかったですね。特に自分的にはそんなに行こうとは思ってなかったですけど、周りがとにかく受験するっていう形になってたので、一緒に流れでっていう感じですね。

・中学生の頃から医療系の仕事に就くことを志し、薬剤師になるために他大学の薬学部を受験した。

（中学と高校の頃の将来の夢について）中学生の頃からずっと薬剤師になりたくて、中高のときは薬剤師になりたくて、結局、薬学部選択したんですけども・・・本当は医療系に行きたいという気持ちが強くて、ただ、医療系だと、自分の中の選択肢だと看護か医学部か薬学

部だったんで。看護って何かどちらかというと男性がいないっていうイメージが大きかったので、最終的に医学部はちょっと難しいかなと思って、薬学部にしましたね。

(医療系の魅力について) 人に接するっていうことと人を救うっていうことが大きいじゃないですか、医療系って。なので、そういうところがすごい憧れてて。

(身近の医療従事者からの影響について) いなかったのに医療系に行きたくなっちゃったんですよね。

・外部受験するために高校生の頃から勉強を始め、学校での成績はよいほうだった。

(中学と高校の頃の成績について) 普通に平均よりは上でしたね。ただ、大学附属校だったので、進学校ではなかったもので、そんなにみんな頑張るっていう感じではなくてですね。・・・なので、そんなに勉強を頑張るっていう人とほかの外部受験する人とかは頑張ったんですけど、それで結構2つ、二極化してた気がします。・・・自分は外部受験したので、普通にやってたほうなんですけど。ただ、中学の頃はそんなに勉強はしてなくて、高校から勉強し始めた感じで。

・中学や高校では、職場見学等の、職業を知るための機会は設けられていなかった。

職業を知るような機会は、いや、ないです。大学の卒業した人とか、OB、OGとかは来てくれたりして、その中で仕事の話とかはしてくれたことはあるんですけど、直接的に職場体験とかはなかったですね。

・大学入試では、一般入試で3校の薬学部を受験。3校とも合格し、Fさんは第一志望の大学に進学した。大学1年生の頃は授業が中心で、学園祭の実行委員も務めた。

(大学) 1年の頃は基本的に授業中心で、大学でも学園祭の実行委員をずっとやってて・・・それが中心ですね。2つが中心でした、ずっと。

・大学2年生になり、公認会計士になりたいと考え、勉強するようになった。きっかけは、株への興味から勉強していた簿記が楽しかったことと、大学1年の夏に製薬会社の管理会計部門でインターンを経験し、公認会計士の存在を知ったことである。

(公認会計士を目指すようになったきっかけについて) 大きく2つあって、1つ目がもともと株とかそういうのに興味があったんです、中学とか高校の頃から。それで何かそういうので役立ったらいいなってことで簿記とかを始めてたら、勉強し始めたら、思ったより楽しかったりして、そしたら上位職を目指そうということが1点と。あと大学1年のときに製薬会社にインターンに行ったんですよ。そのときに普通の薬剤師として行ったつもりが管理会計のほうに配属されてて、でも管理会計のほうって経理とかって意外と自分的にはすごい楽しくて、それで公認会計士っていう存在を知って、目指そうかなとは思いました。・・・薬剤師

が別に嫌なわけではないですね。

・両親が株に興味を持っていたことから、Fさんは両親と一緒にジュニアNISAを経験していた。なお両親は金融系の会社に勤めてはいない。

(Fさんが株に興味を持ったきっかけについて) 両親が結構株とか、そういう金融関係の興味があって、それで結構一緒にジュニアNISAとかやらせてもらってたんですよ。それで興味が出たっていう感じですね。

・大学1年の夏に参加したインターン先は、大学からの紹介で決めた。大学1年時からインターンに参加する人は珍しく、まだ1年生は薬学にかんする専門的な知識を身に付けていないために、インターン先では管理会計部門に配属された。

(薬学部でのインターンについて) 薬学部って6年間あるので、途中でモチベーションが切れないように、多分途中で入れることもあるみたいで。・・・1年で行く人のほうが珍しかったですね。上の、多分3年とかのほうが多かったような気がします。

(インターンに大学1年生から参加した理由について) 何かやれることはやってみたかったっていうことがずっとあったので。だったら1年間ずっといろんなことをやってみたいっていう。自分で言うのもなんですけど、意外と好奇心が強かったんですね。

(インターン先の選択について) 特に1年からインターン行くとすると、結構会社は限られてたので。なので、1年で行けるところを探したっていう感じですね、どちらかというと。・・・

(大学1年生は) あんまり知識ないので、教養部分だったので、1年の頃はそんなにやらないので。

(インターン先の会社とのその後の付き合いについて) いや、特に、それっきりですね、インターン先の会社とは。

・学園祭の実行委員を学生時代に務めてきたように、組織を回すことやみなでやるのが好きなことも、公認会計士の道を選んだ理由のひとつだと考えている。

そういうの(※学園祭の実行委員のように、組織を回すような仕事)がもともと好きだったっていうのもありますし。あとは自分の選択に影響してるか分からないですけど、多分みんなですることが好きなので、今の仕事も。(公認会計士の道を選んだことは)そういう延長ですね。

・両親には公認会計士への転換について相談したが、とくにもめることはなく、表向きは心配もされていない。

(公認会計士への転換について、両親に相談は) 一応してはいますけども、なかなか、あんまりそういうところに関しては、あんまり自分の選択に対して口を出してくれるっていうわ

けではないので。

(公認会計士への転換について、両親から) アドバイスはなかったですけど、やっぱり知ってはいたので。その辺は理解してくれたかなとは思いますがね。

(公認会計士試験の合格が狭き門であることについて、両親からは) 何かそんなに心配はされてはいなかったですね。実際どうか分かんないですけど。

・友人は公認会計士への転換について驚いていたが、在学中にキャリアの方針を変える人も一定数いるため、それほど珍しい存在ではない。Fさん自身が公認会計士へと転換することにかんして、とくに影響を受けた人や相談した人はいない。

(公認会計士への転換について、友人からは) すごいなとは言われました。やっぱりすごい180度方針転換してるので、そこら辺は言われましたけど。別にだからといって何か疎遠になったりとかはまだしてないですね。あと結構そういう人もいますので。たまに変わってる、変わってるっていうか、変わってる人とか結構いる大学ではあるので。・・・例えば資格を取ったのに全く民間の企業とか行っちゃうとか、使わないところに行っちゃう人とか、あとそれこそ自分のように資格を受けるからやめちゃうっていう人もいますね。

(公認会計士への転換について、とくに影響を受けた人や相談した人について) いや、特にそんな人はいなかったですけども。・・・自分の意思で結構決定しちゃうことがあるので、そのほうが多いですね。

・大学2年時に、簿記3級と2級の試験に合格。大学2年の3月から、公認会計士の資格取得に向けて、予備校に通い始めた。その後大学3年の12月に初めて公認会計士の短答式試験を受け、2月に合格がわかったため、2020年3月に大学を中退した。

いや、正直ちょっと大学やめようかすごい迷ってたんですけど、公認会計士の試験って前期、一次試験、短答と論文って2回あって、短答が受かった時点でやめようと思ってたので。・・・さすがに全くやめちゃうのはリスクがあると思ってたので、短答が受かった時点でずっとやめようとは思ってて、受かったのでやめたんですけど、若干不安はありました。というか、今も不安は若干ありますね。

2. 初職の就職活動

大学を中退したため、就職活動はしていない。

3. 現在のアルバイト生活について

現在は大学1年時の10月に始めた大手アパレル販売店でのアルバイトを続けながら、論文式試験に向けた準備をすすめている。公認会計士の資格取得後は独立するつもりはなく、最初に入った事務所で監査の仕事を担当したいと考えている。

・現在は大学1年時の10月に始めた大手アパレル販売店での勤務を続けている。大学生の頃は週2日（おもに週末）、1日4時間程度での勤務だったが、大学を中退した4月からは雇用区分を変更し、週4日、1日8時間の勤務に増やした。アルバイトを始めた当初の時給は1,100円程度で、現在の時給は1,200円である。

（現在のアルバイト先を選んだ理由について）もともと会社的には好きで、社風とかも好きだったので、そこにしました。・・・もともと好きだったのもありますし、友達が働いてたので一緒についていう感じです。

（医療関係のアルバイトをしなかった理由について）でも別に大学でしか（医療系では）働けなかったのも、別に医療系とかは就職すれば働けるので。・・・今できることをやろうみたいな、今しかできないことをやろうみたいな感じですね。

・アルバイト代は大学生の頃から予備校の学費に充て、貯金や投資にも回している。アルバイト代を予備校の学費に充てることについて、両親にはとくに相談しなかったが、自分で出したほうがよいと判断した。

（公認会計士の勉強とアルバイトを両立させている理由について）もともと予備校代を稼いだかったのがあったので、それ代とあとは全く勉強だけするっていうのもすごいリスクかなとは思っているので、何かしら働いていきたいなっていう感じはしたので、今そのまま続けてるって感じですね。

（アルバイト代を予備校の学費に充てることについて、両親には）特にはそこは（相談）してないですね。・・・一応方針を大幅に180度変えてるので。その辺は自分で出さなきゃ駄目かなとは思ってたので。

（アルバイト代の使い途について）あとは個人的に貯金とかもしてるので、その辺に入れてたり、あと株とかに投資とかに回してたりします。

・現在は論文式試験に向け、準備をすすめている。公認会計士の資格取得後は独立するつもりはなく、最初に入った事務所で監査の仕事を担当したいと考えている。

（公認会計士としての働き方について）自分的には独立はあんまりしたくなくて、ずっとそこ（※会計事務所）で働いていきたいと思っはいますね。・・・やっぱり監査っていうことに一番すごい憧れてはいるので。そうすると、やっぱり独立するよりはずっと最初に入ったところで働いたほうがいいのかなどは。

・公認会計士の資格の有無が仕事上は重要なため、自身の最終学歴が高校卒になることには不安を感じてない。ただし将来、大学で経営や経済の勉強をしたいと考えている。

（大学を中退したため、最終学歴が高校卒になることについて）大学は入り直しちゃうと4年かかっちゃうので、別に会計士って高卒でも大丈夫だったので。受ければ別に一緒じゃな

いですか、大卒でも高卒でも。なので、そこに関してはそんなに不安はなかったですね。

(将来的に大学で学び直すことについて) 全然まだまだ先ですけど、すごい、一回は大学、ほかの、時間に余裕があったら大学のほかの経営系とか経済系の勉強をしたいなと思ってるので。ずっと先ですけど、入り直したいなとは思いますがね。

4. フリーターのイメージ

自分の現状はフリーターなので、そう呼ばれることについて、とくに嫌だとは考えていない。現在のアルバイト先では多様な国籍の人が働いており、楽しさを感じている。アルバイトの人はさまざまなキャリアの志向を持っているが、会社自体が通過点としてのキャリアを積むことを重視しており、Fさんも働きやすさを感じている。

・自分の現状はフリーターなので、そう呼ばれることについて、とくに嫌だとは考えていない。

(自身がフリーターと呼ばれることについて) いや、別に今現状が別にフリーターなので、そこは別に嫌だっていうわけではないですね。

(自身がフリーターという枠組みにあてはまることについて) 全く構わないですね。

・現在のアルバイト先では多様な国籍の人が働いており、楽しさを感じている。アルバイトの人はさまざまなキャリアの志向を持っているが、会社自体が通過点としてのキャリアを積むことを重視しており、Fさんも働きやすさを感じている。

(現在のアルバイト先で働くフリーターについて) 夢を持ったっていうより、国籍が結構ばらばらで。いろんな国の人がいるので、その辺も楽しかったりしますし。あと社員の割合が多分3割ぐらいなんです。ほとんどアルバイトで回ってるような状態なので、その中にはいろんな人があるなっていう感じはしますね。・・・会社も何かそういうふう、そういうことを応援してるっていうか、そういうことを推奨はしてるので、長く勤めるキャリアではなくて、途中の通過点としてのキャリアを積むところに結構重視してる会社ではあるので。

(大学生の頃から現在のアルバイトを続けている理由について) 働きやすいところだからですね。

5. 新型コロナウイルスの働き方に対する影響について

アルバイト先では4月中旬から約2週間、休業になった。休業補償にかんする会社の方針がなかなか決まらず、不安になった。

(新型コロナウイルスの働き方に対する影響について) まず、2週間ぐらい休業したんです。やっぱり接客業なので、小売なので、休業すればそれだけ働けなくはなるので。何か会社も

方針が結構まちまちっていうか、結構ぶれてて、休業補償出す出さないに関して結構ぶれてたので、その辺はちょっと不安はありましたね。・・・(会社からの休業補償の説明が) 最初の頃なくて、5月に入ってやっと説明があったぐらいだったんで、会社としても全然何か決まっていなかったみたいで。

7. 家族について

Fさんの父親と母親はフルタイムの会社員で、大学生の妹が1人おり、Fさんは実家で暮らしている。将来は結婚したいと考えているが、いつしたいかはわからない。現在のパートナーとは、結婚の話はしていない。

Gさん

静岡在住・25歳・男性・大卒

インタビュー実施日：2020年7月30日

インタビュー担当：堀

ノート担当：柳

静岡に在住のGさんは現在25歳。難関私立大を卒業し、地元静岡のマスコミ系会社に就職した。卒業した大学の修士課程への進学を決心し入社3年目に退職。退職後実家で暮らしながら塾講師のアルバイトをしている。2020年4月、緊急事態宣言と共に学習塾はオンライン授業を行い、5月からは通常営業となっている。ただGさんは、2020年の9月に大学院入学を控えているので、新型コロナウイルスによる不安は特に感じておらず、今後は、修士号の取得とデータサイエンティストを目指している。

1. 学校時代と進路選択について

高校進学を巡っては県内の有名進学校を志望するも、内申点で合格できず、私立進学校に進学。高校ではキックボクシングの部活と学業に励んだ。祖父が医者であることから医学部への進学を試みるも、理科の成績が伴わず文系学部への進学に進路を決めた。

・県内トップクラスの公立進学校には内申点が足りず、私立の進学校に入学した。

静岡の地元はちょっと地方なんで、あんまりなかなか高校受験においても選択肢っていうものがあんまり多くないようで、静岡の環境としては、やっぱり首都圏と違って、公立高校が一強というような形ですので、基本的には地元のエリアのトップの県立高校を目指していたんですけども、あんまりちょっと、何でしょう、授業態度がよくなかったものですから、あんまり内申点がもらえなくて。

勉強は頑張ってたんですけど、あんまりちょっと先生から好かれなかったものから、なので、静岡って県立高校1個と私立を1個受けるっていうような形なんですけども、最初は私立の受験があるんですね。そこを受験したら、たまたまその高校、そこも進学校ではあるんですけども、特待生みたいな枠をもらえたものから、私立といえども、実質ほぼただぐらいな、数千円ぐらいの学費で行けちゃうような権利をもらえたものから、それはちょっと併願して県立高校受けちゃうと失効しちゃうんで、両親とも相談して、別に高校がゴールじゃないし、いつかなってということで、その私立高校に進学したっていうような形ですかね。

・高校受験の失敗は、高校時代に学業に励む原動力となった

(高校は) 基本的にはみんな大学に行くっていうような形で、そんなに実績がすごいいいわけじゃないですけど、進学校っていうようなくくりですかね。

(じゃあ、高校在学中は、すごく勉強を頑張ったっていう。) そうですね。自分自身もやっぱり高校受験失敗したわけじゃないですけど、やっぱり悔しい思いあったので、大学受験が一般であれば、ある意味、テストだけの勝負ですので、そこでやっぱり見返したいなみたいなところはあったので、個人的にはすごく頑張ったかなというふうには思ってますね。

(高校時代のアルバイトは) やってなかったですね。ちょっと高校自体がちっちゃかったもんですから、あんまり部活も少なかったもので、基本的には学校終われば学習塾行ってみたいな感じの生活だったかな。

・大学進学を巡っては医者であった祖父の影響で医学部を志すも、理科の成績が足りず、もともと興味があった経済関係の学部のある大学(首都圏)を目指した。
最初は、根本をたどれば、祖父が医者だったもんですから、理系に進もうかなと思ったんですけど、ちょっとあんまり理科ができなかったもので、じゃあ、文系に、とはいえ、数学とか結構好きだったので、文系でも数学は使うし、じゃあ、文系にしようっていう形でまず選んで、じゃあ、何、次選ぼうかなって考えたときに、最初、法学部に行きたいなと思ったんですよね。やっぱり法曹になりたいなあっていうのでなったんですけど、でも、やっぱりいろいろ勉強していく中で、何かもう少しやっぱり世の中のお金の動きとか、そっちのほうすごい興味を持ったので、正直、高校生なんで、そんなに毎日、新聞とかニュース見るわけじゃないんで、漠然としてますけど、あんまり僕はどっちかというところ、例えば政治とかっていうよりは経済のほうが好きそうだなっていうイメージがあったので、その中で、じゃあ、経済学部かなっていうところを主に、商学部とか経済とか、そっちのほうを大学時代、目指していたんですね。

・大学ではサークル活動と学業に取り組んだ生活を送った。特に統計学に興味をもつようになり、卒業論文にも大きく影響した。
結構田舎に育ったもんですから、そもそも都会がすごく初めてで、結構、何だ、謳歌しちゃったんですけど、力を入れていたことでいうと、遊びということに関しては、やっぱりサークルとかに入って、面接っぽくいえば、コミュニケーション能力を身につけたっていうところになるんですけど。

(ガクチカを語ると。) 何でしょう、悪くいえば、飲みほうけてみたい話になっちゃうんですけど、学問においては、結局、取っていく授業の中ですごい統計学が僕の中ではまりまして、いわゆる今風にいうと、データサイエンスになるんですかね。すごい面白いなっていうことに気づいて、で、ゼミには何年生からゼミに入ってもオーケーなところだったので、2年生から統計に関するゼミに入って、そこに3年間在籍をして、学問において力を入れた

ことっていえば、そのやっぱり統計とかデータ分析みたいなところの分野が、言うなれば、専攻になるのかなっていう。

・大学一年の時に読んだ統計学の本に大きく影響され、ゼミ選択にもつながった。
西内さんという東大の医学部の教授が書いたんですけど、これが多分ベストセラーになったんですよ。「統計学が最強の学問である」みたいな何か……。そこからちょっと統計がはやったんですよ。それを僕も読んで、何か、それは本なんで、面白おかしく書いてるんですけど、何でしょう、例えばさっき言った、例えば理不尽な世界とか僕が嫌いって言ったのは、やっぱり経験とか、何でしょう、長くいるからとか年長者だから、この人が正しいみたいなところを、このデータがあれば、僕みたいな新人でもそれを覆せるんじゃないかとかって思ったんですよ。いや、でも、データがこう言ってますよとか、あなたのその勘、間違ってますよとかってねじ伏せれるなって思って、これって面白そうだなって思ったんですよ。そこから多分興味を持ったっていうことでしたね。

(卒業論文では) データの取りやすさから選んじゃったところもあるんですけど、介護費とかの統計。介護費、介護給付費とか…の給付費とかのそういう統計分析をして、その地域差があるのかとか、今後どういうふうが増えていくのかみたいなとかを統計的にちょっと検証して、予測するみたいな、逆にこういう活動をする、統計的にこんぐらい1人当たりの値段を減らせますとか、そういうような検証をしたってというような、ざっくりとなんですけど、イメージですね。

・アルバイトは地元の学習塾で週一、二回程度こなしていた。奨学金は利用せず、両親からの経済的援助を受けていた。

アルバイトは、大学が自分の地元と近かったもんですから、ずっと中高通ってた塾にちょっと頼まれて、講師やってくれて言われてたので、そこにちょっと週一、二回ぐらいちょっと帰省して、そこで中学生とか高校生に授業をやるっていう。一番ずっとやってたバイトでいえば、塾講師になりますかね。

・大学時代には二回、短期留学を経験した。

(短期留学は) 2回行ったんですけど、学校で行ったのは2年生ぐらいのときだったんですけど、2年の冬ぐらいかな。大学のプログラムで韓国の大学に行くっていうのがあって、授業は英語なんですけど、それがたしか2週間ぐらいかな、行きましたね。もう1個は、最後、4年の夏に。…思い出づくりで、イタリアの下のマルタっていう国があるんですけど、そこで英語圏なんですよ。

2. 初職の就職活動

就職はデータを扱う職種とコミュニケーション関係の職種の間で悩み、後者を選択した。大学からの就職支援などはなく、同期の中には外資系コンサルティング会社やベンチャー企業に進む人も比較的多かった。

・大学卒業後の進路については、「論理的世界」と「非論理的世界」の間で迷った。

(就職は) 悩んだんですよ。1つは、やっぱりそういう、何でしょう、ロジカルな世界、要はデータのリサーチ会社とか、そういうコンサルティング会社とか、そういう今までやってきたことを生かせるところ、いわゆる右脳を使うようなところかなっていうのと、もう一つは、自分自身があんまり、何でしょう、ちょっと感情とか、何だろう、要は論理的じゃない世界がすごい苦手だったものですから、要は、例えば人付き合いでどうこうとか、そういうコミュニケーションの世界があんまり得意じゃないなっていうところがあったので、そっち……。

(何で得意じゃないっていう。) 何ていうか、論理的じゃないことがすごい嫌いなんで、何か例えばこの人が好きだからとか、この人がかわいそうだからとか、そういう感情であんまり動くことが自分、得意じゃなくて、やっぱり統計学とかやってるんで、やっぱり例えばそれをするによってメリットがあるかデメリットがあるかみたいな、何かそういう機械的な世界にはまっちゃってたもんですから、やっぱりコミュニケーションをもう少し自分が身につけるといいうか、ある意味、何でしょう、この社会が全部、じゃあ、理にかなって動いているかっていうと、そうじゃないんじゃない……。その非論理的な世界というか、何でしょう、自分の思いどおりにいかない世界もあるんじゃないかなって思ってて、そういうことが必要な世界を見てもありなんじゃないかなって思っていて、並行して、そういういわゆるマスコミ業界とか、ちょっと昔ながらなとこなんですけど、も受けてたんですね。で、結果的に、そういう、何でしょう、データ系の会社から内定もいただいたりしたんですけど、じゃあ、どっちにしようかなと思って、結局、静岡の、何でしょう、マスコミ関係の会社があって、そこに内定をいただいて、じゃあ、そっちに行ってみようかなっていうことで、一応卒業後の就職先としては、今、関係ないんですけど、一応そっちのほうに進んだっていうようなところですかね。

・やや放任主義的な学風の故、大学によるキャリア教育などはあまり活用しなかった。

(大学のスタンスは) 基本的に、おまえら、勝手にやれってスタンスなんですよ。というか、自分が卒業して言うのも何ですけど、あんまり困る人が多分いないんですよ。なので、ほかの大学においては、やっぱり例えば学事とかキャリア支援課がすごく力を入れるっていうところも一つのセールスポイントに多分なると思うんですけど、大学として。だけど、(私が卒業した大学) っていうのは、おまえら、その看板しよってたら、別にあとはおまえらの努

力次第だろうっていうところなので、当然学内で最低限のキャリアセミナーとかは行われますけども、そこに要は必ず出ろみたいな強制力もないですし、基本的には自由にやりますし、（私が卒業した学部）のさらなる特徴として、勝手に会社やってる人もいますし、インターンなんかも勝手にどんどんコネとか事務局で見つけてやっちゃうんで、あんまり学校によるサポートっていうのは強くはないと思いますね。

・就職活動は、3年の夏から始まっていた。

（ちなみに、この静岡の会社に就職するために、いつぐらいから就活されてた感じですか。）僕のと違っていうのは今と一緒に、3月解禁、で、6月面接スタートだったんですよね。その前の夏に基本、インターンっていうのが始まるもんですから、基本的にそこでやっぱりいろいろとESとかウェブテストとかの訓練をするっていうのが僕らにとっては普通だったので、それでいうと、始まりは大学3年の夏ぐらいからなんじゃないですかね。

（なるほど。ぼちぼちいろんな外資系あたりから就活始まると思いますけど、何か年明けぐらいから。）そうですね。自分は外資は狙ってなかったんで、外資狙う人間は冬が勝負だと思うんですけども、僕だと、やっと12月、1月ぐらいから練習で面接を受け始めるみたいな、その採用のですけどね。

3. 学校を離れた時から今までの経歴について

入社からちょうど3年経った2020年の春、「もっと実力をつけたい」「もっと勉強したい」という思いで大学院進学を決心し退職。2020年の9月から卒業した大学の修士課程に進学することとなった。

・仕事の内容は主に営業であったが、この経験から「非論理的世界」に自分は向いていないと自覚した。

僕は営業回りの仕事だったので、いわゆるああいう新聞記事を書くとか、テレビのカメラを回すとかではなかったんですね。何でしょう、簡単にいえば、例えば、何個か部署は行ったんですけど、例えば一つ分かりやすいのでいうと、営業職で、いわゆるテレビCMに関する広告会社との作業ですよ。とか、新聞広告も一緒なんですけど、そういう広告会社さんとのやり取りとか、直接当然クライアントさんとの仕事がありますけども、そういう広告に関するお仕事がまず一つですね。で、もう一ついた部署では、ちょっとキャリア関連の仕事をしていたので、いた会社として、例えば、何でしょう、転職イベントとか、就職、新卒の就職イベント……。

僕はもう営業志望だったので、先ほど申し上げた広告会社とのやり取りとかクライアントとのやり取りっていうところを、さっきの要はコミュニケーションとか理不尽なところを鍛えたいっていうところがあったので、そこが第一志望でしたね。

(なるほど。ちなみに、理不尽なところは鍛えられましたか。) いや、やっぱり向いてないなって思いました。…話題にもなるようなところって、やっぱりもうごりごりなんですよ、すごい。何か、何でそんな初対面の僕にそんな強気で来れるんだろうみたいな、すごくちょっと僕は無理ですみたいな、そういうやっぱり向いてないなって痛感しました。

・退職の理由は自らのスキルアップと統計学への関心があった。

多分この後の話にもつながるかもしれないんですけども、自分自身が大学卒業して、もう勉強いいかなと思って就職したんですけど、働いていく中で、やっぱり先ほど申し上げたそういう統計とかっていう部分をやっぱり、何だろう、なかなかビジネスに応用できない自分が結構悔しくて、会社としても、その設備整ってなかったですし、それを一から自分がやるってほどのスキルもないですから、やっぱりそういうのをやりたい、何だろう、もう少し自分に実力つけたいなっていう思いがあって、もうちょっと勉強したいなと思ったんですよ。その中で、もう一回大学院行って勉強したいなって思って、それで、この秋から、僕、大学院に通い始めるんですけど、再受験して。

・転職を選ぶ大学時代の同期や友人たちの多さも退職への躊躇を和らげた。

転職という部分に関しては、非常に多いですね。やっぱり3年以内に辞めてる人間っていうのは、もうやっぱりそのマインドとして、精神のマインドとしてやっぱり、何でしょう、あんまり常識にとらわれないみたいなところがあるんで、気に食わなかったら辞めて、どんどん次行く、の人間が多いもんですから、転職という部分においては、非常に周りの人間も多いですから、ある意味、自分がこういう決断をできたのも、やっぱり静岡の会社にいると、ルートが出来上がってしまっていて、僕の選択ってすごく異質な存在に捉えられてしまいがちなんですけども、やっぱり大学時代の友達に話すと、すごく羨ましいとか、いい選択だと思うとか、面白そうだねって言うってくれるので、そういう、何でしょう、いい友達を持てたのは、あの大学にしてよかったかなっていうのがありますね。

・上司との人間関係に悩まされることもあり、休職も経験した。

これ僕の経験があるんですけど、一回ちょっと異動したときに、ちょっと上司とうまくいかなくて、ちょっと僕が体調崩しちゃったときがあって、何でしょう、ちょっと鬱病まではないですけど、ちょっと1ヶ月ぐらい会社休むみたいなきががあったので、やっぱり、その部署が支社で、僕とその部長とアルバイトの人しかいないみたいな。ちょっとその上司と合わなくて、だったんで、やはり仕事の話をしてるときに、ちゃんとキャッチボールが要るとかっていう、当たり前なことなんですけど、それができる人がやっぱりとか、あとは周りで助け合える人がいる、助けてくれるとか、逆に自分が助けることもあると思うんですけど、助け合える関係みたいなものがしっかり構築されてるとか、あとは、例えば失敗しちゃう

ったことをやっぱり隠さず言えるとか、それをちゃんと適切にカバーできるかとか、そういう関係ってすごい大事だなと。やっぱり僕は自分の経験の中で、誰とやるかっていうのは…

…。

(具体的な経緯としては)最初に就職して、配属が本社のそういうイベント関連の部署で、で、2年目になったタイミングで異動になったんですよね。それが名古屋に異動になったんですけど、そこがそんな、ちっちゃい部署で、そういう3人だけの部署だったもんですから、そこでちょっと半年ぐらいやったところでちょっともう体調崩しちゃって、そうです。

(なるほど。それが、その状況が、ネガティブな状況が変わったのってというのは、どういきっかけで。)何でしょう、原因がはっきりしていたので、例えば、何でしょう、仕事がきつくて、そうなる方も多分いらっしゃると思うんですよ。そういう方って結構、多分逆に大変だなと思いますけど、僕自身は解決策がただ一つで、この部署からいなくなるっていうことだったので、何でしょう、上の人事とかと面談して、異動を願いますよと、どうにかしてくださいっていうことを言って、そこからまた本社に戻ってきたってような形ですね。異動したら、もうそこの部署の上司はすごいいい方だったので、すごく、何でしょう、ダメージもなく働けたので、その1ヶ月休んだところで一応形上、メンタル的には復活したのかな。

4. 現在のアルバイト生活について

退職後の2020年の4月からは、実家の近くにある学習塾でアルバイトをしている。

・学習塾でのアルバイトは、週3日。一コマ2時間で一日2コマほど担当している。

(塾が実家から)近いもんですから、何かやらせてくれませんかって言ったら、いいよみたいな感じで、やっていますね。

(なるほど。塾のアルバイトは週に何回とか、何か。)週、基本3ですかね。(なるほど。何時間ぐらい働いて。)日にもよるんですけど、これもならせば、3時間とか、大体2コマなんで、1コマのときもあるんですけど、1コマ2時間ぐらいなんで、ならずと、大体3時間ぐらい。

(なるほど。ちなみに、これ月幾らぐらいなんですか。)これも時間にもよるんですけど、10ちよいぐらい。

(じゃあ、やっぱり塾講師だから、時給がいいですね。)結構そこの塾でも、何でしょう、大学の1年ぐらいからやってたんで、実質、もう五、六年やってるんですよ。だから、多少乗せてもらってる感はあると思うんですけど、経験もあるので。…なので、そこそ作文句のない金額はもらえてると思います。

・しかし、あくまでアルバイトは大学院進学までのものであり、収入面での限界があると考

えている。

そうですね。僕自身、何でしょう、この塾講師って仕事自体、結構楽しいなって思ってるんで、自分の勉強にもなりますし、何でしょう、別に不満はないですけど、ただ、ずっとやる仕事じゃないなっていうのは、アルバイトでやってるぐらいがちょうどいいなっていう、やっぱり正社員の方見てると、やっぱり夜も遅いですし、すごく知識を使う産業の割には、やっぱり給料も低いので、なかなかちょっと、何でしょう、長くやれる仕事じゃねえなっていうのはありますね。

5. フリーターのイメージ

正社員でも大学院生でもない今の状況について、「自分は今ニートだよ」と友人に話している。「そこそこ働いて、そこそこ遊ぶ」というライフスタイルには馴染めない、また、望んでいない。

・自虐と冗談を交えて自らを「ニート」と話したこともある。

(自分のことを何かフリーター、今、何してるの、G君って言われたとき、何て言うんですか。)何かもうふざけて、ニートとかって言ってますけど。(ニート。)いや、もうニートだよみたいな、で、毎日もう遊んでるからみたいな、自虐で言ってます。別にその後、大学院に行こうと思ってるんだ、受かってるし、今は気楽ですけど、やっぱり受かってないときって、何もステータスがない状況なので、やっぱりちょっと、いや、外で会うと、ふざけますけど、何か毎日だらだらしてるよとか言いますが、内心ちょっと不安な気持ちありましたよ、やっぱり、落ちたらどうしようみたいな、はあったんで、今はそうじゃないですけど。

・目標があるフリーターはともかく、「楽だから」という理由でフリーターになることはポジティブには捉えられない。

(一般的にフリーターっていうのに関してのイメージっていうのは……。)イメージ。難しいですね。何でしょう、何か例えば目標があつてとか、例えば、じゃあ、今、お金をためて世界一周したいよとかっていうのがあるじゃないですか。そういう何か目標を持っている状態でのそういうのっていうのは別に何も、何でしょう、ネガティブなイメージは持たないけど、何でしょう、そうじゃない、例えば正社員よりフリーターのほうが楽だからといって、そういう選択をしてる方に対して思うのは、別にネガティブな気持ちは抱かないですけど、自分がそうだとしたら、ちょっと怖いなっていう、例えばそういう、何でしょう、変な話、ボーナスとかもないですし、要は雇用のパワーとして弱いわけですよ。何かあれば、今回みたいなそういう非常事態があれば、ちょっとクビを切られてしまうみたいな可能性もありますし、何でしょう、少し僕の感覚からすると、別にその人の人生なんで、何か何してんだよとは思わないですけど、僕だったら、その状況は不安になるなって思っちゃいますね。

・理想的な働き方は、やりがいと理想の働き方報酬。

(現在、Gさんが思う将来のみたいなものってありますか。) 僕自身は、例えば今の若者のトレンドとしてあるような、例えばそこそこ働いて、そこそこな暮らしをみたい、あんまり例えば残業もしたくないみたいなので多分結構マインドとしてすごい、トレンドとしてあるのかなと思うんですけど、別に僕自身は別に長く働きたくはないですけど、別に必要な残業であれば、別に全然いとわないですし、そこにそれ相応の対価があるのであれば、全く問題はないと思ってますし、何でしょう、仕事がつきついことに対しては多分耐えられるなど。ただ、人間関係がつきついのは耐えられないとっていて、その職場がいいかどうかは人間関係で絶対決まると思うんですね。なので、やりがいがあれば、別にやりがいとそれ相応の対価があれば、別に僕は仕事が多少、毎日朝から晩まではちょっとしんどいですが、多少遅くなっちゃうとか、休日がなくなってしまうとか、そのぐらいは別に全然いとわないですね。

6. 新型コロナウイルスの働き方に対する影響について

退職と時期的に重なったので、タイミングとしては良かった。学習塾は4月中はオンライン授業を行い、5月から通常通りの運営となった。当分はこのような状況が続くと予想するが、9月からは大学院に進むので、それ以上の将来に新型コロナウイルスによる不安などは特に感じない

・塾は4月からオンライン授業を実施し、5月からは通常営業となっている。

もう諦めようっていうことになって、例えばそこで、塾内で出たってなったら、ちょっと考えますよっていう話なんですけど、今のとこ出てないですし、静岡東部エリアも熱海はすごい出てますけど、地元でも月に何人かなみたいなどこなんで、そんなにおびえる必要もないかなっていうとこで、今は普通にやっています。(普通に授業されてるんですね。) はい。

(これをこのまま、Gさんがお勤めの間は、このまま何とかいきそうな感じ。) 今のとこはいきそうですね、何もなければ、はい。

・今後3ヶ月についての見通しは再流行の懸念もあるものの、大学院進学を控えているため、特別に働き方や考え方に変化はない。

(コロナによる) 考え方、例えば今、僕がすぐ転職をしようとかって考えてたら、結構真剣なやばい問題だと思うんですね。だけど、幸いなことに、再就職って2年後なので。…そう考えると、逆にこの2年で何とか落ち着いてくれないかなっていう感じなので、今におけるキャリア感とか進路みたいなのこの大きな変化はないですね。

・ただ、大学院での授業形式に変化はあると予想している。

(これから大学院に行くわけですね。) そうですね。そこで当然授業がちょっとオンライン

にみたいなところは少し不安ですけど、やはり大人数で受ける授業じゃないので、院なので、やっぱり院のゼミとか、比較的少人数の授業が恐らくメインになるので、そこに対する不安っていうのはすごいありますよね。

7. 家族について

Gさんは一人っ子であり、両親と3人家族である。父親は地元の中小企業（建築関係）に携わり、現在は独立。副業として地元で居酒屋を経営している。母親は英語教室でパートの講師である。

・将来の家族形成についてはまだ具体的な考えはないものの、相手に専業主婦になって欲しいという考えはなく、それぞれの収入とコミュニティを持ち得る関係性が理想的だと考えている。

Hさん

京都府在住・23歳・男性・専門学校中退

インタビュー実施日：2020年8月1日

インタビュー担当：柳

ノート担当：堀

Hさんは現在23歳。高校卒業後、ナレーターになることを目指して専門学校に進学するも中退。その後は覚えていられないくらいたくさんアルバイトをした。21歳の時に発達障害と診断される（手帳取得）。現在は体調と相談しながら、警備員とポスティングのアルバイトをしている。緊急事態宣言の時は仕事がなく、やや仕事は戻ってきているものの見通しは立たない。

1. 学校時代と進路選択について

中学時代から声の仕事をするのが夢であり、高校卒業時は就職と迷ったものの、奨学金を借りてナレーターの専門学校に進学した。もともとメンタルの問題を抱えていたが、在学中に長距離通学とアルバイトの両立に苦しんだことをきっかけにメンタルが悪化し、専門学校を中退した。

・高校は府立の総合学科に進学した。

中学生の頃は声優さんっていうか、声の仕事がやりたく……、ナレーターとか、ラジオDJさんとか。高校のときは、体育祭とか、文化祭とかあるじゃないですか、そういうイベントのリーダーをやったりとか、あとは、何かそういう裏方ではないんですけど、裏方の中でも結構、力出したりとか、いろんなイベントを盛り上げたいなとやりました。部活は、最初の頃はやってなかったんですけど、2年の終わりぐらいから放送部に入りました。

(アルバイトは)一番最初が高1なんですけれど、そのときは居酒屋のホールをしてました。でも全然続かなくて、結局、高校時代で一番続いたアルバイトが、ガソリンスタンドのスタッフですね。高校2年の5月ぐらいから高校2年の12月とか、自分の中で長かったですね。

・高校卒業時も声の仕事をしたと考えていた。

もう本当に全然、現実とか見てなくて、やっぱり中学のときから夢もあんま変わらなくて、声の仕事やって、自分の中でばりばり売れてやるっていうような、大層な結構夢持っていましたね。何か都会で家買うぞと、などと思っていました。最初は声の仕事だけやったんですけど、それ以外にも何か、保育士の体験とか行ったこともあって、それもやりたいなと思ったりとかしてました。

- ・高校卒業後はナレーターになるための専門学校に進学した。

高校卒業してからは、ナレーターの専門学校に行っていました。もう、それを決めたのは、結構、何かもう、6月の近くやったんですけど、体験入学に行ったのが、もともと声の仕事に興味があったって言ったと思うんですけど、中学時代とかから結構、いろんな専門学校とかのパンフレット取り寄せたりとかして、ああ、この学校の体験入学行ってみようと思って行ったこともあったりとかもして、実際進んだ専門学校はまだ体験入学行ったことなく、その6月に行ってみて楽しいなって思って、今までのところは何か気を遣った自分がいたんで、楽しめるというよりは何か無理してた自分がいたんですけど、その進んだ専門学校は楽しくて、金も安かったんですよ、ほかの専門学校に比べると。なのでいいなと思ってAO受けてみようと思って、体験入学終わってから、もう本当に2週間ぐらいかしてからAOがあったんで、親にも相談して決めてみよと思って、その道にいきました。

やっぱり専門学校で勉強して、学内オーディションっていうのに受かりたかったっていうのありました。事務所預かりとかなってって、だんだんステップアップしていく感じなんですけれど、そういう業界的に言えば。まず預かりにならないと、やっぱ何もできないので。

- ・最初は専門学校ではなく、就職を考えていた

最初は専門学校行くよりも、就職で考えてはいたんですけど、当初の方針が。先生とかにも就職のことを相談してはいたんですけど、体験入学に行きまして。先生に、やっぱ自分は声の仕事をしたいですって先生に伝えたら、夢に向かって進んだらええんちゃうかって。進路指導の先生とか、担任の先生が奨学金の紙を持ってきてくれたりとか、どういうふうにしたら受かるんじゃないかとか、自己PRの方法だったりとか、面接の練習してくださったりとかそういうことはありましたけど、そこまで何か具体的なことはなかったかもしれせんね。

- ・専門学校では家と学校の往復に苦勞し、体と心の調子を崩してしまい中退した。

専門学校に進む中で、自分、もともと心の、精神的なもの持ってまして、鬱的なものとかあったりとかしたんですけど、高校時代から。その専門学校が、(通学に)毎日2時間ぐらいかけてたんですよ、片道、電車に乗って。バイトもしながら、学校の勉強もしてって、自分、マルチタスクが苦手なのに、やっぱり結局、どっちもうまくできなくなって。体壊したんですけど、学校はちょっと休んで、バイトちょっと専念しようと思ってバイトのほう行っただんですけど、そっちのほうで、今度はお客さんといろいろあって、心をまた壊しちゃって入院して、休学届出して、どうにか、それが1年の末やったんですけども、課題やったらどうにか進級できるよと言われて進級して、やっぱり2年なったのはいいんですけど、なかなか治らなくて、ちょっとは行ってたんですけど、また体調壊しちゃって、結局退学って感じですね。言わばバイトと勉強の両立ができなかったんで。

また学校へ戻ったときは、お金要るんは分かるんですけど、やっぱり、それよりも体調をやらなあかんと思って、学業だけにしてたんですけど、そこからやっぱり、なかなか体調が、精神的にもなんですけど、戻らなくて、結局、はい、駄目でした。

2. 初職の就職活動

中退後は精神状態が回復するのをまちつつ、アルバイトを再開した。アルバイトは頻繁に変わったが、警備員のバイトは働き方を変えながらも現在も継続している。

・中退した後はアルバイトをした

アルバイトしてましたね。でも結局、なかなか全然続かなくて、やっぱり長くても3ヶ月とかでこころろ替えてた感じなんですけど。いろいろ逆にし過ぎてて思い出せない。

16年は多分、警備員のバイトをもととは単発でしてたんですけど、それを日常的にするようになったりとか。警備員は今でも一応やってるんですけど。ただ、その頃は、何ていうか、単発じゃなくて結構長めで、ほぼ毎日のようにやってた形ですね。

収入もあるんですけど、自分に何が向いてるのかなっていうのを漠然と分かんなくて、どういう系の仕事が向いてるんだろうとか、何がやりたいんだろうってそれを探してましたね。

2017年の冬前、秋ぐらいか、10月の末ぐらからなんですけど、カメラマンをしました。観光スポットにカメラマンがいると思うんですけど、お写真撮りましようかとかいう、そういうカメラマンしてましたね。調べたら、バイトルとか、アンだとか、タウンワークとかのサイトが出てきて。そこを見たら出てきたって感じです。(アルバイトは)翌年の3月近くまでかな、ですね。また体調壊しちゃって。心のほうですね。人間関係でしんどくなって、バイト先の。

その後はですね……キッチンをしてました。そのときはもう正直、何でもよかったってのあったんですけど、一番お給料がよかったんで、調べた中で。

3. 学校を離れた時から今までの経歴について

中退後にアルバイトをしながら、自宅を離れて宗教団体の施設に移り住んだ後、発達障害の診断により、発達障害とつきあいながら自分なりの働き方をしていこうと考えるようになった。

・中退後に宗教団体のついで、2018年春から4ヶ月ほど名古屋に住んだ。

もともと家族といるのが結構つらくて、実家で、何か一人暮らししたいなと思ってたんですけど、なかなかお金もなかったりとか自立力もなくて、知り合いの方っていうのが宗教関係、自分、宗教関係で知り合いの方がいらっしゃるんですけど、その方に相談したら、うち来るかってなって、お邪魔したって感じ。自分がやっぱり、今一人暮らししたいなとか、家

にいるのもつらいつて。そのときすごく自分、死にたかったっていうのがあるんですけど、だったら、ちょっと神様の近くで、何か心穏やかになったらどうやんって言われて。環境変えてみたらどうやって感じですね、簡単に言うと、はい。4ヶ月ぐらいですかね。

そのときにやっぱまた体調壊したのもあるんですけど、先生自体は、全然おったらええよとかって感じですけど、自分は逆に何か迷惑かけたくないなって気持ちが出てきて、気持ち的にだんだんだんだん不安っていうか、申し訳ないなって気持ちが出てきて、地元に戻ってちょっと精神的なもので入院したりとかして、だから戻ってきました。

戻って、それで入院をして、自分の症状が分かったって感じで、そこからは大分ましになりました、気持ち的にも。自分の特性が分かったりとかして、付き合い方分かったというか、自分との付き合い方。帰ってから、最初はクリニック通いだっただんですけど、その後、そうですね、入院をして、少し自分の中で見詰め直す期間だったりとかつくって、退院して、また働き出してとか。入院したのが去年、2019年の3月と5月なんですけど。もともとクリニック通いはしてたんですけど、悪化して、入院してっていう感じ。5月に退院して、それから、ほとんどもうそこから警備、警備は本当にもう真剣にというか、一本でまた取り組んだって感じですね。

- ・ 専門学校を中退したあと、メンタルの問題を抱えながらアルバイト生活を続けていたが、21歳の時に発達障害と診断された。

高校の初めぐらいなんですけど、中3のときに修学旅行があつて、そのときにみんなと一緒にご飯食べられなくて、それ以降は、修学旅行終わって学校帰ってきて、みんなと一緒にお昼ご飯とか食べるじゃないですか、授業のお昼休憩に、ご飯とか食べても戻しちゃうことがあつたんで、それまでなかったんですけど。そこから、修学旅行終わってから、何かおかしいなと思って、高校入るぐらいからメンタルクリニックに行くようになって、対人恐怖症ですねと言われて。

最初はそう思ってたんですけど、21ぐらいの秋ぐらいに、メンタルクリニックで診断されたら、実は発達障害だったよつて。気づかれなかっただけで、発達障害あつたんだよつて。どうりで自分は苦手なことが多いなつて、続かなかつたりとか、人間関係かな。だから、物事もあまり続かなかつたなつて、バイトとか。ADHDっていうのとあと、ASDっていう、コミュニケーションの苦手な感じなんですけど、それを診断されて。人のことが、人の気持ちが理解できないって言つたらおかしいですけど、読み取るのが下手くそだつたりとか。あとは、ADHDのほうだったら、忘れ物をしやすいとか、よく遅刻をすつとか、約束を守れてなかつたりとか、最近はまだましなんですけど、高校時代とか、中学時代とかが特にひどくて、バイトのときも、高校時代のバイトのときも入つてるの忘れて、夕方電話あり、実はあつたんだつて気づいて、何かクビになつたこともあつたりとか。それで、やっぱどうして自分はできないんだろうとか、何でみんなできるのになつてあつて、診断を受けたと

きに、あ、仕方ないっておかしいですけど、あ、原因があったんだってなって、それまで自分を責めることが多かったんですけど、少し原因分かって楽になったって感じなんです。だから、最近はそのままで落ち込むことも減りましたし。

自分の中で納得して、自分がしんどいときは無理しなくていいやって。週5回のうち2回休むのは、2回休むっておかしいですけど、働けるときは働けるんですけど、波があってってというのはそういう感じで、はい。精神的にもやっぱ、ああ、今日はずどんとしてるなって思ったら無理をせずに休んで、やっぱ今まで無理して、もっとどんと落としたことがあったんで、最近では自分との付き合いだから、それ以上無理したらあかんなって分かって。なので、そうやって、何ていうんですかね、これ以上落ち込まないようにっていうか、落ちないようにって気をつけていますね。

4. 現在のアルバイト生活について

現在は警備のアルバイトをしながら、副業として融通が利くポスティングのアルバイトもしている。さらに副業としてネット系の仕事をしたい。ゆくゆくは農業をしながらネット系の仕事をする生活が理想である。社会に役立ちたいという気持ちを持っている。

・警備の仕事だけでなく、ポスティングの仕事も始めた。警備は日給8000円弱、ポスティングは月2万円から4万円くらいである。

今年の5月ぐらいから、副業しながら警備やっています。副業がチラシ配り、ポスティング作業なんですけれど。最初はやっぱりお金に困ったので、社協とかからお金借りようかなって思ったこともあったんですけど、そう思ったぐらいから副業始めたりとかして、少しお金ができたんで、だったら、副業の副業、3つ目の副業考えなあかんのかなって。

インターネット関係とか、今だったら結構いろいろあるじゃないですか、なので、自分の場合、アンケート答えたりとか、小さな小遣い稼ぎなんですけど、アンケート答えたりとか、あとは、クラウドワークスみたいな、そういうソーシャルやったりとかして、得意分野を探していくとか、そうですね、そういう……。理想は、田舎で農業とかしながら、合間にそういうネット系の仕事したりとか。人にとらわれるって言ったらおかしいですけど、人に縛られるのが嫌なんです、自分。あまり何か、何をせいとか。なので、何か、そうですね、自分でそういう力を身につけたいっていうのありますし、なので、言わば、やれやれ言われたらやりたくなくなっちゃうんで、自分は、なので、自分から進んでやれるような環境をつくって、言わば自分で自分の首を絞めるみたいなもんですけど、そういう、あえて環境をつくるみたいな。農業を午前中はしながら、午後はそういう作業したりとか。懂れる。

収入だったら、警備が6で、ポスティング4ぐらいですかね。ポスティングのほうなんですけど、1日の時間は短いんですけど、一応週3回出してもらってたんで、1日4時間で週3回なんで、ただ、ちょっと体調壊したりとか、あと、警備のほう優先してるので、副業

なんで、警備のほうが入ったときは休ませてもらったりしてて、大体、そうですね、月2万から4万ぐらいしていました。

- ・何かしら社会の役に立ちたい気持ちがある

(障害年金は) 出なかったっていうか、もう難しいんじゃないかって言われたんで、担当医に。結局申請はしてないんですけど、地元の社会、支援センターみたいなのあるんですけど、障害者の方の、その支援者の、支援者っていうか、何ていうんですかね、自分のことを見てくださる方は、一応受けてみたらとか、申請してみたらとは言ってくださいんですけど、なかなかできなくて。自立支援ノートっていう、精神科行くときのやつは申請してます、あと障害手帳とか申請していますけど、期限切れちゃってるんです、今。また申請しないとイケない。

働かなくていいんだったら働きたくはないんですけど、何かしら役に立ちたいっていうのありますね、やっぱり、社会に。こんな自分でも何か一つ支えるっていうか、してもらえんだったら働きたい。だから、話替わっちゃうかもしれないですけど、今のポスティングのほうはすごく自分のことを必要としてくださいっていうか、自分のことを評価してくださるので、働きがいもありますし、すごく何か自分のやる気もつながりますね、モチベーションになるんで。本当はそういう〇〇(フードデリバリーサービス)とかも憧れあるんですけど、自分のところは(地域的に)対応してないんで。

5. フリーターのイメージ

フリーターは自分探しをしながらもきちんと働いているイメージだが、自分はそうではないので、ニートに近いと感じている。

- ・自分はフリーターよりもニートに近いと考えている。

自分はニートかなと。フリーターよりも。自分は本当に体調と相談しながらっていうのが大きいんですけど、精神的なものを持っていて、自分でどうにか気をつけりゃいいんですが、やっぱり波が激しいときあるんで、それによっては働けなかったりとかして、やっぱフリーターの方ってそれがあんまりないイメージがあって、自分の中で、そういう働けないっていう波がない。

例えば、言わば週5回決めたらきっちり週5回働いてるってイメージがあって、自分の場合、5回決めても大体2回とか体調で休んじゃうとかってしたりとか、そういうのもあるし、あとやっぱり家族に養われてる身なんで、ほぼニートじゃないのかなって思ったりとか。(フリーターは) 自分のことをやっぱりできるような人って感じ。フリーターというよりはニートに近いかなって感じですね。

(フリーターのイメージは) 何か自分探しの途中なんかなって感じはしますね、自分からし

たら。それこそやっぱり、今、さっきも言った、結構専門学校のとこだと思うんですけど、自分がやりたいこと何やらとか、向いてること何やらとか、自分に一番何が合ってるんやとか、そういうのを探してる方がやっぱフリーターじゃないのかなって。だから、いろんなことチャレンジしたりとか、うん。そういう中で合わなかったら仕事変えたりとか、そういう人がフリーターじゃないのかな。だから、自分はそういうふうに感じますね。

(自分は) 自分探しの途中やけど、でも、何だろうな、意思が弱い感じします、自分。何ていうんだろう、意思が弱いていうか、行動力が少ない。例えば、何かあまり、変化したいけど、変化できないっていう。怖くなって思っちゃうんで、足がすくんじゃうタイプなんです。

フリーターの方は結構、自分から何かいろんなことチャレンジする、猪突猛進な感じがするので、何か、例えばチャレンジ、何か言い方悪いかもしれないですけど、何でもチャレンジしちまえて感じで、なので、自分は結構チャレンジしたいけど、あんまり足が出せないっていう感じなんです。

自分の場合、結果が伴ってないんで、全然。結果が伴ってない。中途半端なんで、全部。やり始めて途中で何か投げ出したりとか、続かなかったりとか。だから、自分を探してはいるけど、やっぱやめたみたいな形なんです。

6. 新型コロナウイルスの働き方に対する影響について

緊急事態宣言中は警備の仕事がなくなり、危機感を覚え、ポスティングの仕事を追加した。警備員はプールや花火大会などイベント関係が多いため、この先3ヶ月の見通しは暗い。Hさんの仕事は外仕事なので、資格を取ってフリーランスになりたいと考えている。収入面での影響は大きく祖父母から援助を受けており、奨学金は今は免除だが来年から支払いが再開するので不安である。

- ・新型コロナウイルスの感染拡大によって、勤務時間や勤務形態、収入に大きな変化があった。

ずっと警備を、今年とかもしてるんですけど、やっぱり昨今のコロナ禍の影響で、今建設会社とかも仕事がなくなってきたらしくて、工事関係も一時期ストップしたりとか、もはやもうイベント自体も最近なくなってる、地元はやっぱり。本当やったら、春だったら桜祭りとかあったりしたり、小さいお祭りのイベントがあったりとかするんですけど、それがなくなってきたて、一応、僕アルバイトなんで、自分から申告しないとお仕事いただけない感じもあるんですよ。この日空いてるんで、お願いしますって。言っても、やっぱり最近、ごめん、仕事ないんだとか、このままじゃちょっとお金もしんどいなと思って、インターネットで調べて、大体ポスティングってやっぱり枚数ごとで値段が決まるところが多いと思うんですけど、何枚配ったら何円、でも今やってるポスティングは時給制で、時給制なので、だか

ら、枚数とかノルマとかはなくて、じゃあ、やらせてもらおうかなと思って応募しました。

- ・仕事はかなり減少した

自分はもう、コロナがひどくなってからは本当に、2月ぐらいまではあったんですけど、勤務の日が、もう3月入ってから6月まではゼロでした。警備の仕事は。ふだん20、25日とか出勤されてる方も全然なくて、1ヶ月のうち5日しかないってという形で、みんなやっぱり減ってるんだなって気づいて。

体調も相談しながら仕事しようと思ってたんですけど、聞いてもやっぱり、コロナだから今ないねんとかでして、やっぱり5月ぐらいから体調も復帰してきたしって、もっと仕事したいのに、警備もう全然ないんだったら、ポスティングしようって。それはもう4月の末ぐらいから調べてはいたんですけど、採用されて始めたのが5月からってことなんで。(早い段階から)面接受けたりとかして。多分このままじゃやばいんじゃないかとか思って。

- ・職場からの明確な説明はなかった

説明っていうほどの説明でもなかったんですけど、最近やっぱり、僕らって正直やっぱり下請みたいな感じなんで、建設会社から請け負ってるんで、建設がやっぱりストップしたりとか、公共事業が減ってるわとか、イベントがやっぱり、イベントがなくなってきてるから、ごめんなって言われたりとかして、それぐらいの説明しかなくて。地元のプールなんですけど、本当やったら7月から始まるはずだったんですけど。プールが始まるちょうど数日前から地元でクラスターが出とって、始まる本当に3日とか前に中止が決まって、それで僕らはイベントとか、プールの駐車場の警備がなくなっちゃって、また減ってきてはいる。やっぱり緊急事態宣言解除されてからだんだん増えてきたと思ったんですけど、また感染者数が増えてきて、またちょっと減ってきてるかなって感じ。イベントがやっぱりなくなってきてる感じなんで。花火大会もなくなっちゃったんで。(緊急事態宣言が解除されてから)6月とかは10日ぐらいはありました、仕事。今月はまた減ってきてるかなって感じですね、後半から。

- ・勤務条件や勤務時間に関して、3ヶ月後の見通しは暗い。

警備のほうでゼロなんじゃないかなっていうのありますね。だんだんやっぱりイベントなんか減ってきたりとか、中止になってるのは見てるので、自分自身。地元でもクラスター出るぐらいなのでやばいなって、またそれこそ緊急事態宣言あったりとかして、仕事どころじゃなくなるんじゃないかなみたいな。クラウドワークスとか考えなあかんのかなと思ったり。

- ・資格を取ってフリーランスの仕事につきたい。

働き方は、外仕事なんで、ダメージ受けやすいと思うんです。イベント関係がないような感じで。それこそ在宅ワークができるようなフリーランスとか、何かそういうような知識を

つけたいなと思ったりとか、パソコンのスキルでもいいし、そういう知識をつけて、そういう系、一人でできる仕事に取り組みたいなと思いました。そういうフリーランスになりたいな。何の資格でもいいってわけじゃないんですけど、何かそういう、パソコン関係の資格あるじゃないですか、そういう簿記とか、あとはマイクロソフトオフィスの資格とか。

- ・祖父母と同居なので、うつしてしまうのではないかと心配している

コロナウイルスのことなんですけれども、やっぱり自分がかかっちゃうって怖いんですけど、それよりもやっぱり、人に気づかぬうちにかけてしまうんじゃないかなって。自分、今祖父母と一緒に住んでるんですけども。祖父母はやっぱり年なんで、気づかぬうちにかけて悪化させちゃうの怖いなって。もう一つ、自分は多分無症状で済むかもしれないけど、祖父母はやっぱり年やから、かかっちゃったら、結構祖父のほうは持病持ってるので、悪化しちゃうんじゃないかなって。特に外仕事なんで、やっぱ人と触れ合う機会が多いんですよ。ポスティングもそうなんで、挨拶したりとかするんで、幾らやっぱりマスクとかしてもやっぱり不安やなって思ったりとか、それがやっぱ今の中で一番の不安ですね。

- ・収入面への影響も大きい

あとはやっぱり収入面が辛い、はい。奨学金を借りてて。専門学校時代に。今返してる途中なんですけど、一応今は免除になったんですけど、6月から。ただ、来年からまた結局返さないといけないので、そのために少し貯蓄したいんですけど、返せるために。でもできるのかなっていう不安があります。出費は止まらへんのに入ってくるのにお金はないなって。

7. 【家族について】

専門学校のころから祖父母と住むようになり、経済的な援助を受けている。父は幼いころに病死し、母がHさんと妹を育ててきた。妹は結婚しており、周囲も結婚しはじめているが、Hさんは暖かい家庭にあこがれるものの、自分の結婚についてはまだ考えていない。

- ・祖父母に生活費をだしてもらっている。

仕事が行けなかったりとか、そういうとき、体調壊したときとかは、やってもらったりとか、今みたいにきついときは出してもらったりとか。精神的なものって、自分、発達障害っていうものがあって、最初は障害年金っていうのとか、しようかなと思ったんですけど、なかなかできなくて、なので、そうやって感じですね。

I さん

東京都在住・27 歳・男性・大卒

インタビュー実施日：2020 年 8 月 1 日

インタビュー担当：堀

ノート係：清原

I さんは現在 27 歳。高校は 1 年生の 4 月に中退し、高等学校卒業程度認定試験（旧大学入学資格検定）を受験するための予備校に通い、大学に合格した。大学 3 年生の時に発達障害を抱えていることが判明し、障害者手帳を取得した。大学在学中には就職活動は行わず、大学卒業後に職業訓練校に通い、建設業界の企業に障害者雇用枠で採用された。人事労務を 2 年間担当したが社内環境に問題があったため退職した。現在は Web 広告のベンチャー企業で契約社員として 1 日 8 時間、週 5 日でテレワークを行っている。現在の会社は働き方が自由なところが自分に合っていると感じており、障害についても苦手な部分をしっかり自己分析すれば対応できると考えるようになった。

1. 学校時代と進路選択について

岩手出身だが親が転勤族だったため、5 歳から東京に住んでいる。中学、高校と公立だったが、高校（普通科）は 1 年生の 4 月で辞め、高等学校卒業程度認定試験のための予備校に通い、大学に合格した。予備校は自分で決められる範囲が広く、フリースクールに近い感じで自分に合っていた。大学については行きたい学部・学科の希望は特になく、将来に就きたい職業は漠然としていた。大学 3 年時にアルバイトと運転免許試験で躓いたことをきっかけにして病院を受診し、発達障害の診断を受け、障害者手帳を取得した。大学ではサークル活動、ゼミ活動に力を入れたが、発達障害のことが気になり在学中には就職活動は行っていない。

・高校を 1 年生の 4 月に中退し、予備校に通って高等学校卒業程度認定試験と大学に合格
事情があって、高校途中でやめちゃったんですよ。要は、学校内のちょっとした自分の不和というのか、ちょっといさかいみたいなのがありまして、あまり自分に合っていなかったなということで、ちょっと途中で中退して、大検コースで、大検を取得してという形でした。その大検予備校という、大検の学校がありましたので、（2009 年の 4 月から）そこに通いながら。そこでも普通に勉強もできる場所でしたので。ほとんど学校そのものですね、フリースクールというのか。非常に合っていたなって。自由だったんですよ。変な話、自分で決められる範囲が広がったんですね。自分でカリキュラム組んだり、自分で好きな授業を取れたりというのも、自分の意思選択で過ごせる学校でしたので、それが自分に合っていたなって。大検はそのまま取れるように、自然とカリキュラムは組んでいただけるので。何かとり

あえず受けて、大学入りましたね。

- ・大学時代のサークル活動を通して人の話を聞くのが好きになっていった

大学では、サークルはいろいろ入ってはいたんですけど、なかなかちょっと自分の悪いくせで、よく考えて吟味せずに入ったりとか、合わずに辞めちゃったりとかよくあったんですけど、唯一続けられたサークルが2つありまして、1つは、ユースホステルのサークルです。実際自分が企画して名古屋のほうに行ったんですけど、その際に本当、企画書を立てたり、どういう行程プラン立てるかというのをメンバーで話し合いをして、そうやってどう自分の中でそのお話を、意見を聞いていくかというところを、特にそのサークルの中で学べたなって。実際にユースホステルにも泊まることのできたので。というのも、(そのサークルでは)もう10年近くユースホステルに泊まっていなかったらしいんですよ。

(もう一つは)スイーツ同好会という未公認サークルで。まあ大学近隣のケーキ屋さんをめぐって、何かみんなで食べ合いながら品評してという感じでやっていたんですけど。でも、そのサークルの中で、結構その準公認だったんで、公認化したいということもあって、メンバー間でこう打合せしたりとか、自分自身も企画よく立てていたんですけども、いろんな学年がいてギャップ、ジェネレーションギャップみたいなのもよくあったので、そういった中で、じゃあどういう集まりにして企画立てていこうかというのは普段からお話は積極的に聞くようにしていたんで、大分そういう聞く力というのかな、は何かちょっと、変な意味で身につけることのできたのかなと。大体サークルの会長が全部お店決めちゃっていたんで、それを何か自分たちで宣伝するんですけど、その企画立てる宣伝書を自分が書いたり、あるいはこういうところへ行きたいという、その中で一人で決めてもらうだけじゃ仕方ないな、ちょっとワンマン傾向がすごい強いサークルだったので。どうしても一人で起こした会社というのは、そういう企業さんって、結構社長がすごい力を持っていたりとかあるじゃないですか。ちょっとそれに近いところがありました。何かある意味、自分はそれだけじゃないな、ほかの何かこう役割とか役職みたいなものはなくても、意見は聞いたほうがいいなと。あえてちょっと何というんですか、右腕としてちょっと聞いてみる。そういった中で人の話を聞くのが好きになっていった。始めた当初は10人前後だったそうなんです。でも、自分も途中で入った人間だったんですけども、最終的には60人ぐらいのサークルで。

- ・アルバイト経験

試験監督のアルバイトをしていました。予備校の。3年近く続けられたお仕事だったので。今でもちょっと副業で、たまに入れてますし。

- ・大学3年生の時に発達障害の診断を受け、就職活動をしようという気がなくなる

自分で認識できたのが大学生のときで、それこそアルバイトで段取りがすごく非常に悪く

て自分の場合。試験の監督のお仕事のときも、試験の監督のときも時間管理だったり、会場設営だったり、結構やること多いんですね、やはり。その段取りがうまく組めなくて忘れちゃったりとか結構しちゃってたんですよ。当時、今でこそ、今もそうだと思うんですけど、人手不足というのがすごく話題になっていたと思うんですよ。今から7年ぐらい前だから、震災後ですよ、人手不足という言葉が出るの。ちょうど自分のお仕事もそのうねりを受けていて、その流れか、その流れを受けて、その一人の仕事がもう一人で10個とか、10とか、それぐらいやらなきゃいけなくなっちゃったんです。そんなできるわけがなくてパンクしちゃったんですよ、段取りが組めなくなっちゃって。ミスをいっぱいして、さんざんすごい怒られ、たくさん叱られてしまって、何か結局このアルバイト向いていないなって思っていた矢先に、その障害が分かったと。

(診断を受けるきっかけは) その試験のお仕事でなかなかうまくできないということが一つと、もう一つは、運転免許でしたね。過緊張を起こしてしまって、それがもう結局いつもひどかったの、それで度々卒業試験に落とされてしまうというのが頻繁にあったんですよ。それを繰り返していたのでなぜだろうと。さらに試験の仕事もうまくいかない、段取りがうまく組めない、すぐ緊張してたくさん落とされる、それでようやく分かった。そう思う中で、実は親も知っていたんですよ。こういうのがあったよというのを、小さい頃からあったよと。(両親に) もうちょっと実際行かされる形でした。3年生のときです。(発達障害について) なかなか受け入れられないものはありましたね。

(これもあって何か就活しようみたいな感じではなかったですか。) そうですね。

・ゼミ活動、卒業研究

大学でゼミ活動がすごく盛んだったので。ゼミの方のすごい力、取り組みましたね。自分のそのゼミが、地域調査みたいなのをすごいやっていたところでしたので、2年生のときに、実際北海道のほうに行つて。人口が減つてちょっと今厳しい、それがどうして今、小樽がそうってしまったのか。小樽の今、伝統、逆にそれで今廃れている深刻な事態なので、どうしたらそれが方向できるのか、実際に現地の方からお話を伺っていました。小さな都市なんです、そののほうに行つて、当時NHKの連続ドラマが放映されていたんですよ、竹原で。それが何かすごく町の活性化にそういう起因したということで、実際どれほどの経済効果があったのかということ、実際に当時のお話をまた現地の方に伺つて、そのために、その活性策はじゃあ何があるのかということ、ゼミのメンバーでお話しして伺つていたりしました。

卒業論文も書きまして。こちらは、埼玉のほうの、埼玉県のとある小さなニュータウンで、そこで、なぜそのまちがつくられたのかといったこととか、そのまちがまたちょっと衰退しているそうなので、その衰退の原因と今後の活性策はどういうところがあるのかということ、また現地の方にもお話し聞いたりして、それをレポートで分析して調査にまとめて書きました。調査は自分単独で行いました。その現地のことについては、その現地の町内会の方

だったりということはして、その方にお話を聞いたりということで、そちらの方に協力していただいたり、協力して下さったり。アンケート調査の用紙は先生のほうで大分添削して下さったんですけれど、調査は自分で行けて。自分のことだから自分でやれっていうことです。割に自由にやらせてくれる先生、すごい裁量を持っていただける先生で。その分、すごく指導はかなり入るときはしっかり。枚数 70 枚ぐらいになりましたからね。

2. 初職の就職活動

大学時代までにキャリア教育、インターンシップ教育を受けた記憶はない。高校を辞めた経験が尾を引き、大学在学中に就職活動ができなかった。大学卒業後は2ヶ月間アルバイトを行った後、6月から11月まで職業訓練校に通い、12月に障害者雇用枠で建設業界の人事労務管理の事務職に就職した。

・キャリア教育、インターンシップ教育を受けた記憶はない。

特に覚えがないんですよ。ええ。今思うと、ちゃんと行けばよかったなって。当時ちょっとまだいろいろ、高校辞めたこととかのちょっと心残りとかも残っていて、あんまり何かそういったことにはイメージが湧けてなかった。

・大学在学中に就職活動はしなかった。

自分、していなかったんですよ。何か全然しようという気持ちが全然入らなくて、結局せずに卒業してしまったという。(先生や両親からは)特に何も言われませんでした。

・大学卒業後の就職活動

5月まで、2ヶ月間アルバイトをしていて、6月から11月まで職業訓練校のほうに通って、そこでお仕事の勉強をして、12月に何か運よく採用されたところがあったということで、そこで一旦就職しました。

・職業訓練校に通い、就職活動を行う

事務方の職業訓練です。民間の職業訓練校がありまして、そういったところで今取り組んでいました。何かそこが独自で求人も持っているというところだったので。ちゃんとそこは公的な、ちゃんと国のほうから許可も得られている場所でした。もともとちょっとこういうのに詳しい方が、友人がいて、その方にいろいろ紹介してもらえたので。

結構事務方のお仕事といたつつも、実際ミーティングしてお仕事したり、ミーティングしながら企画立てたりであったりとか、あるいはこう、ビデオ会議を使うような、そういう模擬ミーティングみたいなものをしてみたり、結構一般の事務作業だけするわけじゃなくて、結構盛んにお話ししたり、結構自分たちでレポート書いて発表したりという、意外と何だろう、

職業訓練の割には結構多種多様だったなど。当時はそれなりに学べたことはあったかなど。

(就職先は)自分で探して、インターネットで探して。こういうところに通っているよというのをアピールして、逆にそれを企業側に売るというのを、自分でその宣伝する、宣伝というより、自分のそれをアピールした上で、企業さんに自分はこういったところで取り組んでいるから、今でも働けるといふ積極的なアピールをしたんですよ。

当時はまだ全然、仕事の基準なんかなかったんで、何か正社員であればいいなぐらいだった。まあ、通えたらいいなというぐらいな認識だったんで。それぐらい、当時あんまり基準が甘かったんですよ。もちろんそれなりに吟味はしたんですけどね。何か、どういうふうに働こうかなとか、どういう人が働いているのかなと、基準はしっかりつくったんですけども。正社員だったりとか。当時は企業規模の大きさで会社を選んでいるところがありましたので。当時は、やっぱりまだ世の中を分かってなかったという。

・初職への就職と退職

(働き始めたのは)12月からですね。1年間浪人したんで、正式には24(歳)です。退職したのが26歳でした。建設業で人事労務系の人事をしていました。(退職の理由は)障害者採用で働いていたんですけど、あまり会社がそんなに障害者に対する理解があったわけじゃなかった、一つが。もう一つは、実際自分でも働いていて、あんまり合っていなかったんですよ、事務自体が。どちらかという、あんまりそういう定型作業を淡々とこなすのがそんなに得意じゃなかったんですよ。何かずっと大企業だったんで、その仕事が細分化されていたんですよ。だから、誰がどの仕事をやっているのか分からないんですね。それだったら、ちゃんとその例えばミーティングしたりしながら、こういうことをやっているというのを共有できればいいと思うんですよ。そうすればほかの方がやっていることって見えてくると思うんですけども、それやらない会社だったんです。だからもう、何か、お互い何やっているのか分からないから、すごいストレスというのか、こうストレス状態というのかな、本当に誰がどうなっているか見えない。実際コミュニケーションの取り方も、コミュニケーションうまく取れなかったんで、自分が困っていても上司の方がそれに対して教えていただけのわけでもなかったんで。普通に社内でハラスメントもすごく多かったんで、自分の直属の上司すら、一番上の上司にハラスメントされるというのが普通にありましたし、それがちょっと自分にもう苦しかったので、そのまま続けても仕方ないなど。実際事務職も合っていなかったと分かってきて。

3. 再就職の就職活動

退職前の2019年8月から親に勧めてもらった商工会議所のスクールでIT・パソコンの勉強を開始した。資格を取得して就職活動を行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響が懸念された。そのため、資格取得にはこだわらず、退職してから民間の障害者採用向け求人

サイトを利用して就職活動を行い、ウェブ広告のベンチャー企業に契約社員として就職した。テレワークで週5日、8時間のフルタイムで働いており、今の職場と働き方に満足している。

・前職で働きながら、並行して商工会議所のスクールに通いIT・パソコンの勉強を行う
(ITの勉強を行った先は親に教えてもらった)商工会議所のスクールです。昨年8月ですね。仕事をしながら、並行して始めました。半年ぐらい行きました。ほとんど毎日行きました、その会社の帰りだったりとか。1時間だけ受けたり。ITのマイナンバー導入だったりというので、日本でもIT化を進めていくということで、今どういう知識が逆に今あるのかなというのをその中で学ぶことができ、一方でエクセルとかワードに関してそういう使い方に関してもすごく学べたりできたので、それも同時に覚えていって。資格を取って、当時は就職しようと思ったんですよ。そのもくろみは、もうこのコロナによってちょっと大幅に瓦解してしましまして、だったらもう資格云々より、まず働こうというふうになっちゃって。だから、3月あたりまでは通っていましたよ。逆に運がよくなったなって、テレワークできるところでまさか採用してもらって、自分の手にあるお仕事で働けるといのは、今に至っては本当に幸せだなって。

・初職離職後に障害者採用向け求人サイトを利用し、ベンチャー企業に契約社員で就職
資格を取って。それで就職しようというのはあったんですけど、ちょっとこういう事態になってしまったので、いかんせんこれじゃまずいなと思っていて。障害者採用向けの求人サイトを少し自分でも探して、それを利用しながら探してみたら。今回はもう基準を明確にしたんですよ。前職の反省をすごい生かしたんですよ。前職って、今でこそビデオ会議でテレワークできたりっていうのはあると思うんですけど、そういうのは認めてくれない会社だったんですね。会社は出勤して当然のものだ、仕事は出勤するのが当たり前みたいな会社で。すごく言ってしまうと、自分に何か時代に合っていないな、かつ与え方に対して寛容性ないな。結局働き方が新しくないと多分自分は続かないなと、ようやく分かったことで。例えば、それこそテレワークのできるような会社だったり。それこそ私服で働けるような会社だったり、それこそ従業員数少なくても、こう働き方が柔軟性のある会社で働きたい。それこそ裁量の広い会社だったり、常に気づけることがあるような会社で、毎日毎日いろんな変化のある会社で働きたいというのがようやく自分の中で出てきたんです。それはすごい自分も過去に望んでいたんだなって。変わることが毎日毎日変わる、そういう環境にいたいなど。それを探して、そういう中だったら障害者雇用じゃなくたっていいや。むしろそれだったらベンチャー企業でも働きたい。最初だからちょっと無理のない範囲でベンチャーで働こうと思って、障害者雇用で見ながら探していこうと思った中で、偶然見つかったのが障害者採用してもらえて、今、4月からそこで働くようになった。契約社員なんですけれど、そこで働いています。もちろん、雇用はちょっと採用形態が変わっちゃったんで、

正社員じゃなくなっただっていうところに引け目はあるんですけど、それ以外の面ではもうほぼ今、満足しています。コミュニケーションすごい苦手なんですけれども。とはいえ、大分それでも楽しいなと思うことがあるんで。

- ・再就職先の企業での業務

今いわゆるウェブ系の求人、ウェブ系のお仕事ですね。ウェブ上でそう記事を書いて、代理で書いたり記事を書いたりしながら、それを人に向けて、会社企業さんに向けて発信する、予算にそれをお送りするという。広告ですよ、ウェブ広告。何というのか、編集アシスタント、編集プロダクションに近いと。もともとちょっとIT系の企業さんで働きたいというのが以前からあったんですよ。それを、もともとその学校に行って、前から、その会社辞める前から、そういうところでちょっと知識つけていたんで、そういうところで今こういう勉強していますよというのを、ずっとその知識だけ宣伝して、自分でもこうアピールしたんですよ、就職前に。そしたら偶然その会社さんが、ウェブということもあって、そのITですよ、IT関連のことだったらうちの企業さんでもやっているよというので、うちの会社でもやっているよというのでお話ししていただけたんで、自分も偶然今やっていることをマッチングさせることができたので、それで採用されたのかなと。

- ・再就職先での勤務形態、待遇

テレワークという形で、週に5日、平日ですね。8時間。何か別に契約社員だから、出勤時間とかは比較的融通が利くらしいんですけど、何かせつかくだからしっかりフルで働いたほうが厚生年金、社会保険もつくから、それじゃあそのほうがいいんじゃないかなと。月額でしたら、多いときは18万。テレワークのできるこの会社で、いろんな私だからできるこの会社、仕事の中で、もうその働く基準というものを自分の中に強く固めていって、でも今、契約社員という形ではあるんですけど、次お仕事探すときは、それこそそういう、何か正社員というよりは、もうその垣根のない形でもっとより幅広く探していけたらと。できるなら28歳ぐらいまでは続けていこうかなと。(テレワークについて)もうかなり自分としては満足しています。一つは、よく出勤の負担が、出勤する際の移動負担がないということです。

朝すごく出る前にすごくおっくうだったりするんです、それがまずないんですよ。だから毎日毎日朝起きて、気持ちの面で何かこう負ける、何か押されたりすることもなかったりできる。もう一つは、周りの顔を変にうかがうことない。何かある意味ですごいドライに働けるという。ミーティングがそう簡単にたくさんできるわけじゃないので、だからこそ、こう積極的なコミュニケーションを取っていかなくちゃいけないんですね。例えばメモを書いたりとか、あるいはそういうのを共有、何というかクラウド上にまとめたりということをするといくよくやるんですけど、それが逆にできるおかげで情報を漏らさなくなった。ウェブ上で完結できるおかげで、これやらなかったとか、これしたといった、そういうことが曖昧にな

らない。ただ、最初の頃、本当に根掘り葉掘り教えてもらえないまま、いきなりテレワークやっているととなっちゃったので、4月以降ずっとテレワークで働いているので、ちょっとこれはしんどかったなって。

4. 今後について

正社員として働きたいが、今の会社での雇用転換制度は利用せずに、改めて就職活動を行いたい。今の会社には満足しているが、今の会社で働く中で自分が働き方に求める基準を見つけ、自己決断をしたいと考えている。裁量のある正社員としての働き方や、テレワークでの経験から、工夫をすれば障害があるという理由で自分に制限をかける必要はないと考えるようになった。

・働く上でのこだわりを見つけたい

(今の職場での正社員への雇用転換は制度として) あるそうなんですけれど、恐らく多分、自分は別の会社へ行くかなと思います。今の仕事に対して不満があるわけでは全くないんですよ。ただ、もう少し次、やっぱり地域で働くのであれば、今度はまた僕自身でちゃんと見識持って働きたいなど。また違う見識をちゃんと持った上で働きたい。多分考えが変わってくると思うんで。必ずこのまま働き続ければ、何か基準は絶対出てくるはずなので、その基準を基に移さないと何か自己決断にならないなど。来年度以降から、3月か、下手したら9月あたりまでにはちょっと新しい会社を、この中で、その設けた基準の中で探していこうと思います。

・転職先の志望業界と求める職場環境、希望する働き方

I T系で探していこうかなと。それこそテレワークだったり、そういうことに関しても寛容な会社があれば、そういうところに自分も移行していきたいなど。逆にテレワークができないと働き方に自由が、それなりに幅広く取り組めるところをちょっと探していこうと。そのために今のお仕事をちゃんと続けていこうかなと。続ければ、必ず何か自分の中に基準が出てくると思います。

(理想の働き方の) 一つは、当たり前ですが、ハラスメントがないことです。普通にそういう罵声とか、そういったことがない、仕事の中でそういう暴力沙汰みたいなものが起こらないのは理想の中では理想ですね。当たり前、ないのが当然だとは思いますが、結構起きているので、ないことかな。あともう一つは、干渉され過ぎたいことかなと。あくまでお仕事でやっているわけですから、それを何かプライバシーの範囲まで侵入されたり、逆に自分自身も過去にあったんですけど、何か他人の持っている領域みたいなのに入り込み過ぎちゃって、すごいウェットな関係も追いかけてちゃうとかあるんですけど、人間関係で、そういうことは逆にしない。お互いある意味大事にしているものには触れないぐらいのとい

う、でもかといって、その一方でちゃんと仕事の中のいいところはしっかり褒め合っていきたい。いい意味でドライ。あともう一つは、ちょっとわがままだって思うんですけど、私服で働きたいなっていう。もともとオフィスに行かれた頃はカジュアルスーツで仕事しようというのがあったので、ジャケットぐらいは着て、ワイシャツとズボンはスラックスという、下はちょっと簡単な革靴ぐらい履いていこうと思っていたんですけど、ちょっとそれぐらい服装に対してはあんまり変に堅くないところがいいなと。服装に変な明確なルールがあると、それはそれでしんどかったという。前職、事務で。内勤にもかかわらず、内勤ってネクタイ大抵つけなくてもいいところ多いんですよ。社内のオフィスだったんで、社内で仕事してたんで、普通ネクタイって別に要らないところあると思うんですよね、営業じゃないなら。なのにうち、つけることを強要されてたんですよ。すごいやりづらかったんですよね、それが。服装ってすごい大事だなと。

・仕事の裁量がある正社員へのこだわり

(雇用形態は正社員が)いいなという、できれば。(自営業やフリーランスといった働き方も)少しやっていこうかなってもくろみがあったんですけど、まあ実際働いてみると会社で働くのもすごく楽しいんですね、自分としては。こう幅広い仕事ができる、いろいろ学べることもあるから今の仕事の中で、だったら、会社の中で転職して、ウェブの仕事を何か逆に副次的に持ちながらやっていってもいいですし。それこそまたウェブの仕事に入って、また今の仕事を延長的にやっていくという方法もありますし、変な話、何かよく会社員でも、会社員より何かそれこそ自営業とかになったほうが自由が増えるという話があるんですけど、むしろ自分は逆で、今の仕事を始めて気づいたことなんですよ、別に会社員でもすごい自由にできることあるよという、それこそこうやってテレワークであまり縛りつけられ……何か束縛されないような働き方もあるわけですから。その次もそれなりの裁量のあるところでしっかり働きたいなと。何かそういった中で働くと、逆にあまり障害というのは気にしなくなっていく。何か障害があるからできることすごい制限かけちゃっていたんですけど。そうじゃなかったなって。しっかり自分の中で苦手を分析して取り組んでいければ、逆にあまりそれを気に病むことはないなって。

5. フリーターのイメージ

今の会社でしっかり働けているため、自分のことをフリーターであるとは考えていない。フリーターへの悪印象はないが、フリーターは立場が弱いために生きていく上でのハードルは正社員よりもずっと高いと感じている。

・フリーターについて悪印象はないが、自分のことをフリーターとは思わない。

(自分のことはフリーターだというふうには)あまり思わないですね。むしろ今の会社さん

でしっかりお世話になっているんで。(フリーターについては)悪印象ないです。その選んだ方の自由だと思いますよ。ただ、フリーターは、そういう状況、立場ですと、実際自分も今、こういう状況になって分かることなんですけれど、立場は果てしなく弱いんです。ある意味で生きるハードルは、一般的な正社員よりはるかに高いかなと。変な話言ってしまうと、世間的なまなざしなんか物すごく厳しくなりますし。あなた何、フリーターなのって言われたりとか、正社員なのというふうに言われてしまうことも普通にありますが、言ってしまうと、生きるハードルはなかなか自覚を持ちづらいところではあるんですけど、はるかに高いと思います。

6. 新型コロナウイルスの働き方に対する影響について

新型コロナウイルスの問題があったが、幸いにテレワークのできる会社に再就職できた。今後コロナウイルスによって働き方が特別に変わることはないと考えているが、自分の中で働き方の基準はしっかり作る必要性は感じている。

・今後の働き方への影響

今後は何か変わるとしたら、働き方の基準がこれからまた自分の中でつくっていく必要が出てくるかなと思っていて、逆に今後変わるということは、特別変わるということはないのかなと。働き方の基準だけは、本当につくっていかなくちゃかなと。それ以外の面では特にないかなと。

7. 家族について

弟は大学院に入学したために家を出て一人暮らしを始めているため、現在は両親と3人で住んでいる。収入があるため、両親からの援助は基本的に受けていない。結婚については絶対にしたいというわけではない。

・家族について

(ご両親と一緒に住んでいらっしゃる)はい。兄弟がいたんですけど、その兄弟というか、弟が今、家を出て一人暮らし始めている。大学院に入学した関係で、それで今、三人暮らしです。

(今も収入があるから、特にご両親から援助を受けなくても大丈夫な感じですか。)はい、もう基本受けていないです。

・結婚について

(将来結婚したいとか、何か見通してみたいなものをお持ちですか。)できたらなあっていうぐらいで、結婚が。特にできなければ、それは仕方ないと思うぐらいです。まあできればいいやという、何か絶対したいというわけでもないんですよ。ご縁があればしたいなど。

Ｊさん

京都府在住・23歳・男性・大卒

インタビュー実施日：2020年8月1日

インタビュー担当：小杉

ノート担当：清原

石川県出身で、大学時代から京都府在住のＪさんは現在23歳。大学はメディア系の学科で、大学時代にフランス語、ロシア語も学び、1ヶ月間の短期留学と、1年間の長期留学を経験。大学自体がインターンシップに積極的で、就職活動ではメディア業界に進んだ。内定を得た会社にて卒業前の今年3月に体験入社を経験したが、仕事があわないことを痛感し、契約書を交わす前に退職した。6月からアルバイトとしてメディア系の会社で週5日フルタイムで働いており、空いた時間には就職活動の準備として作品制作に励んでいる。来年の4月までにはアルバイトを辞めて、進路先を決めたいと考えている。

1. 学校時代と進路選択について

石川県で公立中学校を卒業し、費用面を考慮して高校も公立普通科に進学。音楽が好きで吹奏楽部で活動していた。周囲の友達の進路が大学進学であったため、大学に行くことは普通のことと思っていた。ネット文化が好きだったことから、高校3年生になって大学選びではメディアについて学びたいと考え、京都の大学に進学した。しかし将来については特に考えていなかった。大学時代にはメディアの勉強とインターンシップ、そして語学の勉強に励み、1年間休学してフランスに留学した。留学経験は人生観に大きな影響を与えた。

- ・県内有数の進学校（公立高校）に進学し、高校3年生から考え始めた大学選び

私立は嫌だなと思ってましたけど。ちょっとお金がかかるかなと思ったので公立一本。普通科です。(高校というのはほとんど皆さん、大学に進学するような石川県内でも有数の進学校という風に考えてよろしいですか。)それは合ってると思います。(高校ではアルバイトは)禁止です、はい。(大学でなにを学ぶかということを考え始めたのは)高3のときですかね。何かメディアに関することを学びたいなと思って、それに関係するところに行けるんだったら。(進路に関する相談は両親にも友達にもしたが)うん、別にいいよみたいな、オーケーみたいな、そういう二つ返事でしたね。(大学はストレートで第一志望に入りましたか)ああ、そうです、はい。入りました。(メディアに行きたいと思ったきっかけは)ネット文化がすごい好きでして、それは、これは何で構成されてるんだらうって調べたら、やっぱりいわゆる根本にはメディアがあるってということが調べたら分かったので、あ、じゃあ大学せっかく行くんだったら、それ学びたいなというのは感じましたね、そのとき。

・大学時代に力を入れた、メディアの勉強とインターンシップ

メディアを一通り学ぶということに全力を尽くしてた記憶があります。(インターンシップは)〇〇新聞社に。本社に行って、ちょっと軽いインターンみたいな、行ったことがありますね。ほかに〇〇広告代理店行きましたね。(1年生のときにそういうのは経験がありますか。)企業と何か問題を解決していくみたいなやつを。1年だけやったことがあります。(そういう授業を1年生のときに)取りました、はい。2年生のときはあれですね、映像の編集のをちょっと、お仕事じゃないんですけど。実際、本当に流す、大学の入学式とかに流す用のために、外部から監督を呼んで実際に本当に映画を1本撮るということをやりました。いい経験になると思います。(外部に行ったのは3年生になってから)はい、そうです。(インターンシップはどのくらいの期間だったのか。)4日以上ですね、4日以上連続で訪問していくという感じでしたね。(朝日新聞とアサツキーは両方大学が企画してものでしたが、どちらも期間は)ほぼほぼワンデイでしたね、大学が企画してくれたのは。(大学が企画してくれてない、自分で探したのもあったんですか。)ああ、行きましたね、大学4年生のときに。あれも1日でしたね。大学が単位で、単位がもらえるやつだと、もう6ヶ月間行きましたね。授業扱いなので、かなり長かったですね。暑いときから寒いときまで行ったような気がします。3年生のときです。映像系の会社の、本当に実際にインタビューていうか、もう本当に撮って実際に流すという映像を本当に自分が編集して流してもらおうということをやりました。(6ヶ月間行った単位になるインターンシップの内容は)3人くらいで行ったんですけど、ほかの子が考えた企画を基に何か商品を紹介するみたいな感じですかね、簡単に言えば。そういうのを自分は技術班、技術職として一緒に行ったっていう感じですね。あの子らはプランナーとか。プランナーっていう感じですね。それで自分はカメラとか。はい、カメラとか、いわゆる本当に編集をメインにやるような感じで行きましたね、はい。

・大学時代の留学で広がった人生観

(専攻した言語は)第1がフランスで第2がロシアですね。(留学先は)フランスに留学しました。第1なんで、はい。語学を学びたかったので、語学附属の大学に行きました。1年間、ちょっと留学してて、休学しましたね。(それは何年生と何年生の間に行かれたんですか。)3年生の終わりですね。

(大学では留学を推奨されているということですか。)休学をする必要性があるので、メディア(学科)は、自分がいたときはあんまり推奨されてなかったですね。やっぱり専門の授業があるときと留学したいとき、大体かぶっちゃうということがあったので。今はどうか分かんないけど。今は、もしかしたら推奨されてるかもしれませんが。(そうすると、大学でお勧めのコースで行ったんじゃないかと、自分の意思で探して行ってきたんですか。)はい、そうです。やっぱり人生で一度は海外に長期滞在、実際に住んでみて現地の人と交流してみたいなっていうのはあって、それで行くとしたらフランス、フランス語学んでたんで、やっぱりフ

フランスに行きたいということで、フランスに行った感じですね、はい。(留学しようと思ったのは) 大学2か3のときに、ちょっとうっすら思っていましたね、ちょっと。どうなんだろうみたいな。外国語学部にいるのに留学もしないなんて、ちょっとおかしいなというのをちょっと思ってたんですね。ちょっと行こう、そのときに思いましたね、はい。(大学のコースの中に短期留学みたいなのは) ありましたよ。ロシアにサマースクールに行きましたね。2年生の夏に行きました、1ヶ月ですね、短期は。短期だとやっぱり足りないなと思いましたがね、はい。

(その海外経験って、今の自分に何か影響を与えていますか。) 自分、もともとすごいシャイで静かな子やったんですけど、海外に放り込まれると嫌でもしゃべらないといけないので、帰ってきたら、よく友達に、よくしゃべるようになったねって言われました。

(そこで何か人生観というか、物の見方が広がったとかってありますか。) ありますね。もう日本が特に変な国なんだなということがよく分かりました。

(留学に行く費用は) 返すという約束で親に借りました。だから返します。

(大学時代からアルバイトはやっていましたか。) もちろんです、はい。ゲームセンターです。(留学に行く前に) 1年ですので、あんま長いというわけじゃないですけど。

2. 初職の就職活動

大学4年生になる前に休学し、1年間のフランス留学を行う。帰国後に就職活動を行い、メディア関係の会社で内定を得る。しかし、卒業前の3月体験入社をしたところ仕事内容が自分に合わないことを実感し、契約前に辞退した。学ぶことと働くことの違いを実感し、自分の人生の方向性に悩み、進路に迷っている。

・留学後に始めた就職活動と内定先の辞退

(帰ってきたのは3年生の2月頃で、どんな感じでしたか。) 同級生がいなくなっていて、もう帰ってきたら浦島太郎ですね、もう。あれ、誰だ、君はみたいな感じなんですよ、ゼミ戻ったときでも。就活では、ああ、そうか、もうそんな時期だよなと思って、履歴書を取りあえず書いて先生に見せるということ、小さいことからやり始めていきました。(履歴書はゼミの先生に見てもらったのですか。) はい、先生に、頭から見てもらって。(キャリアセンターとかは使われましたか。) 1回使いましたね。僕はキャリアセンターよりかは、やっぱり大学の、もともとそういう専門の出身だった先生なので。よく業界を知ってる方だったので、その方によく聞いてましたね。(ほかは情報収集する必要はなかったということですね。) そうですね。すごいよかったです。(その過程で志望先はどのように絞ったのでしょうか。) とりあえずジャーナリズムはないなと。あと、デザインも違うなと。省けたのはよかったですね。最初の頃は、もう全部が選択肢かなと思っちゃったんで。大分、昔よりは絞れたと思います。(まだ範囲が広いですが、その先の就職活動はどうされたんですか。) そうです。一応

は入ったんですけど、やっぱりちょっと思ってたのと違うところに入っちゃったんですね。それでも、ちょっと辞めて、もう一回就活してますね、今。(一回は就職を決めたが) 契約する前に辞めましたね。(4年生に帰ってきてからの就職活動ではかなりいろんなところにエントリーシートを出した感じですか。) そうですね、メディア関係にひたすら出してた記憶がありますね。書類選考で落ちてるともたくさんあったんですよ。とりあえず10以上はもう確定ですねもっとあると思うんですけど、今、確定で覚えているのはこれだけです。(その中で、一次面接まで進まれたっていうのは) 少なかったですね。5社。(役員面接まで行ったのは) 2社ですね。(最終的に合格して内定を取れたのが) 1社です。(雇用契約の書類を出す前に辞められたってことですか。) はい、そうです。何か体験期間みたいなのがあって。書いてなかったんですけど、あったんですよ。それやってみて、あ、違うなど。(体験期間というのは卒業直前の3月に) 1ヶ月ぐらい。

・合わなかった仕事内容

(何が違ったんですか。) 何ていうんですかね、こっちは大学で学んだことのはずなんですけど、もう何ですか、やっぱり。よく最近の業界って、クロスオーバーするじゃないですか、いろんな職種が。デザインでも、どこに行ってもデザイン考えてるし、何ていうんですか。昔の話ですけど、法律やったらどこでも法律適用するよねみたいな、そういう考えがあったんですけど、いや、でもそうじゃなくて一個の業界は、じゃあどんなことをやるのか。やっぱり差別化があるわけじゃないですか、細かいとこで。そこもちょっと自分と適性が何なんだろうというのはちょっと考えるべきでしたね。取りあえずこの業界だっというのはいっちゃんたというのはいっちゃんあったのかなということですよ、はい。(合わなかった経験というのは具体的には。) メイン業務でですね、メインの、仕事の80%、70%をこれやるということなんですけど、それが合わなかったんですよ。技術職で入ったんでできなくはないんですけど、これを俺はあと40年以上続けていくのかって考えたときに、ちょっと違うなっていうのが強くなって。雰囲気とかスタイルは全然よかったですけど、やっぱり問題は肝心の、ずっと座って何やってるかということの内容がやっぱりちょっと合わなかったですね、はい。やっぱり仕事内容ですね。人間関係は特に何も悪いことはなかったです。すごくいい人たちがばっかだったので。自分がするのはいわゆる体験だったので、もう朝の9時から夕方6時に終わってたんですけども、ちらっとみんなのタイムシートを見たんですね、タイムカード。帰ってる時間が夜中の12時とか11時だったんで、多分、俺入ったらこういうことになるんだろうなって思いました。仕事内容が自分とは合わないやつを長時間もやるのは、ちょっとやばいなというのは思っていました、はい。

(技術職、メディアの技術系のどの分野ですか。) 音響は一回考えたんですけど、いや、音響は今回の就活でないなと思って、消えました、はい。(やっぱり映像の編集とかですか。) まあ、それに近い感じですかね。ちょっと今、かなとは思ってます、方面的に。

(メディアでもデザインのほうは違うなと思ったのはなぜですか。) 友達にデザインに行った子がいて、確かにクロスオーバーするんですよ、メディアとデザインというのは、かなり似てるんで。ただ、その業務内容的にはやっぱり細かいところで差別化があったのが分かったの、デザインは、あ、なるほど、自分はちょっと、自分の考えてることとずれてるなというのは分かったの、やっぱり最初、実際に学んでる子が近くにいたのがありがたかったですね。

・卒業時に悩んだ人生の方向性

(卒業時点には、将来を考えるとときには、メディアの学習と外国語学習をどんなふうに生かしていたと思われたんでしょう。) すみません、それすごい悩んで、いっぱい経験できたのはいいんですけど、自分は何者なんだろうというのを、実はぐらぐらだったことに気づいたんですね、そのとき。だから、今ちょっとすごい悩んでいますね。自分って、どういう方向性なんだろうみたいな。メディアといってもたくさんあるけど、一体何を人生の一部としてやっていくんだろうというのは、ちょっと今すごい悩んでるところです。(大学選ぶときも、結構もうメディアと決まったら、あれこれ選ばずにずっと決めてますよね。) はい、一直線です、もう、はい。すぐにぼんって一直線で考えて、正解だったと思います、はい。(ここに来て、今までと全然違う自分を感じるのでしょいか。) ああ、そうですね、はい。世の中の、今まで学びだったのが働くということに、この両者の世界って、やっぱり大きく違うんだなっていうのを入れてすごいひしひしと感じてます、はい。

3. 学校を離れた時から現在のアルバイト生活について

内定を辞退して大学を卒業後、新型コロナウイルスの影響で4月、5月とアルバイトに応募したものの働くことができず、無収入で過ごした。6月からメディア関係の会社で週5のフルタイムでアルバイトを開始した。アルバイト先で業界の仕事について学びつつ、就職活動の準備の一環として空いた時間に作品制作を行っている。来年までには可能であれば正社員として進路先を決めたい。

・内定辞退後のアルバイト

(辞めたときは内定もほかはなく、どうしようと思いましたか。) とりあえず途方に暮れましたね、どうしようと思って。まさか。一応はやっぱり元とはいえ志望に近かったの、1年か2年はやるだろうと思ったんですけど、まさか契約する前に違和感がこんなに来ると思ってなかったの、1ヶ月途方に暮れましたね。しかもコロナウイルスだったんで、バイト先もあんまりなくなってたんで、どうしようって思って、1ヶ月はとにかく自分を見詰め直す期間で、はい。(メディア関係でアルバイト先は探したんですか。) そうですね、それを探

して、ちょっと。まあ、事務やから聞くじゃないですか、現場の話とかを。それを聞いて、また進路に生かしていこうと思いました。ネットで調べて、応募して。(アルバイトが決まって働き始めたのは) 6月ですね。(4月、5月というのは収入なしですか。) はい、そうです。だんだん切り詰めていく感じがつらかったです、はい。(アルバイトへの応募は) 5月に一回送ったんですけど、コロナの非常事態宣言が終わるまで待ってくれって言われて。何個か応募して、そうですね、もう来てくれとは言ってたんですけども、ごめん、いや、仕事がなくなったからというか、中止になったからが多かったです、はい。(今のアルバイト先はメディア関係で、そこでどんなことを吸収しようとお考えなんですか。) いわゆる技術職とプランナーの方がいらっしゃるの、そのお話を聞いて自分がどう感じるかとか、自分の思い描くものと近いかどうかをちょっと今、そこを吟味してますね、はい。本当ちょっとずつですね、ちょっとずつ、やっと見えてきているのかなとは思っています、はい。(でもまだプランナーでいくとか決まったわけではないんですね。) そうです、確定はしてないです、はい。(今の生活は) もう来年までには辞めたいですね。とりあえず来年までには何か、何でもいいんで、進路先を決めたいですね。何でもいいんで、はい。

・アルバイトとしての働き方

週5ですね。フルタイムです。(時給は) 最低賃金ですね。

・志望先の業界についての認識

(メディア関係の業界のいいところや悪いところについてはどう考えていますか。) 一般職と比較すると、一般職というのは、この会社に何年いたかっていうのが重要だと思うんですよ。プランナーとかやったら、この会社に何年プランナーとしていたかという、内容よりはもう、ずっとそこで働いていたかというのが最初は重要になってくると思うんですけども、自分のメディアというのは、何をつくったかという、ブツが比較的重要になってくるんじゃないかなと最近思って。物か時間かということですかね。自分はどちらかといえば、物のほうがいいかなみたいなのが。時間を浪費というわけじゃないですけど、それよりは何かつくって、これつくったんで入れてくださいみたいな感じのほうが、ちょっと自分の性に合ってるのかなって、ちょっと最近思ってますね。ビジュアル化されてるってところもすごくいいとこの一つですね、はい。(業界の悪いところとしては) やっぱりどうしても業界の特質上、やっぱり長くなりがちですかね、労働時間が。やっぱりメディア、まあ、それもちろん覚悟はしてたんですけど、ちょっと短縮できることいっぱいあるやろというのは、ちょっと思うところはあります、はい。

・今後の希望する働き方

(どういう働き方を今後していきたいと思ってますか。) やっぱりコロナで思いましたね。

どこでも働けるという仕事を、働けるような内容をやっていきたいなと思いましたね。(自分に技術とか何かを持ちたいということですか。)今のところは、はい。(正社員や雇用契約の長い仕事へのこだわりは)やっぱり願わくばそこに行きたいですよ、はい。(業界にはフリーランスの人もいると思いますが、それへの憧れはありますか。)特に何も思っていないです。(フリーターと呼ばれても)いや、別に何も思いません。何の問題もないです。

・先に就職した友人たちについて

(1年先に卒業された友人たちを見て、どんな感じがしますか。)いや、みんなすごいなって思いますね。みんなフルタイムでやって、朝から晩まで働いて。みんなは先にゴールがある感じなので、非常に今、耐える時期なんですよ、みんなにとっては。それを泣き言一つ言わずに、聞いたことないんですよ、本当に。帰りてえとかって、何かあるじゃないですか、タイムラインってわけじゃないですけど、来るじゃないですか、ツイッターとか何かで。みんな言わないんですよ。みんな、よう泣き言一つ言わずに耐えて、相手、しかも人のことを思って働けられてるなって、それすごいことだなって、すごいちょっと感心というか感動してるっていうのがありますね、友達見てるとね。(その友達から今、どんなふうに自分は見られてるって思いますか。)まあ、何かいい意味でも悪い意味でも変わって言われてましたね、自分。普通のことをあんまりやらないっていうか、普通とやっぱり一本離れてるところにいるから、まあ、ちょっと予想どおりやったわって言われる。もう全然自分は変人って言われることに関しては何も思っていないですし、友達も別に、それが変人だってことを嫌と思わない子たちが付き合ってくれてたんで、よかったですね。

・就職活動の準備としての作品制作

(今の仕事以外の趣味で自分が打ち込んですることはありますか。)絵を描くことですかね、はい。メディアはちょっと基盤に、実は絵というものが学問上あるので、それはちょっとと大学にときに知って、ちょっと絵を勉強してました、学問に関係してるので、はい。大学入ってから、メディアって何だろうという、調べてたら、とりあえず絵は関係するよねっていうのは、よく記事に出てたので、大学の、もう1回生か。1回生だったね、1回生のときに始めました、はい。デジタルもアナログも、どっちともやっていますね。鉛筆でも。(その影響で就職先の幅が絞り込み切れなくなっているということはあるですか。)そうですね。それも関係していると思います、はい。(フランスに1年留学されたことも、何か影響していますか。)ああ、もう美術館巡りしましたね。美術館とか博物館に行って、ずっといるみたいな、一日中、作品見ているというのはよくありました、はい。(美術に対する関心というのはかなり磨かれた感じですか。)そうですね、もうすごい興味を持ちました、大学に行って。

(何か自分で作り上げた作品がなければ就職活動はうまくいかないのでしょうか)その可能性はかなりちょっと高いと思います、現時点、はい。今も制作、この行きたい方向性に近

いものをつくってます。(アルバイトが終わった後に) おうちでつくってます、はい。何かしら(就職活動に)役に立つとは思っています、はい。1日、最低でも1時間は確保できるように、ちょっと頑張りたいなと思ってます。忙しい中でも、そのフルタイムで、はい。(大学時代からやってきた、仲間で何かフィルムつくったりとか、そういう経験がやっぱり今につながってるんですかね。) ああ、そうだと思います、ひしひしと生きてるとは思います、はい。

4. 新型コロナウイルスが与えた働き方への影響について

新型コロナウイルスの影響で卒業後2ヶ月間はアルバイトへの入職ができなかった。また、新型コロナウイルスの影響が大きく出た業界と出なかった業界の差についても認識した。

・新型コロナウイルスが与えた影響：もうバイトが一切……。旅行関係とか飲食関係の人たちの働き方って、こんな感じって言ったらちょっとよく分かんないですけど、やっぱり業界の特質があるんだっていうのは思い、強く、コロナウイルスの影響で大きく出た、はっきりしたような感じがしましたね、そのこと。業界特有の臭いが、はい、しました。

5. 家族について

家族は会社員と公務員の両親と大学生の妹の四人家族。両親ともにフルタイムで働いており、大学時代には奨学金は借りずに済んでいた。

・(両親は内定したところを蹴ったときに何かおっしゃいましたか。) 笑ってましたね。ようやくやったな言われて、はははは。まあ、頑張れよって言われましたね、1年頑張れよとは。

Kさん

福岡県在住・28歳・女性・高卒

インタビュー実施日：2020年8月1日

インタビュー担当：小杉

ノート担当：清原

鹿児島出身で福岡県に在住の28歳女性。高卒で派遣社員。高校で推薦された自宅から通える会社に2社目で合格し正社員として入職。入社3ヶ月で経理の仕事を任されたが、労働条件と職場の人間環境がよくないため4年ほどで退職した。福岡に行き、アルバイトで働いていたがその後実家に戻り、小児科の医院に事務の正社員として入職して3年ほど勤めて退職し、再び福岡へ戻った。アルバイトをしたのちに派遣登録し、グローバル企業の派遣社員として事務を務める。2019年1月から10ヶ月間働いたのち退職して、違う派遣会社を通してクレジットカードの会社で事務の派遣社員として働いたが、5ヶ月で退職(今年4月)。再び、最初の派遣会社と派遣先に戻って現在働いている。

1. 学校時代と進路選択について

中学、高校と鹿児島県の公立校に通う。高校は農業経営科だが、農業に就いた人はあまりおらず、将来の希望も特になかった。小・中学生のころからパソコンが得意で、高校で情報処理検定とワープロ検定を取得した。高校での進路選択は就職希望で、高校推薦で事務職として会社に正社員として就職した。

・中学・高校時代の進路選択と学校での過ごし方：(将来については)特に考えてなかったです。(一生懸命やったことは)部活はしてました、バレーボール。(運動系のほうが好きなほうだったのかな。)うんうん。(高校も公立ですか。)公立です。農業経営科。制服がかわいかったのと、バイク通学できるのと、あと、科が3つあったんですけど、農業経営科は男女半々ぐらいだし、実習ができる、外とかで動いたりとかするのが好きだったから農業経営科にしました。(就職への不安は)特に何も考えてなかったです。農業経営科は1クラスです。結構小・中学生の頃からパソコンが得意で、何か資格とか先生が別で取らせてくれて、そのまま先生のほうからそういう事務の仕事の推薦してくれたから、そのまま事務の仕事に就きました。(資格は)情報処理検定とワープロ検定でしたね。でも、農業経営だから、あんまりパソコンの時間、週1とかしかなくて、何か放課後とかに先生が教えてくれました、試験対策で。(試験を受けるのは)私ともう一人だけでした。

・キャリア教育について：(農業の実習とか)結構たくさんありました。地元の農家さん(か

らの話を聞くことは)年に1回とかぐらいでした。あんまり覚えてないけど。(実際に農家さんのところに訪問するのは)1回ぐらいですかね、行ったの。ああ、インターンシップあった気がする。販売とかには行ってます。何か草花専攻、花を育ててたんで、普通に土日使って行ったりしてました。1回か2回ぐらい行った気はします。

・(卒業するときは2010年3月の卒業なんで、リーマンショックとか知ってる。)聞いたことはあります。(でも、みんな就職できたのかな。)そうですね。みんな決まってきました。

2. 初職の就職活動

初職の就職は、高校の推薦で2社目で合格した。事務職の正社員として実家から通える中小企業に入社した。しかし、残業代が出ないが残業が多くなったこと、職場の人間関係が良くなかったことなどから4年ほど勤めて退職し、福岡に移住した。

・初職の就職活動と就職試験:(その情報の資格を生かした形で情報系の会社にすんなり就職決まったのですか。)2社目で決まりました。(先生がお勧めしてくれた会社ですか。)そうです、そうです。(その会社の高校の先輩は)全然いなかったです。(高校での進路は)みんなばらばらです。何かゴルフのキャディーさんになったりとか。あんまり農業に就く人は、実際にあんまりいないですね。(どこに応募するかは先生と相談の上で)そうです。(応募する前に企業に見学に行くのは)受ける前はなかったです。(一回目の試験は)体育祭の時期でしたね。駄目でした。(その次に先生が持ってきてくれた会社は)業種は違うけど、事務でした。高校の先輩はいなかったです。何かあんまりそんな毎年来るような求人じゃないから、先生もあんまり詳しくない感じ。(就職試験は)面接だけだったかな。面接と何か作文みたいなものを書いたかな。(その会社に就職を決めたのは)事務職で実家から近かった。

・初職の就職先の業態:中小企業です。(従業員規模は)300いるぐらい、どうかな。本社があって、何かいろんな事業をしてる会社だったんで、何か細かいところの、何か遠い事業とかはあんまり分かんないんですよ。大手じゃないけど、手広いんですよ。(配属された事務所は)正社員だけだと、20人ちょっと、30人はいなかったです。中古車のオークション会場だったんです。パートさんとアルバイトさんになるのかな、いたと思います。(正社員と同じぐらいの方がいましたか。)うん。

・労働条件:手取りは16(万円)ぐらいだったと思います。初任給は12(万円)ぐらいだったと思います。(最初の頃のお金の使い方は)実家にお金入れてました。3万。(2010年の4月に入って辞めたのが)2014年ですかね、4年間だったから、2014年の7月とか8月とかそのぐらいだったと思います。(その間の仕事の内容は)どんどん追加されていって、人がどん

どん辞めていくから。量がどんどん、結構ブラックだったので。最初1ヶ月ぐらいはあんまり残業なかったと思うんですけど、2ヶ月目からは、もう普通にみんなと同じようにやりました。(残業時間は月に) 時期にもよるんですけど、普通だったら、5時半以降ということ……、二、三十時間あるかないかぐらいです。オークション会場だから、オークションの当日と前日が3時間ぐらいずつ残業で、そのオークションも何か周年記念みたいなのを年に3回するんですよ、周年なのに。そのときは、結構夜中の3時とかまで残ったりとかしてたりとか。その時期は1週間ぐらい遅い時間が続くから、めっちゃ多い時期もありますよね。(仕事の量は増えていったが労働時間は) 変わらない。

・退職の理由：辞めたいっていうのは、もうずっと思ってた。何か、先輩も何かちょっと癖がすごい人で、当たり強かったりとか、残業代出ないしみたいな感じで、ずっと辞めたいなって思ってた、そのとき付き合ってた彼氏が大学卒業して就職したから、そのタイミングでその彼氏についていきました。それを口実に辞めました。(当たりの強い方は) 気分屋さんでした。五、六個上ぐらいの人で女性。結構きつい人でしたね。で、何か、事務員、女の子だけなんですけど、何か真っ二つに割れてて、こっち対こっちみたいな、派閥みたいなのが。それで辞める人が多かったです。(同期で入社した人は) 2人だけど、2人とも辞めちゃいました、すぐ。あとは、本社と上司に挟まれてました。経理だったから、何か会社からはめっちゃ厳しく言われるし、で、常務からはどうにかしてよって言われるしみたいな、そんな感じで。経理の先輩も辞めちゃったから、私、多分入社3ヶ月ぐらいで経理1人でやってたんで、全然知らないのに。だから、本社の言いなりになるしかなくて、分かんないんで。頑張りました、頑張りました。

3. 初職を退職後から2社目の就職活動まで

初職を退社後に福岡に移住した。初職の正社員経験に疲れたこと、また家事をしなければならぬ生活になったことから正社員の仕事ではなく、アルバイトの仕事を探した。週5日で1日5、6時間のアルバイト生活を1年ほど続けた後、私生活の変化から実家のある鹿児島に帰郷する。再就職先をハローワークで探し、その中から友人の勤める小児科の医院の事務職の正社員に採用された。

・1社目を辞めて福岡に移住してアルバイト生活：福岡に引っ越しました。籍は入れたりしてなくて、一緒に住んでただけ。(仕事は) アルバイトしてました。(アルバイト先を探した手段は) 何か求人サイトみたいな何か。取りあえず時給がいいところ。夜の仕事じゃなく。(アルバイト先は) 雀荘のホールスタッフです。週5入って時給が1,200円かな。1日5時間ぐらい。(夕方) 5時から11時だったかな。何かそのときの彼もめっちゃ忙しくて、帰ってくるの夜中とかだったんですよ。あっちも疲れてるし、私も疲れてるから、あんまりしゃ

べったりとかなかった感じで。何かもう正社員は嫌だったんで。何か家のこと、結局全部しないといけなくなったし、もし結婚したときに辞めるってなったら、また何か辞めにくいじゃないですか、短期間について考えてアルバイトだったと思う。多分（2014年の）9月とかだったと思います。（その仕事は）楽しかったです。（働いた期間は）ちょうど1年ぐらいだったですね。（2015年の）8月とかに辞めたと思います。（辞めた理由は）実家に帰ることになったんで。別れたからです。

・鹿児島の実家に帰って再就職先を探す：仕事探しました。次は小児科で働きました。（正社員ですか。）そうです。（2015年の）12月ぐらいから働き始めて、それから2年。2018年の6月末とかで辞めたんですかね。（仕事先を探した手段は）職安です。田舎だから、もう職安行くしかないんですよ。（その病院に就職先を決めた理由は）地元の同級生もいたんですよ、そこに。その子も勧めてくれたというか、仲いい子だったんで。じゃあ、もうそこにしようみたいな。助け合えるし。

4. 2社目の就職から退職し、再び福岡へ移住するまで

友人も務める医院で2年間働く。実家から離れて暮らすことを希望して、福岡へ移住するために2社目を退職。退職後に一時的に祖父母の介護を行い、また友人の店をアルバイトとして手伝った後、再び福岡へ移住した。

・労働条件：資格は持ってないんで、何かいろいろしました。受付もしたし、会計というか、レジみたいなぐらいの会計もするし、看護助手みたいなこともしてたし。田舎のちっちゃい小児科だけど、でも、1軒しかないんで、小児科が。先生は1人。何か眼科と小児科が入ってる病院だったです。従業員は10人ぐらいですかね。でも、そこも入れ替わりが激しいから。先生は（小児科と眼科で）1人ずつ。看護師さんが3人いて、眼科のほうもですよ。（全体で）20人いないぐらいですね。入ったときは14（万円）ぐらいだったと思う。（徐々に上がっていき、最後は）18（万円）とかはもらってたと思います。でも、冬と夏で給料が違うんですよ、忙しさが違うから。夏は16だけど、冬は18とかそんな感じ。（冬は）インフルエンザとかでめちゃくちゃ忙しいんで。（前と同じで実家に生活費を入れる。）うん、です。貯金は結構たまりました。しかも、何か戻ってきてから月2万でいいよってなったら。

・職場環境：（前みたいにお局さんとかみたいなのがいないとか、何かそういうのはありましたか。）もう何かそういうのはなかったですね、特に。何か先生が癖あるけど、気に入られればやりやすいみたいな感じで、先生と仲よくなれたからやっていけました。小児科は女の先生で、眼科の先生が旦那さんだったんですよ。男の人は1人しかいなかったです。（働いた期間は）3年いなかったぐらいで辞めました。（2018年の6月末で辞めてボーナスはもらえ

ていないが)何か延長延長でずっと先生に延ばされて、やっと辞めれた感じだったから。(ボナスは)もらってない気がする。(辞めたいと言ったのは)2月とかに言ったのかな。4月ぐらいで辞めようとしてたんですよね、たしか、最初。忙しいから、忙しいから、もうちょっとで延ばされました。(辞めようと思った理由は)やっぱり福岡に行きたいと思ったからです。というか、帰りたくなかったんですよ、もともと、実家には。別れたけど、福岡好きだったし、何かあんまりお父さんとうまくいってないから、帰りたくなかったんですけど、帰ってこいってうるさかったんで、親が。仕事辞める1年前ぐらいから実家に帰ってなくて、友達の家泊めてもらってたんですよ、ずっと1年間ぐらい。鹿児島市内と家賃一緒ぐらいなんで、だったらもう給料高いし、好きな福岡に戻ろうと思って。(一人暮らしできるぐらいの基盤は築けたと)はい、そうです。

- ・2社目を退職後に祖父母の介護を行い、友人の手伝いでアルバイト

本当だったら、夏にはもう福岡に行く予定だったんですけど、おじいちゃんがもともと介護が必要で、そこでおばあちゃんまで体調崩したから、そこから2ヶ月ぐらい、おばあちゃん家に何かもう泊まり込みで行って、手伝いに。実家からちょっと遠いんで。めっちゃタイミングよかったです。辞めた次の日とかだったんで、体調崩したのが。1ヶ月ぐらいでよくなって、そして、よし、福岡行こうかなって思ってたなら、今度は鹿児島市内でお店やる友達が、忙しいから手伝ってほしいって言われて。お店手伝ったのは、8月だったと思います。1ヶ月ぐらいかな。ガールズバーだったから時給高かったです。日給で、日によるけど、8(千円)から1万(円)ちょいぐらいです。週5ぐらいですかね。もういいでしょって感じで辞めました。(福岡に行けたのは2018年)10月です。

5. 福岡への再移住と3社目への再就職

2018年10月に福岡で住居を契約し、2019年1月から派遣社員として働き始める(3社目)。10ヶ月間働いたが、職場環境に変化があったため退職した。

- ・住居探し:友達が福岡に住んでたんで、仲いい子が。その子に付き合ってもらって、前もって内見とかして、10月に契約、10月から住めるようになったんですけど、引っ越してきたのは11月入ってからです。無職で契約しました。

- ・2019年1月から派遣社員として働くまで:次の年の1月から派遣社員です。その前の1ヶ月ぐらいは、昔いた雀荘にお世話になりました、また。雀荘行きながら就活していたって感じです。(派遣会社に登録しておいていいところが見つかったのですね。)はい。

- ・3社目の仕事と労働条件:パソコンしか使わない仕事です。アプリの会社だったんですけど

ど、そのサービスのモニタリング。エクセル使えれば大丈夫ぐらいでした。週5です、フルタイム。(手取りで月収) 18から20(万円)です。何か途中で部署が替わったりとか、働く時間帯が替わって、夜勤手当みたいな、深夜給みたいなのがつくようになったから、結構、入って何ヶ月かですぐ上がっちゃったんですよね、給料が。(鹿児島とは収入の水準が)全然違います。派遣先はめちゃくちゃ大きい会社でした。海外じゃないかな、大本は。何かいろんな国に、国ごとに本社があるみたいな、本社、何か。外国人働いてます、一緒に。(その会社を選んだ理由は) パソコン業務で、できれば電話がなくて、髪とかネイルとか服装とか全部自由だったんで。何か登録しに行って、その日に紹介されたところに行きました。自由なところ、ここしかないですよって言われて。そしたら何か条件めっちゃよかったから。何か結構田舎だから、髪の毛の色とかうるさかったんです。まあ、無視してたんですけど。(拘束が嫌で福岡に来たのですか。) うん、そうですね。ネイルとか絶対駄目だし。(そこからずっと一人暮らしなんですか。) はい。

・3社目の退職理由：2019年に働いて、その年の10月とかに辞めました。部署が、何か前いたチームが解散になって違うところに連れていかれたんです。そっちがちょっと合わなくて、ちょうど更新月のタイミングで辞めました。何か雰囲気っていうか、仕事内容もあんまり好きなことじゃなかったし。一番は雰囲気かな。質問したら教えてくれるんですけど、何て言えばいいんですかね、あんまり人当たりがよくない人ばかりだったって言えばいいですか、何かコミュ障みたいな。こっちからも聞きにくいしみたいな。その後、1ヶ月後にすぐまた再就職しました。

6. 4社目の就職と退職

派遣社員として4社目に勤めるが、不慣れな業務があったため、5ヶ月で退職。

・2019年11月から派遣社員として再就職先で働く：そこもまた派遣で、クレジットカードの会社でした。事務職で、何か申込みがあったお客さんに該当する申込用紙みたいな、契約書みたいなものを選別して送ったりとか、そんな感じです。(仕事を続けたのは) 2020年の4月まで。11月末からだから、5ヶ月。(辞めた理由は)そこは、何かめっちゃ残業が多かったのと。何かちょうど私が入ったタイミングで忙しかったらしくて、聞いてた残業量より多かったですよね。電話もあって、私まだ電話はしてなかったんですけど、何かもう聞いて無理だなと思いました。結構何かお客さん、一般のお客さんとしゃべれないといけなくて。何かこっちから発信するんですけど、結果的に話して何かクレームみたいなこと言われたりとか。嫌になっちゃいました。私にはできないなって思った。

・労働条件：月20(万円)ぐらいです。残業代(込み)で。

7. 5社目の就職

3社目に勤めた会社でもう一度派遣社員として働くことになった（5社目）。

・5社目への就職：（今の仕事はいつからですか。）今週の月曜日です。初めて入った派遣会社に戻りました。戻ったんだけど、チームは全然違うところです。一番最初にやってたモニタリングに近いようなことですね。（最初の派遣会社の相談に乗ってくれた人がまた探してくれたのかな。）そうですね、何かずっと決まらなくて、仕事がない。そしたら、また前の会社とか戻るの嫌ですかって言われたから、いや、いいなら戻りたいですって言って、そのときの営業の担当の人が覚えててくれて、私のことを。そのまま何か社内選考とかも、何かもう飛ばして、相手の会社の人と面談して、もう決まりました、すぐ。めっちゃいい人でした、助かりました。今度はいいいとこです。いい部署です。

・労働条件：（今の賃金というのは前と同じぐらいですか。）下がったんですよ。前はシフト制で、しかも夜働いてたからよかったですけど、時給が。今、通常の月一金の9時～5時みたいな感じなので、9時半から6時半のもう固定なんで、時給下がるらしくて。

8. 新型コロナウイルスの影響

新型コロナウイルスの影響で求人が減り、またWi-Fi環境が整っていなかったためテレワークの業務に対応できないということで3ヶ月間就職先が決まらなかった。

・3ヶ月間就職が決まらず、Wi-Fi環境の有無で落とされる：（新型コロナウイルスの影響は）受けましたね、コロナで全然、3ヶ月就職決まらなかったんで。まあ、でも、実質就活したのは2か月ぐらいなんですけど、最後の。本当に決まらなかったです。（求人が）少ないし、やっぱり条件いいところは倍率がものすごく。あとは、Wi-Fiの環境がないからっていうので何社か落とされました。（テレワークをさせるということで）Wi-Fiが整ってる人じゃないと駄目って言われました。パソコンだからWi-Fiがないと駄目なんですよ。

9. 今後の働き方について

正社員としての働き方に関しては、1社目の労働環境が悪く、就職活動時に募集時の情報と実際に提示された労働条件が異なることが多かった経験から、現在は正社員を探していない。残業を断りやすく自由度が高い派遣社員として働いているが、30歳を超えると働く先が減るといった情報に不安を感じている。

・正社員の求人：探してないです。何かもう1社目がひど過ぎて、1社目のところがひど過ぎて、病院はめちゃくちゃ待遇よかったですけど。そんないいところのほう珍しいじゃない

ですか。高卒だし、福岡だから、そもそも何か大きい会社とかは入れないし、ブラックのところが多いから、何か正社員になったら残業も断れないし、何か簡単に辞めれないみたいな、何かもう嫌になっちゃいました。前は探してたんですけど。派遣の1社目からクレカに移るときのタイミングで正社員も見てたし、受けてたんですけど、結局何か給料が結構安くて、正社員の初任給って、諦めました。本当は30（歳）になる前に正社員になりたかったんですけど。何個か受けて、話聞きに行ったら、実際ネットに載ってる情報と違ったりとかが多かったから、何かもう嫌になりました。何か30（歳）を超えた後、大丈夫かなって感じで。その後、派遣先あるのかなっていう。何かエクセルもっと、もうちょっと上級者向けのスキルを身につけたほうがいいのかなのというのは思いましたね、このコロナ期間の就活中に。何か30、女性30を超えたら、何か派遣先も減ってくるって聞いたんですよ。

・（周りの人から働き方についての意見は）全然ないです。

・フリーターについて：（あなたのような状態を一般にはフリーターとかいうふうに言ったりするんですが、フリーターと呼ばれることに対して何か抵抗とかありますか）フリーターって言われたことですか。多分ないと思います。（自分のことをフリーターと言われたら違うと思いますか。）ええ、違うと思います。（フリーターのイメージは）フリーターは、何かバイトしてる人。

10. 自分の生活と家族について

プライベートを大事にしたいと考えている。結婚願望はなく、また現在の家族とは経済的には完全に独立した関係を保っている。

・仕事以外の趣味や大切なものについて：プライベートを大事にしたい。結婚願望なくて、何か結婚はしたいなって思える人が今後現れればいいなぐらいにしか思ってないです。

・両親との関係：（両親との間で仕送りは）全然何もないです。お父さんはサラリーマン。お母さんは臨時職員になるんですかね。多分9時から16時とかだと思います。日にちは週5です。（母は）ずっと仕事をしている。（兄弟は）弟2人と妹が1人です。一番下の子はまだ中学3年生です。（弟の二人は）もう社会人で。

Ｌさん

栃木県在住・22歳・女性・高卒

インタビュー実施日：2020年9月5日

インタビュー担当：堀

ノート担当：清原

Ｌさんは現在22歳、栃木県出身で大学中退後に東京に移住。中学時代は吹奏楽部の強豪校に進学するために勉強を頑張ったが、高校では吹奏楽部に没頭して勉強にあまり時間を割かなかった。そのため、大学は学力面で無理せず進学できる場所として都内の私立大学を選び、実家から往復5時間かけて通った。オーストラリアに1年間留学し、大学3年生の1月に帰国した後に同年度で退学。ワーキングホリデーに行くために東京でアルバイトに励んでお金を貯めようとしていた矢先にコロナ禍でアルバイトの勤務日数が削減された。現在は栃木に帰っての正社員採用を考え、自動車教習所に通っている。

1. 学校時代と進路選択について

栃木県で中学、高校と吹奏楽部に打ち込んだ。高校受験では県立で吹奏楽の強豪校に進学するため勉強にも励んだが、高校時代には勉強面がおろそかになり、現役の学力で行くことができる東京の大学の観光系学部に通った。

・栃木県で高校まで過ごし、吹奏楽に打ち込む：中学時代はちょっと行きたい高校があったので、ずっと勉強ばかりしてた感じ。私、吹奏楽部だったんですけど。その強豪とか。県立の学校に入りたくって、それで勉強を頑張ってた感じです。（高校時代は吹奏楽に燃えていたという。）はい。（アルバイトは）高校のときはしてないです。何か高校では逆に部活ばかりやり過ぎて、勉強のことがすごいおろそかになっていて、それで、何か高校生のときにあんまり何か真剣に将来のことを考えていなくて、何かとりあえず、私の学校はみんな大学、高校卒業したら大学に行くというのが普通のことみたいな感じだったんで、その流れで何か今の自分の偏差値でも行けるような大学を探してという感じで、何か流れちゃったみたいな感じです。大学も栃木から東京の大学行っただけですけど、途中で辞めちゃったという感じです。（中退したのは大学）3年生の1月。

・学校の進路指導：（インターンシップとか、キャリア教育はあまりなかったですか。）あんまりです。とにかく何か国立大学に入れたいみたいなところで。

・大学の選び方：（行きたい学部は）何かそれも結構何か考えが甘くって、何か自分が学んで

て楽しそうなところがいいなと思って、何か雑誌とか読んで、観光系学部というのがあるんです。観光系学部いいなと思って、そこから自分の偏差値に合ってるような大学探しに行きました。でも、何か強くその観光に関する職業に就きたいというよりは、何か楽しそうな勉強だなみたいな感じの。甘い気持ちで選んでしまったという感じです。

2. 大学時代の過ごし方と中退に至るまで

東京都内の大学まで往復5時間をかけて通ったが、勉強の内容が薄いと感じていた。大学1、2年時は留学のためにTOEICの勉強に励み、オーストラリアへ1年間留学をしたが、帰国後に日本の大学での勉強に抱いていた違和感が強くなり、中途退学をした。

・大学時代の過ごし方：何か私の大学の卒業要件に、何か1年間留学することというのがある。それなので、大学2年生まではずっともうひたすらTOEICの勉強をしながらバイトしてお金をためて、それで、大学2年生から3年生まで1年間、オーストラリアに留学をして、帰ってきたんですけど、何か帰ってきてみて、何か栃木からずっと通ってたんですよ、東京の大学に。それで、何かそれが結構遠くって、往復5時間ぐらいかかっている。何か帰ってきてみて、何かこんな5時間も通ってやる内容じゃないなみたいな感じで、日本の大学が。何か思ってしまった、何かそれだったら、何か自分でほかにやれることあるんじゃないかみたいな感じで、辞めてしまったんですよ。

・留学先について：半年間だけ言語学校に行って、残りの半年は大学の1学期分というか。（留学先の大学では）何か異文化コミュニケーションみたいな。割と充実してたというか、何か成長が感じれたかなみたいな。（オーストラリアを選んだ理由は）大学がこの中から選んだらいいですよみたいな、その中であって、何かオーストラリアが何となく、私、昔、英会話をずっとやっていた。そのサマープログラムで何かオーストラリアに行くみたいなプログラムがあって、それ、子供ながらに行きたいなって思ってたことがあったんで。行く条件が、まず、何かTOEICの点数がある程度決められていて、その点数に達した生徒が行ってくるみたいな感じで。それは500点いったら行ける。もともと全然、英会話やってたけど、英語、得意なほうじゃなくって、だから、とりあえずそれに向けて（大学1、2年生は）勉強してたという感じで。何か留学をする必要があるということは知ってたんですけど、でも、それも込みというか、それも楽しそうだなみたいな。

・実家から都内の大学まで通った理由：1個の上の姉がいるんですけど、その姉も何か東京で一人暮らししてて、それを両親がお金出してたんですけど、それで、何か私も私立の大学に行くというのがちょっと想定外だったらしくって、何かちょっと一人暮らしのお金は厳しいから、何か自分でお金出せるんだったら一人暮らししていいよって。

・大学での過ごし方：大学に行き始めて、結構何か大学がやってる授業がすごい薄くって、思ってたより、何か今日何か勉強できたなとか、何かいつもあんまり思ってなくて、例えば何か2時間半かけて大学に行って、プリント1枚解かされて、じゃあ、今日はこれで終わりですとって帰ってきちゃったり、何か大学の、でも、行ってる意味別にないこれ、というのはずっとあって、でも、せっかくだから、今TOEICの勉強してるし、500点突破したから、とりあえず留学は行ってみちやおうって、大学在学中に、いる間に行っちゃおうと思って、オーストラリア楽しかったんですけど、帰ってきてみて、何かオーストラリアの授業と全然やっぱり違うというか、あつちは結構何か、今日、これ、何か自分で知識得られたなとか、すごい毎回思っていて、帰ってきてみて、またそのプリントとかやる生活に戻っちゃって、何かそういうのもあって、違和感がどんどん大きくなっていった。

・中退する際の相談：一応親にだけ言って、考えがまとまったときに、(大学の)担任の先生に言いました。両親はとりあえずよく考えろとは言われたんですけど、何かよく考えた結果がこれだよみたいなことを言ったら、何か、でも、自分が決めたことだから、いいんじゃないみたいな感じで。大学の先生にも何か特に反対はされずに、分かりましたみたいな感じで。

3. 大学中退後のフリーター生活とワーキングホリデーへの準備

大学を中途退学する際に、オーストラリアでのワーキングホリデーに行くことを目標にしていた。そのために英語ができるアルバイトを探し、東京のイングリッシュパブで週5日のフルタイムで働いて貯金をしようとしてしたところで、新型コロナウイルスの影響を受けた。

・辞める際に考えていた今後の予定：そのとき、まだ実家に住んでたんですけど、ちょっと辞めたからには、本腰入れてアルバイトして、東京で一人暮らしをしながらお金ためて、それで、何かまたワーキングホリデーとかに行つて。1年間の留学じゃ、何か結局何か強みになるほどは英語が習得できなくて、結局大学も辞めちゃったし、大学で観光のことを全然プロになれるほど学べたという感じもしなくて、だから、もう一回何か自分の力で外国に行つて、何か英語が自分の強みになれるぐらい勉強したいなと思ったんですけど。

・大学を辞めてからのフリーター生活：何か東京に実際住んでみたら、結構自分の考えが甘かったというのもあって、何か思った以上にめちゃくちゃお金がかかって、一人暮らしで。何か少しずつお金ためてたんですけど、何か1年ぐらいフリーターをだらだらやっちゃって、その矢先に何か今こんな感じの状況に。(コロナに遭っちゃったという感じなんだ。)はい、そうなんです。(大学3年生の1月に辞めた直後からアルバイトを始めたのですか。)そうです。イングリッシュパブみたいな、すごい外国の方がお客さんでほぼみたいなところを選んで、何か日常的に英語が使えるところにしようと思って、だから、ずっと夜働い

てました、夕方から出勤して朝帰るみたいな。東京です。(3年生の1月に辞めて上京したのは) 2ヶ月後ぐらいですね。ネットで英語、バイトって検索して、一番最初に出てきたところにもう応募して、決めたみたいな感じで。

- ・労働条件：時給は1,050円くらいで、10時から25%アップみたいな。社会保険入る前は23万円くらいに行っちゃって、すぐに社会保険、これ、入んなきゃ駄目だということになって、ちょっとそれに気づいて、それで、社会保険入ってからは19万円とか、その辺です。(社会保険の加入は)会社です。(東京で暮らせないことはないけど、貯金は厳しいみたいな感じですか。)そうですね。

4. 新型コロナウイルスの影響

新型コロナウイルスの影響でイングリッシュパブでの仕事を休業をせざるを得なくなりました。両親や地元の友人が心配したため、一時は栃木の実家に帰っていたが、新型コロナウイルスの影響が和らいだ2020年6月に東京に戻り、スーパーでアルバイトをしながら生活を立て直おそうとしている。しかし、先行きが見えない中で不安定な生活を続けることに不安を感じ、一度栃木に帰って正社員として働くことを視野に入れ、現在は自動車教習所に通っている。

- ・新型コロナウイルスにともなう休業補償：栃木にちょうど帰ってるときは、3月、4月って休業してたんですよ。その休業してた分の手当は、社会保険入っているということで100%もらえ。(経営者の方から説明があったということですか。)そうです。

・新型コロナウイルスによるイングリッシュパブの経営への打撃：一番売れてたというか、ちゃんと経営してたときの半分にいくかいかないかとかかな気がします。(今後の働き方について)何かもう契約自体、更新してもらえるか、すごい危うくって、何か結構、私が働いたのが大きな店だったんですけど、何か従業員の総契約時間が10分の1になっちゃったらしくって。だから、何か今30人ぐらい働いているバイトがいるんですけど、その中で何か3人くらいしかもう残れないみたいな感じで言われちゃって、それで、何かそこに自分が入る、何かフリーターの人、結構多いんで、そこに自分が入るかなみたいな。ましてや掛け持ち始めたし、何かまだ一本で続けてる人とかもいて、だから、もうそれは辞めて、親とかも何か、親とかも友達も、そこにもう何か未練をずっと持ってもしょうがないみたいな感じで言われてしまったんで、多分、近々辞めることになると思います。

- ・将来に向けた生活設計：(このコロナでいろいろ働き方影響受けたわけですけど、将来に関する考え方で変化はありましたか。)何か今までは結構、何だろう、夢だけ見て、ただ生きて

たって感じなんですけど、これはそろそろ現実を見ないと暮らしていけないぞって思い始めました。このまま何か誰にも相談しなかったら、自分は何してたんだろうという感じがします。

・勤務状態：(イングリッシュパブでの仕事は) 今も一応籍は置いてるんですけど、でも、2月ぐらいから本当に、まず、お客さんが来なさ過ぎて、外国の方も今いないし。もうがつつりシフトが削られちゃって、そうなんですよ、週5日とか、シフト、6日とか出しても、週1で勤務できるかできないかとかの感じになって。結局今月で社会保険も抜けなきゃいけないことになっちゃって。(新型コロナウイルスの影響で) 大打撃受けちゃって、はい。本当にコロナが大変だったときに、もうがつつり、何か親が東京にいてほしくないと言われちゃって。その間は帰ってきてと言われたんで、3、4、5月の丸々3か月間、栃木に帰っちゃって。(6月に何かよくなりそうだったから戻ってきたのですか。) うん。

・現在の生活：(当面は東京でフリーターでやっていこうみたいな気持ちなんですか。) 何かそれも本当に両親にもだし、周りの友達とかにもすごい何か心配されちゃって。私、今、社会人1年目の年で、みんなが。就職して、何かみんないかに社会人が安定してるかというのを身にしみて多分感じてる。だから、何かフリーターでいてもいいことないよみたいな、すごい言われて。だから、本当に、それだったら、オーストラリア行くとか、一旦置いといて、正社員になるのもありなのかなとか、ちょっと考えてます。今とりあえず、何か栃木に、何か両親がもう栃木に帰って就職すればとも言い始めていて、何か、でも、そのためには絶対に車移動が必要だから、免許だけ取ってくれって言われて、免許代をこの間もらって。(自動車学校に通ってるんですか。) そうです。だから、もうバイトも減らされちゃったし、ちょうどいいやと思って。スーパーのバイトの休みの日に教習所行ってるという感じです。(栃木に戻ろうかどうかで) 葛藤してます。自分は東京がいいけど。

・副業としてのアルバイト：先月からスーパーのアルバイト始めて。近くの何か、やっぱりコロナの影響がないところにしようと思って、近くのよく行くスーパーでアルバイト募集ってチラシがしてあったから。(時給は) 1,030円です。週3、4ぐらいで入れてもらってます。固定費がぎりぎり払えるぐらいです。十二、三万円くらい。とりあえずもう貯まってたお金をちょっとずつ切り崩しちゃってるみたいな。

・栃木に帰って正社員の仕事に就く場合の希望：それが、今のところ、本当になくなって、多分何か、1年間フリーターやっちゃったのと、大学辞めちゃったのが大きいと思うんですけど、何か自分の中で就活というものに何か、周り意識差がすごいあって、何か私は今、何か特に、昔から特に夢とか、将来の夢とかがあんまりなくて、何かオーストラリアで楽し

かったから英語を生かす仕事をしたいし、何かゆくゆくは海外に住んでみたいなど思ってたんですけど。何か職業的な夢が全然、昔からなくて、だから、何か私の中で就職って何かフリーターじゃなくなるぐらいの認識しかないんですよ。(観光の仕事には)こだわりも特にない。何か日本でずっと生活していくって腹を決めたら、何かこの1年間、本当に何かお金にずっと悩んでた1年だったから、ちょっと何かぜいたくは別にする気はないけど、苦しい、苦しいと思わないでいいような、安定した。今のところそれぐらいしか。

5. フリーターとしての働き方について

高校時代の友人は正社員として安定した生活ができており、一方で自分はフリーター生活のため不安定な状態だと感じている。元々が楽天的な性格であり、またイングリッシュパブで働いた経験からフリーターとしての生活に危機感を持つことができなくなっていたが、職業上の夢が持っていないことに疑問も抱いている。

・友人からフリーターとして見られているか：やっぱり私の高校時代の友達が今でも付き合ってる人は多くって、その高校時代の友達というのが、何かやっぱり勉強頑張ってた人たちだから、結構ちゃんとしたというか、何か堅めの職業とかに就いてる人が多いんですよ。何かそういう人から見ると、何か結構ちゃんぼらんの生活してるとか思われてそうだなって思います。(フリーターだからということですか。) はい、そうですね。彼氏がいて、彼氏に何か、で、彼氏が1個下で、今就職が決まったという状況なんですけど、何か全然自分がせっぱ詰まってることに気づいてないよねみたいなこと言われて、何かちょっと。自分が結構、何か楽道家というか、でも、人生どうにかなるかなみたいな感じできちゃってて、何かそれが逆にしっかりした自分の周りの人たちに何か不安を与えてるといふ。(周りの友人はほとんどが正社員として働いている状況ですか。) そうです。

・イングリッシュパブで働いていた時の状況：その人たちは結構何かフリーターとか、20代半ばぐらいのフリーターの人が多くって、何かそこに1年間いたから、何か危機感がどんどんなくなっていった。何か今までの人生だったら、考えられない生き方してる人たちがいっぱいいるんだなって、何か思っちゃって、でも、何かその人たちは結局、自分がやりたいことがあって、その途中だからそこで働いているという人も多いから、何か自分とは違うというか、ちゃんと夢がある人が多いから、そこは自分とは違うなとは思ってるけど。何かやっぱり何々の職業に就きたいという夢がないと、何か結局ぼんやり暮らしてるだけみたいな感じになっちゃうのかな。

・理想の働き方：何かこの間、ふと、イングリッシュパブのお客さんに何か自分しかできない仕事をしたいよねみたいなことを言われて、そんなこと別に考えたこともなかったなって、

結構自分的には何か衝撃だったんですけど、でも、何か今のところ自分にしかできないことなんか全然分かんないなという感じで、それが一番なんだろうけど、何か今はただ働いているというよりも、お金を稼ぐみたいな感じの考え方に私はなってますね。

・東京に上京した理由：応募してたときに栃木から応募してたんで、結構何か断られちゃう、3か所、4か所ぐらい断られて、イングリッシュパブだけ受かってみたい。栃木から通おうとしたわけじゃないけど、現時点で栃木に住んでたから。イングリッシュパブを始めて何ヶ月間かお金ちょっと貯めてから一人暮らししたんで、その貯める期間は栃木から通ってた。電車で1本で1時間半くらい。

・フリーターについて：(自分のことフリーターだと思いますか。) 思います。(フリーターのイメージは) とりあえず正社員じゃなくて、アルバイトだけで生活してる人みたいな。不安定だし、何か余裕がないみたいな。でも、その分、何か自由ではあるかなとかちょっと思っちゃうけど。私、何か世間体とかあんまり気にしないんで、その分の心的には、何か責任もないし、心的には自由だけど、やっぱり生活見ちゃうとすごい不安定だし、コロナのあれで、こんなにもシフトが削られるとか、何か去年は全然予想してなくて。こんなにすぐ壊れちゃうんだな、今の生活がとはちょっと思います。

・仕事以外の時間の過ごし方：とりあえずもう本当にバイトばかりしちゃう感じで、今は何かちょっと友達がホームプロジェクターを買ってくれたので、それでたまに何か映画見るぐらいしか。

6. 家族について

父親は貿易の仕事でインドネシアに長期の単身赴任生活をしてきたため、仕事や生活に関する価値観の面で父親の影響は受けていない。両親からの経済的な援助は自動車教習所に通う費用のほかは受けておらず、生活費は自分で賄っている。仕事へのこだわりはないが、東京に住みたいと思っている。

・家族の状況：お父さんは、ずっともう結構昔から単身赴任で。インドネシアに住んでて、何か貿易みたいなやつをやってて。何かあんまり昔から会わないみたいな。全部会うとき会うとき久しぶりみたいな感じです。(ワーキングホリデーに行きたいとか、観光とかについてのお父さんのお仕事の影響は) お父さんにはほぼ影響も受けてないし、相談も何もしないみたいな感じです。全部事後報告です。(実家にはお母さんが一人だけ) そうです。お姉ちゃんは地元、栃木に帰ってきて就職したんですけど、今はもう同棲しちゃってて、今は違うところに住んでます。

・経済的援助：(両親から経済的な援助は運転免許のお金ですか。)そうです。(生活費は自分でやれている。)はい。

・結婚について：何か特にそういう話はあんまりしないですけど。何か20代後半ぐらいに結婚したいのと、あと、やっぱり何か栃木からいろいろ通ってたことにすごいストレスがあったんで、結婚したらもう東京に住みたいっていう感じ。仕事は、でも、ずっとしてたいかなと思います。(仕事へのこだわりは)ないです、はい。

・東京での生活について：(東京に来るということは、いつから意識していたか。)何か東京の大学に行きたいとは高校のときから思ってたんですけど、特に何か強く住みたいとかは、何か通いで行けるかなって感じで、住みたいとはそんなに強くは思ってなかったです、最初は。留学から帰ってきて、栃木から東京の大学にまた通い出してすぐですね。何かやっぱりきついわみみたいな感じで。(一人暮らしがしたかったから東京に出たかったという話ではないということですか。)そういうことじゃないです、はい。(東京に通う時間が)ちょっと長過ぎるなみたいな。

Mさん

福岡県在住・27歳・男性・大卒

インタビュー実施日：2020年8月5日

インタビュー担当：堀

ノート担当：清原

Mさんは福岡県出身、福岡県在住で現在28歳。自閉症の障害を抱えている。中学、高校は県立の学校に進学した。中学からは囲碁に打ち込んだ。大学では地理学を学びたいと大阪・東京へ出ることを考えたが、リーマンショックの影響で地元の大学に進学。就職可能性を考えて情報・プログラミングを専攻にしたが、情報分野での就職には適性がないと判断した。就職活動では内定を1社から得たが、内定先の労働環境に疑問を感じて辞退した。大学卒業後は簿記等の資格取得のため受験勉強を1年半続けた後、父親が経営するお店を3年間手伝う。並行して大阪で就職活動を行って内定見込みを得ていたが最終的に不採用となった。その後、派遣社員として働いたがパワーハラスメントにあったために2ヶ月で退職し、現在は百貨店での販売職のアルバイトを行っている。新型コロナウイルスの影響で勤務日数を減らされたが、現在の職場では人間関係にめぐまれているため、今の働き方が自分に合っていると感じている。

1. 学校時代と進路選択について

Mさんは福岡県で生まれ育った。自閉症の障害を抱えており、小学校4年生までは特別支援学級で過ごしたが、小学校5年生からは普通学級で就学した。当時は障害者手帳を持っていたが、現在は持っていない。障害のある人のボーイスカウト活動を通して大学生に接する機会があったことから、大学進学を志望するようになった。大学からは福岡を出て東京や大阪などに出て地理学を学びたいと考えていたが、リーマンショックの影響を受け、地元の大学に進学した。就職可能性を考えて情報・プログラミングを専攻に選んだが、自分の適性を考え情報分野での就職はしないことにした。

・小学校4年生まで特別支援学級で過ごし、小学校5年生から普通学級へ：小学校の4年まではこっちでした。小学校の5年から普通で。（高学年になって、普通学級に入られた。）はい。そういうのもやっぱりあって、当たり前人間、普通の方が100%できるものが、例えば半分ちゅうか、4分の1しかできないとか、そういうのは、やっぱりありますね、今でも。自分では、やっぱりこういう部分はちょっと無理してやらないほうがいいなという、やったら何か大ごとになるかもしれないというのは、そういう思いはありますし。

・囲碁に打ち込みながら過ごした学校生活：生まれも育ちも福岡ですね。中学校の頃とかは、囲碁が趣味だったもんですから、最近はちょっとだいたいブランクとか、仕事の関係でやってないんですけども、学生時代とか、囲碁をしてましたので。囲碁のプロにちょっと憧れを持ったりとか。（中学・高校時代は）部活でもやっていた。公立高校とか、どっか行けるところ行けたらいいなという感じでした。）普通科ですね、はい。時間があるとき、空いているときは囲碁を中心にやってましたね。（アルバイトは）高校のときはなかったですね。大学1年のときですかね、初めてアルバイトとかしたんですね。単発というか、もう知り合いのところちょっと手伝うぐらいだったんですけど。（友人関係には囲碁の関係者が多かったか。）高校は、多しちゃ多かったんですけども、囲碁以外でも学校のだったりとか、ちょっとプールとか、陸上とかも、1週間に1回ぐらい二、三時間ぐらいやってたりもしてたもんですから。部活とかには入ってなかったんですけど、1週間に1回、ちょっと何か軽くやる感じで。陸上は短距離ですね。水泳も1時間ちょっと軽く泳ぐみたいなの。後々やっぱりやっとなってよかったですなという思いはありましたね。大人になってやっぱり運動しなくなって、体重が増えたりとかですね。大学入ってから、やっぱり通勤じゃないですけど、通学とかで歩くことが増えて、歩く速度とかがそのおかげで速く歩けるようになったのかなというふうに考えられましたし。

・高校の選択理由と大学への進学希望：（高校の友達）は）大学行く人のほうが多かったですかね、就職する人よりも。何人かは就職の試験とかを受ける人もいましたけど、大学行っている人のほうが、やっぱり比較的には多かったですね。（高校を選んだのは家から通いやすいという理由が大きかったのですか。）まあ、それもだったですし、両親がその高校だったものですから。もう高校入ってすぐぐらいからもう大学に行こうかなというふうには考えていました。運動するところとかでも、大体ボランティアで大学生とか来てたりしてたもんですから、それで、やっぱり先輩方とか、お話ししたりとかして自分も大学に行けたらなという思いがあったからですね。

・ボランティア経験から受けた影響：障害者のボーイスカウトとか、そういうのとかですね。プールとか、運動もそうなんですけど、自分は、もう知的障害、生まれつき持っていたもんですから、その関係で、ちょっとやっぱり本格的な部活は無理だったけども、運動でもそういうところでの運動だったですね、水泳とか、陸上とか。スタッフも普通にもうその会員で入っていて、高校時代はちょっと子供の面倒というか、そういう感じでやったりとかはしてましたね。（そのときに大学生の方と知り合って、大学に進もうかなというふうにお考えになったということですか。）はい。チャレンジしたいなという思いですね。

・高校の進路指導：インターンシップとかいうのは、そうですね、地域のあれで、高校2年

のときに、1回ありました。どこか、若松の、北九州の中でどこか、協力しますよというところでちょっと入っただけなので。企業には行ってないですね。もう何か職場体験みたいな感じなので、インターンシップとは、またちょっと違う感じだったですね。大学のときに初めてだったですね、インターンシップというのは。(高校で)私は職場体験に行ったのは、通っていた幼稚園。(子どもに関わるのが好きだったのか。)その当時、多分、そうだったと思いますけども。でも、知っているところとかで、ちょっと向き不向きとかもあったもんですから、軽い感じで行ったんですけど、そのときはまだそういう実感とか、そういう発想とかもなかったですし。

・リーマンショックの影響を受けた大学選び：(高校)1年の頃は、地理学科とか、何かありましたので、日本全国で一番行きたい大学というのも考えとったんですけども、高校2年になってから、ちょっとリーマンショックで、やっぱり家計の影響とかも恐らくあったような感じだったので、もう何か近いところの大学にしてくれというふうに言われて、もうちょっともう限られちゃって、もう情報の勉強しようかなという感じだったですね。大学に入ってすぐは、まず、情報の勉強が自分に向いているかどうかというのがやっぱりあったもんですから、行きよったのは行きよったんですけど、結構、就職にはちょっと向かないかなというのはありましたね。情報の勉強、専門的には、それはちょっとあれかなというのはありましたね。もともと何か数学とかが得意だったもんですから、その関係で、多分、理系のほうが向いているかなとか思っていました。(大学の情報の勉強では)プログラミングもやりましたね。

・高校時代に力を入れたこと(囲碁以外)：高校3年のときは英検の勉強とか、漢検の勉強とか、軽くそういうのもやったりとか、勉強しながら覚える感じで。

・高校の推薦で合格した大学：(大学は現役生の時に合格したのか。)そうですね、推薦で。(実家から通ったのですか。)そうですね、はい。

2. 大学時代の経験

大学時代には囲碁のサークルに加入し、ボーイスカウトの活動も継続した。就職活動と並行して卒業研究を行った。就職のことを考え運転免許を取ることを考えたが、そこで障害の問題を再認識した。

・大学時代のサークル活動：いろいろとサークルも何件か見て回ったんですけど、結局、もう囲碁部に入ることになっちゃってですね。部員が少なかったもんですから、ちょっと本格的にはできなかつたんですけど。廃部の危機を何とか免れないかなという。(大学の外の囲碁のクラブへは)そこまでは行ってないですね、高校のときみたいにはですね。部活のことで

部員を集めるにはどうしたらいいとか、本格的な部活とは違う感じで、サークルらしい部活をつくったりとかはやって、例えば、もう絶対囲碁をしないといけないとかいう束縛とかじゃなくて、もうただ単に会って、囲碁したい人だけするとか。(囲碁そのものよりはこういうふうなサークルをつくっていくかということに力を入れていたのか。) そうですね。そのほうが多分維持できるんじゃないかなという考えを持ってですね。

・大学時代のアルバイト経験：アルバイトも少しはやったですね、大学のときはですね。(奨学金は) 受けてない。

・大学時代の友人関係：(大学全体の行事みたいなものに力を入れていたということですか。) そうですね、はい。それに参加したりとか。

・大学時代のボランティア経験と旅行経験：ボーイスカウトのほうは行ってましたね、何度か。陸上とかのほうはもうちょっと、大学の通学が時間とかがあるもんですから、やっぱりゆっくりする時間、少しくったりとか、一人旅とかもしたりとか。その頃は、結構何県か行ったりもしたんですけど。まあ、時間があるときに時々行ったちゅう感じですね。

・卒業研究：一応ありましたね。まあ、大変だったですね、何とか卒業できたちゅう感じはあったんですけど。(就職活動が) 終わってからといいますかね、就職も両立しながらという感じではありましたが。(就職活動は) ぎりぎりまで。

・障害の再認識：やっぱり運転免許の絡みですかね。やっぱり、みんな大体 18 (歳) とかで免許取っている人とか、親戚とか幼なじみの子供とか、みんなそうだったんですけど、自分は、あんまりそんなに興味がなかったのもありましたし、最初はもうそういう気持ちだったんですけど、やっぱり先々でも、ちょっと病気があったもんですから、もし何かあって事故を起こして、自分が死んだりとか、相手を死なせるちゅうのは嫌ですし、大学 3 年の頃に何か京都のほうで何か事件があったんですよ、小学生を何かはねた事件なんです。それが、たしか運転したのが何か障害のある方だったという、何かちょっと聞いたもんですから、それで、もう自分も何かもう故意でないのにやって、人生もうあれしてしまうかもしれないと思うと、もうやめとこうかな、もうなるべくできる範囲で頑張ろうかなという気持ちをやっぱり持つようにはなりましたね。(運転免許を取ろうと思ったのは) 資格でよく免許とかやっぱり言われてたもんですけど、やっぱり免許よりも、持ってる人が少ない資格とかいうので、ちょっと簿記の勉強とか始めたりはありましたよ。もともと数学は得意だったもんですから

・大学時代のキャリア教育：(大学のキャリア教育とかインターンシップ等について) 大学の

ときにはよく利用しましたね。キャリア支援センターで求人票見たりとか、面接の練習とかしたりとか、講座を受けたりとかはやっぱりやったですね。大学3、4年ですかね、やっぱり。2年のときも時々見てましたけど。(インターンシップへは) 1回、そうですね、北九州のほうのホームセンターにですね。2週間ぐらいですかね、たしか。有償(インターンシップ)ですかね。一番行ったのは1件だけなんですけど、ほかのところも何かいろいろと、福岡県全体でやりますよみたいな感じであったもんですから。それで、たまたまホームセンターに行ったという感じですかね。(ホームセンターを選んだ理由は)接客とか商品の補充とかで、ちょっと向いているかなというか、商品の補充とか、割とどちらかといえば得意だったりもしたもんですから、もともと一回、身内のじゃないですけど、知り合いのお手伝いに行ったときに、そういう仕事だった、バイトだったんですよ、1日だけとか。それで、その経験もあったもんですから、それでちょうど行ってみようかなと思って、ちょっと行ってみただけなんですけど。

3. 初職の就職活動

就職活動の際に自身の障害を懸念し、公共交通機関の発達している大阪、東京などの大都市での就職を考えた。大学在学中の就職活動で1社から内定を得ていたが、内定先の労働環境に疑問を持ち内定を辞退した。大学卒業後は簿記等の資格を取得するために専門学校に1年半通う。その後に父親が経営する店を見習いとして手伝い始め、週5日のフルタイムで働くようになった。父親の会社には3年間務めたが、途中から大阪での就職を望んで、仕事と並行して就職活動を再開した。内定見込みを1社から得ていたが、最終的に不採用となった。

・大学時代の就職活動：最初は、大学のとくにやっぱり行けなかったところとか、東京とか、大阪で就職したいというチャレンジはあったもんですから、全国展開(をしている企業)というか、そうですね。(業界は)特には決めてなかったんですけど、やっぱり自分は障害があるんだなというのを改めて気づいたのがそのときだったんですね、

・就職活動：(就職活動で試験を受けた会社は)結構受けたりはしたんですけど、やっぱり障害もあるのもあったもんですから、気軽には受けられなかったですね。でも、やっぱり地元に行くよりも東京とか大阪でという気持ちのほうが強かったですね、当時大阪とか東京とか、電車がやっぱり通っている分、こっちよりもそういう意味では有利にいけるかなというのは少ししたですね。(車を使わなくてもよいということですか。)そうです。北九州も(公共交通機関は発達)しているほうなんですけどね、隣の県とかと比べたらですね。やっぱり通勤になると、毎日ってなるとちょっとあれというのはやっぱりありますね。(内定を得たのは)1社だけだったですね。(ブラック企業なのではないかと親に言われたためらわれたと。)はい。試験はたしか1回だけだったと思いますね。面接は1回だけでですね。書類選考と、そ

の面接あったんです。(会社説明会のとくと面接で言われたことが違ったということなんです。ね。) ということなんです。何か話していたことがやっぱり違うかったのもありましたし。必ずそういう希望の職種に行けるわけじゃないよみたいなことを言われたんですけど。一応、運転免許必須ではなかったですし、広島とか、大阪とか、転勤とかで別に、もう転勤は別になるならなつたでいいと思ってましたんで問題なかったんですけども。最初、聞いたときは、何か情報のパソコンで医療情報ですかね。医療情報も興味は多少あって、一応、大学3年のときに勉強、ちょっと何か講義受けたりとかしたのもあって、それで、ちょっと何か生かせることができたかなという思いだったんですけど、面接でもう全然違う、もう委託先で何か工場とかで作業が多くなるみたいな感じだった。(内定を辞退したのはいつですか) 受かってすぐぐらいだったですかね。(面接を受けてから内定を得るまで) 3週間はやっぱりあったですね。それで、うさんくさいちゅうのもやっぱりあったかもしれないですね。

・大学卒業後に専門学校に通い資格の勉強を行う：(大学を卒業したのは) 2014年の3月ですね。専門学校に1年行って。(簿記は) 1級とか2級、割と難しかったですね。3級は何とか取れましたけど。3級とパソコンの資格は取れて。(専門学校に通った期間は。) 試験を受けた期間入れたら2年ですかね。授業を受けたのは、もう1年半ぐらいですけど。卒業した直後ぐらいからですね。大学卒業してからちょっと就職がまともに見つけきれなかったのもあって、専門学校に行ったんですけども。就職、受かったところもあったけども、何かブラック系とか、何かアウトソーシングとかいうのもあって、(親から) やめとけみたいな言われたりとかしてたんで。内定取ったところ、もう行くのやめてからですね。大学を卒業してから。

・大学の友人の進路：情報に行く人もいらっしゃいましたし、情報以外のほうとかでもあったりはしている人もやっぱりおつたですね。相談とかは、特にそんなにはしてなかったですね。もうキャリア支援センターの担当の人にちょっと見てもらったりとか、相談しながら、多少相談しながらという感じではあったんですけどね。(エントリーシートを) 見てもらったりとか。(面接の練習は) 軽く、はい、やったりはした。(友達との情報交換は) 友達とはしてないですね。友達とかも決まってない人のほうが多かったですね。(両親との相談は) そんなに、ちょっと軽くやったりとかはありました。(就職活動への焦りは) それは言わなかったですね、もう大学、(4年生の) 2月に決まった人も何人かいたもんですから。うちのゼミでも1人ぐらいでしたから、決まっていたのが。(ゼミ生は) 6人でしたか。卒業研究終わってからは、2月頃はもうあんまり会ってなかったもんですから。

・初職で父親の仕事を手伝う：簿記の勉強しながら、資格を生かせるようなところにちょっと行こうかなというふうには思っていたんですけど、勉強してる頃にちょうど親の会社のほ

うは、父親がうちで仕事やっていたもんですから。そっちのほうにちょっと見習いも兼ねて、ちょうど、3年ぐらいですかね。東京とか大阪の就活もしながら。でも、東京よりも大阪のほうをやっぱり何かあったときちょっと帰れますから。(父親の仕事は) 経営ですかね、お店とか。2015年の春からですね。2018年ぐらいまで。

・初職での仕事内容と労働条件：事務処理の。(経理みたいな仕事を) しました、はい。(簿記の勉強は役に立ちましたか。) 多少ですかね。生かしながらちゅう感じでもあったんですけども。もう平日全部入っているときもありました。一応、週3、最初は週3だったんですけど、もっと入ったりとかして、仕事を覚えるのが先なので、ちょっと就活を止めて、1年半ぐらい止めて、ちょっと親のところばかりではなくて、もうちょっとゆっくり働くちょっと訓練がてら、税務署の確定申告とかには行ったりはしたんですけども。(専門学校に通っているときは) 見習いで入っていたもんですから。親の会社に入って、1年半経ってから、ちょっとよそで働く訓練を試みようかなという思いがやっぱり湧いてきて、それで、税務署のアルバイトに行って、その経験して、また結局、今度は就活を大阪中心に受けながら、親の会社に、また入って、ほぼ1年なんですけども。(父親の会社で週5働いていたのは) 2015年の7月ぐらいから毎日になったですね。2017年の2月まではもうほぼ毎日。ほぼ1年半ですね。8時半から17時だったですね。その当時は、まだ仕事を覚えることに必死だったので、ちょっと(就職活動は) 止めてましたけど。ちょうど1年ぐらい経って、よそで経験してみようかな、できる範囲で経験してみようかなという感じで、もう確定申告のアルバイトに行きまして、また就職しながら、就活しながら、その会社に、1年ぐらいですね。

4. 2社目の就職活動

父親の会社で働きながら大阪で就職活動を行った。就職活動を開始してから4ヶ月で内定見込みを得ていたが、最終的に不採用となり、派遣社員として工場で働くことにした。しかし、上司からパワーハラスメントを受け、2ヶ月で退職した。

・父親の会社で働きながら大阪で就職活動：(就職活動を再開したのは) 2017年の春頃ですかね。(仕事探しは) ハローワークとかで。その頃は、もう業種とか、場所も絞ってやってたですね。経理とか。大阪は、もう全部正社(員)。25社受けても全部、もう簿記、もう会計系でちょっとしていたんですけども、全然、正社員もですね、もう全然駄目です。1社内定見込みまで行ったんですけど。見込みまで行って、結局、最終的には駄目だったんですけど。面接受けたのは2社ですね、大阪で。その2個のうちの1社から内定見込みがありましたね。ちょうどハローワークのほうに行って、内定見込みが1社あるちゅう通知を受けて、その1週間後に結果が出て、最終的には駄目だったちゅうことです。2017年の8月の末ですね。(面接のために福岡から大阪への往復は) バスカフェリーで、阪急フェリーとかがありま

すから、フェリーで行ったりとか、高速バスとかで移動することがやっぱり多かったもんですから。(往復で) 1万(円) ちょっとぐらいで行きましたので。就活では3往復ぐらいですかね、私は。書類選考通って。その間に2回目の税務署のバイト行ったんですよ。(2回目の税務署のバイトの前に、お父さんの手伝いは) そこでもう辞めましたね。

・内定見込みが出ていたが不採用：(就職活動を再開して4ヶ月ぐらいで内定見込みまで行ったということですね。) そうですね。たしか9月の1日だったですね、不合格の結果が出たのがですね。理由は特には何か聞いてはなかったみたいですけど、何か正社員の募集をやめて、派遣から採ったちゅう話はあったですね。私が面接を受けたときは、もう5人目だったんです、その会社が。6人募集が来てまして、6人のうち5人から私が選ばれたという話だったんですね、最初、ハローワークに行ったとき。6人のうち1人採る予定で。結局、派遣からという話になりましたもんで。

・就職活動の際の相談：(就職活動については、ご両親への相談は) もう母とか、ハローワークの人とかと。(内定見込みまで行って、最終的に駄目だった後に、派遣社員として働かれたということですか。) そうですね。

・派遣社員として働くがパワーハラスメントで退職する：(派遣登録は) それは、タウンワークのほうなんですけども、これは税務署、最初行ったとき、派遣から入ったんですよ。2回目のときは直雇用で行きましたんで。(派遣会社に具体的に相談したのは) 2017年の1月ですね。税務署行ったときにしたもんですから。税務署に行った後に、親の会社でもう働くよりも、ちょっと派遣でどっか行ってみようかなという気持ちが強かったもんですから、ちょうど受けたんです。工場のほうにちょっと行くことになったんですけども、工場が合わなくて、結構、もう地獄だったですね。3ヶ月の契約だったんですけども、ちょっと上の人からのパワハラとかもあってちょっと早かったですし、地獄のような日々で。ちょうど、もう契約変更でちょっと、2ヶ月でという感じでしたね。(2018年の) 4月9日から5月の31(日) ですね。

5. 現在のアルバイト生活

派遣社員を退職後、百貨店の販売職のアルバイトを週5日フルタイムで働くようになり、現在に至っている。障害については職場では公にしていけないものの、職場の人間関係が良好で一定の理解があることから、今の職場と働き方は合っていると感じている。正社員への雇用転換については制度上の可能性はあるものの、その際には障害が問題にならないかが気になっており、現在のところは雇用転換を望んではいない。フリーターについての悪いイメージはない。

・派遣社員を退職後はアルバイトで生活し、現在に至る：(派遣を辞めてからの仕事は) もう短期のアルバイトで受けたところ、北九州市内のほうなんですけども、ちょっと行って、小売業ですかね、のほうに受けたんですけど、そこがちょうど、工場でパワハラ受けて鬱病になったもんですから、ちょっとそのリハビリ兼ねて、ずっとそっち系の仕事行ってみようかなと思って行ったんですね。6月の下旬からですね、8月までの契約だったんですけど。結構、皆さん温かかったりとか、上の人とかも何か継続してくれないかとかというふうなのをちょっと言ってくれたもんですから、そうやって、もう今に至るんですけど。(探した方法は) それも求人サイトですね。(アルバイトは) 周りが皆さん、やっぱり温かい人が多かったりとかして、続けることができたというのは大きいんですけども。

・障害についての職場での理解：(障害については) 言っている人には言っているんですけど、周りも、でも、薄々気づいているかもしれないですね、言わなくて。言っていないけど、気づいて、薄々やっぱりそういうのがあるなという、気づく人はやっぱり気づくみたいなので。ちょっと何かおかしい、何か普通にやっている人とおかしいなという声は、やっぱり聞きますね。言っていないけど、やっぱりそういうので薄々気づいたりとかありますからですね。

・労働条件：月20日ですね、今。今1日8時間ですかね。(時給は) 昔よりは少しよくなっていますけど、最初は820円でしたね。最低賃金ですね。(手取で月に) その分だけだと10万というところですかね、10万ちょっとぐらい。ダブルワークしているときとかもあります。単発の派遣のほうでちょっとダブルワークしたり。(職種は) 小売業とか、デパート系の販売とかが大体本業なんですけど、今、大体、時々、そうですね、ホームセンターでの消毒入ったりとか、大型スーパーの撤去作業とかに入ったりとかはしてますね。

・今の状態についての周囲の考え：やっぱり自分が知的障害というのを分かっている人と分かってない人いるもんですから、正社員でと言う人もいますし、親はもう差し支えなくしてくれてますけど、やっぱり、ちょっと普通の人からしたらこのままじゃと言う人はいましたね、言われたりとかは。正社員とかなったほうがいいのか言うのはいましたし。いや、でも矛盾してます。急いで正社員になったほうがいいのかという正社員受けても受からないという感じ。今、でも、多分、昔よりも派遣の人口が何か増えてるちゅうのをやっぱり聞いたりもしましたし。なので、やっぱり今の生き方もないこともないかなとは。よく話、聞くと、何かダブルワークしてるというのも聞きますし。(障害への理解がない人からは正社員ではないことについて) やっぱり、もう何か人間失格みたいなことを言われたりして。

・フリーターと呼ばれることについて：どちらかといえば、やっぱりフリーターでしょうね。やっぱりもう、でも、当たり前の人間ちゅうか、病気もないでフリーターになっている人は

いますし、でも、やっぱり今って時代が違いますから、多少、10年前とか20年前と変わっていますから、そういう意味では、多少、開き直れる部分はあるとは思いますが、正社員だった人でも辞めている人とかもいますし。でも、何か人間失格と言われたときも、何かちょっと戸惑ったりとかもあったんですけど、でも、みんながみんなそうやってきているわけじゃないなというのはありました。例えば犯罪とか起こしたりとかいう人もやっぱり世の中いますし、そういうのを見ると、世の中いろんな人がおるんだなというのは改めて実感して、自分も今堂々と言えるように昔よりはなっただですけど。(世の中いろんな人がいるみたいな認識は) 仕事を始めてからですかね。税務署とか工場に行ってから思いましたね。工場ですらやっぱり聞いた話とか、小さいところはやっぱりパートさんが多いとこだったりとか、派遣でとか委託で入ってる人とか、やっぱり工場は委託のほうが多かったですね。

・フリーターについてのイメージ：特にはない。何かほかの人から見るとやっぱり何か、その人と結婚するとか嫌だなと思う人があってちゅうか、そういう人はおるでしょうけど、でも、自分も合ってるかもしれないですね、何か一人でやっぱり趣味と両立して生きていくこととかもやっぱり向いてるのかなとなってますし、休みの日には掃除とか、一人暮らしし始めたとしても、やっぱり掃除とか、自分で時間つくってやれるちゅう意味では向いてるかもしれないですし。

・今後の働き方について：このままおっていいのか。でも、契約が切れるまで、今のところもちょうど色々やっぱりいい方向であったもんですから、おれるまでおって、契約が切れたら、ちょっと行ってみたいところにチャレンジして行ってみようかなという気持ちはないこともないんですけども。

・障害者専用の求人について：先々、それ、可能性はないことはないですね、まだ、ちょっと今の段階では何とも言えないんですけども。親とよく話し合ってから、またそういう方向に行くかもしれないですし、まだちょっと何とも言えないです。昔よりは、でも、落ち着いているみたいですね。

・正社員への雇用転換の可能性：ちょっと可能性があるというのを聞いた人もやっぱりいますからですね。(希望は) 特にはないですけど、ちょっとそういう可能性があることになったときに、それ(障害)が絡むかどうかでちょっと変わってきますね。そういうところで社員とかになると、何かやっぱり引かかる場所ですよ。だから、それから、そういう状況になったらちょっと母親のほうと相談して、じっくり考えていきたいなと思いますね、そのときの状況も踏まえてですね。

6. 新型コロナウイルスの影響

新型コロナウイルスの影響で、勤務先が営業短縮になり、勤務日数が減らされるなどの影響が出ている。

・勤務日数が減らされ、休みが増えた：うちは特に休みが増えたりとかぐらいだったですけど、でも、コロナで契約が切れた人とかもやっぱりニュースとかで話伺ってますし、うちもほかのフロアの人とかがやっぱりコロナの影響で契約切りになったちゅうのは聞いていますからですね。コロナ有給みたいなのがありましたし。月20日が月15日になったりとかはありました。営業短縮もありましたし、あと、もう、あれですね、あと、一部フロア閉店とか。

・仕事以外の活動：今はもうしてないですね。仕事と、休みの前の日に飲みに行ったりとか、コロナの期間中は全くしてないですけど。囲碁は、今はもうしてないですね、もう時間が、ちょうど囲碁をやっているときに出勤なもんですから、今の職場がですね。そういうのもやっぱりありますし。ダブルワークとか、家の掃除したりとか。

7. 家族について

家族は両親がおり、母親は現在は派遣社員として働いている。障害について理解のある母親が就職の相談相手となっている。

・家族構成：弟がいましたけど、病気で、2歳で亡くなっています。幼稚園のときに生まれた、私と4つ下で生まれたもんですから。結婚は、そうですね、とりあえず、今のところは一人でもいいかなと思ってはいますけども。そのときに会った人とか、あとは、やっぱり気の合う方とかで、そのときですね、本当。やっぱり、もう苦勞かけたくないんで、もう自分のことをもうはっきり細かく分かってからのほうがいいんじゃないかなと思ってですね。無理して相手に迷惑かけて離婚とかなる可能性もありますから。

・相談相手は母親：(就職に関しては主な相談先は母親か。) そうですね。病気のこともやっぱり分かっていますし。(母親の仕事は)今はしてますけど、あの当時はもうしてなかったですね。派遣で。もうフルタイムではないですけど、ちょっと4時間ぐらいで、(週)5日とかですね。結婚前は(仕事を)してはいたけど、結婚してからはもう、私がもう知的障害というものもありましたし、面倒を見るのに苦勞してますから、やっぱり、もうそういうのもあったと思います。(母親が仕事を再開したのは)私が税務署に2回目の確定申告のバイトに入ってから、親の会社を手伝いまして、それから、そうですね、派遣で別に仕事に行ったのは、去年の9月からですね。

・障害について：自閉症とかですかね。親からとかしか聞いたりとかしてないんで、はっきりちゅうあれでもないんですけど。でも、小さいときとか、結構やっぱり苦労したみたいですね。療育手帳はやっぱり小学校までは持っていましたね。(今は特に障害者手帳はお持ちでない。)手帳は、今はないですね。でも、やっぱり時々ちょっとおかしくなったりとかはありますけど。だから、仕事とかじゃないですけど、ちょっと掃除とかしてて、スムーズにいかないときとかというのはやっぱりありますし。そういう場で会っている人とか以外は、多分分からないと思いますね。

Nさん

愛知在住・27歳・男性・大卒

インタビュー実施日：2020年8月6日

インタビュー担当：堀

ノート担当：柳

愛知県在住のNさんが生まれたのは政治家を輩出する家系である。都内の有名私立大学の法学部に進学したNさんは、弁護士になること試みるも断念し、アナウンサーを目指す。だが、卒業後は進路を変え有名百貨店グループに入社し4年間務めた後、2020年の3月に税理士を目指すため退職。同年6月からは税理士資格のために独学とディスカウントストアでのアルバイトを並行している。緊急事態宣言が解除された後にアルバイトを始めたため、直接的な影響は経験していない。

1. 学校時代と進路選択について

中学時代は野球部に所属しレギュラーとして部活に打ち込んでいた。高校は地元では上位の公立進学校に推薦で進学し、野球と勉強を並行した。この時期から法学部に進学し弁護士になることを試みたものの、大学では断念しアナウンサーを目指した。

・高校時代は「文武両道」を心がけ、野球部と勉強に励んだ。

(この高校に行きたいという理由が何かあったんですか。) 文武両道だったからですかね。

(じゃあ、頭のいい学校だったんですね。) いや、まあ、でも、一応進学校とは言われてましたね。市だと3番目ぐらいとかぐらいですかね。

(そうですか、それは、じゃあ、難しいですね。なるほど。じゃあ、Nさんは野球と勉強との文武両道をしたと思って入られた。) まあ、そうですね、はい。

(勉強のほうは) 正直、中学校のときから勉強できるという形では、人間ではなかったんですけど、高校も推薦で入ったんですよ。…中学校のときに野球をやってたって言ったんですけども、野球もやってたのと、あとは、僕、足も速かったんで、陸上とかもやってたんですよ。陸上とかもやってたりして、それで、成績を残してて、スポーツでその高校に推薦で入れたかなみたいな。…だから、実際、芸能教科は5とか、何ていうんですか、通知表というんですかね、そういったのでは、芸能教科はオール5ぐらいなんですけど、普通の国語とか数学とか、そういったのは、そんな平均、4ぐらいで、そんな取れてなかったんですよ。けど、高校でちょっと頑張ってたぐらいですかね、だからそんなにできる人ではなかったです、高校のときも。

(そうですか、進学校ですもんね。アルバイトなんかしてる暇なかったですよ。) それはも

う一切ないですね。

・高校でのキャリア教育は、大学の教員が訪問し講演を開いたことが一度ある。
(何かキャリア教育みたいなものとか、何かありましたか、職業調べとか何か。)
何か大学の教授が来て、大学の法学部は何だとか、そういった法学部に入ることによってどういった職種に就くことができるよとかというのは、1回ぐらいあったような気がします。
(なるほど、はい。専ら進学校だから進学を意識するという感じだったんですね。) そうですね、基本的には。

・高校時代から弁護士になるために法学部を目指していた。
(卒業後は)普通に大学進学しかないなという感じでしたね。
(なるほど。どんな学部がいいとか、何かありましたか。)法学部かなと。(それは何か理由があるんですか。)その当時は、やっぱり弁護士になりたかったんですね。はい。当時はね。
(一般入試で地元の大学に進学されたという。)いや、愛知ではなく、東京の大学に。
(愛知県にもたくさんいい大学があると思いますが、東京に行かれた理由って何かあるんですか。)ちょっと井の中の蛙じゃないですけども、愛知にいと、そこだけしか知らないのは嫌だなというのを思って。

・大学進学と同時に弁護士になることを諦め、大学時代はアナウンサーを目指した。
結局、弁護士になるのはもう全く無理だなということを悟ってしまったんですよ、もう大学1年生の段階で。

(サークルは)放送研究会に入っていました。…定期的には集まりはあったので、ほぼサークルに近いような形なのかなって感じですね。

(アルバイトは)何個かやったんですけど、一番主に主でやってたのはカフェのアルバイトですね。(カフェのアルバイト。カフェで何、どういう役割を。)全部やりましたね。ドリンク作って、ドリンク作ったものを運ぶとか、料理を作ったものを……作るとかもやってたので、全部経験はしています。

(カフェでアルバイトをした理由は)特に理由はないですけど、たしか友達が有名カフェチェーン店で働いてたから、その近くで何かおしゃれな感じじゃないですか。

・大学時代の進路希望はアナウンサーであった。放送研究会のサークルもアナウンサーを目指したゆえのものであった。

(就職活動っていつぐらいから始められたんですか)いや、2年生の後半ですね。

(2年生の後半から、まず、何を始められたんですか、就活として。)インターンシップとかがそこで始まることの企業が多かったんですよ。結構多くて、実際、言っちゃうと、僕、ア

ナウンサーを目指して……。アナウンサーを目指していたので、早いんですね、インターンシップが、基本的に。もうその段階でインターンシップに行って採用決まるとかというのも結構あったりしてるので。

(アナウンサーになりたいと思った理由は) ちょっと直接的に僕、アナウンサーという職になりたいというわけじゃなかったんです。

2. 初職の就職活動

アナウンサーを目指しインターンシップに参加するも N さんは選考を通ることができず、有名百貨店グループに就職。

・就職した有名百貨店グループでは、地元配属された。

(どういった会社に内定をいただいたんですか。) 百貨店ですね。

(なるほど。この百貨店に選ばれた理由というのは何でしょうか。) もうその当時は、もうアナウンサーになることしか考えてなかったの、アナウンサーの試験とその百貨店1社だけしか、僕、受けてなくて……。…百貨店、なぜ入ろうかと思ったのも、単純に、言ってしまうと、この百貨店が好きだったからという、この会社に入ったんですけど。大手百貨店なので、結局、やっぱり愛知に帰ってきたかったの。

3. 学校を離れた時から今までの経歴について

入社後の百貨店グループでは、アシスタントバイヤーとして務めたが、税理士を目指し2020年3月で退職し、その3ヶ月後にはディスカウントストアでアルバイトを始めた。

・就職後、百貨店での仕事が好きじゃないと気づいた。

そうですね、結局、〇〇じゃないなと思ったのは、そういうのが理由、何て言うんですかね、自分が見てたのって、外っ面だけだったなというのがすごく。やっぱり、お客様として大学時代に前職の百貨店というものを見ていたので、中、入ってみると、やっぱり忙しいし、忙しいといっても、何か結局自分の好きじゃないものだったんですかね。

・税理士への転職を考えるようになり、昇進試験のタイミングを機に退職した。

やはり士業というものに対しての、もともと法律家になりたいというふうに言ってたじゃないですか。けれども、無理だった。じゃあ、何か百貨店に勤めて、正直、何か自分のやりたいこと、これじゃなかったなというのを思ったんですね。百貨店に勤めてるうちに、じゃあ、自分、何好きだったかなって、もう改めて何か就職活動のときじゃないですけども、振り返ってみると、数字が好きだったんですよ。やっぱり百貨店に勤めていたときも数字を見ることが好きで、数字から予測できることを組み立てていくのが好きだったんですよ。

それを考えた上で、ちょっと税理士になりたいなというふうに思って……。その勉強をするために、ちょっともうどんどん責任が重なってくるので、〇〇に勤めていると。多分もうこれ以上は続けると辞めることができないなと判断したので、この就職4年目で、次、5年目か、になるタイミングでもうちょっと辞めようと。

(その税理士になりたいという気持ちというのは、いつぐらいから、就職した後に芽生え始めたんでしょうか。) そうですね。多分就職して二、三年目ぐらいで思ったのかなという感じですね。もうずっと1年以上ぐらい考えてて、もうさすがに、その5年目だったかな、6年目だ、6年目で昇進試験というのがあるんですけども、前職の百貨店の中で。その試験があるので、その試験よりも前には辞めたほうがいいかなというのを考えて辞めました。(なるほど。キャリアの一区切りみたいな感じだったんですかね。) はい。

・税理士になりたい理由について

先ほども申し上げたんですけど、数字が好きであったということがあって、コンサルティングできるというのと、あとは、考え方的には、まず出てきたのは、〇〇時代なんですけど、そのときにやりたいなと思ったのが、コンサルティングしたいなというのが一番最初に出てきたんですよ。

コンサルティングしたいな、けれども、自分の力じゃ何もできないなということを考えて、じゃあ、コンサルティングできる学力をつければいいのかというのが出てきたんですよ。まず、(出身) 大学で法学部でちゃんと勉強はしてましたけど、そんな経営に対しての戦略をちゃんと立てられるような勉強はしてないので、じゃあ、一番ダイレクトに一番企業が困っているのとか、重要な、僕が情報提供できるのって何だろうなって考えたときに、やっぱり数字のことが分かる、税のことが分かる税理士なのかなというのが出てきたんですね。それでいうと会計士というのもありますけど……。

・退職を巡る周りの反応について

もう、さっきもあったんですけど、何で前職、〇〇で働いていたのにという反応が一番ですかね。そこまで勤めたのにとというのが結構多いかなという感じですね。(両親は) そうですね、同じ感じですかね、ほぼ。金の面だけはしっかりしなさいよと言われました。あとは、自分の目指すものがあるのであるならば、それはあなたの好きにしなさいと。

4. 現在のアルバイト生活について

現在 N さんは、地元のディスカウントストアで週 20 時間程度 (収入は約 8 ~ 9 万円) 勤務し、その他の時間の殆どは税理士試験に向けた受験勉強に取り組んでいる。

・税理士は、資格試験の 11 科目中 5 科目の合格と 2 年間の実務経験が必要とされる

(税理士って科目を何か積み重ねていくんですよね。)そうですね。11科目中5科目受からなければいけないんですけど、5科目受かったけれども、税理士にはなれないんですよ。

(そうなんですか、それとはまた別な試験があるんですか。)2年就職しなければいけないんです。実務経験を積まなければいけないので、単純に5科目受かるだけという考えだったら、僕は3年というのを目標にして。その3年で5科目の試験に受かって、あと2年、実務経験を経て、だから、5年後には税理士になってるという感じ。

・Nさんは、1年後に3科目を合格することで税理士事務所でアルバイトをし、その後残りの3科目を目指す計画を立てている。

…今後の、来年の合格状況によると思うんですけど、一応、僕、3科目受けようと思っているので、3科目受かったら、もうそこからできれば税理士事務所にアルバイトとして雇っていただける場所を探すかなという。

・アルバイトは、3科目に合格するまでのものという位置づけである。

(税理士になるまでの経済的見通しは)もう後がないというのはもちろんなんですけど、というのは、もう母も仕事を辞めて、辞めなければいけないので、その年齢ぐらいになっちゃっているんで、なので、収入がなくなってしまうので、後がないという前提なんですけれども、来年、さっきも申し上げたんですけど、21年度に一応3科目を受験して、3科目受かれば、税理士事務所で雇ってもらえる可能性もあるので、その可能性を信じて、そうすればある程度、前職に同等とは分からないですけど、それぐらいの食うに困らないぐらいの賃金はもらえるんじゃないかなと予想してるので、実質5年間勉強するとか、5年間かかるという話なんですけど、じゃなくて、1年ぐらい、正直我慢すればいいのかなというふうに考えているので。(その1年をアルバイトとかという形で。)そうですね。もう本当に来年の試験に向けて、もう全集中を注げるように、環境にしてという感じですね。

5. フリーターのイメージ

Nさんは、フリーターとしての自覚を持っており、「自由な人」というイメージももっている。他方でデメリットもあると考えている。

・現在のアルバイトは、仕事の重圧感も少なく受験勉強にも妨げにならない「ちょうどいい」ものであると感じている。

(こちらにやりがいを感じたりとかということは今のところはそんなにない感じなんですか。)でも、やりがいというよりは、そうですね、ちょうどいいなって感じですね。

(どの辺りが。)勉強しつつ、別に手を抜いてるわけじゃないんですけども、そこまで考えることもなく。本当にちょうどいいなという。難しいですけど、言葉で表現……、ちょうど

いいなというのが一番。無理なく、やっぱり僕、仕事になっちゃうとこうなっちゃうんで。…根詰めちゃうんでそれをそこまでしなくてもいいかなというぐらいですかね。

(自分のことをフリーターだと思いますか) 思います。もう直訳ですよ、自由な人みたいな感じですね。(よいイメージですか) 半々ですね。

・理想的な働き方について

(Nさんにとって理想の働き方ってどんな働き方ですか。) さっきも、それは言ったんですけど、能動的に動くのは当たり前のことで、できれば僕の中では時間的な制約はないほうがいいのかなと思っていて、働く時間とかって結構、9時5時だとかって決まってる会社さん多いと思うんですけど、その辺りって能動的に動いてたら、あっ、こういう考え浮かんだとかというときにやっぱり働きたいと思ったりもすると思うんで、そうすると、別に9時5時という働き方じゃなくて、例えばもしかしたらアイデアが夜の10時ぐらいに浮かび上がったら、そのままそれをメールしちゃったりする人もいますけどね、恐らく。大きくくくったら自由になるのかもしれないですけど、何か能動的かつ自由に自分の想像していることを具現化できる仕事の仕方がいいのかなと思いますね。

6. 新型コロナウイルスの働き方に対する影響について

Nさんがアルバイトを始めた時期が緊急事態宣言の解除後であるため、直接雇用環境の変化を経験することはなく、考え方にも大きな変化はなかった。

・今後3ヶ月の見通しにおいても、食品を扱うディスカウントストアは大きな影響を受けないと考える。

3ヶ月後ですよ。…多分変わってないと思います。(一定の影響は受けてるんですよ。そうでもない。) 影響受けてるのかな。それって、あれですよ、前年比に対してどれくらいのことですよ。…多分受けてないんじゃないですかね。一応食品があるので。そのところ考えると、もう何か毎日のようにレジ並んじゃってるんで、夕方とか……。

7. 家族について

一人っ子のNさんは、現在母親と二人暮らし。母親は教員であり、食費やその他の経費を持ってきている。他方、Nさんの家系は政治家を輩出しており、その家系をNさんも引き継ごうとしている。

・結婚は税理士の先に「やりたいこと」ができた後にしたいと考えている。

(結婚は) 税理士の合格プラス、その先にまだやりたいことがあるので、それが落ち着いてからという感じですかね、もしかしたらですけど。分かんないです。…何かずっとさっきか

らも言ってますけど、税理士になった後のことを考えたときに、結局自分のやりたいことが、それはもう大学時代から変わってないんですけど、やりたいことが一番トップであって、そのトップに対してどういうアプローチをできるかなというものが前職の百貨店では無理だなというのを感じたので、でも、入ったときから、僕、でも、もう3年ぐらいかなというのは考えてたんで。

(そのやりたいこととは?) ちょっとそれは言うのやめます、恥ずかしいんで。(ざっくりでもいいです。) 気になりますよね。こうなるとね。家が議員の家系なんですね。政治活動。

〇さん

新潟県在住・28歳・女性・大卒

インタビュー実施日：2020年8月8日

インタビュー担当：岩脇

ノート担当：山口

新潟県在住の〇さんは現在28歳。新潟県の公立高校を卒業後、東北地方の国立大学に進学。数学を専攻したが、すぐに同級生や学問そのもののレベルの高さに直面し、文系就職を考えるようになった。大学卒業後は価値観や社風に共感した福祉系の会社に就職し、理想的な働き方をできていたが、鬱病を発症し、勤続5年目に退職。現在は実家に戻り、スーパーでアルバイトをしながら、ハローワークやハローワークと連携する障害者支援施設のスタッフと相談のうえ、今後の働き方を探っている。コロナ禍のなかで、スーパーでのアルバイトの仕事は、大きな影響を受けていない。ハローワークを通じた就職活動にはコロナ禍の影響が出ているが、新卒採用としての経験しかなく、コロナ禍より前の状況もわからないため、強く悲観はしていない。

1. 学校時代と進路選択について

新潟県の公立高校を卒業後、東北地方の国立大学理学部に進学。数学を専攻したが、すぐに同級生や学問そのもののレベルの高さを目の当たりにし、大学卒業後の文系就職を考えるようになった。

・公立の中学校を卒業後、進学校の公立高校に進学。中学と高校では合唱部に所属し、部活と勉強とを両立させながら、忙しい日々を送った。

普通に学区内の中学校行って、普通に高校受験をして、一応、進学校に入って、高校3年間過ごして。(高校選びについて)何か結構、私、本当に1年生のときからこつこつやるタイプだったので、受験のときは、逆にあんまり、それこそ自分が行ける範囲の高校で、ちょっと自分がやりたかった部活がある学校というふうを探して・・・特に何かレベルを上げてここを目指すとか、そういうわけではなく・・・中学に合唱部入っていたので、高校もやりたいなと思って。

(中学と高校では)部活と勉強の両立で、とにかく分刻みに、生活で、すごく人生で一番大変だった。働いてからのほうが楽です。

・中学や高校生の頃は、将来の仕事についての具体的なイメージがなかった。

(将来就きたかった仕事について)あんまりなくて、それこそ、何かやっぱりまだ高校生ま

でのときは、何か名前がある職業とかしか知らなくて、何か美容師さんとか、消防士とか、何か花屋さんとか、何かそういう目に見える職業しか知らなくて。でも、その中の職業で自分がなりたいものがあるあんまり何かピンとこなくて。

(中学や高校で職業について学ぶ機会について) そうですね、そんな余裕があんまりなかったというのと、やっぱり本当に例えば美容師になりたいとか、何かちょっと絵のほうに進みたいとか、そういう特殊な職業になりたいという人は周りにもいたんですけど、みんな大体ほとんどそういう職業に対してあんまり何かこの職に就きたいからこの学部に行くとかというよりは、自分が入れる学校で自分が入りたい学部に行くみたいなお感じの人が多くて。やっぱり学部に入っても、その学部と関連した職業に就いている人のほうが私の周りには少ないので、本当にみんなそんな感じで学校、大学に入って、大学4年間の間で自分がどうするか決めて、結構関係ない職業に就いている人とか、多くいます。

・高校を卒業後、高校の先生のすすめもあり、東北地方の国立大学理学部数学科に進学した。

(大学進学について) 本当ちょっと何か親がどっちかという、大学とか誰も行ってなくて、すぐ働きに出た人たちだったので、何か大学なんて行く意味あるのかって親には言われて。でも、学校の先生には絶対に大学に、結構学校の中で成績がいいほうだったんで、絶対、君はここにみたいな感じになって、板挟みになって。でも、何か親には手に職をつけろと言われてたんですけど、何か例えば資格とかも何を自分がやりたいか分からなくて、だから、専門学校とかもピンとこなくて。なので、学校の先生に分からないんだしたら、まず大学に行って、また、いろいろ勉強しながら考えるもありだというふうに言われて、学校の先生に勧められる大学にそのまま入った感じです。

・入学した数学科では、すぐに同級生や学問そのもののレベルの高さを目の当たりにし、大学卒業後の文系就職を考えるようになった。

(数学科を選んだ理由について) 学校の先生が数学の先生だったというのもあるし、ちょっと自分はどっちかという、理系だったんで、何か数学が教科の中では好きだったので、あんまり大学のこととかも、親も知らないし、私も知らないまま、何か高校の延長で勉強していききたいなという。何かちょっと軽い気持ちで入ったら、本当に何か本当に数学オタクみたいな人がすごいたくさんいて、何かちょっと場違いだったなというのに気づいて。普通、理系の人って、みんな大学4年間行った後に、大体大学院に行くんですけど、私は、何かほかの何か理系の友達、女の子の友達と、何かちょっと私たち場違いだよって、すぐ何かいわゆる文系就職という、何もコネのない、何かフラットな形で一から就職活動をして、全然数学科とか、理系と関係ない職業に就いたんです。

何か今まではちゃんと勉強すれば結果がついてくる範囲の勉強だったんですけど、本当に何かもう大学に行ったら学問という感じで、何か勉強、真面目に勉強したからといって何かつ

いていけるとか、何か成績がよくなるとか、そういうもうレベルじゃなくなっていたので。とりあえず、ぎりぎり単位を落とさないように必死に勉強はしたんですけど、何かいい成績を収めるとか、ちゃんと絶対に理解しようというよりも、とにかく何かその場をもう頑張ってやり過ごして、何とか卒業しようという。もう1年生のときから、ちょっと私、場違いのところに入っちゃったなと気づいて、何とか頑張って卒業はして、ちゃんと何か就職活動をしようというふうに早めに思って。やっぱり3年生ぐらいから就職活動が本格的に始まってくるので、それまでは、やっぱりサークルに入ったりとか、あと、アルバイトをしたりとか、いろいろ、あと、一人暮らしも初めてだったし、何かいろんな社会経験を積みつつ、3年生ぐらいになったら本格的に就職活動が始まって。

(数学科の学生の進路について) ちょっと何か、だから、数学科が特殊だったというのもあるんですけど、それはやっぱり医学部に入ったらお医者さんになるとか、薬学部に入ったら薬剤師になるとかというのはあるかもしれないんですけど、あんまり、例えば文学部とかに入ったりとか、理学部に入ったりとか、本当にその関連した職業に就くのって、本当に頭のいいトップの一握りの人しかいないと思うので。そのほかの人たちはみんなやっぱり、学校の先生になる人もいるんですけど、大体普通の企業に総合職とかで採用されるように就職活動を頑張るという感じだったので。

(数学科で学ぶことについて) 本当に言ってしまうと、大学の数学って、何か本当に論理とかに近くて、あんまり数字が出てきたり、実用的なことを、多分、それは本当はかなり突き詰めたときに、多分出てくる、本当に院に行って、研究して行って、出てくるかもしれないんですけど。まだ大学の普通の4年間では、本当に基礎の論理的なところをやっていたので、全然、一般企業では役に立つ感じでもなくて。なので、ほぼ、もう大学でやったことはほぼ忘れちゃった。もうほぼ覚えてなくて、高校までの学習内容は、まだ覚えてたりとか、たまに仕事のときに使ったりとかはするんですけど、大学の内容は、そんな何か一般生活に生かせるようなものじゃない。

・大学生の頃は、時給が高いことから、塾講師のアルバイトに従事した。

(教員免許の取得について) 最初からちょっとやっぱり先生は、何か多分、それこそ塾講師のアルバイトも、塾講師のアルバイトも絶対やりたかったというよりも、本当にちょっと、うち、実家がすごく金銭的にすごく貧乏で。大学も私、自分の奨学金だけで行っていたし、仕送りとかもなかったんで、アルバイトもすごく時給がよくて、自分の得意なことだからやっていたというぐらいで。

2. 初職の就職活動

就職活動では初めから会社選びの基準が明確だったわけではなかったが、事務系の仕事に絞って、教育や福祉業界を中心に会社選びをすすめていった。就職した福祉系の会社のことは

大学主催の合同説明会で知り、会社の価値観や社風に共感することができた。就職活動のなかで自分のやりたいことが明確になり、それに合う会社に就職できたので、大学に進学したことはよかったと考えている。

・大学3年生の12月頃から少しずつ就職活動を始め、4年生になる前頃から、大学や県が主催する合同説明会に参加した。就職活動をしながら就きたい職種や会社についての具体的なイメージを固めていき、約30社にエントリーのうえ、3、4社から内定を得た。

本当に、最初の頃はやっぱりどういう企業がいいのかとか、すごく迷っていて、合同企業説明会聞いて、こういう企業いいなと思ったんですけど、でも、やっぱり受けたのはすごいたくさんいろんな企業を受けたのがあります。みんなそうですけど、大体、その頃って、最低でも60社ぐらいのところに入社シートみたいな、履歴書みたいなを出して、多い人は100社とか。私はそんなに、60社は出さなかった、30社ぐらいだったと思うんですけど、とにかく少なくとも60社ぐらいには出すのが普通みたいな。だから、いろんな業種のところに出して、就職活動する時期も違うので、業種ごとに、あんまり絞らないで、いろんなところを受けてみて、何か就職活動をどんどんしていく中で、やっぱり最終的に、本当に最終面接とかでだんだん何かこの企業で、何かここまで受けたけど、この企業でちょっと働いていく自信ないとか、何かこの業種で働いていく自信ないなってだんだん分かってくるところもあったので、就職活動しながら固まっていた感じですかね。本当に最初に固まったというよりも。

・就職活動では事務系の仕事に絞り、教育や福祉業界を中心に会社選びをすすめていった。何か自分で最初から何かよく分からないにしても、自分は、営業には向いてないなとずっと思ってたんです、最初から。何か性格的にも体力的にも。何かやっぱり営業って一番募集があるので、大学卒の総合職で採られるとしても、例えば、ある1社の募集で、営業職は99人募集するけど、事務は1人しか募集しませんみたいな、本当にそれぐらいの割合で新卒を採用されていたので。本当、その中で、確かに、営業職を選択肢に入れてしまえば、それこそ就職先なんて、本当に多分すぐ決まったと思うんですけど、でも、それで私が果たして働き続けられるかという、多分そうじゃないなって思ったので。最初から営業職はあんまり考えないで、本当に狭き門だったんですけど、いろんなところの何かデスクワークができる事務職が自分の性格、細かい作業とかが得意だったり、丁寧にやるのが得意なので、そういう何か自分が働き続けられるような仕事内容があるいろんな職種を受けたような。

デスクワークが主流になっているような会社、企業を何か中心に見て行って、業種でいうと、教育系とか、福祉系とかが多かったというだけで。別に業種にこだわってとかではなく、何かどっちかという、働く内容のできれば事務系のデスクワークが中心で、何か自分の強みが活かせるような働き方というふうに見て行って、その中で、できれば自分の何か価値

価値観と合った福祉系のほうで、自分と一番価値観が合う会社に、ここに入りたいたいなど思ったところに入ることができて、最終的には。だから、本当に、最初は別に定まっていたとかじゃなくて、自分と、例えば個別指導塾の講師をやっていたりしたので、自分と関係がある、この仕事をそのまま続けていこうかなとか思いつつ。でも、こっちの職種もちょっと企業説明会を聞いて、いいかもなとか思ったり、でも、最初からとにかく営業が中心のところはやめようという、そういう、こういうのはやめようというのもあったりとか。

・就職活動の際は、働く地域へのこだわりはなかった。

（就職活動の際は）地域にこだわる人もいたんですけど、私は全然こだわってなくて。・・・新潟の企業も受けてましたし、逆に東京の企業とかも受けたりして、何か別にそこは働く場所は全然気にしてなかったの。・・・大学生のときは、別にもう既に一人暮らしをしてたから、北海道に行こうが、沖縄に行こうが、同じだと思っていたので、そこは全然気にしてなかったです。

・教育系の会社からは1社の内定を得たのだが、その後自分は教育業界に向いていないと思いき、就職はしなかった。

アルバイトで個別指導塾の講師とか、塾講師をやってたんですけど、それを本当に一生の職業にしようとしたら、すごく何だろう、どっちかという、自分が頑張るよりも、他人に頑張らせる職業だなと思ったので、それはちょっと何か私にはあんまり向いてないなというのに就職活動していく中で気づいて。それこそ教育系の会社から1社内定もらっていたんですけど、ちょっとやっぱり就職活動していく中で、というか、内定をもらってから就職する前にみんなで集まってみたいなことが何回かあって、それをしている中で、やっぱりちょっと合わないかもなって思い始めて、また就職活動し直すとか。結構紆余曲折あって、ちゃんと長く働きたいと思えるところに行こうと。

（子どもに勉強を教えることについて）やっぱり、すごく実際やってみると、何か例えばなんですけど、自分と学力レベルがそんなに変わらない友達に教えるのはすごく楽しいんですけど、本当に、いろんな学力レベルの、あんまりしかもやる気がない子たちが（塾に）来るので。その子たちにどれだけ自分が例えばそのことに詳しくあったとしても、いろんな学問、例えば中学ぐらいだったら、私、全教科教えていたんですけど、それができたとしても、それを、それでその子たちの成績が上がったり、その子たちのためになるかというのと、また別の話で、すごく難しい仕事だなと思ったんですね、アルバイトしているうちも。

就職活動していく中で、やっぱりそう（※教育系の仕事は向いていない）だったんだなって確信が変わって、その業種はやめたという感じで。やっぱり向き不向きがあると思うんです。何かやっぱりほとんどの人が、一応、大学が〇〇大学だったので、ほとんどの人がそういう個別指導塾の講師とか、塾講師とかもアルバイトとしてやってたんですけど、みんな同じこと言っていました。やっぱりみんな自分がどっちかという塾に行かなくてもできていた人た

ちが多くて、教えることは全然できるし、教え方もうまい人は全然うまいんだけど、教え方がうまかったとしても、あっちにやる気がなかったり、あまりにも本当に一から何も知らないとかいうと、もう何かどうすれば分からないみたいな。何か全然やってこいと言ってもやってきてくれないし、どれだけこっちが教え方を工夫しても、全然何かやる気が感じられなくて、本当どうすればいいか分からないという悩みを結構同じ大学の先輩、後輩とかと言ったりもしてたので、みんな同じこと思っているんだなって。そういうのを経験しちゃうと、何か学校の先生も塾講師も、何かあんまりすごくどうという人が逆に向いているのかなって思います。すごく逆にやってる人、尊敬します。

・就職した福祉系の会社のことは大学主催の合同説明会で知り、会社の価値観や社風に共感することができた。

（就職した会社について）最初は、そうですね、合同企業説明会で。何か結構、〇〇大学に来る結構大企業の方とかの説明って、全部すごく、何かうちはすごく、例えば女性も子供が生まれても職場復帰しやすいところになっていきますとか、何か1年目でもう店長になって、もう3年目には海外出張、海外留学か、海外支店とかに行ったりとか、何かすごいうちはやっていますよみたいな、何かもうばりばり働けますよみたいなところがすごく、9割方そんな感じで。何かすごい最初からそんな熱く語られると、いや、1年目から店長とか別に目指さないし、そんな部長になりたいとか、課長になりたいとか思わないし、そんな自分が働いて、それこそ、今ライフ・ワーク・バランスという考え方が広まっていますが、そんな何か高給取りにならなくても、自分が好きなことをちゃんとある程度できる範囲内でバランスよく働きたいなって、どっちかというと思ってたので。

友達、それこそさっき言った理系の一緒に就職活動、普通の就職活動しようと言った友達と、何かこんな企業しかないのかなみたいな、こんな何か本当に働き方が選べないとか、こんなに何か熱血にばりばりばりばりキャリアウーマンみたいに働かないといけないような企業しかないのかなみたいな、最初、本当にそんな感じで。そういう会社がすごく多く、やっぱり多分説明会だから、より何か熱心に、うちはこうでこうでこういうこともできますとか、何か英語も、英語を堪能に使って、何かこんな海外の企業とかとも一緒に連携してとか、何か1年目でもう店長、部長になった人がいますとか、何か全部そういうアピールされて。いや、何かそこまでして働かなくても、そういう、そんなばりばり働きたいわけじゃないなという気持ちがすごく何か引いてしまっただけ。

でも、その中で、何かそういうふうに自分たちの会社をこんなすごいですよみたいな、そういう言い方じゃなくて、自分たちはこういうことを大切にこういうふうに働いてますって、すごく何か丁寧に、何か実直に、すごく素朴に、すごい淡々となんですけど、何かその中でもちょっとその会社で働くことに対しての熱い思いが伝わってきた企業が、何かここなら働きやすそうとかいうか、何か性格も合いそうとかいうか、風土も合いそうとかいうふうに思ったと

ころが、本当にちょっとぼつぼつという感じで。

(価値観があう会社は) 大学の合同説明会の中に唯一あった感じ。唯一出会って、何かここだけは違うみたいなの。

・同じ大学の理系の同級生の多くは大学院に進学しており、Oさんのように福祉系の会社に事務職として就職することは希だった。

(同じ大学の理系の同級生は) 9割は大学院に行ってたので、大学院に行けば、そのまま院の教授の紹介で、その業種にそのまま推薦就職みたいな感じの人が多かったんですけど、あとは、学校の先生になるかというのがほとんどだったんですけど、本当に残りの1割の人だけ、やっぱり公務員になったりとか、公務員になったり、私みたいに普通の文系就職をしたりというのがちらほらいたんですけど、すごく珍しかったと思う。

・就職活動のなかで自分のやりたいことが明確になり、それに合う会社に就職できたので、大学に進学したことはよかったと考えている。

いろんな企業の合同企業説明会とかでいろんな企業のお話とかを聞いて、何か全然名前のつかない職業ってこんなにたくさんあるんだなと気づいて。その中で、やっぱり合同企業説明会で聞いた企業の中で、私がやりたいのはこういうことだなって、名前がつかない職業だけど、こういう仕事をやりたくて、それを探してたんだなというのに巡り会えて、そこに就職することができたので、結果的に、大学に行ったことは間違いじゃなかったなと。

学科は、もし、もう一度大学に入るなら学科はちょっと選ぶかもしれないですけど、違うほうを。すごく理系って、文系とかに比べてすごく大変だったので、ちょっと理系じゃないほうに行くかもしれないんですけど。でも、大学に行ったのは、いろんな社会を知る意味でも、本当にいろんな県からいろんな人たちが来てたし、大学という世界を知るにも、本当に大学に行ったことは間違いじゃなかったなというふうに今思えてて。そのまま、大学に行かなければ就けなかった職業だったので、やっぱり大手の企業が普通に募集している総合職とかって大卒の資格とかが必要なところが多いので、何かそういう美容師さんとか、あと、何か医学系のお医者さんとか薬剤師さんとか、そういう資格が必要な職業じゃないところの職業に就くには、やっぱり何かそういう大学に入っていたほうが一番就きやすいというのも知れたし。本当に何かそのときの成り行きと言うとあれなんですけど、そのときの流れで、本当にだんだん知って行って、だんだん自分がやりたいことも見えてきてという。

(就職活動を通してみえてきた「やりたいこと」について) 何か働くってなって、何か普通のいわゆるサラリーマンというか、普通の企業で働いている人たちが、本当にそれこそ高校生までもとかはイメージがつかなくて、何かどういうことをしているかとか。でも、それが本当にいろんな会社のお話を聞く中で、同じようにいわゆるサラリーマンだとしても、何か全然会社の風土とか、会社でやっている事業内容とかによって、自分の仕事も変わってくるし、

心持ちも変わってくるんだなということに気づいて。どっちかという、仕事内容というよりは、事務だったんですけど、広く言えば事務だったんですけど、(就職した会社は)仕事内容というか、会社の理念として、何か困っている人を助けたいみたいな、何かちょっとどっちかという道徳とか倫理とか、そういうことを重んじる企業だったので。私も小学生のときから道徳とかの時間がすごく好きで、やっぱりそういう何かただお金もうけのために働くよりも、何か自分が働くことで世の中全体がよくなるような、何か困っている大変な人がいざというときに助けられるような企業で働きたいなというふうに就職活動をする中で感じる事ができて、ちゃんと自分が入りたいと最終的に思った企業に入ることができたので。

3. 学校を離れた時から今までの経歴について

就職後は奨学金の返済もあって経済的に余裕のある生活ではなかったが、職場環境もよく、理想的な働き方をできていた。だが鬱病を発症し、勤続5年目だった2019年1月に退職した。

・大学を卒業後、宮城県の病院に配属される。初任給は手取りで約16万5,000円だったが、毎月約3万4,000円の奨学金の返済があり、生活は豊かではなかった。

(奨学金は)貸与です。日本学生支援機構から1種とか2種とか、それを併用して、結構、高額を借りてしまっていたので、それこそ、社会人になってから返すのが結構大変で・・・日本学生支援機構の奨学金って、基本20年間、どんな額を借りてても20年間で返すというふうになっているので、22(歳)から始まったら42(歳)まで、順調に返せば。前払いというか、たくさんお金を持っていたら、先にどんどん返していくこととかもできるんですけど、普通はみんな22から42まで返すという感じです。

(初職時の奨学金返済について)本当に、だから、プラス・マイナス・ゼロぐらいで。でも、幸い、準公務員的な立ち位置の会社だったので、ボーナスがよくて、だから、そのボーナスで貯金したり、ちょっと余った分は奨学金を早めに返したりとか、そんな感じでぎりぎりのところで生活してました。

・会社は就職活動時に持っていたイメージと大きな違いはなかった。また職場環境もよく、理想的な働き方をできていた。

(就職活動時と入職後のイメージの違いについて)本当にほぼ、何かこうじゃなかったのにとかもなく、大学るときと違って。ちゃんと、だから、大学ときは何となく人に言われるがまま分からないで入ってしまったという後悔もあって、働くときはちゃんと自分がその場でずっと働き続けられるところで働こうという思いが結構強かった。入ってみて、何かこれは全然違うなということはなく、何か絶対こういう仕事がしたいとかというわけでもなくて、そのこういう理念の持っている会社で何かどんな仕事でも、何か事務であれば、事

務というか。本当に、だから、営業回りとか、そういうことじゃなければ、どんな別に下支えの仕事でも、それが自分がしていることがちゃんと、その企業の、企業がしてることの支えになっているという考えではいたので、普通にこういうことをできないから違ったとかは思わなかったですし。

仕事内容もすごく自分に合っていましたし。最初は、やっぱり慣れるのには、すごく大変、どんな仕事でも多分そうだと思いますけど、慣れるのには大変だったんですけど。慣れてしまえば、どっちかという、本当に与えられた仕事量を、みんな残業とかしてたりしたんですけど、なるべく、もう残業しないように効率よく終わらせて、すぐ帰って、自分の時間を楽しむみたいな、ライフ・ワーク・バランスも取れてましたし。すごく理想的な働き方で、すごく職場環境もよくて、上司とかもすごくいい方で、たまにちょっとパワハラする人とかもいたんですけど、そういう人とかは、やっぱりちゃんと申し立てれば異動させてもらえたりとかしたし、全体的にはすごくいい会社だったし。

・鬱病を発症し、勤続5年目だった2019年1月に退職した。鬱病になった原因は会社や一人暮らしではなく、複合的なものだと考えている。

ちょっと一人暮らしで働いている間に、別に仕事が原因ではないんですけど、病気になってしまって。それで、休んだり、また仕事に出たりというのが繰り返しになってしまっていて、もうさすがに働き続けるのが難しいなというふうに社会人5年目ぐらいでなって、それで、会社とか実家と相談、あと、お医者さんと相談して、仕事を辞めて、一回実家に帰るというふうに、2019年の1月頃になって。

(鬱病になったきっかけについて) いや、一人暮らしが原因ではなく、仕事も原因じゃないんですよ。ちょっと自分のことでもないし、本当にきっかけとしては、きっかけだなという出来事は確かにあったんですけど。多分、今までの人生の全部がいろいろ関わって、何か積み重なって、多分発症した感じで、先生、医者からもこういう病気は原因があるわけじゃないんだって言われて、鬱病って。何が明確な原因があってなるものではないから、何が原因がどうか、それに対処しようとかというのが難しいという。

仕事が原因ではないし、一人暮らしもすごく、どっちかという、私、一人暮らしが向いていたというか・・・ちゃんと自分の好きなようにできたし、別に家事とかも苦じゃなかったもので、健康なときは。どっちかという、うち、実家が大人数なんですけど、そこで暮らさなきゃいけないほうがストレスになっちゃうから、私、大学るときから一人暮らしをしてたんですけど。

・病気のあいだは会社が手厚く支援してくれたが、これ以上休職を続けると会社の迷惑になると考え、退職を決めた。

本当に病気になってからは、・・・そこが病院だったということもあって、すごく病気のこと

に対して理解を示してくださって、本当にまともに働けなくなったりもしていたんですけど、ちゃんと傷病手当金とかで、結構しっかり休ませてくださったりとか、仕事内容に配慮していただいたりとか。もともと、ずっと一人暮らしだったのもあって、すごく何か親身になって心配していただいて、上司の方とかも。だから、本当にできれば辞めたくなかったんですけど、ずっと働きたいなという会社だったんですけど。ちょっとあまりにも、もう働くことというよりも、生きることのほうが難しいぐらいのところまで来てしまって、これ以上、休むと迷惑かかるなと思って、辞めることになってしまった。

4. 現在のアルバイト生活について

福祉系の会社を退職後は新潟県の実家に戻って療養を続け、現在は実家の近くのスーパーでアルバイトに従事している。今後の働き方については、ハローワークやハローワークと連携する障害者支援施設のスタッフと相談しながら探しているところである。

・福祉系の会社を退職後は新潟県の実家に戻って療養を続け、2020年3月から、実家の近くにオープンしたスーパーでアルバイトを始めた。勤務は週3日、17時から22時まで、賞味期限が近づいた商品に値引きシールを貼る作業を担当している。アルバイトでの月収は、約8万円である。

(福祉系の会社を退職して) とにかくちょっと1年間ぐらい休んで、また働ける状態に、お医者さんとも相談して、働ける状態になってきたかなと思ったので。まずは、ちょっとハローワークに行って、働ける状態にまたなったので、就職活動するのではということ、失業保険の手続きをして。まず最初に受けたのが、本当に近所の新しくできるというスーパーのパートとしてというところで、まずはそこでちょっと働いてみて、本当に社会復帰できるかどうかという、働くこと、働くことができるのかどうかということ、ちょっとチャレンジしてみて、今のところ、特に病気が悪くなることもなく働けてはいるんで。

(スーパーでの仕事について) 品出しというか、最初は品出しがメインだと言われていたんですけど、結局働き始めてみたら、品出しよりも、値引き、賞味期限が来てしまう商品を値引きしないと売り切れないじゃないですか。それがちょっと新しくできたスーパーなので、今。新しくできたスーパーで、本当に最初のオープニングスタッフとして採用されてて、やっぱり最初だと、本当に発注とかもまだ定まってなくて、お客さんがどれくらい来るかも、結局、予想でしかなかったから、発注も定まってなくて、すごく逆に売れ残ってしまうものが多くて、それをとにかく一つずつ、寒い中、値引きするという作業が(大変)。

ほぼの何か働く時間の90%はそんな感じで、何か最初、それこそ研修したときとかと全く違う仕事を今してます。賞味期限を1個1個見て、これが幾らだから幾らまでに値引き、何日前だから幾ら値引きしなきゃいけないという表とかを見ながら1個1個打って、ピってして、1個1個シール貼っていくという、結構、地道な作業。

・現在はアルバイトでの収入のほかに失業手当と障害年金を受け取っており、経済的に困窮はしていない。だが3つともいつまでも続くものではないため、今はこれから先の仕事と生活にかんする岐路に立っていると考えている。

（失業手当について）私、それこそ病気でやむを得ない事情で辞めたということで、ほかの人は、普通は90日間しかもらえないみたいなんですけど、私は300日ぐらいもらえるみたいなので、まだ来年の、多分春ぐらいまではもらえるのかな。

（現在の収入について）アルバイトだけじゃなくて、今、それこそ病気になったあれで、障害年金だったかな、ももらっているし。今、あと、今もう試しにちょっと近くで働いてみようという感じだったので、これから本当にそれこそ、今のところだとやっぱりどんだけ働いてもそんなに給料が上がるわけでもないし、ちょっと体的にも、すごく長い時間働くときつい仕事なので、それこそ前みたいに何かちゃんと、時給とかじゃなくて、ちゃんと固定給で、ある程度、前ほどじゃなくても、給料が頂ける、なるべくデスクワークのお仕事を今ハローワークに行きながら探している状態で。そのハローワークからの失業保険も出てるので、今は逆にちょっと三重取りで金銭的に逆に余裕がある。何か普通に一人暮らしで働いていたときよりも余裕があるぐらいなんですけど、本当にこれから先、障害年金もずっともらえるわけでもないし、失業保険も1年ちょっとで終わっちゃうので、これから先どうしていくかというのが、すごく今岐路に立っているところです。

・今後の働き方については、ハローワークの職員やハローワークと連携する障害者支援施設のスタッフと相談している。

仕事のこれからのことに対しては、ハローワークの職員の方と、ハローワークと連携している障害者を支援してくれる施設の方とが、結構、やっぱり私みたいな人が本当に今のこの時代って、すごくこの病気が多くて、私みたいに、どうしてもこの病気のせいで働けなくなって、もともと働けてた人が働けなくなって辞めてしまったという、何かパターンがすごい多いらしくて、そういう人をすごくたくさん扱っている人たちが私の相談に乗ってくれてるので、その人たちが一番話しやすいというか、これからのことを一緒に考えやすいし。

どちらかという親は逆に自分と全然違う人生を歩んできているし、こういうことにもなっていないから、あんまり何か相談相手にはならなくて。友達も友達で、私の病気を知っている人もいるし、知らない人もいるし、知っていても、そんなに詳しくは話してないので。職場復帰したよとか、社会復帰したよとか、そういう報告はしても、そんなこれからどうしようとかという話まではしないので。

・今後の働き方について、前職と同じ事務系の仕事で、会社が自分の病気に対して理解があり、奨学金の返済や実家に納める分を確保できる程度の収入を得られるところで働きたいと考えている。

(今後の働き方について、失業手当等を受給できるあいだに) 自分と条件が合う、自分が働き続けられる、ある程度、稼げるところの会社で、条件がお互い合ったところに就職したいなどというのは思っているんですけど。・・・(会社の) 価値観は、もうそんなに何か(勤務先の条件ではない)。どっちかという、自分の病気を理解していただいて。働き続けられる仕事内容で、ある程度収入も、生活に困らないぐらいの収入がある、前よりも少なくともいいから。

(収入と働き方、生活の見込みについて) でも、多分、そうですね、多分一人暮らしをしてという収入だと、本当に前ぐらい働かないと難しいと思うので。それはちょっと、最初は、ハローワークの人とか、支援してくれる施設の人とかとも話し合ったんですけど、やっぱり最初からそんな一人暮らしができるというか、一人暮らしをしながら働くって、普通の人でも大変なことなのに、病気をもちながらそういうことをいきなりするのはちょっと難しいから。最初は実家で暮らしながら生活に困らないぐらい稼げる企業さんに採用していただいて、そこで、また採用していただいた先でも、それこそ契約で働き方とかも変わってくるかもしれないしということ。

(今後の収入の目安について) 金額的には、もし実家にいたとしても 10 万以上の手取りだと、奨学金返して、ちょっと自分のことにも使って、家にも少しお金も入れられてということが出来るかなって。10 万以上もらえないと、ちょっと厳しいかなって。今は本当に失業保険と障害年金とってあるんですけど、それが多分そのうちなくなってしまうってなったら、十何万、できれば 15 万ぐらい。

(今後の労働時間の目安について) いや、多分、今の(アルバイトの) 仕事内容だと、ちょっと週 3 じゃないと厳しいと思うんですけど。それこそ、多分、事務とかのデスクワークだったら、それこそ残業がすごく多くてとか、すごくせっぱ詰まって働くとかじゃなければ、逆に前の職場の働き方、本当に定時で、朝 8 時半から 5 時ぐらいまで働いて。本当に残業している人はすごい残業してたんですけど、私はなるべく残業しないように頑張って仕事を回していたので。それで、家帰って、一人暮らしのしなきゃいけないことをしたり、好きなことしたりというふうにやってたんですけど。本当、それぐらいの働き方だったら、事務の仕事だったら、多分続けていけると思うので。週 5 ぐらいで、普通の 8 時間労働ぐらいでも多分大丈夫だとは思いますが、それもちょうと働いてみないと。

・両親は O さんの病気のことを理解のうえ、実家に受け入れてくれた。だが病状が回復するにつれ両親と衝突することが多くなったため、今は実家を離れたいと考えている。

(両親には) 一応、病気のことには理解してもらって。私は、本当にもう何かうちにお金がない、実家にお金がないことも分かっているし、本当に一人暮らしで働くことができなかつたら死ぬしかないかなというぐらい思っていたんですよ。でも、一応病気でもし収入がなくても、うちで受け入れるからということ、一応、ここに今受け入れてもらっている形なので。

でも、やっぱり病気がだんだんよくなってきて、だんだん動けるというか、できることが多くなってくると、何かもう病気のこと忘れていかなって。何かちょっとだんだん最近、私が、まだ一応病気であるということを意識として忘れかけてて、私、また、だんだんこの家を出たくなっている状態。

何かもともとちょっと実家にいる親とか、家族と自分一人だけ、生き方も性格も全然違って、すごく人間的に合わなくて出たところがあったので、何か弱ってて何もできなかったときはまだよかったけど。できることが増えてくると、何かまた元に戻るというか、高校のときまでに戻って、何か衝突することが多くて。・・・ルームシェアとかだとしても、一人じゃないとしても、ちょっとこの環境を離れたくて。

ちょっとネットでも調べたりしたんですけど、やっぱり、私みたいに、もともとこの実家と合わなくて家を出たけど、どうしても病気のせいでまた戻らなきゃいけなくなって、病気になったことで、実家にいるからこそ、何か病気がちょっと悪化するとまではいかないけど、何か働くことにつなげられない。病気になったところから、何か逆に、ネットに書かれている人は、何か親があなたは病気だから全然働かなくていいのよみたいな、周りが社会復帰できることを信じてくれないタイプだったみたいで、ここにいたら、社会復帰が二度とできないと思ったから、まずは実家から出て、生活保護を受けながら、だんだん社会復帰できるようにシフトしていったという人の話とか聞くと、ちょっと私も何か社会復帰する前にここを出なきゃいけない、どっちが先かなみたいな。

・両親は O さんの今後の働き方に対して口を挟んでくることはないが、生き方が違うため、自分の大変さや苦勞を理解してもらえないという悩みがある。

何かうちは逆に、全然教育熱心ではなかったし、どちらかというとな勉強しなくていいという親だったので、私がどれだけすごいところに行こうが、何か別にこうなってほしいとか、そういうのはあんまり逆になかったんで、そこはよかったかなと思うんですけど。

何か私の妹とか弟は、本当に親と一緒に、勉強そんなに好きじゃなくて、高卒で公務員専門学校に行って、そこで企業に就職という感じで、大学とかにも行ってないので、本当に私だけがちょっと異端児的な感じなので。だから、そんなにちょっとすごいところ行ったからって何かそういう過度な期待とかはされなかったけど、でも、逆に本当に何も、生き方が違うから、こっちが大変だと思っていることとか、すごく苦勞してきたことは理解してもらえないのはあります。何かやっぱり同じ苦勞をしてるわけじゃないから。

5. フリーターのイメージ

O さんの妹と弟は勉強が得意ではなかったが、実家が裕福ではないこともあり、同級生のように東京に働きに出たり、バンドマンになりたいと言ったりすることもなく、公務員専門学校に進学した。

(両親は)自分たちが本当に全然高校で勉強しなくて、多分、時代もあったと思うんですけど、そのまま就職したのもあって、やっぱり私たちにはちゃんと手に職をとかは言われたんですけど、安定した堅実な職業にというのは。でも、それは、私がもともとそういうことをちゃんと親を見て、ある意味、ちょっと反面教師的な感じで、自分はちゃんとこういう職業に就こうって思って大学行ったのと同じで、妹とか弟も、本当に直前、そういう高校の本当に最初の頃までは全然、何か東京行って芸能人に会うために東京で働きたいみたいな、そんなちょっと夢みたくいなこと言っていたんですけど、何かあるところから急に、私、公務員専門学校に行くみたいな、急に言い出して。多分、だんだん分かったと思うんですね、うちが、何かそういうちょっと夢見た職業に就いたときに、自分が失敗したら、何かもうちは助けられる余裕はないとか。何かそういうちょっとやっぱりほかの人の、同じ年のほかの友達の友達ぐらいの話を聞くと、すごく声優さんになるために東京行ったとか、何かやっぱりちょっと夢を追いかけて、こういう何かバンドをとか、そういう人ってやっぱり家がどっちかという裕福で、ちょっと失敗したとしても何か助けてもらえる、1年浪人したとしても予備校に入れてもらえるとか。うちは学校さえも、余裕は絶対ないから、絶対に公立に合格しろと、一発で。

だから、本当に、私はまだ自分、ちゃんとやるタイプだったし、よかったんですけど、一番下の弟が本当に、親と一緒に勉強が不得意で、入る学校がないぞと言われて、高校は本当に何とか、それでも何とか頑張っ、県立のちょっと一番下のレベルの学校なんであるんですけど、私立には行かずに済んだので。・・・だから、少しは頑張ったのかな。そこからは、多分、だんだん妹も弟もちょっと夢を見るようなことよりも、だんだんうちの事情とかも分かってきて、何か自分が失敗したときは自分が死ぬときだなみたいなという何かせつぱ詰まった事情がだんだん出てくると、多分そういうちょっと、多分学校の先生から聞いたとかもあると思うんですけど、堅実な、でも、大学に行くというほどの頭はないので、じゃあ、堅実にどこに行くかってなったら、多分、公務員専門学校というふうになったと思うんですね。妹がそうしたから、多分、弟もそうしたみたいな、そういうところがあるんだってなったから。

6. 新型コロナウイルスの働き方に対する影響について

コロナ禍のなかで、スーパーでのアルバイトの仕事は、大きな影響を受けていない。ハローワークを通じた就職活動にもコロナ禍の影響を感じているが、新卒採用としての経験が少なく、コロナ禍より前の状況もわからないため、強く悲観はしていない。

・コロナ禍のなかで、スーパーでのアルバイトの仕事は、大きな影響を受けていない。

(コロナ禍のなかでの仕事の変化について)スーパーは、それこそ、スーパーとかドラッグストアとか、あと多分、医療関係とかそうだと思うんですけど、むしろコロナになってから

のほうが忙しい職種だと思うので。だから、あんまり何かほかの飲食店とか個人経営のお店とかみたいに、何かすごく影響を受けて大変だったとかというよりは、逆に忙しくて大変だったみたいな。

(スーパーでの感染防止対策について) 常にマスクはつけなきゃいけないくて、今暑いので、すごくそれは大変ですけど。でも、何か仕事がすごくやっぱり何かなくなって、テレワークになるとか、そういうことではなかったの。・・・感染対策として、あんまり密にならないようにするとか、換気がされているとか、あと、消毒するとか、そういうのはしてますけど、あんまり時間をずらすとかは(していない)。多分、ただ、お客さんに合わせて私たちが働いているだけなので、何か時差出勤とか、そういうことではないので。

(コロナ禍のなかでの客の変化について) 多分、何かちょうどそれこそ、そのお店がオープンしたのが、コロナが始まってちょっとたった頃だったから、本当にコロナが始まった頃って、それこそドラッグストアとか、スーパーの人とか、すごく大変だったと思うんですよ、マスクが。だんだんマスクがちょっと出始めて、だんだん在庫が復旧した頃にスーパーが始まったので、まだちょっとよかったかなって、タイミングが。・・・でも、やっぱり影響を受けて、当初予定していたよりもお客さんがあんまり来ないとか、あんまり密にならないように逆に宣伝とかもできなかったの、当初予定していた、想定していた人数よりはちょっとお客さんの数が少ないとかはあったんですけど。

・ハローワークを通じた就職活動にはコロナ禍の影響が出ているが、新卒採用としての経験しかなく、コロナ禍より前の状況もわからないため、強く悲観はしていない。

(コロナ禍の、今後のキャリアへの影響について) まず、ハローワークの、もうやっぱりコロナとかの影響を受けていて、何か最初の説明会とかあったはずなんですけど、それがなくなって。あと、やっぱり感染対策とかもされてますし、ハローワーク内も。あと、やっぱり軒並みの採用活動がなくなってしまった業種とかがあるので、ちょっとコロナがないときよりは就職活動しにくくなったかなって。

コロナになる前でハローワーク行っていたわけじゃないので、もともとの状態が分からなくて、新卒の経験しかないの、中途採用としてハローワークに行ったこともないから。何かよしあしというか、今がどれだけどういう状況なのかが比べようがないんで、そんなに悲観というか、何かすごい大変とか、そういう感じはあんまりしてなくて。

(コロナ禍のなかでの就職活動にあたり、考慮している点について) でも、どっちかという、コロナというよりは、自分の病気のほうをちょっと考えなきゃいけないので、これから働くってなると。なので、あんまりコロナを意識して選ぶということは、多分ないと思うんですけど。それこそ病気になっているので、あんまり何か何回も乗換えして、何回も、すごい何時間もかかる仕事場ってなると、それだけで疲れてしまって、あんまり病気にもよくないかと思うので、できれば電車一本で行けるとか、短時間で行けるとか、家の近いとか、

それは考えていますけど。あんまりコロナだからとかは、そんなにまだ意識はしてないし、そこまで、まだ、すごいたくさんいろんな企業に、例えば新卒で大学のときに就職活動したみたいにすごいたくさんの企業に何社も何社も応募して、すごいたくさん頑張って一生懸命就職活動してるとかではなくて、病気の様子を見ながら、自分の体と相談しながら、今のパートとも両立しながら、無理のない範囲で進めているので、そんなにたくさんの会社を比べているわけではないから。

・コロナ禍のなかで働き方が変わってきている様子を、友人から聞くことがある。今後働き方がどう変わっていくのかについては、注目して見ている。

本当に、何かこのコロナになって、やっぱり友達の話とか聞くと、職種によって何か働き方とか、休まなきゃいけないようになった職種もあるし、そこで、ちょっときつくなったという人もいるし、逆にすごく忙しくなったという人もいるし、様々だと思うので。何か私はたまたまちょっとこうやって病気になってしまって、また、ある意味イレギュラーな形でコロナと関わることになったと思うんですけど。私みたいに病気じゃない、今まで順調に働いていた人も何かコロナがあることで、いろいろ人生が変わってくるのかなという。私みたいに何かちょっと立ち止まって考えなきゃいけない人が、病気にならなくても増えるのかなというのは思っているので、これから世の中が本当にどう変わっていくのか、働き方がどうなっていくのかは、何か不安というよりは、何かどうなっていくのかな、本当にという。

7. 家族について

Oさんは3人きょうだいの長女で、父は運送業での現場仕事に、母は子どもが大きくなって以降、パートの仕事に従事している。妹は結婚して家を出ており、現在は両親と祖母、叔母、弟と一緒に暮らしている。

Pさん

北海道在住・27歳・男性・専門卒
インタビュー実施日：2020年8月8日
インタビュー担当：岩脇
ノート担当：山口

北海道在住のPさんは現在27歳。中学生の頃に心のバランスを崩し、通信制高校に通いながら通院を続けた。高校卒業後は音楽系の専門学校へ進学し、卒業後は音楽活動と、専門学校生の頃に始めた中古書籍等の販売店でのアルバイトを続けている。コロナ禍によるアルバイトでの仕事や収入への影響はほとんどなかった。音楽活動では、コロナ禍のなかでライブ活動は今までどおりにはできていないが、オンライン配信のイベントに触れる人も増え、あらたな広がりがみえ始めている。

1. 学校時代と進路選択について

Pさんは中学生の頃に心のバランスを崩し、全日制の高校から編入した通信制高校に通いながら、通院を続けた。高校卒業後、Pさん自身が興味のあることであれば長続きすると考え、音楽系の専門学校へ進学する。専門学校ではアルバイトも経験し、しだいに症状も落ち着いていった。

・中学生の頃に心のバランスを崩した（のちに社会不安障害と診断される）。中学卒業後は地元の公立高校（全日制）に進学したものの、1ヶ月程度で通わなくなり、入学から3ヶ月で退学。同年の夏ごろに、通信制の高校へと編入した。

何か中学校のときから、周りが少しずつ背伸びをして、思春期になるので、そういった感じの、何かついていけなくなってしまったというか、あれ、何か違う、何か違うというふうに思って、なかなか毎日の、楽しむことができなくなってしまったので。1個1個、あまり面白くないというか、楽しくないという気持ちに何かなってしまったというのがある。そうすると、もう何か正直、あまり何も、本当は進学もしたいわけではない、でも、就職がしたいわけでも、働きたいというわけでもないという気持ちになる中で。でも、形だけでも、とりあえず高校に行つといたほうが良いという親の気持ちも、もちろん分かりますし、自分もそうだろうなと思って。とりあえず、全日制の学校に通えるだけ通ってみようと思ったんですけど、なかなか通ってみると、もう何かその頃には、ちょっと病氣的な感じなところまでいってしまっていて、学校は何かすぐに行けなくなってしまったというか、何か自信がなくなってしまったんですかね。

（全日制の高校に）在籍していたのが3ヶ月というような感じで、正直、すぐに、本当にも

う、実際に学校に通っていたのは1ヶ月くらいだったんじゃないかなというふうに思います。その後は、もう行きたくないとか、という気持ちを家族にも話して、もともと中学校に通っていたときから、そういった話だったり、自分の状況というのは、一応親のほうも分かってはいたので。やっぱりちょっと駄目だったかということで、休みましょうということで、多分1ヶ月くらいですかね、全日制の高校に通ったのは。で、学校をお休みして、一旦、休学中というふうな形にしてはもらったんですけど、多分、戻る気も僕はもうなかったし、でも、また学校に通いたいという気持ちには全くならなかったの、それだったら何か別の方法を模索しないといけないねというような、たしかそういう話になって、通信制の高校、どういったのがあるかな、みたいな話から。・・・ちょっと10年以上前の話なんで、ちょっとぼんやりとしているんですけど、たしかそうだったと思いますね。

・通信制の高校に在籍しながら心療内科に通い、薬の処方やカウンセリングを受けたり、デイケアに通ったりした。

(通院時は)薬が処方されたものと、あとは、デイケアサービスというような、作業所じゃないんですけど、そういった病気の同じ年代くらいの人たちが5人、6人集まって、あとはケアしてくれる心理士さんが何人かいた状態で、みんなで同じ作業をしてみたりとか、いわゆるレクリエーションをやってみたりというような、そういったのが週1回か2回くらいあって、それに通うのと、薬の処方と、あとは経過観察という感じで様子を見てという、その都度カウンセリングもしてもらいましたし、その心理士さんとも。今こんな感じだねという、いい感じだねみたいな話をしつつ。

・心のバランスを崩した大きなきっかけは思いあたらないが、興味をもてるものをうまく見つけられなかったこと、またそのことを過剰に思い悩んでしまったことが原因だと、今は考えている。

具体的にこういったいじめがあったとか、何かそういったことも全然なくて、何かこれといって大きなきっかけがあったということでは正直、僕の場合は違ったのかなというふうには思うんですけど。何だか今だったら面白くないなりにその中でもちょっと楽しいことを見つけてみたりとか、何か面白がる術を身につけるとか、というのは、昔よりは全然できているのかなと思うんですけど、その中学校とか、高校の通っていた時期というのは、それが、なかなかうまくできなくて、それも面白くないとか、何かつらいことばかりだなというような気持ちで生活していたのが学校に行けなくなったりとかという原因だったのかなという気は、今ではしてまずけどね。

何か正直、そうなったのか、何か必要以上に悩んでしまった時期でもあったのかなというふうに、今思うと、そこまで何か思い悩むこともなかったんじゃないかなというふうな気もしますけど、その当時の自分にとっては、やっぱり大ごととか、悩みだったんだろうなと

いうふうには思いますね。

・通信制高校に通いながら通院していた頃は、将来の働き方について考える余裕はなかった。働くこと、多分、学校に行くのも嫌だったし、働くというのも正直嫌だった、あんまり何もしたくないなという気持ちだったので、もちろん、働くというよりは、とりあえず学校どうしようかというほうが大変だったかもしれないですね、まだ先のこととか、就職して働いたりとか、ということはもうちょっと先の話だろうなというふうには思っていたとか、考えないようにしていたとか。なので、不安はもちろんあったとは思いますが、当時の自分からしたら、どちらかという、目前とか、目先の学校に関してのほうが不安だったりとか、考えたりすることは多かったのかなというふうに思いますね。

・通信制高校に通いながらアルバイトをしようという気持ちはあったが、結局やらなかった。高校に通っているときはアルバイトであったりとか、短期のものとかもやってみようかなというような気持ちとかもあったんですけど、やっぱり気持ちだけで、なかなかそうやって、いわゆるアルバイトの情報誌とかを見ても、実際に動いたりすることはできなかったですね。

・通信制高校を卒業後は、メディア系の専門学校で音響を2年間勉強した。就職はまだ考えられる状況ではなく、自身が興味のあることを勉強したほうが続くのではないかと考えたことが、大学ではなく専門学校に進学した理由である。

高校、通信制に通って、あとは、病院のほう、心療内科のほうにも通院していた3年間のうちに、少しは気持ちが落ち着いてきたとか、病院に通っていた効果があったとも言えるのかもしれないんですけど。気持ち的にそろそろ何とか、何か動かないととか、高校に卒業した後にすぐ就職だったりということはあんまりまだ考えられなかったというのもありますし、親もそこまですぐに無理しなくてもというような考え方ではあったので。であるなら、大学に通うという選択肢とかもあったとは思いますが、何となく自分に興味のあることのほうがちょっと知ってみたいとか、学んでみたい、体験してみたいという気持ちになれるところのほうが、結果的に、学校に通うという、また全日制の毎日通うという状況に自分の身を置いても、まだ続けやすいんじゃないかなとか、気持ち的にもまだ前向きになれるんじゃないかという気持ちもあって。全く興味のないところとかに行くくらいであれば、そういった専門学校とかで興味のあることを体験していったほうが自分にとっていいのかなというような話し合いをたしか家族として、それで、じゃあ専門学校、今自分が興味のある音楽だったり、そういったことには興味があったとか。あったので、それで、じゃあ、通ってみようかというふうな話になって、2年間通いましたね。

(授業の内容について) 音響関連コースというのを選択していたので、いわゆるライブのイベントとかの裏方さんの作業だったりとか、あとは、音響なので、音楽のCDを作るときの

レコーディング、録音の作業だったりとか、そういったことの座学の知識だったり、あとは実践してやってみたり、在學生の中でも、そういったミュージシャンを目指したりするようなコースもあったので、そちらの方の録音を学校の授業でやったりとか、そういった専門的なことを学んだり、あとは、いわゆる一般常識だったりとか、そういったマナーみたいな、社会に出る上のマナーみたいな、そういった授業とかもやりましたね。就職をするということを目的としたコースではあったので、そういった内容、専門的なものと、あとは一般的な常識みたいな授業の内容でしたね、そのときは。

・専門学校に通っていた頃は、学校が斡旋してくれたメディア関係のアルバイトに従事した。アルバイトを「やってみないとダメ」だと腹をくくったことや、同級生と一緒に働けたことで、仕事に慣れることができた。

（専門学校は）楽しかったと思いますね。授業の内容とか、もともと興味のあることだったので、そんなに苦になるような感じではなかったです。学校のほうで、アルバイトだったり、いわゆる業界のお仕事の斡旋みたいなものがあって、在学中に学校が斡旋してくれたアルバイトで働いてみたりとか、大変だなと思うこととか、なかなか行きたくないなという気持ちもあったんですけど、やってみないと駄目だろうなという気持ちのほうがその当時は強かったので、ちょっと経験を試してみようということで、在学当時はテレビ局のほうで働かせてもらっていましたが、アルバイトとしてですけど。

（徐々に病気は快方に向かった）という感じなんですかね。あとは、なんというか、嫌だ、嫌だと言っているかもしれないというような気持ちに、自然となっていたというのもあるのかなというふうには。前向きだったかと言われると、捉え方によっちゃあ、前向きなのかもしれないですけど。そんなにこれをやってみたい、すごくという、何かそういう前向きなだけでもなかったかなというふうには、ちょっと腹をくくってやるかというような気持ちじゃないといけないのかなというふうには思いますが、飛び込んでみなくちゃなという気持ちではあったかなというふうには思いますけど。

（高校生の頃は一步を踏み出せなかったアルバイトだったが）通っていた同級生が、もう先にそこのあっせんのアルバイトで働いていて、こういった感じの仕事内容だよみたいな話もある中で、学校の同級生何人かと一緒に働く、一緒に職場に行き働くというような形だったので、ちょっとハードルが下がったというのはあるかも。・・・何か知っている顔があったというのは、ちょっと心強かったのかもしれないですね。実際に行ってみて働くようになると、また、思っていた内容と違ったりとか、こういうこともやるんだみたいなことは、もちろんあったんですけど、それでも、知っている人の顔もいるし、そうやっていくうちに、何となく仕事にも慣れてきたりとかというふうになると、働けたなというような感じはありましたかね。

・学校やアルバイトが忙しくなり、通院の必要もなくなっていった。

専門学校に入るようになると、もう毎日学校には通っていたので、そういったデイケアのサービスみたいなのはちょっと行けないなということで。最後の1年間はたしか行かずに、学校だけ通ってというふうな、あとは薬とカウンセリングみたいなのを定期的にやっていたね。

学校も落ち着いて通えているし、アルバイトということもやってはいるしということで、少し落ち着いたなというふうに病院側も判断していただけたというのと、自分自身も大丈夫かどうかちょっと分からないですけど、もし、今後何か不安な気持ちになったりとか、そういった病気の症状だったりとかというふうになったら、また、いつでも来てくださいというような言葉いただいて、その上で一旦ちょっと通院はやめましょうかというふうになったので、大体3年から4年くらいですかね、通っていたのは。

2. 初職の就職活動

高校生の頃から取り組んでいた音楽の制作だが、次第に人前で歌ったり、演奏したりといった活動への意欲が強くなっていった。卒業後は音楽活動に専念することを決め、就職活動はしなかった。同時にアルバイト先も、音楽制作のための時間をとりやすい、中古書籍等の販売店舗に切り替えた。

・高校生の頃から取り組んでいた音楽の制作だが、次第に人前で歌ったり、演奏したりといった活動への意欲が強くなっていった。

学校に行けなくなって、高校、通信制の高校ですね、通っていた時期とかも、もともと音楽、放送、どちらかという音楽のほうに興味があって、そういった演奏したりとか、物を作るということは、通院していた高校時代の頃から、趣味というか、何というんでしょう、現実逃避みたいな気持ちもあったのかもしれないんですけど、そういった曲をつくったり、音楽を実際につくったりということも続けてはいるながら、専門学校は、一応、就職するということが視野に入れつつ、いわゆる裏方の、音楽ではあるけど、イベントの裏方だったりとか、音響の裏方のコースで学んではいたんですよね。ただ、その専門学校に通いつつも、音楽、自分でつくったりとかということはずっと続けていて、2年生になる頃には、やっぱり同級生とか、学校的にも就職をどうしますかという話にももちろんなるわけなんですけど、個人的に音楽をつくったりとか、自分で発表するみたいな、歌ったりとか、演奏したりとかということはずっとやりたいというか、つくことは、実際にやってて、あんまり人前で歌ったりとかはしてこなかった、演奏したりとかということはずっとしてこなかったんですけど、個人的にずっとやりたいなという気持ちはあったんですよね。

・卒業後は音楽活動に専念することを決め、就職活動はしなかった。同時にアルバイト先も、

音楽制作のための時間をとりやすい、中古書籍等の販売店舗に切り替えた。

でも、なかなか、そういったのを周りの人に言えなかったりとか、やっぱり働く、就職をして、もしかしたら生活が安定するかもしれないし、社員として働いたりとか、そういった道のほうがいいんじゃないかという気持ちも、もちろんずっとあったんですよ。ただ、やりたいなと最終的に思ったことが、どちらかという音楽を、裏方というよりも、表といえ表になってしまうのかもしれない、実際につくって演奏したり何か作品を発表したりとかということのほうがやりたいなという気持ちがどんどん強くなってしまったということもあって、もともと専門学校先生だったりとかという、自分が趣味でこういったことを発表することもやっているということは知っていたので、学校の先生とも相談はしましたし、最終的には自分がどうしたいかという話なんですけど。それで、働くというのはアルバイトとして働きつつ、そういった音楽を実際につくって発表したり、人前でやったりということをちょっと卒業後というか、在学中の2年生ぐらいのあたりからやろうというような気持ちになって、そこからは、就職活動というよりは、アルバイトをちょっと別のところで、なんて言ったらいいんでしょう、テレビ局というのは不規則な、仕事の時間帯だったりとかって、予定がつきにくい職業というか、仕事内容だったので、それは全然、ちょっと決まった時間のアルバイトというのを探して、そちらで働きつつ、いわゆる音楽活動、バンド活動みたいなものなんですけど、をやりたいなと思って、専門学校の在学中にアルバイトを替えて、〇〇（※現在のアルバイト先）で、今働いているんですけど、そちらで働きながら音楽活動をしようというような気持ちになって、それは今も続けているというような感じなんですけど。

3. 現在のアルバイト生活について

現在も中古書籍等の販売店舗でのアルバイトを、ほぼフルタイムで続けている。今の会社でのアルバイトは時間の融通が利くため、しばらく続けるつもりである。音楽活動では自分の発信したいものを発信することを重視しており、意欲を維持できる限りは続けていきたいと考えている。

・現在も中古書籍等の販売店舗でのアルバイトを続けており、1日6時間か8時間、週平均5日働いている。時給は約890円で、月あたりの手取りは14万円程度である。会社から正社員への転換を勧められることもあるが、基本的にはPさんの意思と働き方の希望を尊重してくれている。またアルバイトとしての社内ランク（全部で7ランク、Pさんは下から3番目）を上げていく余地はあるが、責任が重くなり、音楽活動のための休みをとりにくくなるので、重きをおいていない。

（正社員への登用について、会社側から）言われますね。ただ、自分でそういった音楽活動をしているということも、アルバイトで〇〇に入るタイミングで会社の方にも伝えていたので、一応、両方やりながらということを理解はしてくれている職場であるので、気の済むま

でやりなさいと。という、でも、ちょくちょくそういった感じで、社員は今どう考えているみたいな感じでちょくちょく話は聞かれたりもしますけど。

(アルバイトには) ランクが何個かあって、そうやって上げていくことによって、結果的に責任のある立場にどんどんなっていくと、なかなか休みを取りにくくなっているなというのは、自分の先輩だったりとか、高いランクの方の働き方を見ているとすごく感じるというか、ちょっと周りにどんどん気を遣いつつ、なかなか休み取りにくそうだなという感じが見ていて分かるので。であるなら、自分のやりたいこと、今音楽の活動をしているので、そっちも時間だったりとか、予定、スケジュールはきちんと確保したいなという気持ちでいたので、あまりそういったランクみたいなものとか、それによって、時給をどんどん上げていくということはある程度考えてはいなかったですね。

(現在の P さんのランクについて) 正直言うと、今働いている職場の方のランクの平均が、正直、今僕が働いている下から3つよりもさらに低いところなんですよね。なので、もうこの時点で、もう正直ちょっと責任のある立場に片足突っ込んでしまっているような状態なんですよ。それとは別に、自分よりも高いランクの方というのが3名いるんですけど、その人たちは、もう本当に自分よりも10年とか15年とか長く働いてる大ベテランの方ばかりで。になると、もうちょっとこれ以上、自分が上がると、もう何か、どんどんどんどんその道まっしぐらというか、なかなか自分で都合のつけにくくなっている状態、今の段階でもちょっと気を遣いつつみたいな感じで、休みの希望を出したりとかというような状態に正直なっているので、これ以上上げるのは自分にとって得策ではないなというような気持ちもありますね。言うほど、時給が、ランクが上がることによって、例えば100円上がったとかというほどのことでもない、数十円とかの単位なので。になると、あまり自分の中で割に合わないなという気持ちもあって、そういったのは、もともと店長さんにも伝えて、自分の気持ちも尊重していただけているので、自分の働きやすい形で働きやすい責任感というか、そういう気持ちで働かせていただいていますかね。

(アルバイトのランクと正社員登用との関係について) 正社員は全く別の流れになっていて、正直、ランクが高くなくても、会社側が大丈夫だなというふうに、どちらかという人間性というか、会社に合うかどうか、人として、そういう、自分の会社に合うのかどうかというほうを見ているかなという気がしますね。なので、そんなにランクが高くならなくても、大体、半年とか1年とかで社員を希望している方は、そのまま社員になったりとかというのは、実際に見てきましたし。なので、そんなにランクが高ければどうとあって、多分高ければ問題なく、そのまま社員として自分が希望すれば採用されるかなという感じはあるんですけど、別に特段、ランクが低くても社員になっている方は結構見てきたので、あまりそれは関係ないのかなと。本人の気持ちと、あとは会社の都合とか相性とかということで決まっているなというふうには見ていて思いますね。

・音楽活動はアルバイトの時間をぬっておこない、ライブイベントがある日は勤務時間に融通をきかせてもらっている。

(音楽活動は) 休みの時間だったりとか、あとは、帰ってきてからとか、出勤する前とかの時間を使って、ちまちまやっちはいる感じですね。・・・ライブだったりとか、イベントというのは、大体、夜のことが多いので、そういった日は働く時間変えてもらったりとか、あとは、もともと日程が決まっているようであれば、休みの希望を出したりとかというのをして、あらかじめ日程を空けておいてという感じで、働く日は働いて、休みの日は音楽活動、ライブをしたりとかという感じが、そうですね、ずっと続いてはいて。

・音楽活動は基本ソロで、またミュージシャンどうしで都度組みあいながらおこなっている。音楽活動での収入は少額で、不安定である。

(音楽活動は) ソロで基本は活動しているんですけど、バンドのメンバーとかとサポートしてもらいながら、バンドでライブをしたりとか、あとは、少人数のピアノとの編成だったりとか、ギター2人で演奏とかというような感じ、その時々でちょっと変えつつなんですけど。・・・ソロなので、好きなように組み合わせられるというか、そのときやりたい方と一緒にできるという形でやっていますね。

正直、不安定な感じではあるので、頂けるときは月1、2万もらえたりとか、いわゆるライブに出たときの謝礼が払われるところであれば、5,000円だったり、1万円だったとか、その時々によって違うんですけど。あとはいわゆる物販ですね、CDだったりとか、グッズだったりとかというのが売れば、3万、4万というふうに利益になることもありますし、でも、結局売れなかったりとか、そういった謝礼のもらえないライブとかであったら、全然収入、音楽における収入はなかったりという月もあるので、それは、正直まちまちなかなという印象ですね。

・音楽活動では、商品としての価値よりも、自分の発信したいものを発信することを重視している。

(メジャーデビューや東京進出について) それこそ、始めた頃というのは、専門学校に通いつつ、卒業したあたりとかはぼんやりとそういう気持ちももちろんありましたし、そういったことを目標にしといたほうがいいのかと思って、デビューだったりとか、そういったことも考えて活動はしていたんですけど、実際に、そういった所属をして働きませんかじゃないですけど、活動しませんかというようなお話を専門学校を卒業して1年後くらいに話があって、自分でも考えてみたり、その会社というか、の方とも相談したり、話し合いをしたりしたんですけど、何か話を聞けば聞くほど、自分がここで音楽をそれだけを仕事にして生きていきたいのかということに対して、それをやりたいわけではないんだなというふうに、そのとき思ってしまったというか、自分のつくった作品を商品にして売るというのは、自分で

アマチュアでやっていることと変わらないなというふうには思っていたけど、思っていた以上に、自分の作品が商品であるということを意識しなくちゃいけないかなという。もう目標も、その会社の中で目標があって、予算もあって、その先にあらかじめ決めた目標に対して、どういった曲をつくっていくかとか、どういった見せ方をしていくかという、そういった方向になっていくという話を聞いたときに、「そうか」って、会社も納得できて、自分も納得できるような、いいあんばいで自分が器用に曲を作ったりとかというふうなのが、その当時できれば、考えたかもしれないんですけど、なかなかそういったことが自分にはできないな、その当時の自分にとっては、なかなかそれがハードルの高いものだなというふうに思ったのと。先に目的だったりというのを決めて、それに自分の作品を寄せていかなきゃいけないんだという、だから、いわゆる歌詞だったりとか、つくる曲ということもそういったものを意識してつくっていかなきゃいけないということを自分がしたいのかなと思ったときに、それをやりたいわけではないなというふうに、何か自分に素直に思ったことだったり、表現したいアイデアとか、そういったものを先に形にして、その出来上がったものを、じゃあ、どういうふうにして届けたりとか発信したらいいのか、作品にとってとか、僕にとって、いい発信の仕方は何なのかという。何か作品を重視するわけではなく、先に、その先の目的だったり、目標という、あとは売上げの金額とかもそうですけど、そういったものを先に意識して、それに自分のものを、作品、曲というのを擦り寄せていかなきゃいけないという、何かそのやり方が、全然、正直これはやりたいことではないなというふうに思ってしまったというのもあって、そのときのお話は、もう最初から実際に契約とかもせず断ってしまっただけで、じゃあ、自分はデビューしたいわけでもないんだなって。何のために音楽をやるのかというのを結局考えなくちゃいけなくなっちゃったので、そうなったときに、自分が好きだからやっているんだなというような気持ちに、結論に至ったというか、好きだからやっているし、だから、好きだから、好きな曲を自分でつくって、好きなように演奏して、それを好きだと思ってくれる人が勝手に好きになってくれれば、それでいいなというような気持ちにそのタイミングでなったので。そこからは、本当に自分がいろいろお話を頂いたりとか、そういった広めてくれるお仕事をしてくれる人が声かけてくれたりとかということも度々あるにはあるんですけど、自分が、その話、何かわくわくするなとか、面白そうとか、これだったら自分がやってみたい、自分の考えに合っているなと思うものは、もちろんお願いしますとって、その時々でご協力していただいたりとかということにはしますが、基本は自分がやりたいことをやるというスタンスで音楽活動もきちんとやろうというような気持ちにはなっていて、そこからはちょっと同じように、あまりデビューとかということを目指さず、つくりたい曲をつくりたいときにつくって、聞きたい人に聞いてもらってという形の活動をちょっと続けてはいるという感じですね。

（コマーシャルの曲やジングルの依頼について）あんまりそういった縁はないと言っちゃあ縁はないのかなというふうには思いますし、そういった話があれば、やってみるのもいいの

かなというふうには思うんですけど、それも、そうですね、今のところ、あんまりそういった話とかはないですかね。自分で発信したいものを発信してというような形がほとんどですね。

・今後しばらくは現在の会社でのアルバイトを続け、音楽活動のための時間を確保していきたい。

個人的には、もうしばらく、やっぱり音楽は好きでやっていることなので、ただ、正社員という形になると、気持ち的にそういった責任のある、仕事の内容も微妙に変わってきては行くので、多分、そっちに専念を、自分の気持ち的に正社員になるからには、そっちの仕事に専念しなきゃいけないなというような気持ちでいるので、そうすると、なかなか音楽というのは、時間的にもともと割くというのも、隙間を、合間を縫ってやるような感じだったから、あまり情熱的な意味でも、なかなかやらなくなってしまうだろうなというような気持ちは正直ありますね。この今の状況だからこそ、時間も取りつつ、音楽もやって、働きもしてということができているのかなという気はするので、であるなら、もうしばらくやりたいなという気持ちは自分の中ではありますかね。

(現在のアルバイトについて) 何だかんだ働きやすいなと思ってはいるので、あまり辞めようとかという気持ちに、今なっていないので、あまり別の職業を、例えば違った職種を体験してみたいとか、何か新しいことに挑戦してみたいというのはあまり、アルバイトだったり、働くということにおいて、新しいことに挑戦していきたいという気持ちも正直ないかなというふうには思いますね。今がある意味、気持ち的にも安定して働けているので、であるなら、わざわざ、そういうリスクを取って新しい環境に自分の身を置いてみたりとかしてまで、何か新しい経験だったりとかということを得たいとは正直思っていないので、必要に迫られたら考えはしますが、そういった状態でなければ、この状態を維持、取りあえず、いましばらくは維持していきたいなという気持ちのほうが強いですかね。

(バンド仲間の働き方について) 仕事の内容はもうまちまちですけど、いわゆる契約社員という形で働いている方は周りにも結構いますし、アルバイトで働いている人もいるというような状態ですかね。・・・でも、そうですね、知り合いのそういったバンドマンだったりとかの方の中には、正社員で働きながらという方も全然いますし、あとは、自分の問題という感じもしますね。どういった働き方をして、音楽にどれだけ時間を割きたいのかというのもあるし、うまいこと正社員で働きながらも上手に時間を見つけて、きちんと発信していけるような方もいるので、そこは自分にとっては、アルバイトとして働きながらというのが自分にとって無理のない形だなというふうには思ってるからという感じですかね。

・現在の働き方や生活について、両親からの理解を得ることができている。
心配な気持ちは、もちろんあると思うんですけど、何か好きなことができ、そこそこ楽しいこともあったりとか、生き生きできているほうが本人のためなのかなというような気持

ちでいてくれてはいますね。なので、理解はしていただけているなというふうには感じていますね。

・音楽活動をいつまで続けるかという期限は設けず、意欲を維持できる限りは続けていきたい。

正直、そういう（※期限）のは設けていないです。あまり、結局、これまでの人生の流れという感じも、なかなか行き当たりばったりな感じな人生ではあったかなというふうに、目標を決めて、こういったことをやりたいというか、夢があつてとかという感じというよりは、その時々でやりたいことをやったり、やりたくないことはやらなかったりというような人生だったなと思うので、多分、自分の考え方というか、生き方がそのもの出でしまっているなというふうには思いますね。あまりそういった時間設定とか、これまでにこういうことをやりたいとか、こういった目標を達成したいとかというような気持ちで生きているわけでは正直ないかなというふうに思いますね。

あとは、もしかしたら自分がそういった音楽活動、嫌になっちゃうかもしれないですし、それは正直分らないですけど、そうなったら、多分やめるでしょうし、そういった気持ちになってないうちは、特に期限は決めずにまだやっていきたいなという気持ちはありますね。

4. フリーターのイメージ

中高年のフリーターと接する機会はほとんどないが、Pさんの周りのフリーターはみない人ばかりで、それぞれが好きなように生きている。Pさん自身も先入観を持って人を見てしまうことがあるが、みな人それぞれの多様性を認め合うことができるようになれば、よりよい社会になると思う。

・中高年のフリーターと接する機会はほとんどないが、Pさんの周りのフリーターはみない人ばかりで、それぞれが好きなように生きている。

（中高年層のフリーターとの考え方や価値観の違いについて）あまり周りで、30代くらいまで、大体40代以降とかになると、そんなに周りにまづいないというのかな。というので、あまり本当に年の離れた、一回り、二回り離れたフリーターで音楽をやっている方と話をする機会というのは、正直あまりないですかね。それこそ大体四、五十代でやっている方というのは、本当に正社員として働きつつ、隙間の時間を見つけて、それこそ僕のようにやっている方なので、あまりフリーターでという方だと、本当に30代くらいまでの人しか、実際に接して話したりしたことはあまりないんですけど。そんなに話していて、たまたま僕の周りの人が性格というか、そんなに話していて、何かみんないい人たちばかりだなという気がしますし、そうですね、何か年齢が違うからといって、何か全然考え方が違ったりとか、何か雰囲気が違うというようなこともないですかね。音楽をお互いやっているの、共通の話題

とかもありますし、あまり年齢関係なく接している業界というか、世界だなというふうには思いますね。あまり、そんなにすごく考え方の違いがあったりとかということもなく、本当に、おのおのがおのおの好きなように考えて生きているという人のほうが多いので。

・Pさん自身も先入観を持って人を見てしまうことがあるが、みな人それぞれの多様性を認め合うことができるようになれば、よりよい社会になると思う。

やっぱり自分が働いている中でも、それこそ買取りとか、本とかCDとか買取りをして、お客様のお名前とか年齢とか職業とかというのを記入してもらったり選択してもらったりするんですけど、そういった中で、例えば四、五十代の方で、職業を選択していただくときに、パート、アルバイトとか、無職とかというのを見るときに、自分があつというふうに一瞬思ってしまう。多分、刷り込みみたいな感じですけど、特に男の人とかだと、ある程度の年齢になっていたら、正社員でいることが当たり前くらいな感覚というのがやっぱり根強く、自分自身にもそういった先入観というか、ものがあるんだなというふうに思うので。なかなか難しいとは思いますが、年配の方でフリーターとして働いている人が、男の人でも女の人でも、そういった方がいたとしても、それはその人の生き方なんだなというふうに、あんまり違和感なく自然に思えるようになれば、世の中がそういうふうになれば、もっと働きやすいというか、フリーターだったり、アルバイトとして何か好きなことをしながらでもいいですし、別に好きなことがなかったら、とりあえず、なかなか正社員として働くのが難しい方というのも実際にいると思うので。一人一人がそういったいろんな価値観がある、何かそれをその人の価値観だよなというふうに自然に認められる世の中になったら、もっと楽しいかなというふうには思いますね。正社員に何が何でもなくちゃいけないとか、何かそういった先入観みたいなものが逆になくなっていけばいいなというふうに、自分の今の立場からすると、そういうふうには思いますね。アルバイトとして働いてという自分の状況から考えることとか、何かみんな好きにしたらいいんじゃないかなというふうに思います。

5. 新型コロナウイルスの働き方に対する影響について

アルバイト先では緊急事態宣言中に営業時間を短縮していたあいだも、これまでと勤務時間数が変わらないように配慮してもらった。音楽活動について、コロナ禍のなかでライブ活動は今までどおりにはできていないが、配信のイベントに触れる人も増え、あらたな拡がりが見え始めている。

・アルバイト先ではコロナ禍で仕事が忙しくなり、緊急事態宣言中に営業時間を短縮していたあいだも、これまでと勤務時間数がかわらないように配慮してもらった。

どちらかというと、扱っている商品の内容が、今のコロナの影響というか、ニーズにちょっと合ってしまったのか。なので、逆に売上が1.2倍とか、1.3倍ぐらいなんで、逆に忙

しくなってしまったという感じですね。何というか、毎日、土日のように人が来るし、売上もあれあれという、何かこんなご時世だけど、こんなに売上取れてしまっていていいんだろうかと、逆に不安になるぐらいに物が売れるんで、逆に働く時間が、会社的にも苦しいから、ちょっとアルバイトの働く勤務時間減らしたいとかというようなことも全くなかったですし、これまでどおり、営業の時間は、ちょっといわゆる自粛のステイホームの週間とかは、営業時間、ちょっと短縮したりとかはしていたんですけど、その短縮に合わせて、早めに出勤させてもらえたりとかというふうな、できたので、結果的に働く時間数とかというのは、全く変えずに働き続けられていますね。

(職場での新型コロナウイルス対策について) 一応、マスクとかは、強制ではないんですけど、つけて働いたりというのは促されてるのと、あとは、レジとか、買取りもやるので、そういったカウンター回りにビニールシートはつけて、一応、飛沫が飛ばないようにというふうな対策は取るようにというふうに言われていて、それはやっていますかね。

(コロナ禍による経済的な影響を受けなかったことについて) 運よくという感じですけど、なので、それはラッキーだったなという感じですね。変わらず働けていますね。

・音楽活動ではライブハウスでの演奏だけでなく、オンラインでの配信もおこなっている。コロナ禍のなかでライブ活動は今までどおりにはできていないが、配信のイベントに触れる人も増え、Pさんの音楽活動にもあらたな拡がりが見え始めている。

(音楽の) 配信もやっていますね。音源のいわゆる iTunesとか、配信のサイトで音源を配信しているものもありますし、あと、それこそ、今のこういった状況だと、ライブの映像だったりというのをリアルタイムで配信して、お客さんによかったらそのまま投げ銭をネットのクレジットだったりとか、そういったので投げ銭をしていただくみたいな配信のライブという形とかも、最近はちょくちょくやってはいる感じですかね。

(コロナ禍のなかでの音楽業界の変化について) その中でも、そういったライブハウスとか、お世話になっているところも、いわゆる配信のイベントで発信する分には、営業の自粛には、営業しているというふうにみなされないみたいなのがあったので、そういった配信のイベントが逆に増えていったりとか、あとは、おのおの個人で配信して、個人で投げ銭を募ったりとかというふうなやり方をされている方もいますし、あとは、もう逆に制作の期間だというふうに割り切ってしまうと、音源の制作をしたりとか、あとはライブの映像を撮って、それを発信したりとかというふうな形にミュージシャン側が変わっているなという印象は受けますね。・・・どちらかというと演者側というか、ミュージシャン側は、お客さんが個人的にいたりとか、有名な人であればあるこそ、グッズを販売したりとか、こういったときにお金を落としていただけるお客様というのが直接いるので、逆にミュージシャン側は、あとは働きながら音楽活動をしている人にとっては、そんなに、働いている職場が大変だったら、また話は別ですけど、それだけで生活しているわけではないので、ミュージシャンというよ

りも、どちらかというとライブハウスの人だったり、あとは音響の会社で働いている方とかは、仕事がなくなっているというような話は聞きますね。

(ファンの拡がりについて) 北海道だけじゃなく、それこそ本州でライブしに行ったときとかに気に入ってくれた方とか、あとは、この今コロナの状況になって、配信のイベントをたまたま見てくださった、ほかの共演の方のライブを見に来た別の県の方とかがついでに僕の映像とかも見てくれて、そのまま好きになってくれてという人とかも、結構このタイミングでちょっと増えてたりもしたので。だから、何か一概に悪いことではなかったな、状況は置いて。・・・自分にとってはという話ですね。なので、意外と広げるといえるか、発信する機会が逆に増えた、全国規模に発信をする機会が。ライブイベントだと、その場にいるお客様にしか届けられないんですけど、配信という形になると、本当にどこからでも見ることができるので、そうすると、意外なところから、それこそ外国から見てくれる人がいたりとか。そういったことも全然ありましたし、思いのほか、こういう人が気に入ってくれるんだというような何か発見にもなったり、個人的にはちょっと面白がって、今活動できてるかなというふうには思いますね。

(動画配信サイトの利用について) ミュージックビデオだったりとか、ライブの映像だったりとか、それこそ配信の映像とかも、配信のイベントとかも、大体終わった後も1週間、2週間という・・・アーカイブとして残しておいて、その投げ銭もその期間中、ずっと投げ銭も受け付けていますよみたいな感じで、そういった募り方もできるので。そうですね、意外と、まだ真新しさという仕組みがそんなに、まだお客さんのほうでも真新しい試みというふうに受け取ってもらえているので、意外と今のほうが、投げ銭だと、収入逆に頂けてるなというような感じがしますね。

7. 家族について

Pさんは2人兄弟の末っ子で、父親は学校の先生を務め、母親は専業主婦だった。現在は両親が離婚しており、母親と2人暮らしである。家計はこれまでの貯金や離婚した際の財産分与から賄っており、Pさん自身は毎月2万円程度を家に入れている。高校や専門学校への進学に際して、奨学金は利用していない。結婚の予定はない。

(結婚について) 正直、そういう気持ちになったことも今まで一度もなく、なので、自分のことだけを考えるようにしようというふうに、今までの人生の中でも、やっぱり自分のことで手いっぱいなところがもともとあったので、あまりそういった結婚したいとか、あとは、子供が欲しいとか、そういった気持ちにも、ラッキーなことにならなかったのも、そのまま自分一人のことだけを考えて生きていけたらいいなというふうには思っていますかね。

Qさん

石川県在住・29歳・男性・大卒

インタビュー実施日：2020年8月12日

インタビュー担当：小杉

ノート担当：柳

石川県に在住のQさんは、中学時代から漫画家になる夢を抱き、高校卒業後、地元にある短期大学の美術系学科に進学。卒業後、鬱病の診断をくだされるものの、実家で暮らしながら軽作業や梱包のアルバイトを経て現在はポスティングのアルバイトをしている。他方、漫画活動は依然として続いており、雑誌に応募することもある。現在進行中のポスティングのアルバイトは、新型コロナウイルスの影響は特に受けていない。

1. 学校時代と進路選択について

- ・石川県の中学校に通い、美術部に所属した。高校進学に関しては特に考えたことはなく、地元の普通科に進学した。
- ・高校では合唱部に所属するも、漫画を描くことは続けていた。高校卒業後の進路について進路指導やインターンシップは経験しておらず、大学への進学を考えていた。
- ・希望した進学先は実家から通学圏内にある美術関係の短期大学であり、その考えは中学から一貫していた。進学に関しては高校の美術担当教員の助言もあった。
- ・実際に受験した短期大学は第一志望の1校のみであったが、合格し、漫画系コースに進学した。進学を巡って予備校などに通った経験はない。
- ・専攻したコースでは、デッサンを中心としたカリキュラムが組まれ、漫画家として活躍する人物によるレクチャーもあった。
- ・サークルに所属することはない、や友人との付き合いもあまりなく、授業と漫画制作を中心とした大学生活を送った。
- ・アルバイトや短期大学でのキャリア教育、またはインターンシップは経験しておらず、奨学金は利用していない。

2. 初職の就職活動

- ・短期大学を卒業した後の進路については、実家暮らしとアルバイトをしながら作品を作ろうと決心した。周囲にも同様の計画を持つ友人が多かった。
- ・2013年3月に短期大学を卒業した直後の4月に軽作業であった。実家で通える範囲にあることを条件とし、インターネットを利用して見つけた。

3. 学校を離れた時から今までの経歴について

- ・短期大学を卒業した年に鬱病を経験した。医者（心療内科）から鬱病という診断を受けたものの、薬などを処方されることはなかった。鬱病に関しては心配をかけたくないという思いから親に語ったことはない。
- ・短期大学を卒業し最初に経験した軽作業のアルバイトは、週5日・8時間・時給は800円での勤務だった。アルバイトの収入を生活費や実家に入れることはなく、作品を作るために費やした。
- ・軽作業のアルバイトは1年ほど続き、会社が廃業したことにより辞めることになった。
- ・次に就いた仕事は、流通会社でお酒を梱包するアルバイトだった。週5日・6時間・時給760円での勤務だった。
- ・このアルバイトもインターネットを利用して見つけた。仕事内容や職場の雰囲気には不満はなかったものの、職場の同僚と交流を深めることはなかった。
- ・お酒の梱包のアルバイトは3年ほど続け、2017年の8月に会社が遠い場所に移転することをきっかけに辞めた。
- ・Qさんは、2つ目のアルバイトを辞めた同じ月に3つ目のアルバイトを始めた。3つ目のアルバイトはポスティングであり、現在まで続けている。
- ・ポスティングのアルバイトは、体力に自身が合ったという理由が働いているが、学生時代に特にスポーツに取り組んだことはない。

4. 現在のアルバイト生活について

- ・短期大学を卒業した直後に経験した鬱病の症状は、現在は落ち着いている。
- ・現在も続けているポスティングのアルバイトは、週6日・8時間・時給760円の勤務条件である。
- ・仕事は一人で行っており、体力的に負担を感じることはなく、このタイプの仕事は気に入っている。
- ・Qさんは、これまでの生活においてアルバイトの傍ら漫画活動を続けている。漫画家としてのデビューを夢見、いくつかの雑誌に応募した経験もある。
- ・一つの漫画作品の制作には概ね半年を掛けており、今後もアルバイトと漫画制作を続けていくつもりでいる。

5. フリーターのイメージ

- ・Qさんは自らをフリーターとして認識しており、その自己認識に否定的な考えは持っていない。しかし、本当にやりたいこととしてはやはり漫画家として活躍することであり、その見込については、あまり考えないようにしている。
- ・漫画を制作する作業はほとんど毎日行っており、今の生活について周囲から心配されるこ

とはあまりないという。

6. 新型コロナウイルスの働き方に対する影響について

- ・新型コロナウイルスによる影響は受けていない。従来どおりのペースで仕事が入っている。

7. 家族について

- ・Qさんの家族は両親と兄の4人家族である。両親ともに会社員である。
- ・学生時代に一度自らの作品を両親に見せたことがあり、両親は漫画家になろうとするQさんの生活と夢を理解してくれている。
- ・親からの経済的援助は受けておらず、アルバイトで得た収入は貯金している。
- ・現在付き合いはないものの、将来結婚したいという考えを持っている。

Rさん

福岡県在住・24歳・女性・大卒

インタビュー実施日：2020年8月19日

インタビュー担当：堀

ノート担当：山口

福岡県に在住のRさんは現在24歳。大学卒業後、飲食系の会社に就職するも1年未満で退職。その後はアパレル店舗でのアルバイトを経て、コールセンターとスポーツ系のデータ会社でのアルバイトをかけもちした。現在はデータ会社でのアルバイトにしぼり、パートナーの支援を受けながら、ひとり暮らしを続けている。緊急事態宣言中はデータ会社での仕事がなくなり、コールセンターでの仕事を増やして収入の維持を図った。現在もウェブ上で日雇い等の求人情報を検索することがあるが、コロナ禍より前と比べて求人数が減っているように感じている。

1. 学校時代と進路選択について

Rさんは幼い頃からテニスを続けており、語学系の短大を卒業後、大学に編入して体育の教師になることを目指した。だが大学生活のなかでしだいに体育の教師になることの難しさを感じるようになり、一般企業への就職も視野に入れるようになった。

・中学生時の将来の夢は、映画監督になることだった。

(中学生の頃の将来の夢について) 映画を見るのが好きで、映画監督になりたいなというふうに、漠然と思ってました。・・・何かテレビで、結構、俳優さんの演技とかを気にして見るのが好きで、特にこの人が好きという俳優さんはいらっしゃらないんですけど、何か漠然と好きだったという感じで、よく映画館に映画見に行ったりしてました。

・進学校の高校に入学後は幼い頃から続けていたテニスに打ち込み、将来は体育の先生になることを夢見るようになった。

(中学生の頃は) ずっと硬式テニスをしていたので、部活動で硬式テニスに力を入れてました。・・・高校はソフトテニスをずっと部活に入ってやっていて、硬式テニスのほうは、クラブに入って、別で、また土日とかに取り組むという形でやってました。

(テニスは) 3歳ぐらいから、両親がもうもともとやっていた影響で、ずっとやっていて。・・・もうずっとなじみ深いという感じです。

(高校生頃の将来の夢について) ずっとスポーツをやってきた関係で、何か映画監督はやっぱり現実的にちょっと難しいなというのに気づいて、体育とか、スポーツに興味と同時に

あったので、体育の先生になりたいなというふうに思っていました。

- ・高校卒業後はすべり止めで受けた地元（大分県）の短大に進学し、母親の影響で興味を持っていたフランス語を専攻した。

（高校）卒業後は、スポーツを学べる学科もしくは教育学部の体育専攻か、どちらかに進学したいなというふうには考えてました。大学は、結局、受験自体は、スポーツのほうは受験はしたんですけど、ちょっと落ちてしまったので、滑り止めという形で短大に進学をして。短大の学科は語学系の学科に進学しました。

（短大でフランス語を専攻した理由について）語学系は、母がもともとフランス語専攻の学部を卒業していたというのもあって、母がずっと自宅とかでフランス語を勉強する姿とかを見てきたので。あと、近くの短大というのもあって、大学で開催される講座とかに母が出向いたりとかして、ちょっと受けたりとかもしてたので、やっぱりなじみのある先生とかもいらっちゃって、そのつながりで同じフランス語を、若干興味があって、そこを勉強してみようかなというところで、2年制の短大で2年間、フランス語専攻で勉強しました。

（短大時代のサークル活動について）サークルには所属せずに、ずっと小学校、高校のときからずっと所属していたクラブのほうで練習をしながら、一般の社会人県大というのがあって、県民体育大会というのがあって、それを目指してばりばりと硬式テニスを（していました）。

- ・短大卒業後、編入で佐賀県の大学に進学し、体育の教員になることを目指した。

（短大を）卒業後は、やはりもう語学を勉強してたんですけど、それ以上にスポーツとか、保健体育とかに進みたいという気持ちがずっとあったので、何とか進める道はないかというところで考えて、短大に3年次編入の制度が設けられていて、もともと、結構、毎年何名か先生のつながりで進学の推薦してもらえる枠があったので、その枠で佐賀のほうの大学の教育学部の、スポーツと教育半々という感じの学部に進学をして、それで、スポーツの勉強をすることになりました。

（編入した大学での授業内容について）教育の学習と、あとはスポーツの、陸上であったり、水泳であったりテニスであったりとかいうのを選択して行って、教員になりたい人は教育の単位を多めに取って、それ以外の健康運動指導士ですとか、あとはスポーツインストラクターとかになりたい人は、スポーツの競技自体をメインにたくさん履修していくという。結構、もう教育メインでもないし、スポーツがつつりというわけでもなく、どちらも半分半分やっていくような学部でした。私は、一応、教員免許が欲しかったので、教育をたくさん取っていてという。両方、でも、かなり、スポーツ自体も好きだったので、単位自体は多めにもう両方取ってという感じでやってました。テニスも取りましたし、あとは柔道とか陸上、水泳と、バスケットボールとか、バレーボールとか、もうほとんど取っていったような感じですね。

・だが大学生活のなかでしだいに体育の教師になることの難しさを感じるようになり、一般企業への就職も視野に入れるようになった。

3年生の頃は、まだ、教員をずっと目指して頑張ろうというふうに思っていたんですけど、4年生になってから、やはり、先輩たちが教員試験を受けていく姿というのを間近に見ていく中で、やっぱり枠が少なかつたりですとか、あとレベルが、結構、もう競技の身体能力とかもそうですし、あと、お勉強のレベルもかなり必要というのが、現実が分かってきて。結構、保健体育は国体レベルとか。・・・何かしらの競技の実績がないと、やっぱり、一発では難しくて何年もかかってしまうというのを知ったので、ちょっと4年生になってから、免許は、ここまで頑張ってきたから取ろうとは思いますが、そっちの進路に行くかという、どうしようかなというふうに悩み始めましたね。

(同級生の進路について) 3分の1が教員、もしくは教員の正採用、もしくは臨時講師で働いている人がいて、残りの3分の1が公務員になって、役所とか、あとは警察官とか、消防士とか、そういったところに勤めている人が3分の1、残りの3分の1がもう一般企業の、全く関係ない民間の会社に行っているような感じでした。

・卒業後の進路について、大学の先生もひんぱんに相談に乗ってくれた。だが応援してくれる先生たちに対して体育の教員になることをあきらめたとは言えず、教員免許の取得に向けた準備をしながら就職活動もおこなった。

(教育免許の取得に向けた支援について) 教員志望の人には、面談がもう定期的にあって。あとは、学校のスポーツの教授の先生方との距離が結構近い学部だったので、もういつも会話の中でそういう話が出るというか。・・・(大学の先生は) お友達ではないですけど、結構そうですね、スポーツというのもあるって、乗りがいい先生が多かったので、割と距離が近くて、随時もう普段から話しているっていう感じで、進路については話していましたね。

先生には、直接はやっぱり、先生も教員になってほしいという思いが強い先生がもうほとんどだったので、両方考えていますという、ここまで来て、教員やめますというのが、やっぱり。・・・先生にとっては、何ていうか、中途半端、生半可な気持ちでやるなというふうな感じで言われていたので、それは言えず、もうみんな、結構迷っている人、周りの人とかは、先生には教員になるというふうなところで、教育実習に向けて、しっかり対策していくという顔を見せつつ、就活も同時にちょこちょこやったりという。

2. 初職の就職活動

就職活動は福岡県を中心に、当初は旅行会社への就職を目指した。教育実習でいったん就職活動を止め、その後は大学からの就職支援も受けながら、1月に福岡県の飲食系の会社への就職を決めた。

・就職活動は大学4年生の夏頃から本格的に始め、旅行会社を中心にまわった。

そのとき（就職活動を本格化させた頃）は、もう行きたい企業というのがなかなか見つからずに、スポーツの方面に行くかというのも、ちょっと周りのやっぱり身体能力、同じ学部にいる仲間の身体能力とかも見てきていて、自分の位置がどの辺りにあるのかというのが見えてき始めて、結構、自分の中では、あまり身体能力が高くないほうだなというふうに思い始めていたので、スポーツインストラクターとかもちょっと自分の中で自信がなくなってきていたので、もう全く別のところにしようというふうに考え始めて、結構、旅行とかが好きだったので旅行会社かなというふうに漠然と考えて、旅行会社を中心に企業研究をして受けたりしていました。

・就職活動では、福岡県での就職を目指した。

やっぱり福岡のほうがいいかなという、便利かなとか。・・・そう（福岡県では、たくさん求人があるから）ですね。あとは、プライベートとかでも、福岡のほうで演劇とかであったり、ライブであったり、福岡を拠点にしていることが結構多いので、最先端に触れられるという意味でも福岡のほうで便利がいいというか、吸収できるかなというふうに考えて、福岡にしました。・・・特にはそう（※演劇をみるのが好き）というわけではないんですけど、新しいものに触れるのは好きなので、いろんなところに興味が湧く性格でもあるので、つながりが結構増えるかなというところで。

（両親は）結構、大分のほうがいいよというふうには、直接は言わないけれども、求人とかは、大分にこういう求人があったよというふうに紹介してくれたりとか、あまり強くは言わないけれども、ちょこちょこ大分の求人を見せてくれたりはしていましたね。

・教育実習のため9月にいったん就職活動を止め、その後は大学からの就職支援も受けながら、1月に福岡県の飲食系の会社への就職を決めた。

旅行会社は落ちてしまって、8月の中旬ぐらいまで就活をしていて。でも、旅行業界、1回全部、一通り受けたんですけど落ちたので、そのまま教育実習、9月に行くことになって、そこで就活が一旦止まってしまって。・・・でも、身があんまりもう入らずに、何か旅行業界の募集とかも、もうほぼ終わってしまっていて、それから先は全く考えてなかったので、ちょっとあまり身が入らずという感じで、あんまり就活してるのかしてないのかという感じのペースでやってたような感じですね。

結局、就職先が決まったのが1月の前半とかだったんですけど、飲食系の会社に最後は就職が決まって、就職することになりました。

（飲食系の会社をみつけた方法について）学校の進路相談のブースがあって、そちらの人に、何というか、職業紹介をしてくださる会社というのがありますよというふうにお勧めされたところの方に引き継いでもらって、その方から幾つか提案されて、その中で条件のいいとこ

ろを受けようかなというところで受けてという感じです。

(人材会社が勧めてくれた求人の内容について) そのときは、リクルートとか、人材派遣の会社とか、何かもうほとんど募集自体が少なかったの、飲食であったり、あとは携帯会社とかの、本当に自分の希望を出しても選べないような感じで。あとは給与とか、お休みとかで決めていくような形の選び方というような感じで提案してくださってましたね。もともと知らなかった分野とかの企業も提案してくださったので、ああ、こういう会社もあるんだなというふうに、新しく勉強にはなりましたね。

- ・就職が決まった飲食系の会社での勤続の見通しは持っておらず、むしろ何年続くかといった不安のほうが大きかった。

もうあんまり、自分の希望の会社ではなかったの、逆に続く、どのぐらい続くかなというようなところで、あんまり何年勤めようというのは考えてなくて、続くかなという不安のほうが大きかったような感じですね。

3. 学校を離れた時から今までの経歴について

飲食系の会社に就職してすぐに体調を崩して休職し、半年程度で退職した。その後はアパレル店舗でのアルバイトを経て、コールセンターとスポーツ系のデータ会社でのアルバイトのかけもちを始めた。

- ・飲食系の会社での勤務を始めてすぐに体調を崩して休職を始め、そのまま 11 月に退職した。

(飲食系の会社へ) 4月に入社して、6月頃に体調を崩してしまっ。7月の中旬ぐらいまでは頑張ってたんですけど、もうどうしても働けなくなってしまったので、一旦ちょっと休職という形でお休みして、続けるか辞めるかっていうのを考えてみようという期間を設けてもらって、11月頃に、やっぱり退社しますというところで、退社をしたような形ですね。

(休職時の体調について) 一応、病院に行ったときは、自律神経失調症と、あと中度の鬱状態というふうに言われたんですけど、結構、気持ちの落ち込みというよりは、もう体が、吐き気がしたりとか、目まいがしたりとか、自分自身は頑張りたいんですけど、体の、手が震えたりとか、体に症状が出てきたような感じでした。

- ・体調を崩した理由は、職場の環境の悪さと、仕事と生活の切り替えができなかったことだった。

(体調を崩した理由について) やっぱり自分の希望でなかった飲食というのもあったのが一つで、学生時代にアルバイトで飲食もしたことあったんですけど、飲食、やはり、残飯とか

があったりするのですとか、あと、お客様が、結構、上というか、こう、もう。結構当たりが強い方が多いという、どこの飲食でアルバイトしても、そんな感じというのもあったので、同じく、就職したところもそんな感じで、結構、それに気持ちが左右されたというのもありますし、あと、最初に、4月に研修に入った、1ヶ月間の研修の店舗の方が、結構、一番厳しい教育係の方で、割といつもびしっとしているというか、弱みを見せない方だったので、それに影響されて、ずっとびしっとしていきやいけないというのがあって、家に帰ってもずっと仕事のことで考えて、日記に、反省とか書いたりして、もうずっとお仕事のことを考えていたので、それが一番、2つ、大きい理由かなっていう感じですね。

(Rさん自身の性格の影響について) それまでは、もうごく普通で、性格が結構感受性が豊かというか、こう。・・・割と繊細ではあったので、人の感情、怒ってたりとか、あと嬉しい人を見たりとかしたら同じ気持ちになったりという、影響を受けやすかったので、それも結構ありますね。

・休職しているあいだは、パートナーに相談したり、会社の先輩から助言を受けたりしていた。

(休職中は) もう一度も(実家のある大分県に)戻らずにずっと福岡にいました。病院以外は、特には、彼が、一応一番相談をできる相手ではあったので、彼に少し相談したり、あとはずっと仲よかった友人とかと連絡を取ったりはしてたんですけど、もう休職始まってから連絡を取れる状態ではなかったの。・・・もうずっと、何ていうか、寝たきりというか、植物人間みたいな感じにはなっていたので、あんまり連絡自体は取ったりは少なかったかなという感じですね。

(会社とは) メールとかでやり取りはしていたんですけど、そのやり取りしてくださっている女性の方からは気遣っていただいたり、あと、こういう方もいらっちゃって、こういうふうに、その女性の方も、一回メンタル的な部分で病気になったことがあったっていう経験もあったので、ちょっとアドバイスとか頂きながら、復職に向けて、こういうふうな感じでいったらいいよというふうなアドバイスとかは、ちょくちょく受けたりしていました。

・飲食系の会社を退職した後、12月からアパレル店舗で販売員のアルバイトを始めた。

(飲食系の会社を退職した後の生活について) 手当金で、今まで生活をしていて。11月頃からは、もう結構、外に出たり動けるようにはなってきたので、その時点で、結構、大学時代に楽しかったアルバイトの中で、アパレルのアルバイトが結構楽しかったんですけど、それをちょっと、またやってみたいっていう気持ちが湧いてたので、11月の初めか半ばぐらいから準備を始めて、12月1日からはもうアパレルの仕事をアルバイトで。

(アパレル店舗でのアルバイトへの応募について) もう自分で調べて、学生時代に働いたブランドが大好きだったので、そのブランドの求人を検索して、幾つかお店がある中で、ここ

のお店が、見に行ったときにちょっと入りやすそうだなというお店にしようかっていうところで選んで求人に応募しました。

(当時の月収について) 月で12万、3万とかぐらいいただいていた。・・・もう最低限の生活で、ぜいたくしなければ生活していけるという感じです。

・その後ふたたび体調が悪化し、アパレル店舗でのアルバイトを翌年の2月に辞めた。

(アパレル店舗でのアルバイトを辞めた理由について) ちょっとこうハイペースにシフトを入れ過ぎて、結構、フルタイムに近いような形で、いきなり入っていったというのも、もう何かやる気が結構十分過ぎたので、そのやる気と体の回復がついていかなくて、途中で結局ガタッとガタがきてしまったのもあって、もう崩れて、また最初の、休職入る前まではいかなかったですけど、ちょっと悪くなってきたので、店長さんとかと相談をして、一旦退職しようかというところで、お休みというところで、辞めました。

・3月から求人情報サイトを利用して求職活動を始め、同月よりコールセンターとデータ会社(スポーツデータの収集・提供)でのアルバイトのかけもちを始めた。

(アパレル店舗でのアルバイトを辞めた後の過ごし方について) 3月の初めの週ぐらいまではもう何もしていなくて、ニートというか、という感じでお休みをして、でも、その間にもう次を見つけなきゃっていう気持ちはあったので、次を探して、応募自体はしていました。

(アルバイト先を選んだ理由について) 結構、コールセンターのほうは給与がよかったので、給与の面でいうところと、あとは、学生時代に、結構、電話対応が好きというか、得意だなというふうに自分の中で、社員さんとかから褒められることが多かったので、割と自信があって、無理なく働けるかなというところで選んで。あと、データ(会社)のほうは、スポーツというワードで検索したりして見つけて、面白そうだなというところで応募したような感じ。・・・もともとスポーツが好きというのもあって、現在担当しているスポーツも、結構、特にテニスと同じぐらい好きなスポーツではあったので、それに応募して採用していただいて。

・コールセンターでは週3～4日、データ会社では週2日のペースで、休みをとれるよう工夫して勤務していた。

同じ日に、朝方コールセンターに行って、夕方はデータのほうに行くときもあれば、別日のときもあったんですけども、なるべくお休みはしっかりつくろうというところで、同じ日に入れることが多かったです。

4. 現在のアルバイト生活について

現在はデータ会社でのアルバイトにしぼり、パートナーの支援を受けながら、福岡県での

ひとり暮らしを続けている。Rさんは自由と健康を維持できる働き方を重視しており、今の働き方や生活が性に合っていると感じている。将来はパートナーと結婚し、体調面と相談しつつ、長期的な生活設計も立てながら、自身の働き方を決めていければよいと考えている。

・コールセンターのアルバイトは7月いっぱいまで辞め、現在はデータ会社でのアルバイトの日数を増やして働いている。

（データ会社では）結構、現場での仕事を任せていただいたり、分析自体の仕事を任せていただいたりというところで、いろいろ受け持つ仕事を増やしていただいたので、割と日数も増えて、週に今は4ぐらいですかね、週4ぐらいで。

私も（現在担当しているスポーツについて）あんまり詳しいほうではないんですけども、最低限のルールが分かれば、経験者であれば、なおもっとう分析のほうに携われるという形で・・・私みたいにちょっと、あんまりルールしか分からないっていう感じの人はテキストの修正だったり、簡単なお仕事だけ任せていただいてっていう感じです。

（データ会社での契約社員や正社員への転換・登用について）ああ、どうなんですかね。ちょっとその辺りは分からないですけど。恐らく、中途でも結構入ってる方もいらっしゃるみたいなので、もしそういうお話をしたら、一応あるのはあるのかなっていう。

・現在の月収は10～12万円。パートナーからの支援を受けながら、ひとり暮らしを続けている。

コールセンターを辞めるときぐらいから、ちょっと、体調面も若干がたがきたというのもあったので、それで、また病院に行ったら、鬱がちょっと重度まで悪くなっていたので、それをちょっと心配して、彼が今来てくれていて、食事のお金の負担とかは彼が養ってくれているという感じなので、あと家賃と、あと携帯代とか、そういうのだけ自分が払ってというところで生活してる状態です。

・Rさんは自由と健康を維持できる働き方を重視しており、今の働き方や生活が性に合っていると感じている。

やっぱり自分の中での優先順位が、自由が利くっていうのが、第一っていうのがだんだん分かってきたので、お金が、そんなにぜいたくとかをしたいというタイプではなくて、最低限の、本当にもう節約してとかが楽しい感じの、お金にあんまり興味がないというのもあったので、フリーターの働き方のほうが合っているのかなっていうふうに思って、今はフリーターで働いてます。

（理想の働き方について）やっぱり職場の人間関係が良好で、あまり、何ていうか、決め事がないというか、干渉されないで、お休みとかも自分で選択して、この日とこの日にお休みをしたいっていうふうに自分で決めていける、何かこう、人生を自分で決めれるっていうか、

そういう働き方。・・・やっぱり心に余裕があって、健康でという働き方ができればなというふうに思ってます。

(具体的な「理想の働き方」のイメージについて) やっぱり、自分の中でスポーツが好きというところと、あとは、お洋服も結構、ずっと大学時代のアルバイトの経験もあって、割と興味があるので、お洋服と、あとはスポーツ関係と、あと、ちらっとこの中学時代の映画監督というふうにも言ってたんですけど、実は、短大のときに2年間映画館で働いていて、アルバイトで。なので、映画関係とかのそういうお仕事だったら続けられるのかというふうに、自分の趣味に近い仕事だったら無理なく、あとは人間関係が普通であれば続くのかなというふうに思ってます。

・周囲にはフリーターとして働く人も多く、Rさん自身がフリーターであることを否定的にみている人は少ないと感じている。

意外とフリーターをしている人も、結構、周りに多くて、そういう人たち、結構自分のやりたいことがあって、例えば、ケーキを作ることに興味があってとかだったら、ケーキを作るというイベントをやりたいとか、自分のハンドメイドで何かものづくりをして、インターネットとか、SNS使って売っていったりとかで、何かしら自由と、ちょっとやりたい夢というか、やりたいこと、興味のある趣味みたいなのもっと充実させたいっていう人がいて、フリーターになってるっていう人も結構いらっしゃるので、そんなに正社員じゃないんだみたいな、自分が思っていたよりは軽蔑した目っていうか、いう目は受けなくて、割と理解して応援してくれる人が多いっていう印象です。

・フリーターとして働いていることについて、両親からの干渉はとくに受けていない。

(両親は) 最初は、できれば正社員に戻れたらいいねっていうふうに言ってたんですけど、だんだん体調のこととかも分かってきたみたいで、今は、もう何も言わずに、体が元気になるといいねというところで、特に干渉もせず見守ってくれているような感じです。

母と、結構仲が、母が結構神経質なので、すぐしゃべっていると衝突があって。お互い、そうですね、お互いに、結構、自由人なので、お互いにストレスかなっていうのがお互い分かっているの。そんな感じで、あまり行かないようにしてます。たまに電話とかで連絡取って、生存確認してという感じです。

・将来は鉄道会社で勤務するパートナーと結婚し、体調面と相談しつつ、長期的な生活設計も立てながら、自身の働き方を決めていけばよいと考えている。

(パートナーとの結婚について) 今、彼が列車の運転手を目指しているところで。・・・毎年その試験があるみたいなんですけど、その運転手の試験に受かって、運転手になって落ち着いたらかなっていうふうに考えているので、2、3年は後かなっていうふうには考えています。

(今後の働き方や生活について) 彼とゆくゆくは住んで、ちょっと体調面を戻して行って、もし働けそうだったら正社員も目指せるなら目指してもいいかなというところではあるんですけど、やっぱり、自由と健康を一番に考えて、その上で相談して、彼と、判断しようかなというところで、今のところは、パートでいいかなというふうなところで、子どもが、またできたら、ちょっとまた収入を上げないといけないというところで正社員も考えていいかなといけないうかなという感じで、漠然と考えてます。

(今後の働き方や生活のうち、気になっていることについて) やっぱり結婚してからどのぐらい、子どもができてとか、どのぐらいお金がかかっていくのかとか、あとは、社会制度とか、保険関係とか、あんまり、まだ自分自身詳しくないので、その辺りでどのぐらいお金かかるのかというのがありますし、あとは、母とかがもし、今、母が祖父とか祖母の介護とかをしているんですけど、もし、自分が一人っ子でもあるので、もし母と父がそういうふうになったときに、どのぐらいお金がかかるのかとか、どういうふうな生活になっていくのかなというのは、ちょっと不安ではあります。(両親の介護は) まだまだ、あと10年ぐらいは大丈夫かなと思っているんですけど。

5. フリーターのイメージ

フリーターに対しては、やりたいことを実現するにあたり家計維持のための手段としている人や、Rさんのように正社員として働けない人、というイメージをもっている。

(Rさんがもつフリーターのイメージについて) 人それぞれ働くにあたって求めるものがやっぱり違うから、フリーターを選ぶ人は、やっぱり何かやりたいことがあってそのためにお金を貯める人だとか、あとは私みたいに、ちょっと病気があって、なかなかうまく働いていけない人っていう人がフリーターを選んでいるのかなっていう印象で。正社員は、逆に、健康でばりばり働ける人だったり、お金をたくさんもらって、ぜいたくを、自分のご褒美のためにたくさん使いたいとか、あと、将来のために貯金をしたいとか、そういう、あと安定とかが欲しいっていう人が正社員を選ぶのかなっていう印象ですね。

(Rさんの周囲のフリーターも、自身がフリーターとは) あんまり名乗ってはないですね。何か聞かれたら、実質フリーターよね、みたいな感じで。何かこう、フリーターというよりは、今こういうことがやりたくて、こういう夢に向かって頑張ってるんだっていうのを押し出して、そのためにお金を、資金を貯めるための手段っていう感じで、あんまりフリーターですというのに着目してる人は少ない気がします。

6. 新型コロナウイルスの働き方に対する影響について

緊急事態宣言中はデータ会社の仕事なくなり、コールセンターでの仕事を増やして収入の維持を図った。現在もウェブ上で日雇い等の求人を検索することがあるが、コロナ禍より

前と比べて求人数が減っているように感じている。

・コロナ禍で、担当するスポーツの試合がおこなわれなかったこともあり、緊急事態宣言中にデータ会社の仕事がなくなった。その間はコールセンターでのアルバイトを増やして収入を維持した。

コロナで一時期ちょっと、事務所自体を閉鎖したりとか、担当するスポーツ自体が無観客になってしまったというときもあったので、若干4月か5月あたりで、一回ちょっとできない、働けない時期あったんですけど。

(データ会社からの休業手当等の補助は) 特にはなかったですね。もう「お休みになります」という通知だけ来て。・・・「また再開のめどが立ったらご連絡します」というところで。その間は、コールセンターのほうの日数をちょっとう、プラスとかできる、融通が利くようなコールセンターだったので、ちょっと日数を増やしてくださいというふうに言って、何とかスポーツの分析のほうに入っていた日数、日にちをコールセンターに変えてというところで、生活してました。

(コールセンターでは) 人数は一応ちょっと減らして、こう、隔離のその。透明の(シールド)、そうですね、とかはつけていたんですけど、特に影響はなくていう感じで、日数は相変わらずな感じの、ずっと同じような日数で出勤してました。

・現在、日雇いのアルバイトを探すためにウェブ上で求人を検索することがあるが、コロナ禍より前と比べて求人情報が減っているように感じている。

最近、ちらっとデータの仕事の合間でできる日雇いのアルバイトがないかなというふうに、ちょっと、タウンワークだとか、Indeedだとか、ちらっと見てみたりしたんですけど、何か前見たときよりも日雇のアルバイトが少ないなというふうにはちょっと感じましたね。あとは、普通の長期とか、短期のアルバイトとかも、あんまり掲載がどこもないなというふうには感じてます。

7. 家族について

Rさんは一人っ子で、父親はチェーンストアの店長を、母親はテレビ局でタイムキーパーを務めている。高校と大学には奨学金を受けて進学し、高校時の奨学金はRさんが返済を続けている。現在、両親からの経済的支援は受けていない。パートナーとは地元が一緒で、大学編入後に知り合った。

Sさん

新潟県在住・27歳・女性・大卒

インタビュー実施日：2020年8月20日

インタビュー担当：小杉・山口

ノート担当：堀

新潟県在住のSさんは公立普通高校を卒業後、中国の大学に進学した。1年目は飛び級だったため3年で卒業したが、初職である契約社員の仕事を得たのは卒業から1年経過した後であった。

地元空港の免税店の契約社員として働いていたが、コロナの影響で飛行機が飛ばなくなり、会社の退職希望者の募集に応じて退職した。その後仕事を探して採用が決まったものの、手取りが低くて暮らしていけないため辞退した。現在は職業訓練に応募しようとしているところである。

1. 学校時代と進路選択について

Sさんは公立普通高校に進学後、当初は就職を考えていたが、子供のころから続けていた中国語を生かし、中国の大学への進学を決めた。

・高校の時の進路選択は進学か就職かについて迷っていた。

普通に就職しようと思ってたんですけど。でも、何か、高卒はあれだからみたいな。何も準備してないし、就職の。就職するクラスもいました。何かクラスで、普通科と就職みたいなで。(Sさんは)進学のほうでした。でも、就職したいのも、特になくて。

何か就職か学校かみたいなで、周りからも、自分からも、何か学校だったらどういうあれがいいみたいになって、語学ってなって、何か日本とかでそういう、語学学ぶよりも、直接海外に、いいんじゃないみたいな。中国語です。それで、もう海外行きました。

(学校で習ったんですか) いえ、個人で。周りに話す人いたので、ちょっと勉強できたんです。語学学校には通わなかったです。小さいときに行ってました、バイリンガルに。何かちっちゃいときのほうが、変ななまりがないかなみたいなことで。小学校ぐらいです。

・日本の大学は学費が高いことも後押しになった。

何か学力的にそんなにいい学校じゃないので、だったら、もう直接本場がいいんじゃないみたいな。日本の大学って高いじゃないですか。すごい高いお金払って、何かそんな日本式の中国語を習うよりも、本場でそういう教室、課程もあるので申し込んで、合格しました。

・大学はエージェントを使わず、自分で選択した。

インターネットとかで、幾つか申し込んで、試験に参加して、資料入れたりと、何かあるじゃないですか、いい学校ランキングみたいな。それで、何か合う課程、合う科目があれば。（留学を斡旋してくれる会社？）それはありますけど、使わなかったです。周りとかもいろいろサポートはあったんですけど。親とか。そうです、親とか親戚とか。

最初のときは、親とでしたね。（親戚に中国出身の方がいらっしゃったんですか）はい。そこで、もう生活とかもいろいろサポートしてもらったり。上海。国際的な街なので、まあ、いろんな留学生もいましたし。

・中国の大学生活は大変だった。

一番印象に残ってるのが、最後の卒業論文がしんどかったです。ストレスもすごかったです。日本の家電をテーマにしました。（学科は）ビジネス系。就職（のため）。ビジネス漢語学科。

・友達もいたが、中国人ではなく、日本人や韓国人であった。

勉強は大丈夫でしたし、友達はみんな結構優しかったし、割と日本人で結構、一番よく日本人グループにいました。（日本人の留学生が）五、六人ぐらい。何かもともと日本の大学にいたりとか、インターンとかで、違う県で散らばっているの。サークルは何か中国人のサークルに入ったんですけど、何か最初に説明会で2つぐらい入ったんですけど、何か呼出しとかなくて、参加は、入会書みたいな書いたんですけどみたいな。どちらかというと、日本人と韓国人と仲よかったです。

・アルバイトもした

ちょっとだけしてました。カフェとか、そういう日本料理屋さんとか。

・学費は市からの奨学金で主に賄った。日本の学費の半額で、また寮に住んでいたのであまりお金はかからなかった。

2. 初職の就職活動

上海にいた時には日本に帰るつもりで就職活動をしたが、あまりうまくいかなかった。

・日本に帰るために活動した。

上海にいたときは、めちゃくちゃ日本に帰りたくて、日本しか視野に入れてなかったです。日本で何か、向こうでめちゃめちゃ向こうにいたときに感じたのが、めちゃめちゃ日本の企業がいるなみたいなので、バイトとかでも、日本人結構いるな、社会人の。で、日本に帰って、

もし機会があれば、そういう中国で、日本から派遣されて中国で働くみたいなのは、一番憧れてました。

(就職活動は) 日本に帰ってしまいました。日本に帰ってから、だらだら、とろとろしてしまいました。6月卒業だったので、多分それぐらい、そこ辺り。向こうで何回かは、向こうで開催される就職イベントに日本の企業が出しているみたいな、何かあるじゃない、たくさんブースがあるみたいな。は、ちょこっとだけ参加したんですけど。全然、これ、あんまり進まなかったです。企業について調べたり、資料は出したんですけど。

卒論しか考えてなくて、すごいプレッシャーがかかることを同時進行あんましてなくて。そこまでよく分からなかったです、就職について。

(日本人ばかりだと一生懸命やる人がいたりするんだけど、あまり、そんなにこう周り全体が就職のために、わさわさしてる感じではなかったんですね。) はい、そうですね。

帰ってきてからはインターネットのやつ登録したり、ハローワーク登録したり、そういうのですが、あと、新潟県で開催される、そういう就職イベントに参加したりしてました。(海外の大学を出た人用の説明会とかもあったんですか。) 分かんないです、なかった。普通に、新潟県でも何ヶ月かごとにそういう、やってるので、参加してました。

・中国語を生かせる仕事はみつからなかった。

新潟だと正直、ちょっとあまりなかったかと。(東京に行こうとかいう気持ちはなかったですか) ちょっとはあったんですけど、生活、何か最初に決まるまでもすごい長くなるじゃないですか。それで、ちょっとあんま考えてなかった。何度も行かなきゃいけないのがちょっと。あと、生活費とか家賃とか計算すると、別にそこまで給料に差はないかなみたいな。

・2015年6月に卒業して、2016年7月に契約社員の仕事が決まって働き始めた。

何かすごい、一つの結果にすごいもやもやして、今さら、ほかの人の就職とか見ると、同時にいろんな会社に応募してて。何か自分は1個ずつ、最初から最後まで1個ずつしかやらなかったのがよくないなと思いつつ、あと、すごい駄目になってたら、もうすごい落ち込んでた。同時進行を考えないのがよくなかった。(最初は正社員を考えていたが) 焦って、とりあえずはみたいな。免税店の接客とかです。国際線の、はい。(自分の強みを生かせる仕事だったんですね) そうです、はい。(契約は) 1年間です。週休2日で、まあ週5日。フルタイム。7時半から4時半まで8時間。たまにすごい遅くなったりもします。飛行機に合わせてました。国際線。発注とか、管理とか。スタッフがそんなにいなくて、店長が途中から辞めちゃったんで、結局。店長が東京にいる形で、お店の仕事を3人、2人とかに分けて、担当してました。フルタイムが2人、途中から3人になって、私込みで。アルバイトが二、三人、三、四人。発注は最初からやっていたんですけど、担当するものが増えた。もう飛行機に合わせて、大体、この便忙しいから来てみたいな。

3. 学校を離れた時から今までの経歴について

コロナに直撃され、飛行機が飛ばなくなり、希望退職の募集に応募して退職した（6節参照）。現在は、職業訓練に応募しようと思っている。臨時の仕事は見つかったが労働条件が悪いので辞退した。

ハローワークの支援みたいなで資格取れるやつあるじゃないですか。その応募を今します。で、就職もしたんですけど。断っちゃった。臨時のやつに合格したんですけど、何か合格してから給与が低くて。フルタイムで、週 29 時間で、何か計算したら手取り 8 万円とかだったので。

フォトショップのコース。ワード、エクセル、基本のプラスフォトショップの基本みたいな。でも、フォトショップは資格に向けて勉強しましょうじゃないので、資格に向けて勉強しましょうがよかったんですけど、何か自分で資格について、勉強したりするんですけど、そこがなくてあんまり。途中で詰まるというか、分かんなくなっちゃうから。

（働き方は）正社員がいいなって。パソコンはできるんですけど、できるんですけど、何か資格はないので。あと、何かそういう支援とかが、就職についての勉強もちょっとあったりするんですけど、それでいいなど。

（中国語を生かす仕事は）あんまりなくて。新潟は、もともとあんま少なかったかなと。あと、今、ちょっと旅行客いないので、別に需要もそんなにないかなと。正社員で安定した感じで。もうちょっと家から近かったらいいなど。

（実家でなくても）何か家賃手当あるなら、それはそれで。正社員で安定して、はい、そうですね。

4. 現在のアルバイト生活について

現在は求職している。

5. フリーターのイメージ

自分のことをフリーターだとは思わない。雇われない働き方は憧れるが、自分には向いていないと考えている。

（雇われない働き方ってどう思いますか。羨ましいです。それで生計が成り立つならばすごいなど。（でも、自分では、ちょっとそういうのは向かないなどと思ってらっしゃる）そうですね。

（あなたはフリーターだと思われてるということはないですか。）でも、契約社員なので（フリーターではない）。アルバイトみたいな、そんなちゃんとした職じゃないみたいなのは、たぶん、親からは。

6. 新型コロナウイルスの働き方に対する影響について

・コロナの影響を受けて、希望退職した。

飛行機が全然飛んでなくて。会社から、本社のほうから、会社全体で辞める人いますかみたいな募集をかけていて、それで応募しました。

契約社員だったのと、時間がちょっと、何か7時半からなんですけど、6時とかに家出なきゃいけないくて。たまにほかのスタッフが、子供とかいたりして、残業があんまできないみたいな感じで。やっぱり基本残るんだったら私だったんですけど、何か最終のバスもなくて、家族に迎えに来てもらったりとかもして。契約社員だったので。

(退職の際には) 二、三ヶ月ぐらいの一部のお金。大体、残業時間が大体同じぐらいたまっていたんですけど、有休とか。でも、何か会社都合じゃないですか。そうしたら、失業保険にすぐ入れるので、この際、思い切って。退職しました。基本給が18万円だとか、途中で何千円か増えて、20万とか。手取りで、残業つかなくて、手取りで、また3万ぐらい取られるじゃないですか。何か出てないです。何かあれなんですよ、1時間残業したら、ほかの日1時間早く帰ったり、遅く来たりしてもいいですよみたいな。辞めたので、もう何十時間か、すごい1ヶ月、2ヶ月近いぐらいの時間をためてました。

7. 家族について

父は自営業、母は専業主婦で一人っ子で育った。働いているときには家にお金を入れていた。今のところ結婚の予定はなく、特に希望もしていない。

Tさん

東京在住・20歳・女性・短大卒

インタビュー実施日：2020年9月2日

インタビュー担当：堀

ノート担当：柳

東京に在住のTさんは、3歳からバレエを始め、プロのバレリーナを目指し関東地方にある私立短期大学のバレエ系学科へ進学し、2020年3月に卒業。卒業と共に東京に引っ越し、現在はスーパーとファーストフード店でアルバイトをこなしつつ、バレエ団のオーディションに挑んでいる。将来はプロのバレリーナを第一希望とし、地元鹿児島での講師やヨガインストラクターも視野に入れている。新型コロナウイルスの影響は、アルバイト先での感染のリスクだけでなく、予定されていた公演のキャンセルなどにまで及んでいる。

1. 学校時代と進路選択について

Tさんは、地元鹿児島の中高一貫校に進学し、3歳から始めたクラシックバレエを中心にした中学・高校生活を送った。高校までは地元のバレエ教室に通い、中心的役割を担った。高校卒業後の進路は、指定校推薦ではなく短期大学のバレエ系学科を選んだ。

・学業よりはバレエを中心とした中学・高校生活であったが、高校では英語の学習にも取り組んだ。

(どこか高校受験されて、どこかの高校に入られた。)中高一貫のところに通ってて。中学受験をして、そのまま高校まで入学してっていう感じでした。

(中学の受験勉強とバレエとの両立って大変じゃなかったですか。)いえ、そんなに何かレベル高い学校じゃなかったのもう全然何か普通に受けて普通に、特に特別何か塾に通ったとか勉強したっていう感じではなかったです。

(中高一貫校を選んだ他の理由としては)それもあつたし、やっぱり中学校のほうが英語に力を入れてたっていうのがあって…私自身がちょっと英語はやりたいて思っていたので。そこが一番の理由ですね、そこに入ったのは。

・高校卒業の進路を巡っては指定校推薦ではなく、関東地方にある私立短期大学のバレエ系学科に進んだ。

(卒業後の進路について)バレエはしたいとは決めてたんですけど、本格的にバレエも、厳しいあれなので、バレエをするか、ほかの普通の大学に行って、趣味としてバレエをするかっていうので迷って。…あとは指定校推薦と違って学校はあるじゃないですか。それもいろ

いろな大学を薦められたりとかもあったんですけど、やっぱり結局やりたいのはバレエだったので、その推薦などもちょっとごめんなさいって言って、最終的にはバレエのコースに、迷った上でしたけど、決めました。

(その悩んだときって、どなたか何かアドバイスくださった方っていらっしゃるんですか。) そうですね、やっぱり親とか、あとバレエの地元で通ってたバレエ教室の先生とかが、やっぱりできるとこまでやってみればって感じで背中を押してくれたので。

・短期大学への進学は専門的な講師と学費という理由も働いた。

本当にバレエコースのある学校って数少なくって、特に短大とか、多分1校ぐらいしかないんですけど。…なんですけど、やっぱり先生たちが元のプロのダンサーだったり、そうですね、今もバレエ団の芸術監督をしてらっしゃる先生がいたり。…あとはその実技だけじゃなくて、例えば歴史とか解剖学とか、何かそういう実技以外のいろんな方向からバレエを見れるところを選びたいと思って、でそこに入学することを決めました。

(大学のバレエ系学科っていうのもあるんですか。) ありますね。そこは大学もあったんですけど、ちょっと学費とかも考えて。…やっぱり短大だけでも高かったんで、短大にしました。…もし行きたいのであれば編入して大学っていう道もあったんで、取りあえずは短大に行きました。

・短期大学に進学してからは、大学の授業とレッスンを中心とした生活を送った。

(短大での生活は) 全然サークルとかはなくて、やっぱり短大なので、結構授業も詰め詰めで。…毎日3時間以上は実技、何かレッスンがあって、結構何か周りの友達の四大の子とかと比べると、すごい何か華の大学生っていう感じじゃなかったんですけど、でも、まあバレエが好きで私にとってはすごい楽しい生活で、学校終わった後にバイト行ってとかはしてました。

・友達で紹介で始めたアルバイトは2年間(週3日以上)続けた。

(アルバイトは) 短大のときは、ハンバーグとかステーキとかのメニューが中心の、何だろう、レストラン街にある、ちょっとしたショッピングモールのレストラン街にあるお店で働いてました。

・短大時代の進路希望はバレエ団への入団であった。

(卒業後) 本当はいろいろオーディションを受けて……。バレエ団の研修生にでも入れればいいなとは思ってはいたんですけど、ちょっとなかなか厳しくて、今、オーディションは受けて、ちょっと落ちたりはして、今もう1年ぐらい頑張ってる、来年もう一回受けようか迷ってるっていう感じです。

2. 初職の就職活動

バレリーナを目指す決心をしたものの、バレエ団への入団は狭き門であった。それ故就職かバレエかを巡る葛藤も経験した。

- ・就職かバレエかの悩みは短大の友人の多くも持っていた

(バレエに残るか一般社会で就職するかっていうのの何か分かれ目ってどんなもんだっただすかね、一般的に言って。) ああ、やっぱりみんな結構バレエ、プロとかを目指したいと思って入るのは一緒なんですけど、やっぱり同級生だけのクラスでレッスンを受けてりとかして、まあ現実というか、厳しい、レベルとかやっぱり見て厳しいとか、あとお金が安定して入るのは絶対一般的に就職したほうがいいので、やっぱりそっちを、本当にバレエが好きかかって言われると、そうでもないなっていう感じの人は、やっぱりちょっとバレエの道を諦めているのかなとは思いますがね。…どうしてもですね。何かちょっと生活が苦しくても、親の補助とか受けてでもバレエをしたいのであればバレエの道に行くのかなとは思いますがね。

(バレエは大体二十歳ぐらいには何となくこう……。) とは思います。でも、早い子は本当にもう高校生ぐらいから留学しちゃって、海外で活躍してっていう子も全然いるので。…ちょうど、何だろう、日本の短大、日本のこのバレエコースに、ちょっととどまるっていう言い方はあれですけど、でも学ぶときに悩んでる子は多いと思います。…その分かれ目っていう感じで。

- ・卒業後のキャリアは学校に助けを借りることはあまりなかった。

(何か短大のバレエ系学科は、何かバレエに関わるようなアルバイトとか、何か仕事とか、紹介してくれるとかっていうことってあるんですか。)

は、なかったです。

(じゃあ、本当に何か学ぶ場を提供するっていう感じですか。) そうですね。(…そのバレエの先生が、何かそのバレエ団に入るのに何か知り合いになると有利とか、そういう感じでもない。) ああ、まあ顔は知ってるので、オーディション受けると、実際受けて、顔は知ってるとかで、何ていうんだろう、受けやすいついていうのはあるんですけど、でも、本当それでも受かる受からないとかは、もう全然ひいきとかが全くなくて。…そこではもう別な感じでしたね。

3. 学校を離れた時から今までの経歴について

2020年3月に短期大学を卒業したTさんは現在、都内で二つのアルバイトをこなしつつ、バレエ団(10数箇所)のオーディションに備えた練習・レッスン受けている。

- ・オーディションの準備にはオープンスタジオでの練習が必要である。

本当はバレエのオープンクラスというか、バレエのスタジオにも通ってるんですけど、練習しに。…本当は渋谷とかにそれがあるので、その近くで探そうと思ったんですけど、コロナのせいであんまり電車に乗るとかができずに、とりあえず近所でとりあえず稼がないとってということで近所を見て回って決めました。

(ちなみに、そのオープンスタジオは何か都心にある。) そうですね、渋谷とかにあつて。これも何か1回か1時間幾らみたいな感じでお金払ってスタジオで練習する。月に何回のコースみたいなのがあって。…月額で月謝、それを払って行く感じですね。

(ちなみに幾らぐらいなんですか。) 私が今通っているのが月16で、月16回コースで2万くらい。(利用者は)何かそういう同じような人もいますし、もう大半は趣味でやってる大人の方がほとんどです(レッスンをを行う講師は)先生方は、もう本当に一流で、もうプロのダンサーとかすばらしい先生たちで、受けるのは、もう本当に自由っていう感じなので。

・プロのバレリーナになるためのオーディションの数は限られており、競争倍率も高い。

(オーディションは、もうちょっと前から結構出るときはネットとかで発表はされましたか。何かそういうネットがあるの、バレエ団の。) ああ、もうそのバレエ団のホームページだったりインスタグラムとかで、いつやりますみたいなのが出るので。…大体バレエ団は1年に1回とかくらいしかオーディションをやらないので。なので、前回受けて、今年1年も頑張っても、あと次のしかないって感じですね

4. 現在のアルバイト生活について

現在のアルバイトはスーパーとファーストフード店で行っている。スーパーは週3日固定で一日2~3時間程度の開店作業。ファーストフード店は、週3~6日、5~7時間程度勤務している。

・東京での生活費はすべて自分で賄っている。

そうですね、4月、短大を卒業してから東京の都内のほうに引っ越してきました。(全部1人で今やってるんですか、家賃とか。) はい、そうです。

(ちなみに生活費、幾らぐらいかかっているんですか。) 大体家賃とか、あとレッスン代とか全部含めると13くらい、月13くらいは使いますかね。

・両親は東京での暮らしを理解してくれ、金銭的な支援も約束してくれている。

とりあえず家賃とかも本当安いところを探してっていう感じだったんですけど、ありがたいことに両親が理解してくれてたので、もし足りないってなれば、バイトして足りないのであれば全然出すから、そのときは言わなかった上でこっちで今生活してて。

(じゃあ、もうバイトをするっていうのが前提になってて。) もう前提になってました。…で、

もし足りなかったらとは、まだ借りたりとかはしてないんですけど、バイトを中心にするっていうのは、もう決まってきました。

・理想的な働き方、キャリアとしてはバレリーナ、またはバレエ講師が挙げられる。

(働き方として) 一番理想なのは、やっぱりバレエで踊ってるほうで、まあ稼ぐっていう言い方はあれですけど、お金をもらって、あとは教えのほうで、まあどっちもやるのが理想ですね。教えもやってっていう感じで。

(キャリアパスとして) 理想的には、短大卒業してすぐに、どっかバレエ団とか団体に所属をして、自分が踊れる年齢までは現役で踊って、その後に地元に戻って教師として教えるっていうのがずっと、まあ今もそうなんですけど、これが目標というか、モデルというか、そういう感じですね。

(その現役でやれるっていうのは、大体でいいんですけど、何歳ぐらいまでが現役とされるんですか。) ああ、その体力とかによるんですけど、長くても30前半かなと思います。踊ってる人もいるんですけど、40とかまで。自分的にはそのくらいでいいかなとは思っていますね。

5. フリーターのイメージ

Tさんはフリーターとしての自覚は持っており、そのイメージはやや否定的である。ただ、バレエ団研修生としてオーディションが受けられる25歳までの今後3年間はフリーターの利点を活かしつつバレリーナを目指すことにしている。

・フリーターについては否定的イメージを持っている。

何かフリーターとだけ聞くと、やっぱりちょっと生活安定してないとか、ちゃんとした職に就けてないみたいな、ちょっとどちらかというマイナスイメージがあって、自分もそれで何か自信が持てないみたいな感じはちょっとありますね。…世間的に見るとっていう感じ。

(Tさんの周りには、Tさんみたいな夢を追ってる感じのフリーターの人たちが多いわけですよ。) はい。(うん。じゃあ、特に、何ていうか、何だろうな、その人たち、別に引け目を感じてるっていう感じでもない。) あっ、全然ないですね。

・アルバイトをこなしつつ夢を追う立場としてはフリーターが持つメリットもある。

(Tさんの周りに、こういう感じでアルバイト掛け持ちしながらバレエ、バレリーナ、バレエダンサー、バレリーナの卵として頑張ってる方って結構いらっしゃるんですか。) 多分、はい、いると思います。何か身近にはあまりいないなとは思いますが、何かでもファーストフード店とかでは同級生とかがダンスのほうで同じようなことしてる子とか、あとは何か女優とか、そっちを目指す子とかもいて、そういう子たちは本当にもうバイトいっ

ばいして、その後レッスンに行くって同じような生活してて。

(ファーストフード店の仕事って、そういうオーディションがある人たちにとっては、何ていうか、都合がいい働き方なの。) そうですね。何か休職とかもできるし、働きたいときにはいっぱいシフト出せて、でもちょっと今週は無理ですっていうときは週に全くシフト出さない週があってもいいみたいな感じで、本当にその仕事の入れ方が自由なので、その融通が利くのが一番いいところですね。

・今後の展望については、後2, 3年ほど東京でバレエ団入団を目指し、次善策として地元でバレエ講師として働く計画も持っている。

(今すごくTさん頑張ってるわけですけど、大体いつぐらいまで頑張ろうみたいな、何かそういう見通しみたいなものってあるんですか。) ちゃんとは決まってるんですけど、でもあと二、三……。何か本当はもともとすぐ地元に戻るかっていうのは迷ってて。…地元に戻るとしたら、今まで通ってた教室で先生をさせてもらおうと思ってたんですけど。…でももうちょっとやっぱり学ぶ機会とかってというのが圧倒的に東京のほうが多いので、もうちょっとあと二、三年くらいはちょっとこっちに残っていろいろ勉強してから地元に戻ろうかなっていうので。(これは今まで通ってた教室の先生と、今でもTさん、交流があるっていう。) あっ、そうですね。

(周りの方も、何か割とそういう感じの方が多いのかな。20代前半、頑張ろうみたいな感じなんですかね。) そうですね。オーディション受けられる期間も限られているので、もう今のうちについていうか、今いろいろ受けたりとかして頑張ってるって人が多いと思います。

・他にはヨガインストラクターの資格も準備している。

あとは、今、ヨガの資格も勉強しているので。…ヨガを教えるのもちょっとやりたいなと思ってますね。

(ヨガもやろうかなと思ったきっかけみたいなものって何かあるんですか。) まあ、それこそコロナの影響を受けてるんですけど、レッスンとかが、コロナのその5月とか6月がずっとレッスンが閉鎖されてて、もう家でしかできないことがないってなったときに、バレエってなかなか、しかも一人暮らしの部屋でやるのってなかなか難しくて。…で、そのときに、何かユーチューブとかでヨガを見てて、バレエとは違うけど、何かいろいろバレエとは違う体の使い方とかをちょっと家の中でもできるのをして、そこからバレエだけじゃなくてヨガも教えられたら、より体のこと知れるし、それこそ何か大人の方で趣味でバレエ始める方って結構多いので。…そういう方もヨガは絶対興味あると思って。…ちょっとちゃんと学ぼうと思って、今、週に1回、その講座に通ってます。…資格が取れる講座に入って。

(なるほど。これ本当に誰かが勧めてくださったとかじゃなくて、Tさんが何か、これいいかなってトライした。) これも自分で。

6. 新型コロナウイルスの働き方に対する影響について

新型コロナウイルスによる影響としては、バレエ公演の機会がなくなったこと、それ故モチベーションを保つことが困難になったことが挙げられる。他方、スーパーとファーストフード店でのアルバイトは、通常より忙しくなっている。

(ちなみに、コロナはバレエみたいな感じの舞台にも影響があったのかなって何か推測するんですけど。) ああ、大分。…もう公演とかほとんどが中止になってて。…私もプロとかじゃないんで全然給料もらうとかはないんですけど、5月と10月にあった2つ公演の予定がどっちもなくなっちゃって。(緊急事態宣言以降は) スーパーもファーストフード店も普通に営業はしてて、逆に一番忙しかったですね。

(最近はどんな感じなんですか。) 最近はちょっと落ち着いてきてて。…何かファーストフード店とかも、出せば全部シフト入れるっていう感じだったのが、少しずつちょっと削られたりとかは出てはきています。

(今後3ヶ月の予想としては) 多分変わらないと思います。もっと忙しくなる感じかな (コロナによる将来展望の変化としては) そうですね、大きくはないですけど、やっぱり舞台を踏む予定だったものがなくなったっていうのは結構大きくて。そのモチベーションっていうか、舞台がないのにレッスン頑張らないといけないっていう、モチベーションが下がってしまったなっていうのはあります。

7. 家族について

Tさんの家族は鹿児島に在住。父は高校の教員、母は教材などの卸売業に携わっており、高校生の弟がいる。

・将来の結婚については、芸術に理解のある人とできればしたいと考えている。

そうですね、でも、できればっていうくらいです。(希望としては) それこそバレエとかに理解がある人がいいなって思います。まあ、芸術とかに、できれば興味があるっていうか、理解がある人のほうがいいなと思います。

(それは何か理由があるんですか。) 何か一緒に過ごしてて、やっぱりバレエとか嫌いっていう人はいないと思いますけど、何かもう見に行くのも嫌だっていう感じの人だったらちょっと困るなって思います。

JILPT 資料シリーズ No.237

変化するフリーターの意識と実態

—新型コロナ感染症拡大の影響を視野に入れたインタビュー調査から—

発行年月日 2021年3月30日

編集・発行 独立行政法人 労働政策研究・研修機構

〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23

(照会先) 研究調整部研究調整課 TEL:03-5991-5104

印刷・製本 有限会社 太平印刷

©2021 JILPT Printed in Japan

* 資料シリーズ全文はホームページで提供しております。(URL:<https://www.jil.go.jp/>)